

Oracle® Cloud

Oracle Content Management の管理



F27098-20
2021 June



Oracle Cloud Oracle Content Management の管理、

F27098-20

Copyright © 2017, 2021, Oracle and/or its affiliates.

著者: Sarah Bernau

協力者: Bonnie Vaughan、Bob Lies、Bruce Silver、Ron van de Crommert、David Jones、Keith MacDonald、Mark Paterson、Andy Peet、Indira Smith、Sherri Ahern、Michele Chock

This software and related documentation are provided under a license agreement containing restrictions on use and disclosure and are protected by intellectual property laws. Except as expressly permitted in your license agreement or allowed by law, you may not use, copy, reproduce, translate, broadcast, modify, license, transmit, distribute, exhibit, perform, publish, or display any part, in any form, or by any means. Reverse engineering, disassembly, or decompilation of this software, unless required by law for interoperability, is prohibited.

The information contained herein is subject to change without notice and is not warranted to be error-free. If you find any errors, please report them to us in writing.

If this is software or related documentation that is delivered to the U.S. Government or anyone licensing it on behalf of the U.S. Government, then the following notice is applicable:

U.S. GOVERNMENT END USERS: Oracle programs (including any operating system, integrated software, any programs embedded, installed or activated on delivered hardware, and modifications of such programs) and Oracle computer documentation or other Oracle data delivered to or accessed by U.S. Government end users are "commercial computer software" or "commercial computer software documentation" pursuant to the applicable Federal Acquisition Regulation and agency-specific supplemental regulations. As such, the use, reproduction, duplication, release, display, disclosure, modification, preparation of derivative works, and/or adaptation of i) Oracle programs (including any operating system, integrated software, any programs embedded, installed or activated on delivered hardware, and modifications of such programs), ii) Oracle computer documentation and/or iii) other Oracle data, is subject to the rights and limitations specified in the license contained in the applicable contract. The terms governing the U.S. Government's use of Oracle cloud services are defined by the applicable contract for such services. No other rights are granted to the U.S. Government.

This software or hardware is developed for general use in a variety of information management applications. It is not developed or intended for use in any inherently dangerous applications, including applications that may create a risk of personal injury. If you use this software or hardware in dangerous applications, then you shall be responsible to take all appropriate fail-safe, backup, redundancy, and other measures to ensure its safe use. Oracle Corporation and its affiliates disclaim any liability for any damages caused by use of this software or hardware in dangerous applications.

Oracle and Java are registered trademarks of Oracle and/or its affiliates. Other names may be trademarks of their respective owners.

Intel and Intel Inside are trademarks or registered trademarks of Intel Corporation. All SPARC trademarks are used under license and are trademarks or registered trademarks of SPARC International, Inc. AMD, Epyc, and the AMD logo are trademarks or registered trademarks of Advanced Micro Devices. UNIX is a registered trademark of The Open Group.

This software or hardware and documentation may provide access to or information about content, products, and services from third parties. Oracle Corporation and its affiliates are not responsible for and expressly disclaim all warranties of any kind with respect to third-party content, products, and services unless otherwise set forth in an applicable agreement between you and Oracle. Oracle Corporation and its affiliates will not be responsible for any loss, costs, or damages incurred due to your access to or use of third-party content, products, or services, except as set forth in an applicable agreement between you and Oracle.

目次

はじめに

対象読者	xi
ドキュメントのアクセシビリティについて	xi
ダイバーシティ&インクルージョン	xi
関連リソース	xi
表記規則	xii

1 スタート・ガイド

Oracle Content Management の概要	1-1
Oracle Content Management へのアクセス	1-2
ロールの理解	1-2
アセットの管理	1-3
コンテンツの管理	1-3
コンテンツのコラボレーション	1-3
サイトの構築	1-4
Oracle Content Management の統合および拡張	1-4
スタート・ガイド	1-5
Starter Edition と Premium Edition	1-5
管理者のロール	1-8
管理インタフェース	1-9
管理タスク	1-14
ロール	1-17
一般的な組織ロール	1-17
アプリケーション・ロール	1-20
アプリケーション・ロール別のタスクと機能の比較	1-27
リソース・ロール(権限)	1-30
セキュリティ	1-37

2 Oracle Content Management のデプロイ

デプロイメント・アーキテクチャ・オプションの理解	2-1
バックアップ・リージョンの実装	2-4
Web アプリケーション・ファイアウォールの構成	2-7
WAF ポリシーの作成	2-7
SSL 証明書およびキーのアップロード	2-8
セカンダリ・オリジンの作成	2-8
変更の公開	2-9
DNS 構成の更新	2-9
インスタンスでの WAF の構成	2-9
WAF オリジンの切替え	2-9
テストから本番(T2P)デプロイメントの設定	2-10
VM コンピュート・インスタンスへの OCE ツールキットのインストール	2-11
ソース・サーバーおよびターゲット・サーバーの登録	2-13
エンタープライズ・サイトの転送	2-13
Oracle Cloud アカウントの作成およびアクティブ化	2-14
Infrastructure コンソールからのインスタンスの作成	2-15
Oracle Content Management のコンパートメントの作成	2-15
SSO ユーザーへの Oracle Content Management インスタンスの作成の委任	2-16
非フェデレーテッド・ユーザーへの Oracle Content Management インスタンスの作成の委任	2-17
Oracle Identity Cloud Service (IDCS)のセカンダリ・ドメインでのインスタンスの作成	2-20
別のリージョンでのインスタンスの作成	2-21
Oracle Cloud Infrastructure FastConnect を使用したプライベート・インスタンスの作成	2-22
テナンシ OCID の取得	2-22
ローカル・ピアリング・ゲートウェイの作成	2-23
リクエスト・グループの作成	2-23
リクエスト・ポリシーの作成	2-23
サポート・リクエストの作成	2-24
Oracle Content Management サービス・インスタンスの作成	2-25
ユーザーとグループの設定	2-29
組織のためのグループの作成	2-29
ロールのグループへの割当て	2-30
ユーザーの追加	2-31
グループへのユーザーの割当て	2-31

3 サービスの展開

ロールアウト・プロセスの理解	3-1
ユーザーへのサインインおよびスタート・ガイド情報の提供	3-2
デスクトップ・アプリケーションのデプロイ	3-2
コマンド・ラインからの実行可能インストーラの実行	3-3
MSI インストーラの実行	3-5
Active Directory のグループ・ポリシーを通じた MSI インストーラのデプロイ	3-8
インストールのデフォルトの設定	3-8

4 システム設定の構成

一般設定の構成	4-1
ファイルおよびアセット・タイプとサイズの制限	4-1
カスタム・ブランディングおよび URL の適用	4-2
電子メール通知の有効化または無効化	4-3
デフォルトのタイム・ゾーンおよび言語の設定	4-4
使用状況アナリティクスの有効化または無効化	4-4
コンテンツ配信ネットワーク(CDN)キャッシュのパーズ	4-5
セキュリティ 設定の構成	4-5
Cross-Origin Resource Sharing (CORS)の有効化	4-5
他のドメインへのコンテンツの埋込み	4-6
請求設定の構成	4-7
ユーザー設定の構成	4-8
新しいフォルダ・メンバーのデフォルト・リソース・ロールの設定	4-9
ユーザー・プロファイル・データの同期	4-10
ユーザーの会話のメンバーシップ・メッセージの表示	4-10
ユーザーのストレージ割当て制限のオーバーライド	4-11
ファイル所有権の移管	4-11
同期されていないグループの表示および再同期	4-12
ユーザーの一時割当て制限のオーバーライド	4-12
リンクされたデバイスへのアクセスの取消し	4-13
グループの設定の変更	4-13
アセット設定の構成	4-13
サイト設定の構成	4-14
サイトの作成の許可	4-15
サイトのガバナンスの有効化	4-15
オンライン・サイトの最小限のセキュリティの設定	4-16
サイトおよびテーマの共有の許可	4-16
サイト、テンプレートまたはコンポーネントの作成のサイト管理者への制限	4-17

サイトへの分析追跡コードの追加	4-17
コンパイル済サイトのカスタム・キャッシュ制御ヘッダーの設定	4-18
コンパイル・エンドポイント URL の設定	4-19
期限切れのサイトの自動処理	4-19
デフォルト・サイト・テンプレートのインストール	4-19
カスタム・サインインの有効化	4-20
サイトの SEO 設定の構成	4-23
プリレンダーの有効化	4-23
ユーザー・エージェントの構成	4-23
エクスペリエンス設定の構成	4-23
ドキュメント設定の構成	4-24
ファイルとフォルダの削除の制限	4-24
ユーザー割当て制限の設定と記憶領域の管理	4-25
デフォルトのリンク動作の設定	4-25
会話設定の構成	4-26
メタデータ・セットの構成	4-27

5 ユーザー、グループおよびアクセスの管理

Single Sign-On (SSO)の有効化	5-1
Oracle Identity Cloud Service を使用したユーザーの管理	5-2
Oracle Identity Cloud Service を使用したグループの管理	5-3
グループの管理	5-4
ロールのグループへの割当て	5-4
グループへのユーザーの割当て	5-5
新しいフォルダ・メンバーのデフォルト・リソース・ロールの設定	5-6
ユーザー・プロファイル・データの同期	5-6
ユーザーの会話のメンバーシップ・メッセージの表示	5-6
ユーザーのストレージ割当て制限のオーバーライド	5-7
ファイル所有権の移管	5-7
同期されていないグループの表示および再同期	5-8
ユーザーの一時割当て制限のオーバーライド	5-8
リンクされたデバイスへのアクセスの取消し	5-9
グループの設定の変更	5-9

6 サービス使用状況の分析

アナリティクスの理解	6-1
分析ダッシュボードの表示	6-3

ユーザー統計の表示	6-4
アセットおよびコンテンツ・メトリックの表示	6-5
リポジトリ・メトリック	6-6
コンテンツ・メトリック	6-7
チャンネル・メトリック	6-8
コレクション・メトリック	6-9
サイトおよびチャンネル分析の表示	6-11
ファイルおよび会話の統計の表示	6-12
ドキュメント・メトリック	6-13
共有リンク・メトリック	6-14
会話メトリック	6-15
キャプチャ・メトリックの表示	6-16
レポートとメトリックの表示	6-17

7 サービスのモニター

請求と使用状況のモニター	7-1
問題の報告	7-2

A トラブルシューティング

「管理」 ページにアクセスできません	A-1
ユーザーが自分のアカウントにファイルを追加できません	A-2
ユーザーのストレージ割当て制限を変更する必要があります	A-2
別のユーザーのファイルを再割当てする必要があります	A-2
ユーザーを作成しましたが、そのユーザーがシステムに見つかりません	A-3
購入数を超えるユーザーにロールを付与しました	A-3
ユーザーは同期クライアントを使用してサービスに接続できません	A-3
誰がファイルまたはフォルダを削除したのかを明らかにする必要があります	A-4

B サポートされているソフトウェア、デバイス、言語およびファイル形式

サポートされている Web ブラウザ	B-1
サポートされているソフトウェア	B-1
サポートされるモバイル・デバイス	B-2
サポートされている言語	B-2
サポートされているファイル形式	B-3

C サービス制限、割当ておよびイベント

サービス制限	C-1
サービス割当て	C-1
サービス・ポリシー	C-2
Oracle Content Management のリソース・タイプ	C-2
サポートされている変数	C-2
動詞とリソース・タイプの組合せの詳細	C-3
API 操作ごとに必要な権限	C-4
Oracle Content Management インスタンスを管理するためのポリシー文の例	C-5
サービス・イベント	C-6

D Oracle Content Management の移行

Oracle Content Management インスタンスの移行	D-1
移行の準備	D-2
移行リクエストの送信	D-3
移行プロセス	D-3
移行の完了	D-4
ユーザーへの変更の伝達	D-5
レガシー・クラウド・インフラストラクチャからの Oracle Content Management インスタンスの移行	D-5
ユーザー・マッピング	D-6
移行の準備	D-6
移行サービス・リクエストの送信	D-7
移行プロセス	D-7
移行の完了	D-8
アセットが含まれるサイトの移行	D-9
OCE ツールキットのインストール	D-9
ターゲット・サーバーの登録	D-10
サイトの移行	D-10
移行後の手順	D-10
移行済サイトの多言語サイト(MLS)への準拠	D-11
アセットの移行	D-15
ソース・サーバーおよびターゲット・サーバーの登録	D-16
アセットのコレクションの移行	D-16
ユーザーへの変更の伝達	D-17

E レガシー環境での Oracle Content Management の管理

OCI Gen 1 上に構築された Oracle Content Management のレガシー・インスタンスの管理	E-2
1 時間当たりのアクティブ・ユーザーについて	E-4
ビジター・セッションについて	E-6
OCI Classic 上の Oracle Content Management のレガシー・インスタンスの管理	E-10
1 時間当たりのアクティブ・ユーザーについて	E-11
ビジター・セッションについて	E-13
OCI Classic 上の政府向け Oracle Content Management のレガシー・インスタンスのデプロイおよび管理	E-17
政府向け Oracle Content Management のインスタンスの作成	E-17
政府向け Oracle Content Management の管理	E-22
1 時間当たりのアクティブ・ユーザーについて	E-22
ビジター・セッションについて	E-25
OCI Classic 上の SaaS 向け Oracle Content Management のレガシー・インスタンスのデプロイおよび管理	E-28
SaaS 向け Oracle Content Management のインスタンスの作成	E-29
SaaS 向け Oracle Content Management の管理とモニター	E-32
請求メトリックの表示	E-33
ビジター・セッションについて	E-34
非従量制サブスクリプションを持つ Oracle Content Management のデプロイおよび管理	E-37
非従量制サブスクリプションを持つ Oracle Content Management インスタンスの作成	E-38
ユーザーとグループの設定	E-39
非従量制サブスクリプションを持つ Oracle Content Management インスタンスのユーザー・ロール	E-40
一般的な組織ロール	E-45
従来のクラウド・アカウントを使用したグループの作成	E-48
従来のクラウド・アカウントを使用したグループへのロールの割当て	E-48
従来のクラウド・アカウントを使用したユーザーの追加	E-49
従来のクラウド・アカウントを使用したグループへのユーザーの割当て	E-49
従来のクラウド・アカウントを使用したユーザー、グループおよびアクセスの管理	E-50
Single Sign-On (SSO)の有効化	E-50
従来のクラウド・アカウントを使用したユーザーの管理	E-51
グループの管理	E-52
新しいフォルダ・メンバーのデフォルト・ロールの設定	E-53
ユーザー・プロファイル・データの同期	E-53
ユーザーの会話のメンバーシップ・メッセージの表示	E-54
ユーザーのストレージ割当て制限のオーバーライド	E-54
ファイル所有権の移管	E-54
リンクされたデバイスへのアクセスの取消し	E-55

非従量制サブスクリプションを持つ Oracle Content Management の管理およびモニタ ー	E-56
請求メトリックの表示	E-58
ビジネス・メトリックの表示	E-58
ビジター・セッションについて	E-61
Oracle Content Management への Oracle Documents Cloud の移行	E-65
Oracle Documents Cloud のユーザー・ロール	E-66
Oracle Documents Cloud Service のトラブルシューティング	E-70
インスタンスのサイズを縮小する必要があります	E-70
移行後にユーザーがサインインできません(ストレージの失効)	E-71

はじめに

*Oracle Content Management の管理*では、サービスの管理(ユーザーの追加やプロビジョニングを含む)、サービスのモニター、およびサービスのデフォルト動作の設定の方法について説明します。これらのタスクの幅広い概要を提供しています。

対象読者

『*Oracle Content Management の管理*』は、サービスを設定および構成する Oracle Cloud 管理者を対象としています。

ドキュメントのアクセシビリティについて

オラクルのアクセシビリティについての詳細情報は、Oracle Accessibility Program の Web サイト(<http://www.oracle.com/pls/topic/lookup?ctx=acc&id=docacc>)を参照してください。

Oracle Support へのアクセス

サポートをご契約のお客様には、My Oracle Support を通して電子支援サービスを提供しています。詳細情報は(<http://www.oracle.com/pls/topic/lookup?ctx=acc&id=info>)か、聴覚に障害のあるお客様は(<http://www.oracle.com/pls/topic/lookup?ctx=acc&id=trs>)を参照してください。

ダイバーシティ & インクルージョン

Oracle はダイバーシティ & インクルージョンに積極的に取り組んでいます。Oracle は、ソート・リーダーシップと革新性を高める社員の多様性を尊重し、その価値を重んじています。従業員、お客様、パートナー様にポジティブな影響をもたらすインクルーシブな文化を醸成する私たちのイニシアティブの一環として、製品やドキュメントからインセンシティブな用語を取り除くように努めています。また、Oracle 製品および業界標準が進化する中、お客様の既存の技術との互換性を維持する必要性およびサービスの継続性確保の要求にも留意しています。このような技術的な制限により、当社のインセンシティブな用語を削除する取組みは継続中であり、時間と皆様のご協力が必要となります。

関連リソース

詳細は、オラクル社の次の資料を参照してください。

- *Getting Started with Oracle Cloud*
- *Collaborating on Documents with Oracle Content Management*
- *Managing Assets with Oracle Content Management*
- *Building Sites with Oracle Content Management*

- *Developing with Oracle Content Management As a Headless CMS*
- *Integrating and Extending Oracle Content Management*
- *Capturing Content with Oracle Content Management*
- *What's New for Oracle Content Management*
- *Known Issues for Oracle Content Management*

表記規則

このマニュアルでは次の表記規則を使用します。

表記規則	意味
太字	太字は、アクションに関連付けられたグラフィカル・ユーザー・インタフェース要素や、本文または用語集で定義されている用語を示します。
イタリック体	イタリック体は、ブック・タイトル、強調、またはユーザーが特定の値を指定するプレースホルダー変数を示します。
固定幅フォント	固定幅フォントは、段落内のコマンド、URL、サンプル内のコード、画面に表示されるテキスト、またはユーザーが入力するテキストを示します。

1

スタート・ガイド

Oracle Content Management は、オムニチャネルのコンテンツ管理を促進し、エクスペリエンスの配信を加速するクラウドベースのコンテンツ・ハブです。これにより、コラボレーションおよびワークフロー管理機能が提供され、コンテンツの作成と配信が容易になり、顧客と従業員のエンゲージメントが向上します。

次のトピックが作業の開始に役立ちます。

- [Oracle Content Management の概要](#)
- [Starter Edition と Premium Edition](#)
- [管理者のロール](#)
- [管理インターフェース](#)
- [管理タスク](#)
- [ロール](#)
- [セキュリティ](#)

 [ビデオ](#)

Oracle Content Management の概要

Oracle Content Management は、オムニチャネルのコンテンツ管理を促進し、エクスペリエンスの配信を加速するクラウドベースのコンテンツ・ハブです。これにより、強力なコラボレーションおよびワークフロー管理機能が提供され、コンテンツの作成と配信が容易になり、顧客と従業員のエンゲージメントが向上します。

Oracle Content Management では、任意のデバイスで内部的および外部的に迅速にコラボレートして、コンテンツの承認およびコンテキスト化されたエクスペリエンスの作成を行うことができます。組み込みのビジネスフレンドリなツールにより、魅力的なコンテンツの新しい Web エクスペリエンスを簡単に構築できます。同じコンテンツ・プラットフォームおよび同じプロセスを使用して、すべての関係者にデジタル・エンゲージメントを推進できます。技術的および組織的なボトルネックが解消されるため、魅力的なエクスペリエンスを作成するための障壁がなくなります。

ノート:

Oracle Content Management Starter Edition の機能セットは制限されています。完全な機能セットを利用するには、Premium Edition にアップグレードします。

Oracle Content Management へのアクセス

Oracle Content Management へのアクセス権が付与された後、インスタンス URL と自分のユーザー名に関する詳細が記載されたようこそ電子メールが送られてきます。この情報はサービスにログインするために必要であるため、今後の参照用に保持しておくことをお勧めします。

Oracle Content Management と対話するための様々な方法があります:

- **Web** インタフェースは、お気に入りの **Web** ブラウザからの簡単なアクセスを提供します。クラウド内のコンテンツの管理、他のユーザーとのファイルおよびフォルダの共有、会話の開始および参加、**Web** サイトの作成(許可されている場合)などを行うことができます。
- デスクトップ・アプリケーションでは、クラウドとコンピュータ間でファイルおよびフォルダの同期を保ちます。独自のファイルおよび共有されているファイルを同期し、常に最新バージョンにアクセスできるようにすることができます。
- **Microsoft Office** アドオンにより、**Microsoft Word**、**Excel**、**PowerPoint** および **Outlook** から直接 **Oracle Content Management** 機能にアクセスできます。
- **Android** および **iOS** 用のモバイル・アプリケーションにより、電話やその他のモバイル・デバイスで簡単にアクセスできます。モバイル・アプリケーションの外観と動作は **Web** ブラウザのサービスに似ているため、すぐに慣れることができます。クラウド・コンテンツへのアクセス、ファイルとフォルダの検索およびソート、コンテンツの共有、および会話の操作を行うことができます。
- **REST API** および **SDK** は、**Oracle Content Management** の機能を **Web** アプリケーションとモバイル・アプリケーションにプログラムで組み込むための強力なツールを開発者に提供します。

ロールの理解

アクセスできる **Oracle Content Management** 機能は、割り当てられているロールによって決まります。ユーザー・ロールに応じて異なるオプションが表示されます。標準ユーザーは、ドキュメント、会話およびサイトを操作できます。エンタープライズ・ユーザーは、アセットにアクセスすることもできます。開発者には、テンプレート、テーマ、コンポーネント、レイアウトなど、**Web** サイトの部分を構築およびカスタマイズするオプションが表示されます。管理者には、サービスの構成、サービスと他のビジネス・アプリケーションの統合およびアセット・リポジトリの設定を行うオプションが表示されます。

Oracle Content Management には、様々なタイプのロールがあります:

- **組織ロール** — 組織内のロールにより、実行する必要があるタスクと機能の使用方法が決まります。
- **ユーザー・ロール** — ユーザー・ロールによって、**Oracle Content Management** で表示される機能が制御されます。
- **リソース・ロール(権限)** — リソース(ドキュメント、コンテンツ・アイテム、サイト、テンプレートなど)に関連して表示される内容および実行できる操作は、リソースの共有時に割り当てられたロールによって決まります。

さらに学ぶ...

アセットの管理

Oracle Content Management は、Web サイト、マーケティング資料、電子メール・キャンペーン、オンライン・ストア、ブログなど、様々なチャネルで使用するすべてのアセットを管理するための強力な機能を提供しています。すべてのアセット用の中央コンテンツ・ハブを提供します。そこでは、アセットをリポジトリおよびコレクションに整理し、アセットが使用される方法と場所を定義するルールを作成できます。

アセットの作成および承認プロセスをガイドし、認可されたバージョンのみが使用可能になるようにする広範な管理およびワークフロー機能もあります。

アセットのタグとフィルタは簡単であるため、必要なアセットを迅速に見つけ、許可されている場合にそれらを使用できます。また、スマート・コンテンツ機能により、アセットを使用するときにタグ付けと推奨が自動的に行われます。

アセット・タイプを作成して、ユーザーがアセットを作成する際に収集する必要がある情報を定義します。デジタル・アセット・タイプでは、デジタル・アセット(ファイル、イメージおよびビデオ)に必要なカスタム属性を定義します。コンテンツ・タイプでは、コンテンツの様々な部分を再利用可能な単位にグループ化します。ユーザーは、それらのアセット・タイプに基づいてデジタル・アセットとコンテンツ・アイテムを作成して、チャネル間での一貫した使用および表示を確保できます。

さらに学ぶ...

コンテンツの管理

Oracle Content Management では、クラウド内でコンテンツの管理を行うことができます。すべて 1 箇所で行うことができ、どこからでもアクセスできます。

フォルダ内のファイルをグループ化し、ローカル・コンピュータ上とほぼ同じ方法で一般的なファイル管理操作(コピー、移動、削除など)を実行できます。また、すべてのファイルがクラウドに存在するため、どこにいても、またモバイル・デバイスからでもアクセスできます。デスクトップ・アプリケーションをインストールする場合、すべてのコンテンツはローカル・コンピュータと自動的に同期できるため、常に最新バージョンを利用できます。

さらに学ぶ...

コンテンツのコラボレーション

クラウド内のすべてのコンテンツでは、ファイルまたはフォルダを共有して、組織の内部または外部の他のユーザーと簡単にコラボレートできます。コンテンツを共有するすべてのユーザーは、必要に応じていつでもどこでも最新情報にアクセスできます。フォルダ全体へのアクセス権を付与し、特定のアイテムへのリンクを提供できます。共有アイテムへのすべてのアクセスが記録されるため、各共有アイテムがアクセスされた方法とタイミングを監視できます。

Oracle Content Management の会話では、リアルタイムでのトピックのディスカッションおよびコメントの投稿によって他のユーザーとコラボレートできます。任意のトピックについて独立した会話を開始し、必要に応じてファイルを追加できます。または、迅速かつ簡単にフィードバックを行うために、特定のファイル、フォルダ、アセットまたはサイトに関する会話を開始できます。

会話に関連付けられているすべてのメッセージ、ファイルおよび注釈は保持されるため、ディスカッションを簡単に追跡およびレビューできます。また、会話はクラウド内にあるため、外出中にモバイル・デバイスからそれらを表示して参加することもできます。

さらに学ぶ...

サイトの構築

Oracle Content Management では、概念から起動まで、マーケティングおよびコミュニティ Web サイトを迅速にビルドおよび公開して、魅力的なオンライン・エクスペリエンスを提供できます。プロセスは完全に統合されています: コンテンツ、コラボレーションおよび創造性が 1 つのオーサリングおよび公開環境に結合されています。

迅速に開始するには、すぐに使用可能なテンプレートを使用し、コンポーネント、サンプル・ページのレイアウトおよびサイトのテーマをドラッグアンドドロップして、定義済みの構築ブロックからサイトを組み立てます。または、開発者はカスタム・テンプレート、カスタム・テーマまたはカスタム・コンポーネントを作成して、固有のオンライン・エクスペリエンスを作成できます。

コンポーネントをページ上の指定されたスロットにドラッグ・アンド・ドロップするだけで、YouTube ビデオ、ストリーミング・ビデオ、イメージ、ヘッドライン、段落、ソーシャル・メディア・リンク、その他のサイト・オブジェクトを追加できます。ワンタッチでテーマを切り替え、サイトをリブランドして、最適化され一貫したルック・アンド・フィールを組織全体に提供できます。

1 つ以上の更新を行い、サイトの更新をプレビューし、準備ができれば、1 回クリックするだけで更新を公開できます。

サイト・ビルダーでのサイトの作成および公開に加えて、Oracle Content Management では、REST API、React JS、Node JS、その他の Web テクノロジーを使用した'ヘッドレス'サイト開発もサポートされます。

さらに学ぶ...

Oracle Content Management の統合および拡張

Oracle Platform-as-a-Service (PaaS)製品として、Oracle Content Management は他の Oracle Cloud サービスとシームレスに連携します。

Web アプリケーションへの Web UI の埋込みが可能であるため、ユーザーはコンテンツと直接対話できます。アプリケーション統合フレームワーク(AIF)を使用して、カスタム・アクションを通じてサードパーティ・サービスおよびアプリケーションを Oracle Content Management インタフェースに統合できます。またはコンテンツ・コネクタを開発して、すでに他の場所で作成したコンテンツを Oracle Content Management に取り込み、一元的に管理し、複数のチャンネルの新規エクスペリエンスで使用できます。

コンテンツとサイトの管理、配信およびコラボレーション用の REST API および SDK の充実したセットにより、Oracle Content Management 機能を Web アプリケーションに組み込むことができます。

クラウド内のコンテンツ SDK およびアセットと対話するクライアント・アプリケーションを作成します。コラボレーション・オブジェクトとのカスタム統合を開発するか、必要に応じて使用するアセットを取得します。Web サイト、コンテンツ配信ネットワーク(CDN)、モバイル・アプリケーションのいずれかを使用するかにかかわらず、各チャ

ネルに対して最適化されたすべてのコンテンツとアセットのアクセスと配信が可能です。
さらに学ぶ...

スタート・ガイド

Oracle Content Management の開始の支援が必要な場合は、[Oracle Help Center](#) を参照してください。ここでは、[ドキュメント](#)、[ビデオ](#)、[ガイド・ツアー](#)、[開発者情報](#)などの多くのリソースがあります。







必要な場合は、役に立つ[サポート](#)および[コミュニティ](#)もあります。

Starter Edition と Premium Edition

Oracle Content Management Starter Edition は、機能セットが制限され、ユーザー、アセット、サイトおよび他のアイテムの数が制限された無料のコンテンツ・サービス層を提供します。ただし、追加設定なしでそのまま Oracle Content Management を操作しても十分です。

完全な機能セットを利用し、ユーザーや他のアイテムの数を増やすには、[Premium Edition にアップグレード](#)します。

次の表は、Starter Edition と Premium Edition の機能および制限の比較を示しています。

機能	Starter Edition	Premium Edition
ユーザー	 5 ユーザーのみ SaaS 権限付与の制限なし	 無制限
リポジトリ	 1 リポジトリのみ。ビジネス・リポジトリなし	 無制限のビジネス・リポジトリとアセット・リポジトリ
デジタル・アセットおよびコンテンツ・アイテム	 <ul style="list-style-type: none"> 5,000 アセットのみ無料 イメージ、ビデオおよびファイルの即時利用可能なアセット・タイプが含まれる 5 カスタム・アセット・タイプのみ イメージ編集やカスタム・レンディションなし(自動レンディションはサポート) 	 無制限

機能	Starter Edition	Premium Edition
タクソノミ	 1 タクソノミのみ	 無制限
公開チャンネル	 1 公開チャンネルのみ(サイト・チャンネルを除く)	 無制限
ワークフロー	 基本的で即時利用可能な承認/却下ワークフローのみ	 無制限
翻訳ジョブ		
サイト	 1 サイトのみ。サイト・ガバナンスなし	 無制限。完全なアクセス権
エクスペリエンス・オーケストレーション	 1 エクスペリエンスのみ	 無制限
レコメンデーション	 1 レコメンデーションのみ	 無制限
開発者インターフェース		
アナリティクス	 基本的な使用状況メトリック(ダッシュボード)のみ	
ドキュメント		
会話	 スタンドアロンの会話なし	 完全なアクセス権
統合	 Web フック、プロキシ・サービスおよび API のみ	 完全なアクセス権
スマート・タグおよびスマート検索		

機能	Starter Edition	Premium Edition
スマート・オーサリング		
Video Plus		
キャプチャ	 1 プロシージャのみ。 XML なし	 無制限。完全なアクセス権
CDN		
バニティ URL		
モバイル・アプリケーション		
デスクトップ・アプリケーション/同期クライアント		
Microsoft Office 統合		
Adobe Creative Cloud 拡張機能		
Oracle Content Management グループ		
Gen2 OCI がデプロイされるリージョン 非プライマリ・インスタンスのサポート	すべて 	すべて 
遅延アップグレードのサポート		
プライベート・インスタンス(FastConnect)のサポート		
ホーム・ページ	 最近のアイテムやクイック・リンクは表示されない	

Premium Edition へのアップグレード

[Premium Edition へのアップグレードに関するガイド・ツアー](#)を表示します。

完全な機能セットを利用し、すべての制限を取り除くには、Premium Edition にアップグレードします:

1. [サブスクリプション](#)ページに移動して、お客様がお持ちの Oracle Cloud アカウントのタイプを確認します:

- a. クラウド・アカウント管理者として **Oracle Cloud** にサインインします。アカウント名とログイン情報は、よろこぞ電子メールに記載されています。
 - b. **Infrastructure** コンソールで、左上の  をクリックしてナビゲーション・メニューを開き、「**ガバナンスと管理**」をクリックし、「**アカウント管理**」で、「**サブスクリプション**」をクリックします。
- ユニバーサル・クレジット・アカウントをお持ちの場合は、インスタンスを **Premium Edition** にアップグレードするステップに進みます。SaaS サービスのサブスクリプションをお持ちの場合は、**Oracle** アカウント担当者にご相談ください。
2. **OCI** コンソールで、 をクリックし、「**開発者サービス**」、「**コンテンツ管理**」の順にクリックします。これにより、**Content Management** インスタンス・ページが開きます。
 3. インスタンスを開きます。
 4. 「**インスタンスの編集**」をクリックします。
 5. 「**ライセンス・タイプ**」を「**Premium Edition**」に変更して、「**変更の保存**」をクリックします。
 6. **Oracle Content Management** に再度サインインして、すべての機能のロックが解除され、制限が取り除かれていることを確認します。

管理者のロール

管理タスクを実行する様々な種類の管理者と様々なインタフェースがあります。管理者は、これらのロールとインタフェースに加え、いくつかの重要な用語と、担当するタスクについて理解する必要があります。

開始する前に、このドキュメントとその他の **Oracle Cloud** ドキュメント全体を通して使用される次の用語を理解する必要があります。

- **アカウント**: アカウントは、個人、組織または会社である **Oracle** の顧客に対応します。アカウントには複数のサービスがある場合があります。各アカウントに 1 つ以上のアイデンティティ・ドメインがあります。
- **サービス**: **サービス管理者**によって管理される、**Oracle Cloud** のソフトウェア製品。サービスは、特定のデータ・センター、アイデンティティ・ドメインおよびアカウントに関連付けられています。
- **アイデンティティ・ドメイン**: アイデンティティ・ドメインは、ユーザーの認可を制御します。複数のサービスを 1 つのアイデンティティ・ドメインに関連付け、ユーザー定義を共有できます。アイデンティティ・ドメインのユーザーは、ドメイン内の様々なサービスに対して異なるアクセス・レベルを持つことができます。
- **データ・センター**: コンピュータ・システムを収容する施設。**Oracle** は、複数の地域にデータ・センターを持っています。アイデンティティ・ドメインとそのサービスは、特定のデータ・センターに属します。

管理者は、管理タスクの実行に関連するユーザー・ロールと管理インタフェースに精通している必要があります。

- [ロール](#)
- [管理インタフェース](#)
- [管理タスク](#)

- セキュリティ

管理インタフェース

サービスの管理に使用される複数の異なるインタフェースが存在します。サブスクリプションのタイプと日付に応じて、異なるインタフェースを使用してタスクを実行します。

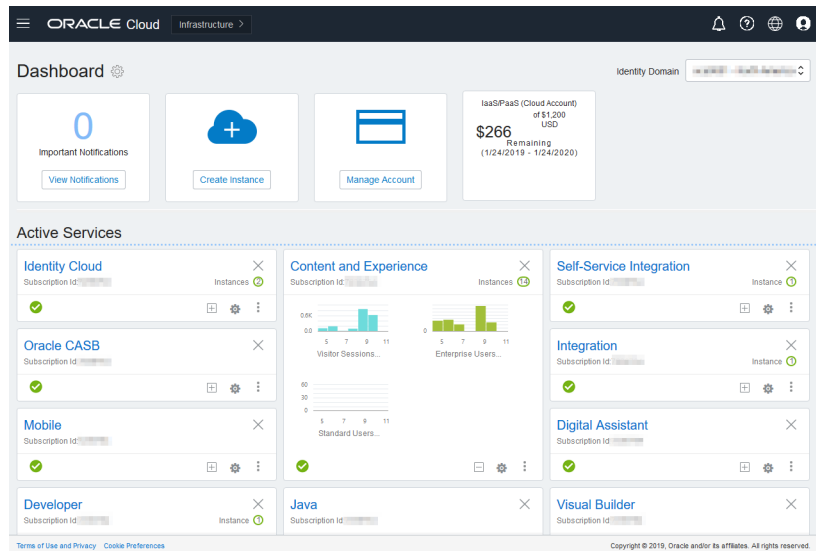
Infrastructure コンソール

The screenshot displays the Oracle Cloud Infrastructure console. At the top, there's a navigation bar with the Oracle Cloud logo, a search bar, and user information (us-ashburn-1). The main content area is split into two columns. The left column features a 'Quick Actions' section with six cards, each representing a different service and its estimated completion time. The right column has a 'Health' status box indicating 'All systems operational', followed by an 'Action Center' with links for 'User Management' and 'Billing'. Below that, there's a 'What's New' section with recent updates. The footer includes 'Terms of Use and Privacy', 'Cookie Preferences', and a copyright notice for 2019.

Oracle Cloud Infrastructure (OCI)上で Oracle Content Management インスタンスが実行されている場合、Infrastructure コンソールを使用して Oracle Cloud リソースを作成、管理および表示できます。

Infrastructure コンソールにアクセスするには、クラウド・アカウント管理者として [Oracle Cloud](#) にサインインします。アカウント名とログイン情報は、ようこそ電子メールに記載されています。

Infrastructure Classic コンソール



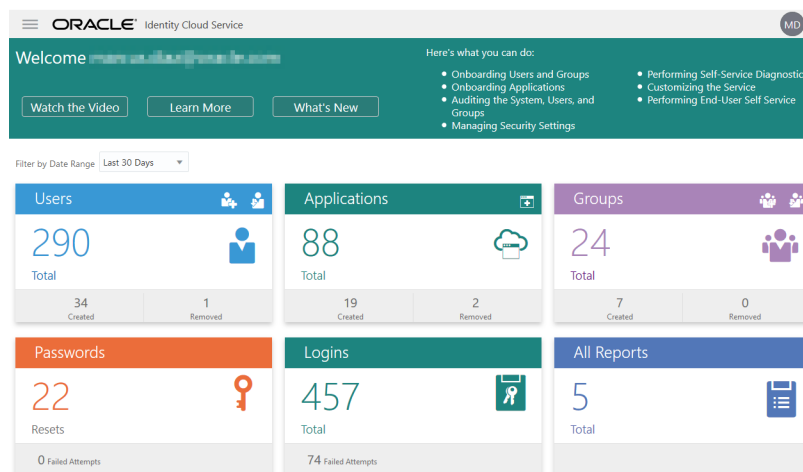
サブスクリプションのタイプと日付によっては、**Infrastructure Classic** コンソールを使用して **Oracle Cloud** サービスの管理とユーザーおよびグループの管理を行う場合があります。**Oracle Cloud** にサインインすると、サブスクリプションに適したコンソールに自動的に移動します。

ダッシュボードには、既存のサービスとそのステータスが表示され、新しいサービス・インスタンスを作成でき、請求とサービスの使用状況が表示されます。

Infrastructure Classic コンソールにアクセスするには:

1. クラウド・アカウント管理者として **Oracle Cloud** にサインインします。アカウント名とログイン情報は、ようこそ電子メールに記載されています。
2. 右上のユーザー・アバターをクリックし、「**サービス・ユーザー・コンソール**」をクリックします。
3. **Infrastructure Classic コンソール**をクリックします。

Identity Cloud Service (IDCS)コンソール

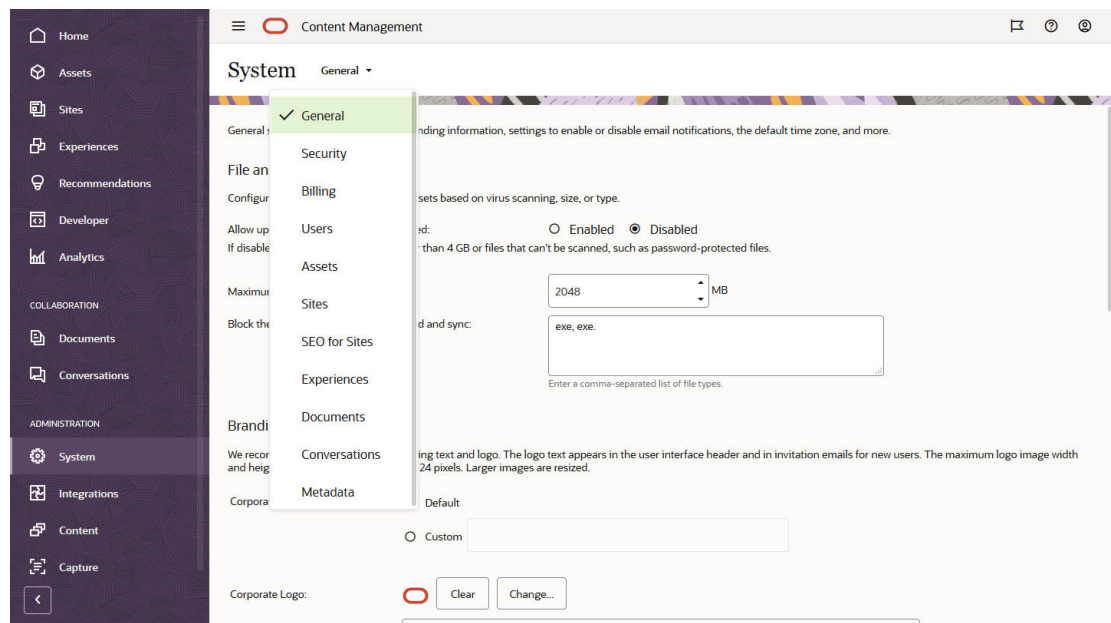


Identity Cloud Service (IDCS)はユーザーとグループの管理に使用されます。このマニュアルの「[ユーザーの追加](#)」または『[Getting Started with Oracle Cloud](#)』の「IDCSを使用したクラウド・アカウントへのユーザーの追加」を参照してください。

Identity Cloud Service (IDCS)にアクセスするには:

1. クラウド・アカウント管理者として [Oracle Cloud](#) にサインインします。アカウント名とログイン情報は、ようこそ電子メールに記載されています。
2. Infrastructure コンソールで、左上の☰をクリックしてナビゲーション・メニューを開き、「**アイデンティティとセキュリティ**」をクリックし、「**アイデンティティ**」で、「**フェデレーション**」をクリックします。
3. 「フェデレーション」ページで **OracleIdentityCloudService** をクリックしてから、「アイデンティティ・プロバイダの詳細」ページで **Oracle Identity Cloud Service Console** へのリンクをクリックします。IDCS コンソールが新しいウィンドウで開きます。

Oracle Content Management 管理システム・インタフェース



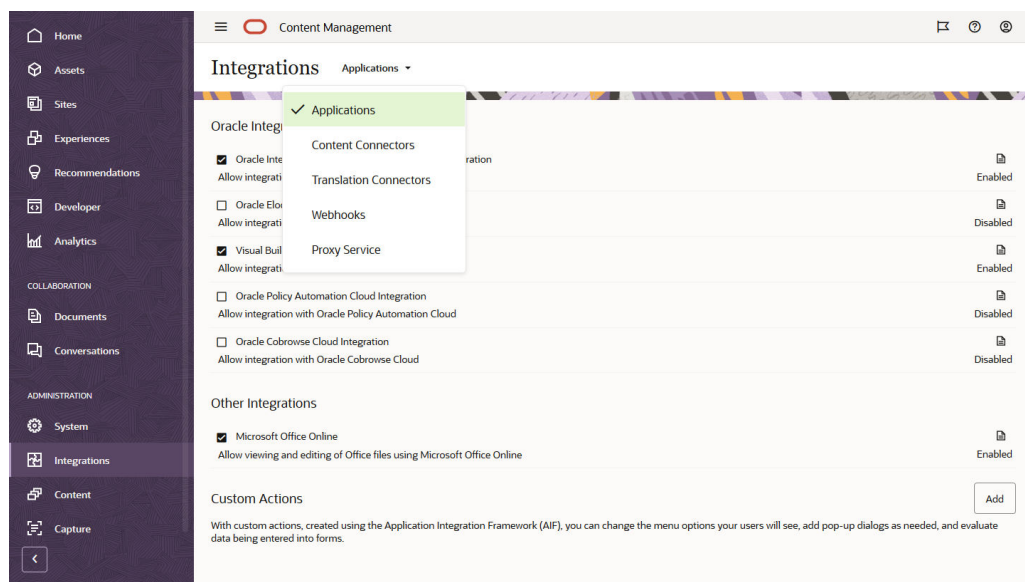
Oracle Content Management 管理システム・インタフェースでは、通知の有効化、ユーザー割当て制限やタイム・ゾーン設定などのデフォルトの管理、カスタム・ブランディングの追加、およびカスタム・アプリケーションの管理を行います。

Oracle Content Management 管理システム・インタフェースにアクセスするには:

1. Oracle Content Management Web アプリケーションに管理者としてサインインしたら、ナビゲーション・メニューの「管理」領域の「**システム**」をクリックします。
2. 「**システム**」メニューで、ページを選択します:
 - **一般**: ファイル・タイプの制限、ブランディングのカスタマイズ、通知の有効化または無効化、およびデフォルトのタイム・ゾーン、言語、日時形式の設定を行います。
 - **セキュリティ**: CORS オリジンを設定し、他のドメイン内の Oracle Content Management からの埋込みコンテンツの表示を有効にします。

- **請求:** 請求メトリックについて通知を受ける制限を指定します。これらの設定は、Oracle Cloud Infrastructure (OCI)上で実行される Oracle Content Management にのみ適用されます。
- **ユーザー:** ユーザーの管理、新規フォルダ・メンバーのデフォルト・ロールの設定、ユーザー・データの同期、ユーザーにデフォルトで会話のメンバーシップ・メッセージを表示するかどうかの設定、ユーザー・ストレージ割当て制限のオーバーライド、およびプロビジョニング解除されたユーザーからのファイルの所有権の移管を行います。
- **アセット:** アセットごとに保存可能なレンディション数およびビデオ・ファイルの最大サイズを管理します。
- **サイト:** サイトのアクセス制御オプションを有効にし、デフォルト・サイト・テンプレートをインストールします。
- **サイトの SEO:** サイトのプリレンダーを可能にし、追加のユーザー・エージェントを構成します。
- **エクスペリエンス:** コンテンツの変更や公開済ステータスに基づいて、Oracle Content Management の外部で管理されるエクスペリエンスを自動的に更新できるように、エクスペリエンスを有効化します。
- **ドキュメント:** デフォルトのユーザー・ストレージ割当て制限を設定し、ストレージ領域を管理し、デフォルトのリンク動作を設定します。
- **会話:** 特定の単語がハッシュタグ検索に使用されないように、(会話で使用された)ハッシュタグを検閲します。
- **メタデータ:** ユーザーがファイルおよびフォルダを追加の説明で迅速に分類できるように、メタデータ(カスタム・プロパティ)を管理します。

Oracle Content Management 管理統合インターフェース



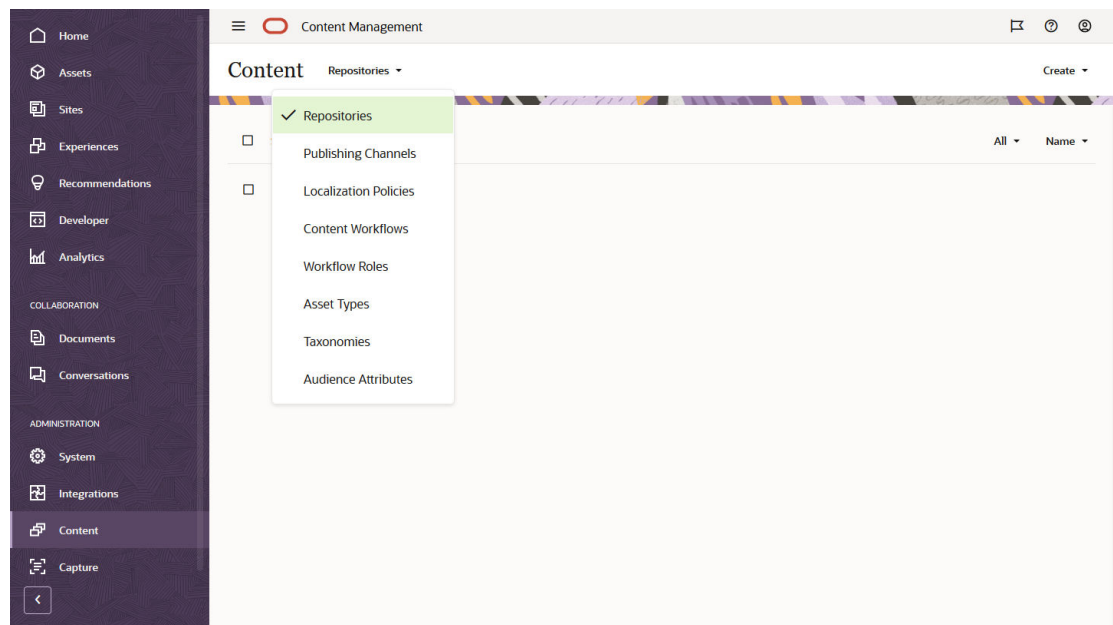
管理統合インターフェースを通じて、他のアプリケーションとの統合を有効化できます。

Oracle Content Management 管理統合インターフェースにアクセスするには:

1. Oracle Content Management Web アプリケーションに管理者としてサインインしたら、ナビゲーション・メニューの「管理」領域の「統合」をクリックします。
2. 「統合」メニューで、「アプリケーション」、「コンテンツ・コネクタ」、「翻訳コネクタ」、「Web フック」または「プロキシ・サービス」を選択できます。

環境に応じて、Oracle Process Cloud Service、Oracle Eloqua Cloud Service、Oracle Visual Builder、Oracle Intelligent Advisor または Oracle Cobrowse Cloud Service と統合することができます。これらのタスクについては『*Integrating and Extending Oracle Content Management*』で説明しています。

Oracle Content Management 管理コンテンツ・インタフェース

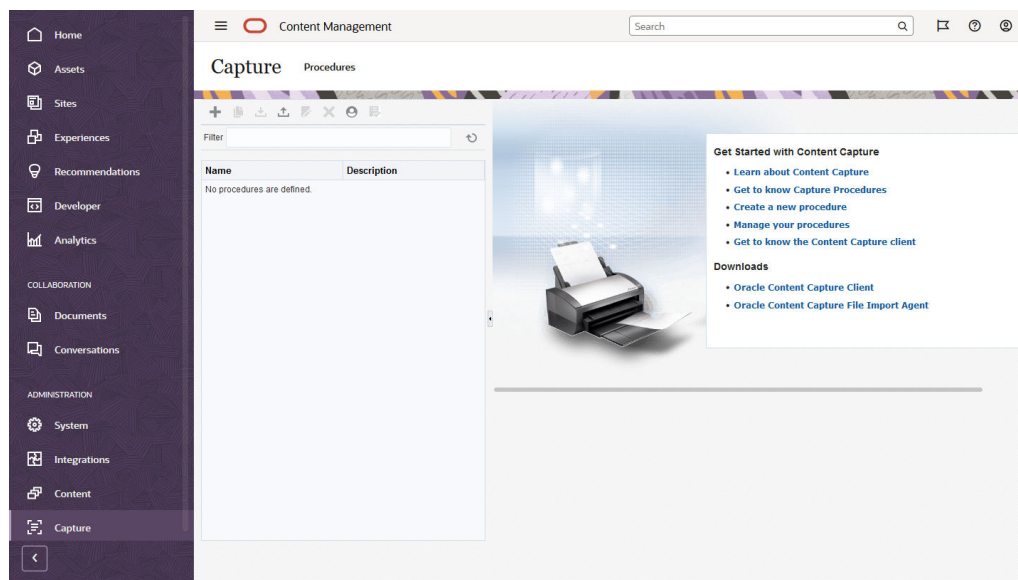


リポジトリ管理者とコンテンツ管理者は、**管理コンテンツ・インタフェース**を通じて、アセット・リポジトリ、公開チャンネル、ローカリゼーション・ポリシー、コンテンツ・タイプおよびタクソノミを管理できます。これらのタスクについては『*Managing Assets with Oracle Content Management*』で説明しています。

Oracle Content Management 管理コンテンツ・インタフェースにアクセスするには:

1. Oracle Content Management Web アプリケーションに管理者としてサインインしたら、ナビゲーション・メニューの「管理」領域の「コンテンツ」をクリックします。
2. 「コンテンツ」メニューで、「リポジトリ」、「チャンネルのパブリッシュ」、「ローカリゼーション・ポリシー」、「コンテンツ・ワークフロー」、「ワークフロー・ロール」、「アセット・タイプ」、「タクソノミ」または「オーディエンス属性」を選択できます。

Oracle Content Management 管理キャプチャ・インタフェース



コンテンツ・キャプチャ管理者は、物理ドキュメントをスキャンして電子ドキュメントを大きなバッチにインポートし、それを処理して索引を付け、格納や追加処理のために Oracle Content Management にアップロードするワークフローを定義するプロシージャを管理できます。**管理キャプチャ**・インタフェースを介してこれらを管理します。これらのタスクについては『*Capturing Content with Oracle Content Management*』で説明しています。

Oracle Content Management 管理キャプチャ・インタフェースにアクセスするには:

1. Oracle Content Management Web アプリケーションに管理者としてサインインしたら、ナビゲーション・メニューの「管理」領域の「**キャプチャ**」をクリックします。
2. プロシージャ **管理**用のページの左側を使用して、プロシージャを作成、編集、削除、インポートおよびエクスポートします。プロシージャ **構成**用のページの右側を使用して、各プロシージャを特定のコンテンツ・キャプチャ環境用にカスタマイズします。

管理タスク

管理者は、Oracle Content Management を稼働させるためのタスクと、それを管理して円滑な実行を維持するためのタスクを実行します。

ノート:

- このトピックでは、ユーザーを追加しサービスを構成するために必要なロールが割り当てられていることを想定します。ロールを変更する必要がある場合は、アカウント管理者に連絡してください。
- 表にリストされているインタフェースに移動する方法は、[管理インタフェース](#)を参照してください。

次の表には、これらのタスクが、関連ドキュメントへのリンク、実行に使用する管理インタフェースおよび各タスクの完了に必要なロールとともにリストされています。

タスク	タスクを実行する場所	必要なロール
Oracle Content Management インタフェースへの企業ブランド・テキストとカスタム・ロゴの追加	Oracle Content Management の「管理」 - 「一般」	アイデンティティ・ドメイン管理者、サービス管理者、サービス・ユーザーまたは標準ユーザー/エンタープライズ・ユーザー
電子メール通知の有効化	Oracle Content Management の「管理」 - 「一般」	アイデンティティ・ドメイン管理者、サービス管理者、サービス・ユーザーまたは標準ユーザー/エンタープライズ・ユーザー
デフォルトのタイム・ゾーンおよび言語の設定	Oracle Content Management の「管理」 - 「一般」	アイデンティティ・ドメイン管理者、サービス管理者、サービス・ユーザーまたは標準ユーザー/エンタープライズ・ユーザー
Cross-Origin Resource Sharing (CORS) の有効化	Oracle Content Management の「管理」 - 「セキュリティ」	アイデンティティ・ドメイン管理者、サービス管理者、サービス・ユーザーまたは標準ユーザー/エンタープライズ・ユーザー
他のドメインへのコンテンツの埋込み	Oracle Content Management の「管理」 - 「セキュリティ」	アイデンティティ・ドメイン管理者、サービス管理者、サービス・ユーザーまたは標準ユーザー/エンタープライズ・ユーザー
請求メトリックについて通知を受ける制限を指定します	Oracle Content Management の「管理」 - 「請求」 これらの設定は、 Oracle Cloud Infrastructure (OCI) 上で実行される Oracle Content Management にのみ適用されません。	アイデンティティ・ドメイン管理者、サービス管理者、サービス・ユーザーまたは標準ユーザー/エンタープライズ・ユーザー
サービス管理者、アカウント管理者、サービス・ユーザーの追加とそれらのロールの割当て	Identity Service Cloud コンソール	アイデンティティ・ドメイン管理者
組織のグループを作成します	Identity Service Cloud コンソール	サービス・ユーザーまたは標準ユーザー
新しいフォルダ・メンバーのデフォルト・ロールの設定	Oracle Content Management の「管理」 - 「ユーザー」	アイデンティティ・ドメイン管理者、サービス管理者、サービス・ユーザーまたは標準ユーザー/エンタープライズ・ユーザー
ユーザー・プロフィール・データの同期	Oracle Content Management の「管理」 - 「ユーザー」	アイデンティティ・ドメイン管理者、サービス管理者、サービス・ユーザーまたは標準ユーザー/エンタープライズ・ユーザー
アセット設定(最大ファイル・サイズ、キャッシング、ビデオの有効期限など)の構成	Oracle Content Management の「管理」 - 「アセット」	アイデンティティ・ドメイン管理者、サービス管理者、サービス・ユーザーまたは標準ユーザー/エンタープライズ・ユーザー
サイト設定の構成およびサイト・テンプレートのインストール	Oracle Content Management の「管理」 - 「サイト」	アイデンティティ・ドメイン管理者、サービス管理者、サービス・ユーザーまたは標準ユーザー/エンタープライズ・ユーザー
サイトのプリレンダーを可能にし、追加のユーザー・エージェントを構成する	Oracle Content Management の「管理」 - 「サイトの SEO」	アイデンティティ・ドメイン管理者、サービス管理者、サービス・ユーザーまたは標準ユーザー/エンタープライズ・ユーザー

タスク	タスクを実行する場所	必要なロール
コンテンツの変更や公開済ステータスに基づいて、 Oracle Content Management の外部で管理されるエクスペリエンスを自動的に更新するようにエクスペリエンスを構成する	Oracle Content Management の「管理」 - 「エクスペリエンス」	アイデンティティ・ドメイン管理者、サービス管理者、サービス・ユーザーまたは標準ユーザー/エンタープライズ・ユーザー
ユーザー割当て制限の設定と記憶領域の管理	Oracle Content Management の「管理」 - 「ドキュメント」	アイデンティティ・ドメイン管理者、サービス管理者、サービス・ユーザーまたは標準ユーザー/エンタープライズ・ユーザー
デフォルトのリンク動作の設定	Oracle Content Management の「管理」 - 「ドキュメント」	アイデンティティ・ドメイン管理者、サービス管理者、サービス・ユーザーまたは標準ユーザー/エンタープライズ・ユーザー
ファイルのタイプとサイズの制限	Oracle Content Management の「管理」 - 「ドキュメント」	アイデンティティ・ドメイン管理者、サービス管理者、サービス・ユーザーまたは標準ユーザー/エンタープライズ・ユーザー
特定の単語がハッシュタグ検索に使用されないように、(会話で使用された)ハッシュタグを検閲する	Oracle Content Management の「管理」 - 「会話」	アイデンティティ・ドメイン管理者、サービス管理者、サービス・ユーザーまたは標準ユーザー/エンタープライズ・ユーザー
ユーザーがファイルおよびフォルダを追加の説明で迅速に分類できるように、メタデータ(カスタム・プロパティ)を管理します	Oracle Content Management の「管理」 - 「メタデータ」	アイデンティティ・ドメイン管理者、サービス管理者、サービス・ユーザーまたは標準ユーザー/エンタープライズ・ユーザー
シングル・サインオン(SSO)の有効化	Identity Service Cloud コンソール	アイデンティティ・ドメイン管理者
Oracle Content Management へのサインイン方法と、問題がある場合の連絡先をユーザーに知らせる	システムに追加する各ユーザーに対して電子メールが自動的に生成されます	N/A
ユーザーのマシンへのデスクトップ・アプリケーションのデプロイ	コマンド・ライン・ツールを使用して、デスクトップ・アプリケーションをユーザーのマシンにプッシュします	N/A
組織に参加または組織を離れるユーザーの管理	ユーザーを管理するには、Identity Service Cloud コンソールを使用します 組織を離れたユーザーが所有していたコンテンツを再割当てまたは削除するには、Oracle Content Management の「管理」 - 「ユーザー」を使用します	アイデンティティ・ドメイン管理者、サービス管理者、サービス・ユーザーまたは標準ユーザー/エンタープライズ・ユーザー
見つかった問題の報告	Infrastructure コンソール	サービス・インスタンス管理者
サービスの使用状況の分析、サービス・アクティビティのモニター、およびレポートの実行	Oracle Content Management の「アナリティクス」	アイデンティティ・ドメイン管理者、サービス管理者、サービス・ユーザーまたは標準ユーザー/エンタープライズ・ユーザー

統合タスク(「管理」 — 「統合」で表示されるタスク)の詳細は、『*Integrating and Extending Oracle Content Management*』を参照してください。

コンテンツ管理者のタスク(「管理」 — 「アセット」で表示されるタスク)の詳細は、*Building Sites with Oracle Content Management* のアセット・リポジトリの設定を参照してください。

ロール

Oracle Content Management には、様々なタイプのロールがあります。これらがどのように連携動作するかを理解することは、ユーザーが義務を遂行して適切なコンテンツにアクセスするために必要なアクセス権をユーザーに付与するうえで不可欠です。

- **一般的な組織ロール** — 組織内のユーザーのロールにより、ユーザーが実行する必要があるタスクと機能の使用方法が決まります。
- **アプリケーション・ロール** — アプリケーション・ロールにより、Oracle Content Management でユーザーに対して表示される機能が制御されます。
- **アプリケーション・ロール別のタスクと機能の比較** — ユーザーは、割り当てられたアプリケーション・ロールに応じて、様々なタスクを実行し、様々な機能にアクセスできます。たとえば、ビジター、標準ユーザーおよびエンタープライズ・ユーザーは、ファイルとフォルダにアクセスできますが、デジタル・アセットを操作できるのは、エンタープライズ・ユーザーのみです。
- **リソース・ロール(権限)** — リソース(ドキュメント、コンテンツ・アイテム、サイト、テンプレートなど)に関連してユーザーに表示される内容およびユーザーが実行できる操作は、リソースの共有時にそのユーザーに割り当てられたロールによって決まります。

一般的な組織ロール

ユーザーを作成するときは、Oracle Content Management でタスクを実行するために必要なアプリケーション・ロールを付与します。通常、このようなユーザーは次の組織ロール(つまりユーザー・タイプ)のいずれかに分類され、示されているアプリケーション・ロールが必要となります。

組織ロールのグループを作成して、示されているユーザー・ロールをそのグループに割り当てることができます。次に、それらのグループにユーザーを追加すると、適切なユーザー・ロールがユーザーに自動的に割り当てられます。

組織ロール	必要なアプリケーション・ロール
匿名ユーザー 匿名ユーザーは、公開 Web サイト、モバイル・サイトまたは他のデジタル・エクスペリエンスを通じて会社と関わり、会社のサービスについて情報を得る消費者です。匿名ユーザーは、公開 Web サイトの利用、ドキュメントのダウンロードまたは買い物を行うことができます。	<ul style="list-style-type: none"> • 匿名ユーザーにはユーザー・アカウントまたはユーザー・ロールは必要ありません。
ビジター ビジターも、公開 Web サイト、モバイル・サイトまたは他のデジタル・エクスペリエンスを利用して、会社のサービスについて情報を得る消費者です。ビジターは、匿名ユーザーのように、公開 Web サイトの利用、ドキュメントのダウンロード、または買い物を行うことができますが、指定されたセキュアなサイトを利用したり、会社が提供するサービスにサインインしたりすることもできません。	<ul style="list-style-type: none"> • サイト・ビジター

組織ルール**従業員**

従業員は、ドキュメントを同僚と共有したり、共有されたドキュメントを見たりします。会話を共有してコラボレーションします。事前定義済標準テンプレートに基づいてチーム・サイトまたはパートナー・サイトを作成できます。

コンテンツ・コントリビュータ

コンテンツ・コントリビュータは、自社製品の1つや業務の特定分野などについて、サイトに公開する記事を作成します。このような記事(コンテンツ・アイテムの形式)には、顧客が製品の機能や仕様を理解しやすいようにイメージ、ビデオおよび他のデジタル・アセットが含まれます。コンテンツ・コントリビュータは、従業員と同じく共有やコラボレーションを行います。コンテンツ・コントリビュータとは、少なくとも1つのリポジトリ内でコントリビュータ・ロールを持つユーザーです。

コンテンツ管理者/コンテンツ・トランスレータ

コンテンツ管理者は、製品に関連するコンテンツの品質に責任を持ちます。提出されたコンテンツをレビューし、有効かつ正確であることを確認してから、そのコンテンツを公開します。サイトのニーズに応じて新しいコンテンツ・タイプとタクソノミを作成することもできます。

コンテンツ・トランスレータもコンテンツを管理します。コンテンツを翻訳ベンダーに送信し、返ってきたコンテンツを校正したり、場合によっては記事を手動で翻訳します。

コンテンツ管理者は、従業員と同じく共有やコラボレーションを行います。

リポジトリ管理者

リポジトリ管理者は、コンテンツのオーサリングと公開をまとめます。これには、アセット・リポジトリの設定、コンテンツ編集者のロールや権限の管理、コンテンツ・メトリックの表示、および会社がエクスペリエンスを提供するために使用するコンテンツ・ワークフロー、公開チャンネル、ローカリゼーション・ポリシーの構成が必要です。バックエンド開発者とやりとりして、データまたはコンテンツの統合要件を定義します。また、従業員と同じく共有やコラボレーションを行います。リポジトリ管理者とは、少なくとも1つのリポジトリ内でマネージャ・ロールを持つユーザーです。

必要なアプリケーション・ロール

- 標準ユーザー
- エンタープライズ・ユーザー
- コンテンツ管理者
- エンタープライズ・ユーザー
- リポジトリ管理者
- エンタープライズ・ユーザー

組織ロール	必要なアプリケーション・ロール
<p>サイト管理者 サイト、テンプレートおよびコンポーネントの作成を、サイト管理者のみに制限することができます。サイト管理者は標準サイトとエンタープライズ・サイトを作成して管理します。場合によっては、デフォルト・サイト・テンプレートをインストールするようにシステム管理者に依頼し、新サイトのカスタム・コンポーネント、テーマまたはテンプレートを作成するように開発者に依頼し、サイトで使用するコンテンツ・アイテムの新しいタイプを作成するようにコンテンツ設計者に依頼します。また、従業員と同じく共有やコラボレーションを行います。</p>	<ul style="list-style-type: none"> • サイト管理者 • エンタープライズ・ユーザー
<p>開発者 開発者は、同僚がチーム・サイトまたはパートナー・サイトを作成するために使用できるカスタム・コンポーネント、企業のテーマおよび標準テンプレートを開発し、構成します。Oracle Content Management とその他のサービス間の統合を構成します。また、従業員と同じく共有やコラボレーションを行います。</p> <p>エンタープライズ・ユーザー・ロールを持つ開発者は、エンタープライズ・テンプレートも作成できます。</p>	<ul style="list-style-type: none"> • 開発者 • エンタープライズ・ユーザー
<p>コンテンツ・キャプチャ管理者 コンテンツ・キャプチャ管理者は、コンテンツ・キャプチャのワークフロー(プロシージャ)を設計およびカスタマイズします。これは、様々なビジネス・シナリオにおいて物理ドキュメントおよび電子ドキュメントを一括処理するために使用されます。</p> <p>プロシージャ・マネージャには通常、プロシージャを構成してクライアントでそれをテストできるように、マネージャ・ロールとユーザー・ロールの両方が割り当てられます。</p>	<ul style="list-style-type: none"> • キャプチャ管理者 • キャプチャ・クライアント・ユーザー • 標準ユーザー
<p>コンテンツ・キャプチャ・クライアント・ユーザー コンテンツ・キャプチャ・クライアント・ユーザーは、ドキュメントをスキャンしたり、Oracle Content Management にインポートします。</p>	<ul style="list-style-type: none"> • キャプチャ・クライアント・ユーザー
<p>サービス管理者 サービス管理者は、Oracle Content Management サービスを構成して管理します。Oracle Content Management を他のビジネス・サービスと統合し、運用分析にアクセスして、サービスの重要な使用状況メトリックをモニターできます。</p>	<ul style="list-style-type: none"> • サービス管理者 • 標準ユーザーまたはエンタープライズ・ユーザー

統合ユーザーなど、他にも Oracle Content Management の実行に関わるユーザーがありますが、内部ユーザーであり実際のユーザーではありません。クラウド・アカウント管理者も存在しますが、このユーザーは Oracle Cloud にサインアップするときに自動的に作成されます。[アプリケーション・ロール](#)を参照してください。

アプリケーション・ロール

Oracle Content Management のいくつかの事前定義済アプリケーション・ロールにより、ユーザーが実行できる操作が定義されます。特定のアプリケーション・ロールを持つユーザーのみが使用できる機能もあります。

ユーザーは必要な数のアプリケーション・ロールを保持できます。たとえば、ある1人のユーザーをクラウド・アカウント管理者とサービス管理者の両方として指定できます。これらのアプリケーション・ロールは、アイデンティティ・ドメイン管理者によって割り当てられます。「[ロールのグループへの割当て](#)」および「[グループへのユーザーの割当て](#)」を参照してください。

ビジターは、特定のサイトを表示し、パブリック・リンクを使用し、アプリケーションまたは Web サイトに埋め込まれた Oracle Content Management コンテンツを表示できます。

Oracle Content Management を実際に使用する必要があるユーザーには、割り当てられたロールに加えて標準ユーザー・ロールまたはエンタープライズ・ユーザー・ロールを割り当てる必要があります。

次の表は、ユニバーサル・クレジット・サブスクリプション、政府向けサブスクリプションまたは SaaS サブスクリプションを持つ Oracle Content Management インスタンスに関連するアプリケーション・ロールについて説明しています。表にリストされているインタフェースに移動する方法は、「[管理インタフェース](#)」を参照してください。

アプリケーション・ロール(アプリケーション・ロール名は太字で表記)	アクセスおよびアクション	ノート
クラウド・アカウント管理者	<p>クラウド・アカウント管理者は、Infrastructure Classic コンソールを使用して次のアクションを実行します:</p> <ul style="list-style-type: none"> 1つ以上のクラウド・アカウントのサービスをモニターおよび管理します。 新規ユーザーを作成します。 ロールを割り当ててサービスへのアクセス権を付与します。 サブスクリプションをアップグレードまたは終了します。 <p><i>Managing and Monitoring Oracle Cloud</i> のクラウド・アカウント管理タスクの概要を参照してください。</p>	<p>クラウド・アカウント管理者は、アカウントの作成時に設定されます。これらの管理者は、Oracle アカウントを使用して Oracle Cloud にサインインし、Infrastructure Classic コンソールにアクセスします。アカウント管理者アクセス権が必要であるが持っていない場合、プライマリ・アカウント管理者に連絡してください。<i>Getting Started with Oracle Cloud</i> のクラウド・アカウント・ロールについて学習を参照してください。</p> <p>クラウド・アカウント管理者が Oracle Content Management を使用し、サービス構成を変更できるようにする場合は、アカウント管理者に標準ユーザー・ロールまたはエンタープライズ・ユーザー・ロールも割り当てる必要があります。</p>

アプリケーション・ロール(アプリケーション・ロール名は太字で表記)	アクセスおよびアクション	ノート
サービス管理者 (CECServiceAdministrator)	<p>Oracle Content Management の「管理: システム」インタフェースから:</p> <ul style="list-style-type: none"> • 一般: ファイル・タイプの制限、ブランディングのカスタマイズ、通知の有効化または無効化、およびデフォルトのタイム・ゾーン、言語、日時形式の設定を行います。 • セキュリティ: CORS オリジンを設定し、他のドメイン内の Oracle Content Management からの埋込みコンテンツの表示を有効にします。 • 請求: 請求メトリックについて通知を受ける制限を指定します。これらの設定は、Oracle Cloud Infrastructure (OCI)上で実行される Oracle Content Management にのみ適用されます。 • ユーザー: ユーザーの管理、新規フォルダ・メンバーのデフォルト・ロールの設定、ユーザー・データの同期、ユーザーにデフォルトで会話のメンバーシップ・メッセージを表示するかどうかの設定、ユーザー・ストレージ割当て制限のオーバーライド、およびプロビジョニング解除されたユーザーからのファイルの所有権の移管を行います。 • アセット: アセットごとに保存可能なレンディション数およびビデオ・ファイルの最大サイズを管理します。 • サイト: サイトのアクセス制御オプションを有効にし、デフォルト・サイト・テンプレートをインストールします。 • サイトの SEO: サイトのプリレンダーを可能にし、追加のユーザー・エージェントを構成します。 • エクスペリエンス: コンテンツの変更や公開済ステ 	サービス管理者が Oracle Content Management を使用できるようにするには、 標準ユーザー・ロール または エンタープライズ・ユーザー・ロール も割り当てる必要があります。

アプリケーション・ロール(アプリケーション・ロール名は太字で表記)	アクセスおよびアクション	ノート
-----------------------------------	--------------	-----

ータスに基づいて、Oracle Content Management の外部で管理されるエクスペリエンスを自動的に更新できるように、エクスペリエンスを有効化します。

- **ドキュメント**: デフォルトのユーザー・ストレージ割当て制限を設定し、ストレージ領域を管理し、デフォルトのリンク動作を設定します。
- **会話**: 特定の単語がハッシュタグ検索に使用されないように、(会話で使用された)ハッシュタグを検閲します。
- **メタデータ**: ユーザーがファイルおよびフォルダを追加の説明で迅速に分類できるように、メタデータ(カスタム・プロパティ)を管理します。

ノート: カスタム・プロパティの場合、**エンタープライズ・ユーザー**・ロールも必要です。

Oracle Content Management の「**管理: 統合**」インタフェースから、Oracle Process Cloud Service、Oracle Eloqua Cloud Service、Oracle Visual Builder、Oracle Intelligent Advisor、Oracle Cobrowse Cloud Service およびカスタム・アプリケーションとの統合を構成します。

Oracle Content Management の「**アナリティクス**」インタフェースから:

- サービス使用状況の統計、コンテンツ・メトリックおよびレポートを表示して、システム・ニーズや問題を分析します。

アプリケーション・ロール(アプリケーション・ロール名は太字で表記)	アクセスおよびアクション	ノート
リポジトリ管理者 (CECRepositoryAdministrator)	<p>Oracle Content Management の「管理: コンテンツ」ページから:</p> <ul style="list-style-type: none"> • アセット・リポジトリの作成。 • 公開チャンネルの作成。 • ローカリゼーション・ポリシーの作成。 • コンテンツ・ワークフローおよびワークフロー・ロールの作成。 • タクソノミの作成および公開。 <p>Oracle Content Management の「アナリティクス」インタフェースから:</p> <ul style="list-style-type: none"> • アセットおよびコンテンツ・メトリックを表示して、システム・ニーズや問題の分析を支援。 	<p>リポジトリ管理者が Oracle Content Management を使用してアセットにアクセスできるようにするには、エンタープライズ・ユーザー・ロールも割り当てする必要があります。リポジトリ管理者とは、少なくとも1つのリポジトリ内でマネージャ・ロールを持つユーザーです。</p>
コンテンツ管理者 (CECContentAdministrator)	<p>Oracle Content Management の「管理: コンテンツ」ページから:</p> <ul style="list-style-type: none"> • 新規アセット・タイプの作成およびアイテムの公開。 • オーディエンス属性の作成。 	<p>コンテンツ管理者が Oracle Content Management を使用してアセットにアクセスできるようにするには、エンタープライズ・ユーザー・ロールも割り当てする必要があります。</p>
キャプチャ管理者 (CECCaptureAdministrator)	<p>Oracle Content Management の「管理: キャプチャ」ページから:</p> <ul style="list-style-type: none"> • コンテンツ・キャプチャのワークフロー(プロセス)を設計およびカスタマイズします。これは、様々なビジネス・シナリオにおいて物理ドキュメントおよび電子ドキュメントを一括処理するために使用されます。 	<p>プロセス・マネージャには通常、プロセスを構成してクライアントでそれをテストできるように、マネージャ・ロールとユーザー・ロールの両方が割り当てられます。</p>
キャプチャ・クライアント・ユーザー(CECCaptureClient)	<p>Oracle Content Capture Client から:</p> <ul style="list-style-type: none"> • ドキュメントを Oracle Content Management にスキャンまたはインポートします。 	

アプリケーション・ロール(アプリケーション・ロール名は太字で表記)	アクセスおよびアクション	ノート
<p>サイト管理者 (CECSitesAdministrator)</p>	<p>Oracle Content Management のサイトページから:</p> <ul style="list-style-type: none"> • サイトを作成します。 <p>Oracle Content Management の「開発者」ページから:</p> <ul style="list-style-type: none"> • コンポーネントの作成。 • テンプレートの作成。 • テーマの作成。 • 埋込み可能なユーザー・インタフェースの構成。 	<p>サイト・ガバナンスを使用している場合、サイト管理者は、ユーザーが承認済のテンプレートを使用してサイトを作成できるようにし、サイト・リクエストを承認し、サイトを管理します。このロールは、サービス管理者が、サイト管理者のみがサイト、テンプレートまたはコンポーネントを作成できるように Oracle Content Management を構成した場合にも適用されます。サイト管理者が Oracle Content Management を使用できるようにするには、標準ユーザー・ロールまたはエンタープライズ・ユーザー・ロールも割り当てする必要があります。</p>
<p>開発者(CECDeveloperUser)</p>	<p>これらの機能がサイト管理者に限定されていない場合、Oracle Content Management のサイトページから、次を実行します:</p> <ul style="list-style-type: none"> • サイトの作成、編集および公開 <p>これらの機能がサイト管理者に限定されていない場合、Oracle Content Management の「開発者」ページから、次を実行します:</p> <ul style="list-style-type: none"> • コンポーネントの作成。 • テンプレートの作成。 • テーマの作成。 • 埋込み可能なユーザー・インタフェースの構成。 <p>Oracle Content Management の「管理: 統合」インタフェースから:</p> <ul style="list-style-type: none"> • 『<i>Integrating and Extending Oracle Content Management</i>』で説明されているもののようなアプリケーション設定を構成します。 	<p>開発者が Oracle Content Management を使用できるようにするには、標準ユーザー・ロールまたはエンタープライズ・ユーザー・ロールも割り当てする必要があります。標準ユーザー・ロールを持つ開発者は、コンポーネント、テーマおよび標準テンプレートを作成できます。エンタープライズ・ユーザー・ロールを持つ開発者は、レイアウトを作成でき、サイトを標準テンプレートまたはエンタープライズ・テンプレートとして保存することもできます。</p>

アプリケーション・ロール(アプリケーション・ロール名は太字で表記)	アクセスおよびアクション	ノート
エンタープライズ・ユーザー (CECEnterpriseUser)	<p>Oracle Content Management では、エンタープライズ・ユーザーは標準ユーザーがアクセスできるすべての コラボレーション および サイト 機能にアクセスできます:</p> <ul style="list-style-type: none">• コンテンツの管理(ドキュメントの表示、アップロードおよび編集)。• 他のユーザーとのコンテンツおよびサイトの共有。• 会話を使用したコラボレーション(トピックの議論、ユーザーへのメッセージの送信、ユーザーへのフラグの割当て、ドキュメントへの注釈の追加)• グループの管理。• サイトの作成、編集、公開を行います(これらの機能が サイト管理者 に限定されていない場合)。• サイト内のコンテンツの表示および操作• カスタム・プロパティの管理と表示、および値の編集 <p>さらに、アセット にアクセスできます。</p> <ul style="list-style-type: none">• コンテンツ・アイテムおよびデジタル・アセットの作成および管理。• コレクションの作成と管理	<p>Oracle Content Management を実際に使用する必要があるユーザーには、標準ユーザー・ロールまたはエンタープライズ・ユーザー・ロールを割り当てる必要があります。これらのロールは、デフォルトではどのユーザーにも割り当てられません。</p> <p>「アプリケーション・ロール別のタスクと機能の比較」 を参照してください。</p>

アプリケーション・ロール(アプリケーション・ロール名は太字で表記)	アクセスおよびアクション	ノート
標準ユーザー (CECStandardUser)	<p>Oracle Content Management では、標準ユーザーはコラボレーションおよびサイト機能にアクセスできます:</p> <ul style="list-style-type: none"> • コンテンツの管理(ドキュメントの表示、アップロードおよび編集)。 • 他のユーザーとのコンテンツおよびサイトの共有。 • 会話を使用したコラボレーション(トピックの議論、ユーザーへのメッセージの送信、ユーザーへのフラグの割当て、ドキュメントへの注釈の追加) • グループの管理。 • サイトの作成、編集、公開を行います(これらの機能がサイト管理者に限定されていない場合)。 • サイト内のコンテンツの表示および操作 • カスタム・プロパティの管理と表示、および値の編集 	<p>Oracle Content Management を実際に使用する必要があるユーザーには、標準ユーザー・ロールまたはエンタープライズ・ユーザー・ロールを割り当てる必要があります。これらのロールは、デフォルトではどのユーザーにも割り当てられません。「アプリケーション・ロール別のタスクと機能の比較」を参照してください。</p>
ビジター(CECSitesVisitor)	<p>サイトへのアクセスはビジターに制限されます。</p>	<p>このロールは、ビジターのみがサイトにアクセスできるよう設定されている場合に適用されます。その制限が有効になっている場合、このロールを持つユーザーのみがサイトにアクセスできます。<i>Building Sites with Oracle Content Management</i> のサイト・セキュリティの変更を参照してください。ビジターにライセンスは必要ありません。</p>
外部ユーザー (CECExternalUser)	<p>将来の使用のために予約されています。</p>	<p>このロールは使用しないでください。このロールを割り当てられたユーザーは、Oracle Content Management ユーザー・インタフェースを使用できません。</p>
CECIntegrationUser	<p>内部使用のために予約されています。</p>	<p>このロールは使用しないでください。このロールを割り当てられたユーザーは、Oracle Content Management ユーザー・インタフェースを使用できません。</p>

アプリケーション・ロール別のタスクと機能の比較

Oracle Content Management のユーザーは、アプリケーション・ロールに応じて、様々なタスクを実行し、様々な機能にアクセスできます。

ビジターは、特定のサイトを表示し、パブリック・リンクを使用し、アプリケーションまたは Web サイトに埋め込まれた Oracle Content Management コンテンツを表示できます。匿名ユーザー(サインインしていないユーザー)はビジターとしてカウントされます。**Building Sites with Oracle Content Management** のサイト・セキュリティの変更を参照してください。ユニバーサル・クレジット・サブスクリプションを保有している場合、ビジター・セッションは、特定数の API コールおよび特定量のデータ転送に制限されます。「[1 時間当たりのアクティビティ・ユーザーについて](#)」を参照してください。非従量制サブスクリプションを保有している場合、日次ビジター・セッション方向のビジター・アクティビティはカウントされます。[ビジター・セッションについて](#)を参照してください。

Oracle Content Management を実際に使用する必要があるユーザーには、標準ユーザー・ロールまたはエンタープライズ・ユーザー・ロールを割り当てる必要があります。エンタープライズ・ユーザーを購入した場合は、追加の機能を使用できるように **Oracle Content Management エンタープライズ・ユーザー・ロール** をユーザーに割り当てることができます。Oracle Content Management インスタンスでは、お客様の会社のニーズに合せ、標準ユーザーとエンタープライズ・ユーザーを混在させることが可能です。

ノート:

ロールの詳細は、「[アプリケーション・ロール](#)」を参照してください。

タスク	ビジター	標準ユーザー	エンタープライズ・ユーザー	サイト管理者*	開発者*	コンテンツ管理者*	リポジトリ管理者*	キャプチャ管理者*	サービス管理者*
サイトの表示	✓	✓	✓						
パブリック・リンクを介したファイルおよびフォルダへのアクセス	✓	✓	✓						
ドキュメントの管理(ドキュメントの表示、アップロードおよび編集)	✓ **	✓	✓						
ファイルおよびフォルダの共有	✓ **	✓	✓						
会話の使用(トピックの議論、メッセージをユーザーに送信、フラグをユーザーに割当て、ドキュメントへの注釈の追加)	✓ **	✓	✓						

タスク	ビジター	標準ユーザー	エンタープライズ・ユーザー	サイト管理者*	開発者*	コンテンツ管理者*	レポートリ管理者*	キャプチャ管理者*	サービス管理者*
グループの使用		✓	✓						
サイトの作成と管理 この機能はサイト管理者のみに制限することができます。		✓ ***	✓ ***	✓	✓				
サイトでのテンプレートおよびテーマの使用 この機能はサイト管理者のみに制限することができます。		✓	✓	✓	✓				
カスタム・コンポーネントおよびレイアウトの管理 この機能はサイト管理者のみに制限することができます。		✓	✓	✓	✓				
埋込み可能なユーザー・インタフェースの構成 この機能はサイト管理者のみに制限することができます。		✓	✓	✓	✓				
カスタム・プロパティ(メタデータ)の表示、および値の編集 カスタム・プロパティ(メタデータ)の構成		✓	✓						✓
デジタル・アセットの使用(他のファイルやフォルダとは別に管理するイメージ、ドキュメントおよびビデオ)			✓						
構造化コンテンツの使用(各種の形式およびコンテキストで再利用できるように、レイアウトとは別にコンテンツ・アイテムの形で格納された構造化コンテンツ)			✓						

タスク	ビジター	標準ユーザー	エンタープライズ・ユーザー	サイト管理者*	開発者*	コンテンツ管理者*	リポジトリ管理者*	キャプチャ管理者*	サービス管理者*
レコメンデーションの使用(場所や関心のある分野に基づいてアセットを表示することで、Webサイトのビジターにパーソナライズされたエクスペリエンスを提供)			✓						
コレクションの作成と共有				✓					
アセット・タイプの作成と共有						✓			
オーディエンス属性の作成						✓			
アセット・リポジトリの作成							✓		
ローカリゼーション・ポリシーの作成							✓		
公開チャンネルの作成							✓		
コンテンツ・ワークフローの作成およびワークフロー・ロールの割当て							✓		
タクソノミの作成							✓		
Oracle Content Management のビジネス・アプリケーションとの統合					✓				✓
キャプチャ・プロシージャの設定							✓		
サービス設定の構成									✓
ユーザー、グループおよびアクセスの管理									✓
サービスのモニター(請求や使用状況など)									✓
サービス使用状況の分析							✓		✓

*このロールを持つユーザーが **Oracle Content Management** にサインインするためには、示されているロールに加えて **標準ユーザー・ロール** または **エンタープライズ・ユーザー・ロール** を割り当てる必要があります。

ビジターは、サイトの **Oracle Content Management コンポーネントを介してコンテンツを管理および共有できます。

***標準ユーザーは、**標準サイト** を作成、編集および公開できます。エンタープライズ・ユーザーは、**標準サイト** または **エンタープライズ・サイト** を作成、編集および公開できます。

他にもアプリケーション・ロールがありますが、それらは **Oracle Content Management** にサインインできない内部ユーザーか、**Oracle Content Management** の外部でタスクを実行する管理ユーザーです。[アプリケーション・ロール](#) を参照してください。

リソース・ロール(権限)

リソース(ドキュメント、コンテンツ・アイテム、サイト、テンプレートなど)に関連してユーザーに表示される内容およびユーザーが実行できる操作は、リソースの共有時にそのユーザーに割り当てられたロール(または権限)によって決まります。たとえば、あるサイトの管理者であるユーザーが、あるフォルダのコントリビュータであり、さらに他のサイトの参照者である場合があります。

リソースを作成すると、マネージャ・ロールが自動的に割り当てられます。マネージャは、他のユーザーとリソースを共有し、そのリソースに対して実行可能な操作を決定するロールをそれらのユーザーに割り当てることができます。フォルダに追加された新規ユーザーに割り当てる **デフォルト・ロールを設定** することもできます。

次のロールは累積的です。つまり、ダウンロード実行者ロールは、参照者ロールのすべての権限と追加の権限を持ちます。コントリビュータ・ロールは、参照者ロールとダウンロード実行者ロール両方のすべての権限を持ちます。

- **参照者:** 参照者はリソースを表示できますが、変更はできません。
- **ダウンロード実行者:** ダウンロード実行者は、リソースまたはその関連ファイルのダウンロードと、自分のコンピュータへの保存を実行できます。
- **コントリビュータ:** コントリビュータはリソースを編集できます。その内容はリソースのタイプによって異なり、名前の変更、タグやプロパティの編集または類似するその他のタスクの実行が可能です。
- **マネージャ:** マネージャは、ユーザーを追加したり、リソースに対するロールをユーザーに割り当てるなど、リソースを完全に制御できます。

特定のリソースのロールを参照するには、次のいずれかのリンクをクリックしてください。

- [ドキュメント](#)
- [会話](#)
- [サイト](#)
- [コレクション](#)
- [コンテンツ・アイテム](#)
- [デジタル・アセット](#)
- [コンポーネントレイアウト](#)

- [テンプレート](#)
- [テーマ](#)
- [リポジトリ](#)
- [公開チャンネル](#)
- [ローカリゼーション・ポリシー](#)
- [コンテンツ・タイプ](#)

ドキュメント

標準ユーザー・ロールまたはエンタープライズ・ユーザー・ロールと、示されているリソース・ロールの1つを持っている場合、ドキュメントとフォルダに関する次のタスクを実行できます。

タスク	参照者	ダウンロード 実行者	コントリビュー ター	マネージャ
フォルダの作成 <ul style="list-style-type: none"> • サブフォルダを作成する場合、親フォルダに対して次のロールが必要です。 				
アップロード <ul style="list-style-type: none"> • アップロード先のフォルダに対して次のロールが必要です。 				
表示 (フォルダ、ファイル、プロパティ)				
ダウンロード				
ファイル/フォルダの編集 (新しいファイル・バージョンのアップロード、ファイルの予約、名前変更、移動、コピー、削除、タグの編集)				
Share				
コラボレート (注釈の追加、関連付けられている会話への参加)				
カスタム・プロパティ値の編集				

会話

標準ユーザー・ロールまたはエンタープライズ・ユーザー・ロールと、示されているリソース・ロールの1つを持っている場合、会話を作成できます。会話を表示し、会話に参加するには、会話のメンバーである必要があります。

サイト

標準ユーザー・ロールまたはエンタープライズ・ユーザー・ロールと、示されているリソース・ロールの1つを持っている場合、サイトに関する次のタスクを実行できます。

タスク	参照者	ダウンロード ド実行者	コントリビ ュータ	マネージャ
表示 (サイト、プロパティ)				
作成				
<ul style="list-style-type: none"> サイトの作成に使用するテンプレートには、次のロールが必要です。 				
ノート:				
<ul style="list-style-type: none"> ユーザーがサイトを作成するためには、新しいサイトを作成するための「作成」オプションをサービス管理者が事前に有効にしておく必要があります。「サイト」ページにこのオプションが表示されていない場合は、サービス管理者に連絡してください。 サービス管理者がサイトの作成をサイト管理者のみに許可した場合は、サイト管理者である必要があります。 				
編集 (サイト、名前変更、ステータス変更)				
コピー				
削除				
Share				
サイトからのテンプレートの作成				

コレクション

コレクションに関する次のタスクを実行するには、エンタープライズ・ユーザー・ロールと示されているリソース・ロールの1つを持っている必要があります。

タスク	参照者	ダウンロード ド実行者	コントリビ ュータ	マネージャ
表示 (コレクション、プロパティ)				
作成				
<ul style="list-style-type: none"> コレクションが格納されるリポジトリに対して次のロールが必要です。 				
コレクションへのアセットの追加 (デジタル・アセット、コンテンツ・アイテムまたはドキュメント)				
<ul style="list-style-type: none"> アセットが管理されるコレクションに対して次のロールが必要です。 				

タスク	参照者	ダウンロード ド実行者	コントリビ ュータ	マネージャ
コレクションからのアセットの削除 <ul style="list-style-type: none"> アセットが管理されているコレクションに対して次のロールが必要です。 				<input checked="" type="checkbox"/>
編集 (名前変更、プロパティ)				<input checked="" type="checkbox"/>
Share				<input checked="" type="checkbox"/>
承認のためのアセットの送信 <ul style="list-style-type: none"> アセットが管理されているリポジトリに対して次のロールが必要です。 			<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>
アセットの承認 <ul style="list-style-type: none"> アセットが管理されているコレクションに対して次のロールが必要です(または、コレクションの承認者リストに登録されている必要があります)。 				<input checked="" type="checkbox"/>
アセットの公開 <ul style="list-style-type: none"> アセットが管理されているコレクションに対して次のロールが必要です。 				<input checked="" type="checkbox"/>

コンテンツ・アイテム

コンテンツ・アイテムに関する次のタスクを実行するには、エンタープライズ・ユーザー・ロール、管理者アプリケーション・ロール、および示されているリソース・ロールの1つを持っている必要があります。

タスク	参照者	ダウンロード 実行者	コントリビ ュータ	マネージャ
表示 <ul style="list-style-type: none"> コンテンツ・アイテムが管理されているコレクションに対して次のロールが必要です。 	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>
作成 <ul style="list-style-type: none"> コンテンツ・アイテムを作成するために使用するコンテンツ・タイプに対して次のロールが必要です。 コンテンツ・アイテムが管理されるコレクションに対して次のロールが必要です。 	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/> <input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/> <input checked="" type="checkbox"/>
編集 (コンテンツ・アイテム、タグ) <ul style="list-style-type: none"> コンテンツ・アイテムが管理されているコレクションに対して次のロールも必要です。 			<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>
削除 ノート: コンテンツ・アイテムを削除するには、コンテンツ管理者アプリケーション・ロールも持っている必要があります。			<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>

デジタル・アセット

デジタル・アセットに関する次のタスクを実行するには、エンタープライズ・ユーザー・ロールと示されているリソース・ロールの1つを持っている必要があります。

タスク	参照者	ダウンロード ド実行者	コントリビ ュータ	マネージャ
フォルダの管理				
アップロード <ul style="list-style-type: none"> アップロード先のフォルダに対して次のロールが必要です。 				
表示 (アセット、プロパティ) <ul style="list-style-type: none"> デジタル・アセットを格納するフォルダに対して次のロールが必要です。 				
編集 (コレクションへの追加、タグの編集、新規バージョンのアップロード) <ul style="list-style-type: none"> デジタル・アセットを格納するフォルダに対して次のロールが必要です。 				
ダウンロード <ul style="list-style-type: none"> デジタル・アセットを格納するフォルダに対して次のロールが必要です。 				

コンポーネント/レイアウト

標準ユーザー・ロールまたはエンタープライズ・ユーザー・ロールと、示されているリソース・ロールの1つを持っている場合、コンポーネントとレイアウトに関する次のタスクを実行できます。

タスク	参照者	ダウンロード ド実行者	コントリビ ュータ	マネージャ
表示 (コンポーネント、プロパティ)				
作成 標準ユーザー・ロールまたはエンタープライズ・ユーザー・ロールを持っているユーザーは、コンポーネントまたはレイアウトを作成できます。 ノート: サービス管理者がコンポーネント作成をサイト管理者に限定した場合は、サイト管理者である必要があります。	N/A	N/A	N/A	N/A
編集 (コンポーネント・ファイルの編集/アップロード)				
コピー/エクスポート				

タスク	参照者	ダウンロード ド実行者	コントリビ ュータ	マネージャ
削除				<input checked="" type="checkbox"/>
Share			<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>

テンプレート

標準ユーザー・ロールまたはエンタープライズ・ユーザー・ロールと、示されているリソース・ロールの1つを持っている場合、テンプレートに関する次のタスクを実行できます。

タスク	参照者	ダウンロード 実行者	コントリビ ュータ	マネージャ
表示(テンプレート、詳細)	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>
作成 <ul style="list-style-type: none"> 既存のサイトからテンプレートを 作成する場合、既存のサイトに対し て次のロールが必要です。 ノート: サービス管理者がテンプレート 作成をサイト管理者に限定した場合は、 サイト管理者である必要があります。		<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>
編集(テンプレート・ファイルの編集/ア ップロード、名前変更)			<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>
コピー/エクスポート			<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>
削除				<input checked="" type="checkbox"/>
Share			<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>

テーマ

標準ユーザー・ロールまたはエンタープライズ・ユーザー・ロールと、示されているリソース・ロールの1つを持っている場合、テーマに関する次のタスクを実行できます。

タスク	参照者	ダウンロード 実行者	コントリビ ュータ	マネージャ
表示(テーマ、プロパティ)	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>
公開			<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>
コピー			<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>
削除				<input checked="" type="checkbox"/>

タスク	参照者	ダウンロード 実行者	コントリビ ュータ	マネージャ
Share				

リポジトリ

リポジトリに関する次のタスクを実行するには、エンタープライズ・ユーザー・ロール、コンテンツ管理者アプリケーション・ロール、および示されているリソース・ロールの1つを持っている必要があります。

タスク	参照者	ダウンロー ド実行者	コントリビ ュータ	マネージャ
表示				
作成				
<ul style="list-style-type: none"> リポジトリに割り当てるコンテンツ・タイプおよび公開チャンネルに対して次のロールが必要です。 				
編集				
Share				
削除				

公開チャンネル

公開チャンネルに関する次のタスクを実行するには、エンタープライズ・ユーザー・ロール、コンテンツ管理者アプリケーション・ロール、および示されているリソース・ロールの1つを持っている必要があります。

タスク	参照者	ダウンロー ド実行者	コントリビ ュータ	マネージャ
表示				
作成	N/A	N/A	N/A	N/A
<ul style="list-style-type: none"> エンタープライズ・ユーザー・ロールおよびコンテンツ管理者アプリケーション・ロールを持っているユーザーは、公開チャンネルを作成できます。 				
編集				
Share				
削除				

ローカリゼーション・ポリシー

ローカリゼーション・ポリシーに関する次のタスクを実行するには、エンタープライズ・ユーザー・ロール、コンテンツ管理者アプリケーション・ロール、および示されているリソース・ロールの1つを持っている必要があります。

タスク	参照者	ダウンロード 実行者	コントリビュ ータ	マネージャ
表示				
作成 エンタープライズ・ユーザー・ロールおよびコンテンツ管理者アプリケーション・ロールを持っているユーザーは、ローカリゼーション・ポリシーを作成できます。	N/A	N/A	N/A	N/A
編集				
Share				
削除				

コンテンツ・タイプ

コンテンツ・タイプに関する次のタスクを実行するには、エンタープライズ・ユーザー・ロール、コンテンツ管理者アプリケーション・ロール、および示されているリソース・ロールの1つを持っている必要があります。

タスク	参照者	ダウンロード 実行者	コントリビュ ータ	マネージャ
表示				
作成 • コンテンツ・タイプに割り当てるコンテンツ・レイアウトに対して次のロールが必要です。				
編集				
Share				
削除				

セキュリティ

Oracle Content Management では、複数層のアプローチでシステムおよびコンテンツが保護されます。

セキュリティ機能	説明	機能の管理者と管理場所
ユーザー・アカウント	Oracle Content Management にアクセスするには、ユーザー名とパスワードが指定されたアカウントが必要です。	アイデンティティ・ドメイン管理者が Infrastructure Classic コンソールで ユーザー・アカウント を管理します。
ユーザー・ロール	各ユーザーには、アクセスできる Web ユーザー・インタフェースの機能と領域を制御するためのロールが 1 つ以上割り当てられています。	アイデンティティ・ドメイン管理者またはサービス管理者が Infrastructure Classic コンソールで ユーザー・ロール を割り当てます。
グループ	グループを使用すると、複数のユーザーにフォルダ、会話およびコンテンツ・タイプへのアクセス権を付与しやすくなります。グループにユーザーを追加したり削除したりすることで、グループにアクセス権があるすべてのアイテムに対する権限を簡単に更新できます。	サービス管理者が 高度な組織グループを作成 する必要があります。ユーザーは、必要に応じて、追加グループを作成できます。
モバイル・デバイス・パスコード	モバイル・デバイスでファイルにアクセスする場合、セキュリティを強化するためにパスコードを設定できます。パスコードは、デバイス上で設定して管理する 4 桁の数字です。これがユーザー名とパスワードに加えて使用されます。	トランザクションがモバイル・デバイスでパスコードを管理します。
モバイル・デバイスの認可の取消し	ユーザーがデバイスを紛失または盗難された場合、サービスにアクセスするためのデバイスの認可を削除する必要があります。次に他の誰かがそのデバイスでアプリケーションをアクティブ化しようとすると、アカウントはサインアウトされ、そのアカウントに関してデバイスに格納されているすべてのローカル・コンテンツが削除されます。	ユーザーは、 Web クライアントからデバイスを取り消すことができます。

セキュリティ機能	説明	機能の管理者と管理場所
シングル・サインオン (SSO)	<p>フェデレーテッド・シングル・サインオン(SSO)が現在 Oracle Content Management 環境で使用可能な場合は、それを有効にしてサインイン手順をカスタマイズできます。シングル・サインオン(SSO)が有効になっている場合、ユーザーは企業のセキュリティ資格証明を使用して1つのドメインにサインインすると、再度サインインしなくても別のドメインにアクセスすることができます。たとえば、2つの Oracle Cloud Services がある企業の管理者は、おそらくこれらのサービスを企業の組織、ロールおよびユーザーに対してプロビジョニングする必要があります。企業には、オンプレミス・アプリケーションと他のベンダーのクラウド・サービスもある可能性があります。これらのサービスとアプリケーション間の通信が安全な方法で行われることが重要です。SSOを使用すると、ユーザーは、アイデンティティ・ドメイン・システムを使用して管理される資格証明の同じセットを使用して、これらすべてにサインインできます。</p>	<p>アカウント管理者が Infrastructure Classic コンソールで SSO を構成します。</p>
ファイル暗号化	<p>ファイルは、Secure Sockets Layer (SSL)テクノロジーを使用して保護されます。ファイルは、クラウドへのアップロード時(転送時)および格納時(保存時)に暗号化されます。Oracle Storage Cloud サービスを使用して格納された保存時のファイルは、256ビットRSA暗号化アルゴリズムを使用して暗号化されます。その結果、不正なファイル使用が回避されます。モバイル・デバイスにダウンロードされるファイルもすべて暗号化されます。Oracle Content Management アプリケーションの外部からこれらのファイルにアクセスすることはできません(デバイスで使用できるように指定してファイルをダウンロードした場合を除く)。</p>	<p>ファイル暗号化は、Oracle Content Management により自動的に処理されます。</p>

セキュリティ機能	説明	機能の管理者と管理場所
ファイルのタイプとサイズの制限	アップロードできるファイルのタイプを指定し、アップロードされるファイルのサイズを制限できます。また、クラウドにファイルをアップロードするときに、ウイルス・スキャナでファイルをチェックできます。感染が検出されたファイルはごみ箱に隔離され、特別なアイコンにより感染ファイルがマークされます。	サービス管理者が、 Oracle Content Management 管理インタフェースを介して ファイルのタイプとサイズの制限 を構成します。
ファイル・アクセス制御	自分のファイルにアクセスできるユーザーは、完全に制御できます。フォルダのメンバーとして同僚を追加できます。追加したユーザーにはデフォルトのアクセス権限が付与されますが、フォルダ・マネージャがこれらの権限を変更することもできます。フォルダの共有に加え、リンクを使用してファイルを共有することもできます。フォルダのメンバーにリンクを送信した場合、そのメンバーはサインインしてサービス内のファイルを使用できます。メンバー以外にリンクを送信した場合、受信者はフォルダ内の他のファイルを表示することはできません。	サービス管理者が、 新しいフォルダ・メンバーのデフォルト・ロールを設定し、デフォルトのリンク動作を設定 します。 ユーザーが、コンテンツを共有するときにアクセスを制御します。
会話の暗号化	静止した会話は Oracle Storage Cloud サービスを使用して格納され、 256 ビットの RSA 暗号化アルゴリズム を使用して暗号化されます。これにより、会話コンテンツへの未許可アクセスを防ぎます。	会話の暗号化は、 Oracle Content Management によって自動的に処理されます。
サイト作成および共有の制限	サイトの機能を作成、共有および使用できるユーザーを指定することで、ユーザーによる Oracle Cloud にホストされている Web サイトの設計、作成、公開および管理が可能になります。	サービス管理者が、 Oracle Content Management 管理インタフェースを介して サイト設定 を構成します。
サイト・セキュリティ	サイトを公開してオンラインで使用できるようにすると、すべてのユーザーに対して公的に利用可能になります。ただし、ユーザーのサインインを必要とするようにサイトのセキュリティ設定を変更できます。ユーザーに特定のロールが割り当てられていることを要求することもできます。	サイトの所有者と管理者が、個々のサイトのセキュリティを制御します。
サイトの共有	サイトの共有を使用して、公開されていない(オフラインの)サイトにアクセスできる個々のユーザーを指定して、ユーザーが与えた権限に基づいてサイトを表示、変更または管理できるように指定します。	サイトの所有者と管理者が、個々のサイトのセキュリティを制御します。

セキュリティ機能	説明	機能の管理者と管理場所
サイト・コンポーネントの共有	一部のコンポーネントでは、フォルダ、ファイルまたは会話などの共有リソースへのアクセスが提供されます。コンポーネントの共有では、サイトのセキュリティ(誰が公開されたサイトを表示できるか)とリソースの共有(誰がフォルダ、ファイルおよび会話を表示および操作できるか)の両方が考慮されます。	サイト・コンポーネントの共有は、サイトおよびリソースのセキュリティに基づいて Oracle Content Management によって自動的に処理されます。
Cross-Origin Resource Sharing (CORS)	Cross-Origin Resource Sharing (CORS) を使用すると、 Web ページ で別のドメインへの XMLHttpRequest などのリクエストを行うことができます。 Oracle Content Management と統合されたブラウザ・アプリケーションがあっても、それが別のドメインにホストされている場合は、ブラウザ・アプリケーション・ドメインを Oracle Content Management の CORS オリジン・リストに追加します。	サービス管理者が、 Oracle Content Management 管理インタフェースを介して CORS を構成します。
プロキシ・サービス	Oracle Content Management にはプロキシ・サービスが含まれるため、 Cross-Origin Resource Sharing (CORS) 制限のある REST サービスを使用するか、サービス・アカウント資格証明を要求できません。プロキシ・サービスはリバース・プロキシ・サーバーです。 Web ブラウザの接続先の URL を提供します。プロキシ・サービスは、 Web ブラウザとリモート REST サービス(またはエンドポイント)間の仲介として機能します。プロキシ・サービスは、 CORS サポートをすべてのエンドポイントに明示的に追加し、オプションで、サービス・アカウント資格証明を Web ブラウザからのリクエストに挿入できます。	サービス管理者が、 Oracle Content Management 管理統合インタフェースを介してプロキシ・サービスを構成します。
埋込みコンテンツの許可リスト	他のドメイン内の Oracle Content Management のコンテンツを表示できます。たとえば、 Oracle Content Management Web ユーザー・インタフェースをユーザー独自の Web アプリケーションに埋め込んで、アプリケーション内でフォルダおよびドキュメント管理機能にアクセスすることができます。埋込みコンテンツが表示されるのは、埋込みコンテンツが有効になっていて、許可されたドメインの許可リストにドメインが追加されている場合のみです。	サービス管理者が、 Oracle Content Management 管理インタフェースを介して 埋込みコンテンツ設定 を構成します。

2

Oracle Content Management のデプロイ

Oracle Content Management をデプロイする前に、[デプロイメント・オプションの理解](#)をし、[Starter Edition](#) または [Premium Edition](#) のどちらを使用するかを決定する必要があります。

デプロイメント・アーキテクチャを決定し、どちらのエディションを使用するかを決定した後、いくつかのタスクを実行してデプロイメントを完了します：

1. [Oracle Cloud アカウントの作成およびアクティブ化](#)
2. [Infrastructure コンソールを使用したインスタンスの作成](#)
3. [ユーザーとグループの設定](#)

Oracle Content Management をデプロイしたら、他のタスクを実行して[サービスを展開](#)する必要があります。

ノート:

2019 年 9 月より前にサブスクリプションを購入した場合、デプロイメント・プロセスが異なる可能性があります。[レガシー環境での Oracle Content Management の管理](#)を参照してください。

次のビデオは、新規の Oracle Content Management インスタンスを Oracle Cloud Infrastructure (OCI) にプロビジョニングする基本プロセスを示しています。

ビデオ

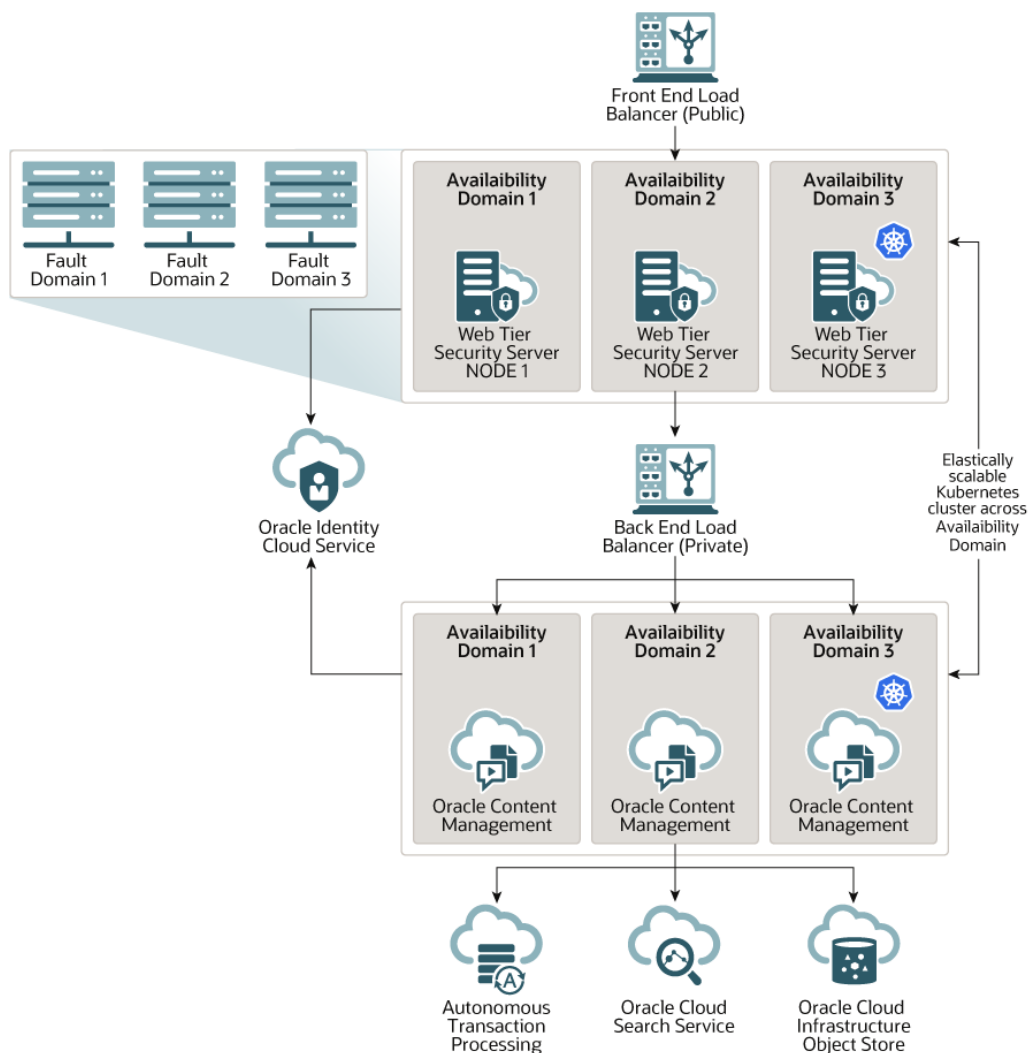
デプロイメント・アーキテクチャ・オプションの理解

最初にプロビジョニングされると、Oracle Content Management のすべてのインスタンスは Oracle Cloud Infrastructure 上にデプロイされます。このアーキテクチャは、単一の地域内の複数の可用性ドメインにわたる高可用性トポロジです。ここでは、これらの可用性ドメイン全体で柔軟にスケーリングできる Kubernetes クラスタとともに Oracle Container Engine for Kubernetes (OKE)が使用されます。

- **可用性ドメイン**—可用性ドメインはリージョン内に配置された 1 つ以上のデータ・センターです。可用性ドメインは互いに分離されており、フォルト・トレラントで、同時に障害が発生する可能性が低くなります。可用性ドメインは電源や冷却、内部の可用性ドメイン・ネットワークなどの物理的なインフラストラクチャを共有しないため、1 つの可用性ドメインに影響を与える障害が他の可用性ドメインに影響を与える可能性が低くなります。リージョン内の可用性ドメインは、低レイテンシ、高帯域幅ネットワークで互いに接続されています。可用性ドメイン間のこの予測可能で暗号化された相互接続では、高可用性と障害時リカバリの両方に対して構築ブロックを提供します。

- フォルト・ドメイン**—フォルト・ドメインは、可用性ドメイン内のハードウェアおよびインフラストラクチャのグループです。可用性ドメインごとに3つのフォルト・ドメインが含まれています。フォルト・ドメインを使用すると、1つの可用性ドメイン内の同じ物理ハードウェア上にインスタンスが存在しないようにインスタンスを配置できます。そのため、1つのフォルト・ドメインに影響を与えるハードウェア障害またはメンテナンス・イベントは他のフォルト・ドメインのインスタンスに影響を与えません。オプションで、起動時に新規インスタンスにフォルト・ドメインを指定することも、システムがフォルト・ドメインを選択することもできます。

デフォルトのデプロイメントでは、**OKE** によって可用性ドメインに複数のクラスタ(またはノード)が自動的に作成されます。すべてのサイトおよびアセットは可用性ドメインごとに同期されます。1つの可用性ドメインが停止すると、**OKE** によって受信トラフィックが使用可能な可用性ドメインに自動的に転送されます。このように、エンド・ユーザーはサービスの停止を通知しませんが、障害が発生した可用性ドメインが復元されます。



「アップグレード・スケジュール」オプションを使用して、インスタンスが Oracle Content Management の新規リリースを受信するタイミングを制御することをお勧めします。ほとんどの場合、本番トラフィックを処理するインスタンスと、障害発生時

にトラフィックを処理するインスタンスでは、*遅延アップグレード*・オプションを使用する必要があります。開発やテストを目的とするインスタンスでは、*ただちにアップグレード*・オプションを使用します。この組合せで設定することにより、コードの堅牢性を保証する完全なリリース・サイクルが実現され、問題があった場合には、それが本番トラフィックに影響を与える前に対応する時間を得られます。アップグレード・スケジュール・オプションは、[Oracle Content Management インスタンスを作成](#)する際に設定します。

高可用性の拡張

高可用性サービスは長時間の稼働時間および高度なアクセシビリティを提供するように設計されていますが、さらに様々なアーキテクチャの提供を必要とする顧客が多数います。これらの追加アーキテクチャは、**Oracle Cloud Infrastructure** および **OKE** によって提供済のすぐ使用可能な高可用性を有効に利用しており、開発プロセス、複数リージョンのフェイルオーバーもサポートするように構築したり、プライベートの高パフォーマンス接続で拡張することもできます。ニーズに適したアーキテクチャを見つけるには、組織の開発プロセスのニーズ、受入れ可能なリカバリ時間目標(RTO)およびリカバリ・ポイント目標(RPO)を判定する必要があります。

- **リカバリ時間目標(RTO)**—RTO は障害が発生した後でアプリケーション機能を復元する際に必要なターゲット時間です。目標は、障害からすばやくリカバリする方法を評価するためのものです。通常、クリティカルなアプリケーションであればあるほど、RTO は低くなります。
- **リカバリ・ポイント目標(RPO)**—RPO は、アプリケーションが許容可能な、失われたデータの受け入れ可能な時間枠です。RPO は、障害のシナリオにおいてアプリケーションで消失が許容されるデータの量です。

Oracle Cloud Infrastructure FastConnect を使用したプライベート・インスタンス

パブリック・インターネット上では実現できないパフォーマンスやセキュリティの強化を必要とするお客様もいます。**Oracle Cloud Infrastructure FastConnect** を使用すると、**Oracle Content Management** インスタンスへの、よりパフォーマンスの高い、堅牢で安全な接続を提供できます。このタイプの接続をよく使用するのには、アクセスを確実に内部ネットワークに制限する必要があるお客様や、エンド・ユーザーに可能なかぎり最善で最も信頼性の高い接続を用意する必要があるお客様です。

そのようなインスタンスを作成する必要がある場合は、**Oracle Cloud Infrastructure FastConnect** を設定し、いくつかの前提条件のステップを追加で実行する必要があります。**FastConnect** は、インターネットベースの接続と比較して、より高帯域で信頼性が高く、かつ一貫性のあるネットワーキング体験を提供する専用プライベート接続です。

[Oracle Cloud Infrastructure FastConnect を使用したプライベート・インスタンスの作成](#)を参照してください。

開発プロセス

これは、組織が **Oracle Content Management** の新機能およびコンテンツの構築およびデプロイに使用するプロセスです。これには、高度な環境および本番用に承認する前に新機能およびコンテンツが稼働する必要がある複数の環境が含まれます。共通の設定には、開発、テスト、ステージングおよび本番用の環境が含まれます。組織のニーズは変化することがあります。

複数のインスタンスを利用して開発プロセスをサポートする顧客は、このドキュメントの説明に従って追加のインスタンスをプロビジョニングする必要がありますが、直接アクセスできるように前面に **Web アプリケーション・ファイアウォール(WAF)**をプロビジョニングする必要はありません。インスタンスのいずれかにコンテンツを開発した後で、**OCE ツールキット**のコマンドライン・インタフェース(CLI)を使用して、**Oracle Content Management** のあるインスタンスから別のインスタンスへそのコンテンツを伝播できます。

ノート:

本番トラフィックを処理しないインスタンスを追加で作成する場合は、そのインスタンスを *非プライマリ* とマークして、複製したアセットの支払いが生じないようにする必要があります。プライマリ・インスタンスは、インスタンス内のアセットの総数に対して課金されます。プライマリ以外のインスタンスは、レプリケートされるアセットの総数に関係なく、月当たりのアセットの単一ブロックに対して課金されます(たとえば、5,000 アセット。また、Video Plus がある場合は 250 個の Video Plus アセット)。詳細は、[Oracle PaaS および IaaS ユニバーサル・クレジット・サービスの説明](#)を参照してください。

変更の伝播には、OCE ツールキット・コマンドを使用でき、サイトの作成や、開発、テストおよび本番の各インスタンスにおけるサイトのライフ・サイクル管理が可能です。開発環境でサイトに変更を行い、これらの変更をテストおよび本番環境に伝播します。この一連のコマンドライン・ユーティリティをスクリプト環境に組み入れてデプロイメントを管理することもできます。CLI ユーティリティを使用すると、アセットやコンポーネントなどの新規アイテムや既存のコンテンツの更新をロールアウトできます。

[テストから本番\(T2P\)デプロイメントの設定](#)を参照してください。

バックアップ・リージョンの実装

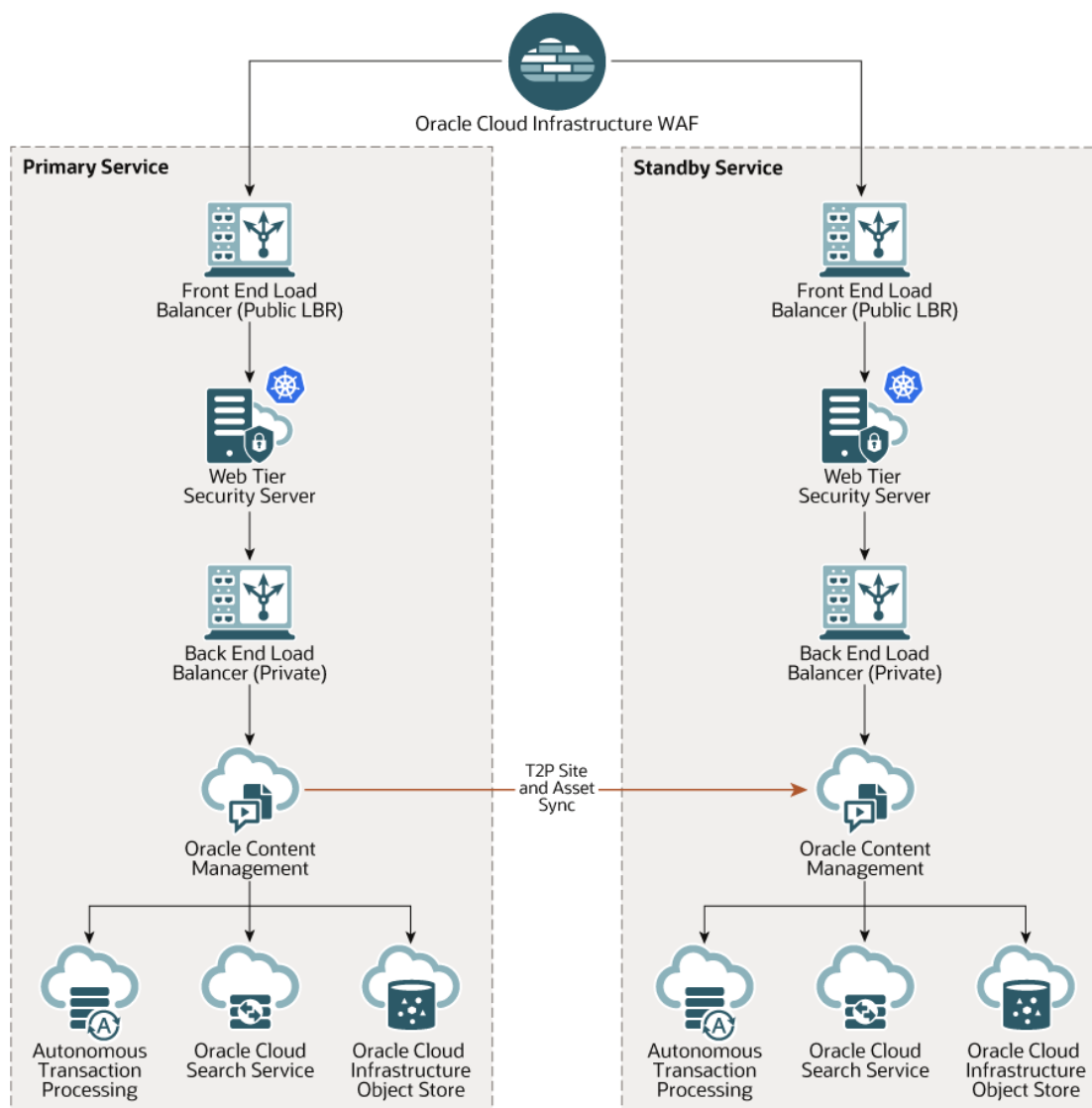
組織でバックアップ・リージョンを使用して、障害発生時にパブリック・サイト・コンテンツの配信を継続する場合は、Web アプリケーション・ファイアウォール(WAF)を構成し、コンテンツをバックアップにレプリケートします。

バックアップはプライマリ・インスタンスとして同じ地域または別のリージョンに存在できます。別のリージョンにバックアップを作成すると、データや可用性の損失に対する保護が強化されます。

ノート:

現在、Oracle Content Management は、WAF を介したパブリック・サイトのみをサポートしています。サイトに認証が必要な場合は、オリジン・ドメインから直接アクセスする必要があります。

アーキテクチャの概要の例を次に示します:



バックアップを作成すると、特にサイトやアセットが多数ある場合、時間がかかることがあるため、業務時間外にバックアップを実行することをお勧めします。インスタンス内でのコンテンツの変更の量によっては、バックアップを毎日行うか週に1回の頻度にするかを決定する必要があります。

バックアップ・リージョンを実装する際は、**Oracle Cloud Infrastructure Web Application Firewall** サービスを使用して、トラフィックをプライマリ(アクティブ)インスタンスに転送し、障害が発生した場合には、バックアップ(スタンバイ)インスタンスを指すように切り替えます。

ノート:

バックアップ・インスタンスを作成すると、重複したアセットに支払うことがないように、インスタンスを**非プライマリ**としてマークします。プライマリと非プライマリのインスタンスは、**別のレート**で請求されます。

プライマリ・インスタンスの作成後、次のステップを実行してバックアップ・リージョンを実装します:

1. **新しい Oracle Content Management インスタンスを作成します。**
このインスタンスはプライマリ・リージョンで障害が発生した場合にのみ本番トラフィックを処理しますが、これをプロビジョニングする際は、このインスタンスのすべてのアセットが二重に請求されないよう、必ず**非プライマリ**とマークしてください。また、これは本番インスタンスになるため、これは**遅延アップグレード**に設定されている必要があります。ただし、プライマリとバックアップのリージョン間でトラフィックを切り替える際に問題が発生しないよう、アップグレード・スケジュールが、プライマリ・リージョンと同じである**必要があります**。
プライマリ・インスタンスと異なるリージョンにバックアップを配置する場合、**セカンダリ・リージョンにこれを作成します**。
2. Oracle Cloud Infrastructure Web Application Firewall サービスを使用して、**Web アプリケーション・ファイアウォール(WAF)**を構成します。
3. OCE ツールキットを使用して、プライマリ・インスタンスからバックアップ・インスタンスにすべてのサイトおよびアセットを転送します。
 - a. プライマリ・インスタンスおよびバックアップ・インスタンスに存在するリポジトリ、チャンネルおよびローカリゼーション・ポリシーを複製します。
 - b. まだ行っていない場合は、**VM コンピュート・インスタンスを作成します**
 - c. **VM コンピュート・インスタンスに OCE ツールキットをインストールし、それで IDCS 認証を使用します。**
 - d. **Oracle Content Management のプライマリ・インスタンスとバックアップ・インスタンスを登録します。**
 - e. **サイトとそのアセットを転送**(プライマリ・インスタンスからバックアップ・インスタンス)。
4. データが正しくレプリケートされていることをテストします。各オブジェクト・タイプへの変更を含め、プライマリ・インスタンスにいくつかの変更(5件未満)を行ってから、OCE ツールキットを使用してデータを再度バックアップし、変更がバックアップ・インスタンスに正しく反映されていることを確認します。
5. プライマリ・インスタンスを使用できない場合、バックアップ・インスタンスのユーザー・インタフェースへのアクセスが必要なユーザーを同期します。たとえば、少なくとも管理者は同期する必要があります。

 **ノート:**

バックアップ・インスタンスは、障害発生時のパブリック・サイト配信のテストまたは継続のみを目的としており、認証を必要とするサイトへの継続的なコントリビューションやアクセスを目的としていません。

6. プライマリ・リージョンに障害が発生した場合、システムが期待したとおりに動作することをテストします:
 - a. プライマリ・インスタンスを無効にします。
 - b. **WAF オリジンを切り替えます**。トラフィックがバックアップ・インスタンスに転送されるように **WAF** ポリシーを更新することにより、これを行います。
 - c. **WAF** ポリシーの変更が伝播されたら、すべてのユーザー・エクスペリエンスがバックアップ・インスタンス上で期待どおりに動作することを確認します。

7. プライマリ・インスタンスを再度有効にし、プライマリ・インスタンスを再度指すように WAF ポリシーを更新して、プライマリ・インスタンスがコンテンツ管理およびエンド・ユーザーへの配信の元の役割を引き継いだときに期待どおりに動作することを確認します。

Web アプリケーション・ファイアウォールの構成


Web アプリケーション・ファイアウォール(WAF)を構成および有効化してバックアップ・リージョンを実装するには、いくつかのステップがあります:

1. WAF ポリシーの作成
2. SSL 証明書およびキーのアップロード
3. セカンダリ・オリジンの作成
4. 変更の公開
5. DNS 構成の更新
6. インスタンスでの WAF の構成

プライマリからセカンダリ・インスタンスへの切替えが必要な場合、これを行うには、WAF ポリシーを更新します。

WAF ポリシーの作成

WAF ポリシーを構成するには、次のステップを実行します。

1. クラウド・アカウント管理者として **Oracle Cloud** にサインインします。アカウント名とログイン情報は、ようこそ電子メールに記載されています。
2. Infrastructure コンソールで、左上の  をクリックしてナビゲーション・メニューを開き、「**アイデンティティとセキュリティ**」をクリックし、「**Web アプリケーション・ファイアウォール**」で、「**ポリシー**」をクリックします。
3. WAF ポリシーを作成するコンパートメントを選択します。
4. **WAF ポリシーの作成** をクリックします。
5. 次の詳細を入力して WAF ポリシーを作成します。
 - **名前:** ポリシーの一意名(cross_site_WAF など)を指定します。機密情報を入力しないでください。
 - **プライマリ・ドメイン:** アプリケーションの完全修飾ドメイン名(ocf.example.com など)を入力します。これは、ユーザーがアプリケーションへのアクセスに使用する URL で、プライマリまたはセカンダリ Oracle Content Management インスタンスのいずれかを指します。
 - **追加のドメイン:** オプションで、ポリシーが適用されるサブドメインを入力します。
 - **オリジン名:** プライマリ・オリジンの一意名(primary_salesdocuments1 など)を指定します。
 - **URI:** プライマリ・インスタンスの公開エンドポイント(URI) (salesdocuments1-myaccount.cef.ocp.oraclecloud.com など)を入力します。
6. **WAF ポリシーの作成** をクリックします。

SSL 証明書およびキーのアップロード

SSL 証明書およびキーをアップロードするには、次のステップを実行します:

1. 作成した WAF ポリシーの表示中に、左側で「**設定**」をクリックします。
2. 「**一般設定**」タブで、「**編集**」をクリックします。
3. 「設定の編集」ダイアログで次を実行します。
 - a. 「**HTTPS サポートの有効化**」を選択すると、ブラウザと Web アプリケーション間の通信が暗号化されます。
 - b. 「**証明書と秘密キーのアップロードまたは貼付け**」を選択します。
 - c. 「**証明書ソースのアップロード**」で、ファイルをドラッグ・アンド・ドロップまたは選択するか、「**テキスト**」を選択して PEM 形式の有効な SSL 証明書に貼り付けます。中間証明書も含める必要があります(プライマリ・ドメイン証明書を最初にする必要があります)。
 - d. 「**秘密キー・ソースのアップロード**」で、ファイルをドラッグ・アンド・ドロップまたは選択するか、「**テキスト**」を選択して、このフィールドの PEM 形式の有効な秘密キーに貼り付けます。秘密キーはパスワードで保護できません。
 - e. 自己署名証明書を使用している場合、「**自己署名証明書**」を選択してブラウザで SSL 警告を表示します。
 - f. 自動的にすべての HTTP トラフィックを HTTPS にリダイレクトする場合、「**HTTP から HTTPS へのリダイレクト**」を選択します。
 - g. 「**変更の保存**」をクリックします。この更新は、非公開の変更の下に表示されます。

セカンダリ・オリジンの作成

セカンダリ・オリジンを作成するには、次のステップを実行します。

1. 「**オリジン・グループ**」タブをクリックします。
2. 「**オリジン・グループ**」タブで、「**編集**」をクリックします。
3. 「**追加オリジン**」をクリックします。
4. 次の詳細を入力します。
 - **名前**: セカンダリ・オリジンの一意名(secondary_salesdocuments1 など)を指定します。
 - **URI**: セカンダリ・インスタンスの公開エンドポイント(URI) (salesdocuments2-myaccount.cec.ocp.oraclecloud.com など)を入力します。
 - **HTTP ポート**: セカンダリ・インスタンスがリスニングする HTTP ポートを入力します。デフォルト・ポートは 80 です。
 - **HTTPS ポート**: セカンダリ・インスタンスへのセキュアな HTTP 接続に使用されるポートを入力します。デフォルト・ポートは 443 です。
5. 「**変更の保存**」をクリックして、セカンダリ・オリジンを作成します。この更新は、非公開の変更の下に表示されます。

変更の公開

行った変更を公開するには、次のステップを実行します。

1. 左側で、**非公開の変更**をクリックします。
2. **「すべて公開」**をクリックします。
3. 「変更の公開」ダイアログで、**「すべて公開」**をクリックします。
更新の完了にしばらく時間がかかる場合があります。


DNS 構成の更新

ゾーンの **CNAME** で DNS 構成を更新してインターネット・クライアントから **WAF** にリクエストをルーティングします。作成した **WAF** ポリシーを開いて、**CNAME** を見つけることができます。**CNAME** 値は、ハイフンで連結された **OCI** ドメイン内のプライマリ・ドメインのバージョン(`oce-example-com.o.waas.oci.oraclecloud.net` など)です。

サブドメイン `cec.ocp.oraclecloud.com` を使用している場合、**Oracle Support** に DNS の更新を依頼するサポート・リクエストを記録する必要があります。

インスタンスでの WAF の構成

インスタンスで **WAF** を構成するには、次のステップを実行します。


1. **Infrastructure** コンソールで、左上の  をクリックしてナビゲーション・メニューを開き、「**開発者サービス**」、「**コンテンツ管理**」の順にクリックします。
2. **プライマリ・インスタンス**をクリックしてインスタンス詳細を表示します。
3. **WAF の構成**をクリックします。
4. **Web アプリケーション・ファイアウォール**の構成ダイアログで、すでに作成した **WAF** ポリシーを選択します。
インスタンスのコンパートメント名が表示されます。**WAF** ポリシーが別のコンパートメントにある場合、**コンパートメントの変更**をクリックして、適切なコンパートメントを選択します。
5. **「変更の保存」**をクリックします。
更新がインスタンスに行われると、「**アクティビティ**」リストに進行状況が表示されます。更新の完了後、インスタンスの詳細を確認すると、**WAF プライマリ・ドメイン**がリストされます。
6. **セカンダリ・インスタンス**に対してステップ 2 から 5 を繰り返します。

WAF オリジンの切替え

テスト目的またはバックアップ目的でプライマリ・インスタンスからセカンダリ・インスタンスに(またはその逆)WAF オリジンを変更する必要がある場合、**WAF** ポリシーを更新して、これを実行します。

Oracle Content Management

WAF オリジンを切り替えるには、次のステップを実行します。

1. クラウド・アカウント管理者として **Oracle Cloud** にサインインします。アカウント名とログイン情報は、ようこそ電子メールに記載されています。
2. **Infrastructure** コンソールで、左上の  をクリックしてナビゲーション・メニューを開き、「**アイデンティティとセキュリティ**」をクリックし、「**Web アプリケーション・ファイアウォール**」で、「**ポリシー**」をクリックします。
3. インスタンスに対して作成した **WAF** ポリシーを開いてから、左側で「**設定**」をクリックします。
4. 「**オリジン・グループ**」タブをクリックして、「**編集**」をクリックします。
5. **デフォルト・オリジン**として切り替えるオリジンを設定して、「**変更の保存**」をクリックします。この更新は、非公開の変更の下に表示されます。
6. 左側で、**非公開の変更**をクリックします。
7. 「**すべて公開**」をクリックします。
8. 「変更の公開」ダイアログで、「**すべて公開**」をクリックします。更新の完了にしばらく時間がかかる場合があります。完了すると、選択したオリジンにアプリケーションへのトラフィックが転送されます。

WAF を介したリダイレクトは、障害発生時のパブリック・サイト配信のテストまたは継続のみを目的としていることに留意してください。ユーザーは、認証済サイトまたは **Oracle Content Management** ユーザー・インタフェースに直接アクセスする必要があります。

テストから本番(T2P)デプロイメントの設定

これは、可用性の高い環境の効率的な運用や、アプリケーションがテストからステージング、本番へと移行する際のシームレスな管理に必要なチェックやバランスの提供に欠かせないモデルです。

このデプロイメントでは、専用のインスタンスを作成して、開発、テストおよび本番の分離を維持します。

1. 次の設定で、**3つの Oracle Content Management インスタンス**を作成します：
 - **開発**—インスタンス・タイプ: 非プライマリ、アップグレード・スケジュール: 即時アップグレード
 - **テスト**—インスタンス・タイプ: 非プライマリ、アップグレード・スケジュール: 即時アップグレード
 - **本番**—インスタンス・タイプ: プライマリ、アップグレード・スケジュール: 遅延アップグレード

開発インスタンスとテスト・インスタンスを **非プライマリ**に設定すると、これらのインスタンスのすべてのアセットに対して二重に請求されなくなります。

開発インスタンスとテスト・インスタンスを **即時アップグレード**(**Oracle Content Management** の新規リリースが使用可能になるとすぐ)に設定すると、これらのインスタンスでアップグレードをテストし、アップグレードがデプロイしたサイトに影響を及ぼさないことを確認できます。問題がある場合、**遅延アップグレード**を本番インスタンスに **1** リリース後に適用する前に、**Oracle** サポートに連絡して問題を解決できます。

2. **開発**インスタンスでリポジトリ、チャンネル、ローカリゼーション・ポリシー、サイトおよびアセットを作成します。

3. リポジトリ、チャンネルおよびローカリゼーション・ポリシーを、テスト・インスタンスと本番インスタンスに複製します。
4. まだ行っていない場合は、**VM コンピュート・インスタンスを作成します**
5. **VM コンピュート・インスタンスに OCE ツールキットをインストールし、それで IDCS 認証を使用します。**
6. **Oracle Content Management のソース・インスタンスとターゲット・インスタンスを登録**します。
7. ソース・インスタンスからターゲット・インスタンスに、**サイトとそのアセットを転送**します。
8. データが正しくレプリケートされていることをテストします。各オブジェクト・タイプへの変更を含め、ソース・インスタンスにいくつかの変更(5 件未満)を行い、それらの変更がターゲット・インスタンスに正しく反映されていることを確認します。
9. セカンダリ・インスタンスへのアクセスが必要になる可能性のあるユーザーを同期します。たとえば、少なくとも管理者と開発者は同期する必要があります。

OCE ツールキットの詳細は、*Building Sites with Oracle Content Management* の OCE ツールキットによるテストから本番への変更の伝播に関する項を参照してください。

VM コンピュート・インスタンスへの OCE ツールキットのインストール

テストから本番(T2P)デプロイメントを作成するには、VM コンピュート・インスタンスに OCE ツールキットをインストールし、そのツールキットで IDCS 認証を使用する必要があります。

VM コンピュート・インスタンスで次のステップを実行します:

1. **OPC ユーザーとしてサインイン**します。

2. **NodeJS を設定**します:

- a. **NodeJS を root としてインストール**します:

```
sudo -s
cd /usr/local
wget https://nodejs.org/dist/v12.16.2/node-v12.16.2-linux-x64.tar.xz
tar xf node-v12.16.2-linux-x64.tar.xz
exit
```

- b. **opc ユーザーとして NodeJS を PATH に追加し、プロファイル**をリロードします:

```
vi ~/.bash_profile
--- add :/usr/local/node-v12.16.2-linux-x64/bin to the PATH -- e.g:
PATH=$PATH:$HOME/.local/bin:$HOME/bin:/usr/local/node-v12.16.2-linux-
x64/bin
source ~/.bash_profile
```

- c. **NPM と NodeJS をテスト**します:

```
[opc@ocivm2pm ~]$ npm --version
6.14.4
```



```
[opc@ocivm2pm ~]$ node --version
v12.16.2
```

3. OCE ツールキットを設定します:

- a. OCE ツールキットでは IDCS アプリケーション経由の接続がサポートされているため、認証用に **Chromium** をポップ・アップさせる必要がありません。このダウンロードをスキップするようにフラグを設定します:

```
export PUPPETEER_SKIP_CHROMIUM_DOWNLOAD=true
```

- b. **opc** ユーザーとしてツールキットをインストールします:

```
wget https://github.com/oracle/content-and-experience-toolkit/
archive/master.zip
unzip master.zip
rm master.zip
cd content-and-experience-toolkit-master/sites/
npm install
```

- c. インストールをテストします:

```
[opc@ocivm2pm sites]$ ./node_modules/.bin/cec --version
20.4.1
```

- d. **root** として **cec** バイナリにソフト・リンクを追加します:

```
sudo -s
ln -s /home/opc/content-and-experience-toolkit-master/sites/
node_modules/.bin/cec /usr/local/bin/cec
exit
```

- e. **opc** ユーザーとして、任意の場所から **cec** を実行できることをテストします:

```
cd
[opc@ocivm2pm ~]$ cec --version
20.4.1
```

- f. **cec** ソース・フォルダを設定し、フォルダに **cec** をインストールします。これにより、**package.json** を含むソース・ツリーが作成され、**npm** インストールが実行されて、ソース・ツリーに依存関係がフェッチされます。

```
cd
mkdir cec
cd cec
cec install
```

4. **IDCS アプリケーション・ページ**の指示に従い、**IDCS** を構成して、インスタンスを登録します。

ソース・サーバーおよびターゲット・サーバーの登録

次のコマンドを使用して、ソース・インスタンスおよびターゲット・インスタンスの接続の詳細を登録します。たとえば、テストから本番デプロイメントのコンテンツを同期する場合に、開発(DEV)とステージング(TEST)、本番(PROD)の各インスタンスがあるとします。

```
cec register-server DEV -e http://server:port -u username -p password
cec register-server TEST -e http://server:port -u username -p password
cec register-server PROD -e http://server:port -u username -p password
```

- 最初の値(DEV、TEST、PROD など)は、インスタンスのエンドポイントの識別に使用するサーバー名です。これは、ユーザーが選択した任意の名前にできます。
- 値-e は、インスタンスへのアクセスに使用する URL を構成するサーバーとポートです。
- 値-u は、ユーザー名です。これは、ソース・インスタンスのサイトやアセットにアクセスできるユーザーか、ターゲット・インスタンスのサイトやアセットを所有する予定のユーザーにする必要があります。
- 値-p は、ユーザーのパスワードです。

ノート:

--keyfile を渡すと、ファイルに保存されているパスワードを暗号化できます。

エンタープライズ・サイトの転送

次のコマンドを使用して、エンタープライズ・サイトを転送します:

```
cec transfer-site SiteName -s DEV -d TEST -r RepositoryName -l
LocalizationPolicyName
```

- 最初の値(SiteName)は、転送するサイトの名前です。
- 値-s は、前のステップで登録したソース・インスタンスの名前です。
- 値-d は、前のステップで登録したターゲット・インスタンスの名前です。
- 値-r は、サイトの転送先のターゲット・インスタンスにあるリポジトリです。これは、ターゲット・インスタンスに新しいエンタープライズ・サイトを転送する場合にのみ必要です。
- 値-l は、転送されるサイトに適用するターゲット・インスタンスのローカリゼーション・ポリシーです。これは、ターゲット・インスタンスに新しいエンタープライズ・サイトを転送する場合にのみ必要です。

ターゲット・インスタンスのサイトを更新する場合は、リポジトリとローカリゼーション・ポリシーを含める必要はありません。

詳細は、*Building Sites with Oracle Content Management* の OCE ツールキットによるテストから本番への変更の伝播を参照してください。

Oracle Cloud アカウントの作成およびアクティブ化

Oracle Cloud アカウントを作成およびアクティブ化するには、いくつかの方法があります。

- **サインアップ:** <https://signup.oraclecloud.com/>にアクセスして、**サインアップ**し、アカウントを作成します。ユニバーサル・クレジット・サブスクリプションが開始されると、300ドルのクレジット付きの30日間のトライアルが提供されます。アカウントが自動的にアクティブ化され、ようこそ電子メールを受信します。
- **Oracle Sales への問合せ:**
 - Oracle Sales でユニバーサル・クレジット・サブスクリプションを購入した場合、受信した**アクティブ化電子メールでクラウド・アカウントを作成およびアクティブ化**する必要があります。アカウントをアクティブ化したら、ようこそ電子メールを受信します。
 - SaaS (Software as a Service)のお客様である場合、Oracle Sales に連絡する必要があります。
 1. すでにユニバーサル・クレジット・アカウントがある場合、ステップ2にスキップできます。新しいユニバーサル・クレジット・アカウントを作成する必要がある場合、営業担当者からお客様に契約書が送付されます。契約書に署名した後、受信した**アクティブ化電子メールでクラウド・アカウントを作成およびアクティブ化**します。
 2. 営業担当者に連絡し、Oracle CX用のOracle Content Management Cloud Serviceを注文し、この注文をユニバーサル・クレジット・アカウントに関連付けてください。**Oracle Content Management**の契約書に署名した後、サービスは自動的にアクティブ化され、ようこそ電子メールを受信します。

ノート:

定額サブスクリプションからユニバーサル・クレジット・サブスクリプションに切り換えた場合には、コンテンツを新しいサービス・インスタンスに複製する必要があります。サブスクリプションの詳細は、**Oracle Cloud サブスクリプションの概要**に関する項を参照してください。

次の作業

アカウントがアクティブ化されたら、**サービス・インスタンスを作成**する必要があります。

Infrastructure コンソールからのインスタンスの作成

プライマリ・アカウント管理者(Oracle Cloud サブスクリプションを作成した人物)として、前提条件のステップを実行すると、自分または他の委任ユーザーが Infrastructure コンソールから Oracle Content Management インスタンスを作成できます。

Oracle Content Management インスタンスを作成するステップは次のとおりです:

1. Oracle Content Management のコンパートメントを作成します。
2. 特定のニーズに応じて、高度な事前デプロイメント・タスクの実行が必要になる場合があります。
 - 他のユーザーに Oracle Content Management インスタンスの作成を委任します:
 - シングル・サインオン(SSO).を使用してサインインするユーザーに委任する
 - 非フェデレーテッド・ユーザーに委任する
 - 個別環境で複数のインスタンスを作成し、様々なアイデンティティおよびセキュリティ要件に対応します(たとえば、開発用に 1 つの環境、本番用に 1 つの環境など)。
 - 別のリージョンでのインスタンスを作成し、データ・センターで使用可能なサービスを使用します。
 - プライベート・インスタンスを作成し、アクセスを確実に内部ネットワークに制限し、エンド・ユーザーに可能なかぎり最善で最も信頼性の高い接続を用意します。
3. 作成したコンパートメントで Oracle Content Management インスタンスを作成します。

ノート:

同じサブスクリプション内で複数のインスタンスを作成できます。

Oracle Content Management のコンパートメントの作成

コンパートメントは、(あるプロジェクトまたはビジネス・ユニットを別のものから区別する)分離、(ポリシーの使用を通じた)アクセス、および使用状況と請求の測定を目的としてクラウド・リソースを編成するために使用します。一般的なアプローチでは、組織の主要な部門(たとえば、販売や人事など)ごとに 1 つのコンパートメントを作成します。

Oracle Content Management インスタンスを作成すると、コンパートメントを選択するよう求められます。セキュリティ上の理由から、Oracle では、既存のルート・ストレージ・コンパートメントを使用するのではなく、新規ストレージ・コンパートメントを作成して使用することを強くお勧めします。

Oracle Content Management の新しいコンパートメントを作成するには:

1. クラウド・アカウント管理者として Oracle Cloud にサインインします。アカウント名とログイン情報は、ようこそ電子メールに記載されています。
2. Infrastructure コンソールで、左上の  をクリックしてナビゲーション・メニューを開き、「アイデンティティとセキュリティ」をクリックし、「アイデンティティ」で、「コンパートメント」をクリックします。

3. コンパートメント・ページで、**コンパートメントの作成**をクリックします。
4. コンパートメントの名前と説明を入力します。コンパートメントの目的(具体的に Oracle Content Management 用、プロジェクト用、部門用、または他の目的用のいずれであるか)を名前と説明で明確にしておきます。
5. 「**コンパートメントの作成**」をクリックします。
新しく作成したコンパートメントがすぐに使用可能にならない場合があります。これが選択リストに含まれていない場合、しばらく後で再試行します。

すべてのインスタンスに新しいコンパートメントを作成する必要はありません。複数のインスタンスに対して同じコンパートメントを使用できます。

Oracle Content Management インスタンスの作成を他のユーザーに委任しない場合は、**個別環境で複数のインスタンスを作成**するか、**別のリージョンでインスタンスを作成**するか、**プライベート・インスタンスを作成**します。**インスタンスの作成**にスキップできます。

SSO ユーザーへの Oracle Content Management インスタンスの作成の委任

シングル・サインオン(SSO)を使用してサインインするユーザーに Oracle Content Management インスタンスの作成を委任するには、プライマリ・アカウント管理者がユーザーを **OCI Administrators** グループに追加する必要があります。OCI Administrators グループは、Oracle Cloud Infrastructure (OCI)上で Oracle Cloud アカウントが実行されていると、自動的に作成されます。

1. まだ Infrastructure Classic コンソールが表示されていない場合は、プライマリ・アカウント管理者として **Oracle Cloud** にサインインします。
2. Infrastructure コンソールで、左上の  をクリックしてナビゲーション・メニューを開き、「**アイデンティティとセキュリティ**」をクリックし、「**アイデンティティ**」で、「**フェデレーション**」をクリックします。
3. 「フェデレーション」ページで **OracleIdentityCloudService** をクリックしてから、「**アイデンティティ・プロバイダの詳細**」ページで **Oracle Identity Cloud Service Console** へのリンクをクリックします。IDCS コンソールが新しいウィンドウで開きます。
4. IDCS コンソールで、 をクリックし、「**グループ**」をクリックします。
5. 「**OCI Administrators**」をクリックします。
6. 「**ユーザー**」タブをクリックします。
7. 「**割当て**」をクリックします。
8. 委任先のユーザーを選択し、「**OK**」をクリックします。

これで、OCI Administrators グループに追加したユーザーが Oracle Cloud にサインインし、Oracle Content Management インスタンスを作成できるようになります。



個別環境で複数のインスタンスを作成、別のリージョンでインスタンスを作成、またはプライベート・インスタンスを作成しない場合、**インスタンスの作成**にスキップできます。



非フェデレーテッド・ユーザーへの Oracle Content Management インスタンスの作成の委任

非フェデレーテッド・ユーザー(SSO を介してサインインしないユーザー)に Oracle Content Management インスタンスの作成を委任するには、プライマリ・アカウント管理者が、グループを作成し、グループにユーザーを追加し、必要なポリシーを作成し、ユーザーにアプリケーション管理者ロールを付与し、機密アプリケーションを作成する必要があります。その後、ユーザーはアクセス・トークンを生成してインスタンスを作成できます。

ノート:

Oracle Identity Cloud Service (IDCS)のセカンダリ・ドメインでインスタンスを作成する場合でも、IDCS のプライマリ・ドメインでこのトピックで説明されているステップを実行します。

1. 委任先のユーザーのグループを作成します。
 - a. プライマリ・アカウント管理者として [Oracle Cloud](#) にサインインします。
 - b. Infrastructure コンソールで、左上の  をクリックしてナビゲーション・メニューを開き、「**アイデンティティとセキュリティ**」をクリックし、「**アイデンティティ**」で、「**グループ**」をクリックします。
 - c. 「**グループの作成**」をクリックします。
 - d. 名前と説明を入力して、「**作成**」をクリックします。
2. 委任先のユーザーを追加します。
 - a. 作成したグループを開きます。
 - b. **グループへのユーザーの追加** をクリックします。
 - c. ユーザーの名前の入力を開始し、ユーザーを選択し、「**追加**」をクリックします。
3. グループが Oracle Content Management インスタンスを管理することを許可するためのポリシーを作成します。
 - a. Infrastructure コンソールで、左上の  をクリックしてナビゲーション・メニューを開き、「**アイデンティティとセキュリティ**」をクリックし、「**アイデンティティ**」で、「**ポリシー**」をクリックします。左側のスクロール・バーを使用して下にスクロールしないとメニュー・オプションが表示されないことがあります。
 - b. コンパートメントを選択します。ルート・コンパートメントを選択してすべてのコンパートメントにポリシーを適用することも、特定のコンパートメントを選択することもできます。
 - c. **ポリシーの作成** をクリックします。
 - d. 名前と説明を入力します。
 - e. 文ボックスで、次のいずれかを入力します。この場合、*YourGroupName* を、作成したグループの名前に置き換え、必要に応じて、*compartment_id* を、選択した特定のコンパートメントの ID に置き換えます:

- ルート・コンパートメントを選択した場合: `allow group YourGroupName to manage oce-instance-family in tenancy`
 - 特定のコンパートメントを選択した場合: `allow group YourGroupName to manage oce-instance-family in compartment_id`
- f. 「作成」をクリックします。
4. 委任されたユーザーが管理者でない場合は、Oracle Content Management にオブジェクト・ストレージへのアクセスを許可する `OCE_Internal_Storage_Policy` も作成する必要があります。通常、このポリシーはインスタンス作成の一部として自動的に作成されますが、管理者以外はポリシーの作成を許可されないため、このバックグラウンド・プロセスは失敗し、ポリシーを手動で作成しないかぎり、Oracle Content Management はオブジェクト・ストレージへのアクセス権を持たないままになります。
- a. 「ポリシー」ページで、適切なコンパートメントが選択されていることを確認します。ルート・コンパートメントを選択してすべてのコンパートメントにポリシーを適用することも、特定のコンパートメントを選択することもできます。
 - b. **ポリシーの作成**をクリックします。
 - c. 名前として「`OCE_Internal_Storage_Policy`」を入力し、説明を入力します。
 - d. 「文」ボックスで、必要に応じて選択した特定のコンパートメントの ID で `compartment_id` を置き換えて、次のいずれかを入力します:
 - ルート・コンパートメントを選択した場合: `Allow service CEC to manage object-family in tenancy`
 - 特定のコンパートメントを選択した場合: `Allow service CEC to manage object-family in compartment compartment_id`
 - e. 「作成」をクリックします。
5. 独自のアクセス・トークンをすべて自分で生成できるように、IDCS で自分自身と委任ユーザーにアプリケーション管理者ロールを付与します。
- a. サブスクリプションに応じて、次のいずれかの方法で IDCS コンソールにアクセスします:
 - Infrastructure コンソールのフェデレーション・オプションを使用します:
 - i. Infrastructure コンソールで、左上の  をクリックしてナビゲーション・メニューを開き、「アイデンティティとセキュリティ」をクリックし、「アイデンティティ」で、「フェデレーション」をクリックします。
 - ii. 「フェデレーション」ページで **OracleIdentityCloudService** をクリックしてから、「アイデンティティ・プロバイダの詳細」ページで **Oracle Identity Cloud Service Console** へのリンクをクリックします。IDCS コンソールが新しいウィンドウで開きます。
 - フェデレーション・オプションが表示されない場合は、ようこそ電子メールからアクセスできる Infrastructure Classic コンソールを使用します:
 - i. Oracle Cloud へようこそ電子メールで、「はじめに」リンクをクリックし、ユーザー名とパスワードを入力します。
 - ii. Infrastructure Classic コンソールで、左上の  をクリックしてナビゲーション・メニューを開き、「ユーザー」をクリックしてから「アイデ

「**セキュリティ**」をクリックします。IDCS コンソールが新しいウィンドウで開きます。

- b. ☰ をクリックし、「**セキュリティ**」をクリックし、「**管理者**」をクリックします。
 - c. **アプリケーション管理者**セクションを拡張します。
 - d. 「**追加**」をクリックします。
 - e. 自分自身と委任ユーザーを選択し、「**OK**」をクリックします。これらは IDCS ユーザーであり、Oracle Cloud ユーザーとは異なるため、必要な委任ユーザーが表示されない場合は、IDCS でそれらを作成します。
IDCS コンソールを開いたまま、次のステップを完了します。
6. 機密アプリケーションを作成します。
- a. IDCS コンソールで、☰ をクリックし、「**アプリケーション**」をクリックします。「アプリケーション」オプションが表示されない場合、アプリケーション管理者ロールがありません。
 - b. 「**追加**」をクリックし、**機密アプリケーション**を選択します。
 - c. 「**詳細**」ページで、名前として「OCE Trusted App」を入力し、「**次**」をクリックします。
 - d. 「**クライアント**」ページで、次の手順を実行します。
 - i. 「**このアプリケーションをクライアントとして今すぐ構成**」を選択します。
 - ii. 許容付与タイプで、**リソース所有者**、**クライアント機密**および **JWT アサーション**を選択します。
 - iii. 「**Identity Cloud Service 管理 API へのクライアント・アクセスを付与**」で、「**追加**」をクリックし、**アプリケーション管理者**を選択し、「**追加**」をクリックします。
 - iv. 「**次**」をクリックします。
 - e. 「**リソース**」ページで、「**後で実行するためにスキップ**」を選択し、「**次**」をクリックします。
 - f. **Web 層ポリシー**・ページで、「**後で実行するためにスキップ**」を選択し、「**次**」をクリックします。
 - g. 認可ページで、「**終了**」をクリックします。
 - h. アプリケーションが作成された後、「**アクティブ化**」をクリックします。
このページにとどまり、次の手順を実行します。

任意のユーザー(自分または委任ユーザー)が Oracle Content Management インスタンスを作成する準備が完了した場合、IDCS アクセス・トークンを生成して、インスタンスの作成時にそのアクセス・トークンを入力する必要があります。

 **ノート:**

トークンは 1 時間後に失効するため、後で別のインスタンスを作成する場合などは、トークンを再生成する必要があります。

アクセス・トークンを生成するには:

1. 作成した機密アプリケーションをまだ表示していない場合は、IDCS コンソールで開きます。
2. アプリケーション詳細ページで、**アクセス・トークンの生成**をクリックし、**カスタマイズ済範囲**を選択し、**アプリケーション管理者**を選択し、**トークンのダウンロード**をクリックします。

個別環境で複数のインスタンスを作成、別のリージョンでインスタンスを作成、またはプライベート・インスタンスを作成しない場合、インスタンスの作成にスキップできます。

Oracle Identity Cloud Service (IDCS)のセカンダリ・ドメインでのインスタンスの作成

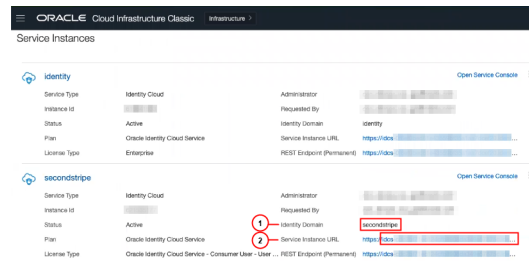
複数の Oracle Content Management インスタンスを個別環境で作成するには、これらの追加の Oracle Content Management インスタンスを作成する前にセカンダリ IDCS ドメインを作成する必要があります。

複数の Oracle Content Management インスタンスを個別環境で作成し、様々なアイデンティティおよびセキュリティ要件に対応することが必要な場合もあります(たとえば、開発用に1つの環境、本番用に1つの環境など)。これを実現するには、IDCS の複数のインスタンスを作成します。個別の IDCS 環境を使用することにより、1つの環境内で作業するユーザーが、別の環境内のユーザーの作業に影響することがなくなります。また、複数のインスタンスを使用すると、各環境の管理制御を分離した状態で保持できます。これが必要なのは、たとえば、セキュリティ標準により、開発ユーザー ID が本番環境内に存在することが禁止されている場合や、異なる管理者が異なる環境を管理する必要がある場合などです。複数のインスタンスを使用する場合、Oracle Cloud アカウントに付属しているプライマリ・インスタンスおよび1つ以上のセカンダリ(追加)インスタンスが提供されます。

セカンダリ IDCS ドメインで Oracle Content Management インスタンスを作成するには、Oracle Content Management インスタンスを作成する前に次の準備手順を実行します:

1. Oracle Identity Cloud Service (IDCS)のセカンダリ・ドメインを作成します。
2. セカンダリ IDCS インスタンスのアイデンティティ・ドメイン名およびサービス・インスタンス URL をノートにとります。Oracle Content Management インスタンスを作成する際に、これらの値を使用します。
 - a. まだ Infrastructure Classic コンソールが表示されていない場合は、サインインします。
Infrastructure コンソールを使用している場合、次の手順を実行し、Infrastructure Classic コンソールにアクセスします。
 - i. Infrastructure コンソールの右上のユーザー・メニューを開き、**テナンシ**の名前を書き留めます。
 - ii. 次の構文を使用して、Infrastructure Classic コンソールにアクセスするための URL を構築します。
`https://myservices-mytenancyname.console.oraclecloud.com/mycloud/cloudportal/dashboard`
この場合、`mytenancyname` は、前の手順でノートにとった名前です。
 - b. ダッシュボードで、**アイデンティティ・クラウド・サービス**を開きます。

- c. サービス・インスタンス・ページで、「**アイデンティティ・ドメイン**」(1)および**サービス・インスタンス URL** (2)内のドメイン ID ("https://"の後ろで、最初の"."の前の部分で、書式は idcs-xxxxxxxxxxxxxx)をノートにとります。



別のリージョンでインスタンスを作成したりプライベート・インスタンスを作成したりしない場合、**インスタンスの作成**にスキップできます。

! 重要:

セカンダリ IDCS ドメインにインスタンスを作成するには、プライマリ OCI コンソールにプライマリ IDCS 管理者としてサインインする必要があります。次に、インスタンスの作成時に、詳細オプションを使用してセカンダリ IDCS ドメイン名と ID を入力します。

別のリージョンでのインスタンスの作成

プライマリ・リージョン以外のリージョンで Oracle Content Management インスタンスを作成する場合、インスタンスを作成する前に実行する必要がある準備手順があります。

✎ ノート:

プライマリ・リージョンでインスタンス作成する場合、この手順をスキップして**インスタンスの作成**に直接進むことができます。

Oracle Infrastructure and Platform Cloud Services (Oracle IaaS/PaaS)は、異なるデータ・センターで有効です。これらのデータ・センターは、地理的な場所に基づいてデータ・リージョンにグループ化されます。これらのサービスを購入するか、無料のプロモーションにサインアップする場合は通常、自分の場所に最も近いデータ・リージョンを選択してアクセスします。これが**プライマリ・データ・リージョン**になります。ただし、必要に応じて、サブスクリプションを(同じクラウド・アカウント内の)他の地理的な場所に拡張し、そこにあるサービスを使用できます。たとえば、購入時にプライマリ・データ・リージョンとして北米を選択した場合、サブスクリプションを **EMEA** (欧州、中東およびアフリカ)データ・リージョンに拡張できます。これにより、**EMEA** データ・センターで使用可能なサービスをユーザーが使用できるようにすることができます。

別のリージョンでインスタンスを作成するには、次の準備手順を実行します:

1. **サブスクリプションを別のリージョンに拡張します。**

2. Oracle Cloud Infrastructure (OCI)を使用して新しいリージョンから Oracle Identity Cloud Service (IDCS)をフェデレートします。

プライベート・インスタンスを作成しない場合、インスタンスを作成にスキップできます。インスタンスを作成する場合、新しいフェデレーテッド・プロバイダを使用して OCI コンソールにサインインし、インスタンスの作成時に適切なリージョンを選択するようにしてください。

Oracle Cloud Infrastructure FastConnect を使用したプライベート・インスタンスの作成

パブリック・インターネット上では実現できないパフォーマンスやセキュリティの強化を必要とする場合があります。Oracle Cloud Infrastructure FastConnect を使用すると、Oracle Content Management インスタンスへの、よりパフォーマンスの高い、堅牢で安全な接続を提供できます。このタイプの接続をよく使用するの、アクセスを確実に内部ネットワークに制限する必要があるお客様や、エンド・ユーザーに可能な限り最善で最も信頼性の高い接続を用意する必要があるお客様です。

ノート:

Oracle Content Management Starter Edition を使用している場合、FastConnect はサポートされません。完全な機能セットを利用するには、Premium Edition にアップグレードします。

そのようなインスタンスを作成する必要がある場合は、Oracle Cloud Infrastructure FastConnect を設定し、いくつかの前提条件のステップを追加で実行する必要があります。FastConnect は、インターネットベースの接続と比較して、より高帯域で信頼性が高く、かつ一貫性のあるネットワーキング体験を提供する専用プライベート接続です。

プライベート・インスタンスを作成するには、次の前提条件手順を実行する必要があります。

1. テナントで FastConnect を設定します。
2. テナント OCID および名前を取得します。
3. ローカル・ピアリング・ゲートウェイを作成します。
4. リクエスト・グループを作成します。
5. リクエスト・ポリシーを作成します。
6. サポート・リクエストを作成します。

テナント OCID の取得

テナントの OCID を取得するには、次の手順を実行します。



1. クラウド・アカウント管理者として Oracle Cloud にサインインします。アカウント名とログイン情報は、ようこそ電子メールに記載されています。
2. Infrastructure コンソールで、 をクリックし、「ガバナンスと管理」をクリックしてから、「アカウント管理」で、「テナント詳細」をクリックします。

3. **OCID** の横で、「**コピー**」をクリックします。サポート・リクエストに後で含めるために、このテナンシ **OCID** を保存します。

ローカル・ピアリング・ゲートウェイの作成


ピアリングの詳細は、[ローカル VCN ピアリング\(リージョン内\)](#)を参照してください。

ローカル・ピアリング・ゲートウェイを作成するには、次の手順を実行します。

1. Infrastructure コンソールで、をクリックし、「**ネットワーキング**」、「**仮想クラウド・ネットワーク**」の順にクリックします。
2. テナンシで FastConnect を設定したときに作成した VCN を開きます。
3. 「**ローカル・ピアリング・ゲートウェイ**」をクリックします。
4. **ローカル・ピアリング・ゲートウェイの作成**をクリックします。
5. ゲートウェイの名前を入力します(例: customer-to-ocf-lpg)。
6. ピアリングを格納するコンパートメントを選択します。
7. **ローカル・ピアリング・ゲートウェイの作成**をクリックします。
8. ローカル・ピアリング・ゲートウェイのリストで、をクリックし、次に **OCID のコピー**をクリックします。サポート・リクエストに後で含めるために、このローカル・ピアリング・ゲートウェイ **OCID** を保存します。


リクエスト・グループの作成

リクエスト・グループを作成し、Oracle Cloud Infrastructure テナンシ管理者を追加するには、次のステップを実行します:

1. Infrastructure コンソールで、左上のをクリックしてナビゲーション・メニューを開き、「**アイデンティティとセキュリティ**」をクリックし、「**アイデンティティ**」で、「**グループ**」をクリックします。
2. 「**グループの作成**」をクリックします。
3. リクエスト・グループの名前を入力します(例: RequestorGrp)。
4. 「**作成**」をクリックします。
5. グループ名をクリックしてグループ詳細を開きます。
6. **グループへのユーザーの追加**をクリックします。
7. 「ユーザー」ドロップダウン・リストで、Oracle Cloud Infrastructure のテナンシ管理者権限を持つユーザーを選択し、「**追加**」をクリックします。
8. グループ詳細ページで、「**OCID**」をコピーします。サポート・リクエストに後で含めるために、このリクエスト・グループ **OCID** を保存します。

リクエスト・ポリシーの作成

リクエスト・ポリシーを作成するには、次のステップを実行します。

1. Infrastructure コンソールで、左上の  をクリックしてナビゲーション・メニューを開き、「アイデンティティとセキュリティ」をクリックし、「アイデンティティ」で、「ポリシー」をクリックします。
2. 必要な場合、ポリシーの別のコンパートメントを選択します。
3. **ポリシーの作成** をクリックします。
4. 次の詳細を入力します。
 - **ポリシー:** RequestorPolicy
 - **説明:** ピアリングのためのリクエスト・ポリシー
 - **文:**

```
Define tenancy Acceptor as OCETenancyOCID
Allow group RequestorGroup to manage local-peering-from in
compartment GroupCompartmentName
Endorse group RequestorGroup to manage local-peering-to in
tenancy Acceptor
Endorse group RequestorGroup to associate local-peering-gateways
in compartment PeeringCompartmentName with local-peering-
gateways in tenancy Acceptor
```

次の値を置換します。

- **OCETenancyOCID:** 次の表からレルム固有のテナンシ OCID に置き換えます。

レルム	テナンシ OCID
oc1	ocid1.tenancy.oc1..aaaaaaaa4yafecztqbebnfxpjzwm52wuaeornzgzqrujpbkmeez6zuiqv7a
oc4	ocid1.tenancy.oc4..aaaaaaaaamxjaupllkzz2a2qmvcon7rprzlu4hmyfajsfk3ezzmdstterlbya
oc8	ocid1.tenancy.oc8..aaaaaaaaanpm5o3ejwjerjyiwsh4u5rd6mpme5ftq44ue5pkxnnhvfvy3swv2q

- **RequestorGroup:** 作成したリクエスト・グループの名前で置換します。
- **GroupCompartmentName:** リクエスト・グループを作成したコンパートメントの名前で置換します。
- **PeeringCompartmentName:** ピアリングを作成したコンパートメントの名前で置換します。

詳細は、[IAM ポリシーの設定\(様々なテナンシの VCN\)](#)を参照してください。

5. 「作成」 をクリックします。

サポート・リクエストの作成

プライベート・サービス・インスタンスの作成を求める Oracle サポートへのリクエストを作成します。以前に収集した次の情報をリクエストに含めていることを確認します。


- テナンス OCID
- ローカル・ピアリング・ゲートウェイ OCID
- リクエスト・グループ OCID

Oracle サポートは、テスト用の検証 URL を含めて返信します。URL をテストしたら、[インスタンスを作成し](#)、[インスタンス・アクセス・タイプ](#)を「**プライベート**」に設定します。インスタンス・アクセス・タイプをプライベートに設定するだけで、この同じドメイン内の FastConnect を使用する複数インスタンスを作成できます。

Oracle Content Management サービス・インスタンスの作成

Oracle Content Management サービス・インスタンスを作成するには、あなたがプライマリ・アカウント管理者になる必要があるか、アカウント管理者が適切な権限を使用してあなたのユーザー・アカウントを設定する必要があります。

Oracle Content Management インスタンスを作成するには:

1. まだ Infrastructure コンソールが表示されていない場合は、ウィンドウに戻るか [Oracle Cloud](#) にサインインして Infrastructure コンソールに移動します。
2.  をクリックし、「**開発者サービス**」、「**コンテンツ管理**」の順にクリックします。これにより、Content Management インスタンス・ページが開きます。
3. 左側の「コンパートメント」メニューで、OCI オブジェクト・ストレージに使用するコンパートメントを選択します。ルート・コンパートメントを使用することも、[Oracle Content Management](#) 用に別に[作成したコンパートメント](#)を使用することもできます。作成したコンパートメントがすぐに使用可能にならない場合があります。これが表示されない場合、しばらく後で再試行します。
4. Infrastructure コンソールの右上のメニューで選択されているリージョンが、インスタンスを作成するリージョンであることを確認します。プライマリ・データ・リージョンまたはホーム・リージョン以外のロールを選択する場合、[前提条件手順](#)が実行されている必要があります。
5. 「**インスタンスの作成**」をクリックします。
6. 次の情報を入力します。

フィールド	説明
インスタンス名	サービス・インスタンスの一意的な名前を指定します。複数のインスタンスを作成する場合、インスタンス名がそのインスタンスの用途を明確に表していることを確認します。すでに存在する名前を指定した場合は、エラーが表示され、インスタンスは作成されません。
説明	オプションで、インスタンスの説明を入力します。
通知電子メール	プロビジョニング・ステータス更新を送信する電子メール・アドレスであることを確認します。

フィールド	説明
ライセンス・タイプ	<p>このインスタンスに使用するライセンスのタイプを選択します。</p> <ul style="list-style-type: none"> • Premium Edition: すべての機能を備えた Oracle Content Management ライセンスをサブスクライブします。 • BYOL ライセンス: 既存の Oracle WebCenter Middleware ライセンス (BYOL) の使用 • Starter Edition: Oracle Content Management の機能が制限されたエディションをサブスクライブします。 <p>BYOL ライセンス・タイプでのアセットに対する請求は、新しい Oracle Content Management ライセンスに比べて割引価格になります。</p> <p>Oracle Content Management BYOL ライセンス・タイプの資格を得るには、会社がサポート・メンテナンスで最新のオンプレミス WebCenter 製品ライセンスの資格をすでに所有している必要があります。どの WebCenter 製品が BYOL ライセンスの対象であるかの説明および WebCenter プロセッサ・ライセンスのコンバージョン率は、『Oracle PaaS および IaaS ユニバーサル・クレジット・サービスの説明』を参照してください。</p>
アクセス・トークン (非 SSO に対してのみ表示されます)	<p>プライマリ・アカウント管理者でないときに、シングル・サインオン(SSO)を使用せずに Oracle Cloud Infrastructure (OCI) ユーザー・アカウントを使用してサインインした場合、提供された IDCS アクセス・トークンを入力します。アクセス・トークンは 1 時間後に失効します。</p> <p>ノート: この Oracle Content Management インスタンスを Oracle Identity Cloud Service (IDCS) のセカンダリ・ドメインで作成する場合、このアクセス・トークンは依然として IDCS のプライマリ・ドメイン用である必要があります。</p>

7. 追加詳細を入力する必要がある場合(インスタンスをセカンダリ・ドメインで作成している場合、または非プライマリ・インスタンスを作成している場合)、「**拡張オプションの表示**」をクリックして、次の情報を入力します。

フィールド	説明
コンパートメント	これは、以前に選択したコンパートメントです。必要に応じて変更できます。
インスタンス・タイプ (Starter Edition ではサポートされません)	<p>デフォルトでは、インスタンス・タイプはプライマリ(本番インスタンスなど)です。少なくとも 1 つのプライマリ・インスタンスが必要です。このインスタンスが非プライマリ・インスタンス(開発、テストまたは障害回復用など)の場合は、ドロップダウン・リストで非プライマリを選択します。プライマリと非プライマリのインスタンスは、別のレートで請求されます。</p> <p>これが非プライマリ・インスタンスの場合は、タグでインスタンスの用途を指定する必要があります。</p>

フィールド	説明
アップグレード・スケジュール(Starter Edition ではサポートされません)	<p>インスタンスをただちにアップグレードするか(Oracle Content Management の新規リリースが使用可能になったらできる限り早く)、または時期を後ろにずらしたスケジュールでアップグレードするか(最新のリリースの 1 つ前のリリース)を制御します。たとえば、ステージ(非プライマリ)および本番(プライマリ)インスタンスを保有しているとします。ステージ・インスタンスをただちにアップグレードし、本番インスタンスを遅らせてアップグレードするように設定できます。これにより、アップグレードをステージ・インスタンスでテストでき、デプロイしたサイトに支障をきたさないようにできます。問題がある場合、アップグレードを本番インスタンスに適用する前に、Oracle サポートに連絡して問題を解決できます。この機能を使用する必要があるが表示されない場合は、Oracle サポートに連絡してください。</p> <p>次のいずれかのオプションを選択します。</p> <ul style="list-style-type: none"> • 即時アップグレード: Oracle Content Management の新規リリースが使用可能になったらできる限り早くこのインスタンスをアップグレードします。 • アップグレードの遅延: Oracle Content Management の最新リリースの 1 つ前のリリースになるように、このインスタンスのアップグレードを遅らせます。 <p>このインスタンスを作成した後は、この設定を変更できません。</p>
インスタンスのアクセス・タイプ(Starter Edition ではサポートされません)	<p>パブリック・インターネットによって、または Oracle Cloud Infrastructure FastConnect を使用した専用のプライベート接続を介して、インスタンスにアクセスできるかどうかを制御します。この機能を使用する必要があるが表示されない場合は、Oracle サポートに連絡してください。</p> <p>次のいずれかのオプションを選択します。</p> <ul style="list-style-type: none"> • パブリック: パブリック・インターネット上でインスタンスが表示されるようにする場合、このオプションを選択します。 • プライベート: イン트라ネット内でのみ表示できるプライベート・インスタンスを作成する場合で、Oracle Cloud Infrastructure FastConnect を設定する前提条件手順が完了している場合は、このオプションを選択します。 <p>このインスタンスを作成した後は、この設定を変更できません。</p>

フィールド	説明
IDCS ドメイン名	この Oracle Content Management インスタンスを Oracle Identity Cloud Service (IDCS) のセカンダリ・ドメインで作成する場合、 前提条件手順 で書き留めたアイデンティティ・ドメイン値を入力します。
IDCS ドメイン ID	サービス・インスタンス URL から取得し、前提条件手順でノートにのったセカンダリ IDCS ドメインのドメイン ID 値を入力します。"https://"は含めないでください。
タグ	オプションで、タグを追加して、メタデータでこのインスタンスを分類できます。タグによってインスタンスのリストをフィルタできます。

8. 「インスタンスの作成」をクリックします。

 ノート:

サービス・インスタンスの作成に失敗した場合、Oracle サポートに連絡してください。

Oracle Content Management インスタンスを作成すると、Content Management インスタンス・ページに移動し、そこにインスタンスのステータスが表示されます。しばらく後にインスタンスがプロビジョニングされ、ページが自動的に更新されて現在のステータスが表示されます。選択したリージョンおよびコンパートメントに、入力したタグ付きで Oracle Content Management インスタンスが作成され、サービス・インスタンスが正常に作成されたことを知らせるために、入力した通知電子メール・アドレスに電子メールが送信されます。インスタンスが正常に作成されたら、インスタンス名をクリックして詳細を表示してから「**インスタンスのオープン**」をクリックすると、Oracle Content Management Web インタフェースが開きます。

 **重要:**

Oracle Content Management によるオブジェクト・ストレージへのアクセスを許可する OCE_Internal_Storage_Policy というセキュリティ・ポリシーが自動的に作成され、ルート・コンパートメントに追加されます。このセキュリティ・ポリシーは、Oracle Content Management 用に作成した新しいコンパートメントを含め、ルート・コンパートメントのすべてのコンパートメントに適用されます。**このポリシーを削除しないでください。**削除すると、Oracle Content Management がオブジェクト・ストレージにアクセスできなくなります。

サービス・インスタンスが正常に作成されたら、[ユーザーとグループの設定](#)を行います。

ユーザーとグループの設定

サービス・インスタンスが正常に作成されたら、前に作成した **Oracle Content Management** インスタンスにアクセスできるようにユーザーとグループを設定します。

ベスト・プラクティスとして、通常は**一般的な組織ロール**に分類される組織のロールに基づいてグループを作成します。次に、必要な **Oracle Content Management** 機能へのアクセス権を付与するために、それらのグループに適切なユーザー・ロールを割り当てます。最後に、それらのグループにユーザーを追加すると、適切なユーザー・ロールがユーザーに自動的に割り当てられます。

ノート:

Oracle Content Management Starter Edition を使用している場合、5 ユーザーのみに制限され、IDCS グループはサポートされません (**Oracle Content Management** グループのみ)。ユーザーの数を増やし、完全な機能セットを利用するには、**Premium Edition** にアップグレードします。

会社でシングル・サインオン(SSO)を使用している場合は、ユーザーの追加を開始する前に **SSO** を有効化する必要があります。

ユーザーとグループを設定するには:

1. 組織のグループを作成します
2. グループにロールを割り当てます
3. ユーザーを追加します
4. グループにユーザーを割り当てます


組織のためのグループの作成

ベスト・プラクティスとして、組織のロールに基づいてグループを作成し、必要な機能へのアクセス権を付与するためにそれらのグループに適切なユーザー・ロールを割り当てます。最後に、それらのグループにユーザーを追加すると、適切なユーザー・ロールがユーザーに自動的に割り当てられます。

一般的な組織ロールと、必要とされるユーザー・ロールのリストは、「**一般的な組織ロール**」を参照してください。

グループを作成するには:

1. クラウド・アカウント管理者として **Oracle Cloud** にサインインします。アカウント名とログイン情報は、ようこそ電子メールに記載されています。
2. Infrastructure コンソールで、左上の  をクリックしてナビゲーション・メニューを開き、「**アイデンティティとセキュリティ**」をクリックし、「**アイデンティティ**」で、「**フェデレーション**」をクリックします。
3. 「フェデレーション」ページで **OracleIdentityCloudService** をクリックしてから、「**アイデンティティ・プロバイダの詳細**」ページで **Oracle Identity Cloud Service Console** へのリンクをクリックします。IDCS コンソールが新しいウィンドウで開きます。




4. IDCS コンソールで、をクリックし、「グループ」をクリックします。
5. グループを作成するには、「追加」をクリックします。
6. グループの用途を他のユーザーに対して明らかにするグループ名と説明を入力します。
7. ユーザーがこのグループに対するアクセスをリクエストできるようにするには、「ユーザーはアクセスのリクエストが可能」をクリックします。
8. 「終了」をクリックします。

ロールのグループへの割当て

組織ロールのグループを作成したら、必要な Oracle Content Management 機能へのアクセス権を付与するために、それらのグループに適切なユーザー・ロールを割り当てます。

ロールをユーザーに直接割り当てることは可能ですが、ロールをグループに割り当ててからそのグループにユーザーを追加すると、ロール割当ての管理が容易になります。

ロールをグループに割り当てるには:

1. まだ Oracle Identity Cloud Service コンソールが表示されていない場合:
 - a. クラウド・アカウント管理者として [Oracle Cloud](#) にサインインします。アカウント名とログイン情報は、よろこぞ電子メールに記載されています。
 - b. Infrastructure コンソールで、左上の  をクリックしてナビゲーション・メニューを開き、「アイデンティティとセキュリティ」をクリックし、「アイデンティティ」で、「フェデレーション」をクリックします。
 - c. 「フェデレーション」ページで [OracleIdentityCloudService](#) をクリックしてから、「アイデンティティ・プロバイダの詳細」ページで [Oracle Identity Cloud Service Console](#) へのリンクをクリックします。IDCS コンソールが新しいウィンドウで開きます。
2. IDCS コンソールで、 をクリックしてから、「Oracle クラウド・サービス」をクリックします。
3. 「Oracle Cloud サービス」ページで [CECSAUTO_instanceCECSAUTO](#) アプリケーション(*instance* は作成した Oracle Content Management インスタンスの名前)を探してこれを開きます。
4. [CECSAUTO_instanceCECSAUTO](#) アプリケーションの詳細ページで、「アプリケーション・ロール」をクリックします。
5. 割り当てるロールの横にある  をクリックしてから、「グループの割当て」を選択します。
6. 必要なグループを探して選択し、「OK」をクリックします。
一般的な組織ロールと、必要とされるユーザー・ロールのリストは、「[一般的な組織ロール](#)」を参照してください。Oracle Content Management での事前定義済みのロールの説明は、[アプリケーション・ロール](#)を参照してください。

ユーザーの追加

システムを使用する前に、ユーザーをインポートするか、個別にユーザーを作成することにより、ユーザーを追加する必要があります。

会社でシングル・サインオン(SSO)を使用している場合は、ユーザーを追加する前に **SSO** を有効化する必要があります。

ユーザーを追加するには:

1. まだ Oracle Identity Cloud Service コンソールが表示されていない場合:
 - a. クラウド・アカウント管理者として **Oracle Cloud** にサインインします。アカウント名とログイン情報は、ようこそ電子メールに記載されています。
 - b. Infrastructure コンソールで、左上の  をクリックしてナビゲーション・メニューを開き、「**アイデンティティとセキュリティ**」をクリックし、「**アイデンティティ**」で、「**フェデレーション**」をクリックします。
 - c. 「フェデレーション」ページで **OracleIdentityCloudService** をクリックしてから、「**アイデンティティ・プロバイダの詳細**」ページで **Oracle Identity Cloud Service Console** へのリンクをクリックします。IDCS コンソールが新しいウィンドウで開きます。
2. IDCS コンソールで、 をクリックし、「**ユーザー**」をクリックします。
3. 次のいずれかの方法を使用してユーザーを追加します。
 - ユーザーをインポートするには、カンマ区切り値(CSV)ファイルを作成してから、「**インポート**」をクリックする必要があります。*Administering Oracle Identity Cloud Service* のユーザー・アカウントのインポートを参照してください。
 - ユーザーを作成するには、「**追加**」をクリックします。*Administering Oracle Identity Cloud Service* のユーザー・アカウントの作成を参照してください。


ユーザーを追加すると、ユーザーは 2 通の電子メールを受信します。Oracle Cloud アカウントをアクティブ化するように求める電子メールと、Oracle Content Management へようこそという電子メールです。Oracle Cloud ユーザー・アカウントは、リンクが失効する前にアクティブ化して、使用できるようにする必要があります。必要に応じて、招待をもう 1 通送信できます。

グループへのユーザーの割当て

ユーザーをグループに割り当てると、自動的に Oracle Content Management の適切なロールと権限が付与されます。

ユーザーをグループに割り当てるには:

1. まだ Oracle Identity Cloud Service コンソールが表示されていない場合:
 - a. クラウド・アカウント管理者として **Oracle Cloud** にサインインします。アカウント名とログイン情報は、ようこそ電子メールに記載されています。
 - b. Infrastructure コンソールで、左上の  をクリックしてナビゲーション・メニューを開き、「**アイデンティティとセキュリティ**」をクリックし、「**アイデンティティ**」で、「**フェデレーション**」をクリックします。

- c. 「フェデレーション」ページで **OracleIdentityCloudService** をクリックしてから、「アイデンティティ・プロバイダの詳細」ページで **Oracle Identity Cloud Service Console** へのリンクをクリックします。IDCS コンソールが新しいウィンドウで開きます。
2. IDCS コンソールで、 をクリックし、「グループ」をクリックします。
3. ユーザーを割り当てるグループを開きます。
4. 「ユーザー」タブをクリックします。
5. 「割当て」をクリックします。
6. 追加するユーザーを選択して、「OK」をクリックします。

Oracle Content Management をデプロイしたら、他のタスクを実行して [サービスを展開](#) する必要があります。

3

サービスの展開

システム管理者は、ユーザーのためにシステムを準備し、ユーザーが作業を開始できるように、デフォルト設定の構成、ユーザーへのサインイン情報の提供、および(必要な場合は)デスクトップ・アプリケーションのデプロイを行う必要があります。

- [ロールアウト・プロセスの理解](#)
- [ユーザーへのサインインおよびスタート・ガイド情報の提供](#)
- [デスクトップ・アプリケーションのデプロイ](#)

ロールアウト・プロセスの理解

Oracle Content Management をデプロイした後、Oracle Content Management を稼働させるために実行する主なタスクがいくつかあります：

このトピックでは、[Oracle Content Management のデプロイ](#)で説明されているタスク(グループの作成、ロールの割当て、ユーザーの追加、グループへのユーザーの割当てなど)をすでに実行済であると想定しています。

必要に応じて次のタスクを実行します。

- ユーザー割当て制限、リンク動作、ファイルのタイプとサイズの制限、ウイルス・スキャン・オプションなどのサービスのデフォルトを設定します。[ドキュメント設定の構成](#)を参照してください。
設定する他の重要なデフォルトは、新規フォルダ・メンバーに付与されるデフォルト・ロールです。[新しいフォルダ・メンバーのデフォルト・リソース・ロールの設定](#)を参照してください。
- Oracle Content Management を最大限に活用するには、次のタスクの一部を実行することが必要な場合があります：
 - [カスタム・ブランディングおよび URL の適用](#)
 - [電子メール通知の有効化または無効化](#)
 - [デフォルトのタイム・ゾーンおよび言語の設定](#)
 - [メタデータ・セットの構成](#)
- Oracle Content Management をユーザーに紹介し、質問がある場合の連絡先を知らせます。[ユーザーへのサインインおよびスタート・ガイド情報の提供](#)を参照してください。
- オプションで、ユーザーにデスクトップ・アプリケーションを薦めてください。[デスクトップ・アプリケーションのデプロイ](#)を参照してください。

ユーザー・エクスペリエンスをさらに向上させるには、Oracle Content Management を他のビジネス・アプリケーションと統合します。[Integrating and Extending Oracle Content Management](#)を参照してください。

ユーザーへのサインインおよびスタート・ガイド情報の提供

ユーザーが開始するには、管理者が明確なサインインの説明をユーザーに提供する必要があります。ユーザーをシステムに追加すると、ユーザー・サインイン情報を記載したようこそ電子メールがサービスによってユーザーに送信されます。ただし、より詳細な情報を提供する電子メールも送信すると便利です。

自動的なようこそ電子メール

ユーザーを追加すると、ユーザーは 2 通の電子メールを受信します。Oracle Cloud アカウントをアクティブ化するように求める電子メールと、Oracle Content Management へようこそという電子メールです。Oracle Cloud ユーザー・アカウントは、リンクが失効する前にアクティブ化して、使用できるようにする必要があります。必要に応じて、招待をもう 1 通送信できます。

Oracle Content Management ユーザー用のようこそ電子メールは、管理者、エンタープライズ・ユーザー、標準ユーザーなどのユーザーのアプリケーション・ロールに基づいてカスタマイズされます。

自動的なようこそ電子メールには、サービスの Web アドレス(URL)とユーザーのアカウント名およびログイン情報が含まれます。

サービス URL

URL に使用される値は、サービスが有効化されるときに作成されます。サービスの URL の一般的な形式は次のとおりです。

```
https://<service-name>-<account-name>.<service-type>.ocp.oraclecloud.com/documents
```

たとえば、サービス名として salesdocuments1 を入力し、アカウント名として myaccount を入力した場合、サービス・タイプが cec であると、サービス URL は次のようになります。

```
salesdocuments1-myaccount.cec.ocp.oraclecloud.com/documents
```

Android APK ファイル用のモバイル・アプリケーション

Android モバイル・アプリケーションの .apk ファイルをリンクによって使用できるようにする場合、ページの下部にある [Oracle Content Management ダウンロード](#) ページからダウンロードできます。

デスクトップ・アプリケーションのデプロイ

個々のユーザーは、Web ブラウザを通じてデスクトップ・アプリケーションをダウンロードし、自分のマシンにインストールできます。ただし、一部のエンタープライズ環境では、ユーザーが独自のソフトウェアをインストールすることを許可していないことがあります。その場合は、EXE および MSI インストーラ・パッケージを利用してデスクトップ・アプリケーションを複数のクライアントマシンに展開できます。

- コマンド・ラインからの実行可能インストーラの実行
- MSI インストーラの実行
- Active Directory のグループ・ポリシーを通じた MSI インストーラのデプロイ
- インストールのデフォルトの設定

コマンド・ラインからの実行可能インストーラの実行

ローカル・マシンでパラメータを指定してコマンド・ラインから.exe インストーラを実行して、複数のインストール・タスクを実行できます。これは、一部のインストール・プロセスを自動化する場合に役立つことがあります。

ソフトウェアのインストールまたはアップグレード

カスタム・オプションに続くすべてのオプションが Msiexec に渡されます。

- 構文:


```
{installer path} /d|directory {product directory} /L|language /g|log {log path} /s|silent /v|custom {options}
```
- パラメータ
 - **{installer path}** - インストーラ実行可能ファイルのパス。
 - **/d** または **/directory {product directory}** (オプション) - 製品が配置されるディレクトリを指定します。
 - **/L** または **/language {language code}** (オプション) - ユーザー・インタフェースで使用する言語を指定します。サポートされる言語のリストについては、下の「言語コード」の項を参照してください。
 - **/g** または **/log {log path}** (オプション) - インストーラによって実行され、特定のファイル・パスに書き込まれるアクションの詳細を示すログを作成する必要があることを指定します。
 - **/s** または **/silent** (オプション) - ユーザー・インタフェースが表示されるかどうかを指定します。
 - **/v** または **/custom {options}** (オプション) - Msiexec プロセスに渡すオプションを指定します。詳細は、[MSI インストーラの実行](#)を参照してください。
- 例

```
oracle_content_setup.exe /directory "C:\Oracle\Oracle Documents"
```

ソフトウェアの修復

修復時に使用される言語は、製品のインストールに使用された言語です。カスタム・オプションに続くすべてのオプションが Msiexec に渡されます。

- 構文


```
{installer path} /r|repair /g|log {log path} /s|silent /v|custom {options}
```
- パラメータ
 - **{installer path}** - インストーラ MSI ファイルのパス。
 - **/r** または **/repair** - 製品を修復します。

- **/lg** または **/log {log path}** (オプション) - インストーラによって実行され、特定のファイル・パスに書き込まれるアクションの詳細を示すログを作成する必要があることを指定します。
 - **/ls** または **/silent** (オプション) - ユーザー・インタフェースが表示されるかどうかを指定します。
 - **/lv** または **/custom {options}** (オプション) - Msiexec プロセスに渡すオプションを指定します。詳細は、[MSI インストーラの実行](#)を参照してください。
- 例


```
oracle_content_setup.exe /repair /log "C:\logs\oracle
documents.txt"
```

インストーラ MSI および MST の抽出

- 構文


```
{installer path} /e|extract {destination directory} /L|
language {language code}
```
- パラメータ
 - **{installer path}** - インストーラ MSI ファイルのパス。
 - **/e** または **/extract {destination directory}** - インストーラ MSI および MST を特定のディレクトリに抽出します。
 - **/L** または **/language {language code}** (オプション) - 抽出された MST に含まれる文字列の言語を指定します。サポートされる言語のリストについては、下の「言語コード」の項を参照してください。
- 例


```
oracle_content_setup.exe /extract C:\Users\blair\desktop
```

ユーザー・インタフェースを使用せずにインストーラを使用

- 構文


```
{installer path} /s|silent
```
- パラメータ
 - **{installer path}** - インストーラ実行可能ファイルのパス。
 - **/s** または **/silent** (オプション) - ユーザー・インタフェースが表示されるかどうかを指定します。
- 例


```
oracle_content_setup.exe /silent
```

言語コード

- 1025: アラビア語
- 1029: チェコ語
- 1030: デンマーク語
- 1031: ドイツ語
- 1032: ギリシア語
- 1033: 英語

- 1034: スペイン語
- 1035: フィンランド語
- 1036: フランス語(フランス)
- 3084: フランス語(カナダ)
- 1037: ヘブライ語
- 1038: ハンガリー語
- 1040: イタリア語
- 1041: 日本語
- 1042: 韓国語
- 1043: オランダ語
- 1044: ノルウェー語
- 1045: ポーランド語
- 1046: ポルトガル語(ブラジル)
- 2070: ポルトガル語(ポルトガル)
- 1048: ルーマニア語
- 1049: ロシア語
- 1051: スロバキア語
- 1053: スウェーデン語
- 1054: タイ語
- 1055: トルコ語
- 2052: 中国語(中国)
- 1028: 中国語(台湾)

MSI インストーラの実行

このコマンドを使用して、MSI パッケージを .exe インストーラから特定の場所に抽出します。

```
oracle_content_setup.exe /extract c:\ directory
```

次の MSI オプションは、Oracle Content Management MSI パッケージによってサポートされます。

オプション	パラメータ	意味	例
/i		<p>製品をインストールします。</p> <ul style="list-style-type: none"> • /norestart パラメータを使用して、インストールの終了時にシステム再起動のプロンプトを表示せずに製品をインストールします。 • /promptrestart パラメータを使用して、再起動が必要な場合にユーザーに再起動を求めるプロンプトを表示します。 • /forcerestart パラメータを使用して、各インストール後にコンピュータを再起動します。 	<pre>msiexec /i oracle_documents_setup.msi msiexec /i oracle_documents_setup.msi /norestart msiexec /i oracle_documents_setup.msi /promptrestart msiexec /i oracle_documents_setup.msi /forcerestart</pre>
/i	{最新バージョンのパス}	製品を最新バージョンにアップグレードします。	<pre>msiexec /i oracle_documents_setup.msi</pre>
/i	CUSTOM_INSTALLDIR={カスタム・ディレクトリのパス}	製品をデフォルト以外(カスタム)の場所にインストールします。	<pre>msiexec oracle_documents_setup.msi CUSTOM_INSTALLDIR=" c:\example"</pre>
/x		<p>製品をアンインストールします。</p> <ul style="list-style-type: none"> • /norestart パラメータを使用して、削除の終了時にシステム再起動のプロンプトを表示せずに製品をアンインストールします。 • /promptrestart パラメータを使用して、再起動が必要な場合にユーザーに再起動を求めるプロンプトを表示します。 • /forcerestart パラメータを使用して、コンピュータを再起動します。 	<pre>msiexec /x oracle_documents_setup.msi msiexec /x oracle_documents_setup.msi /norestart msiexec /x oracle_documents_setup.msi /promptrestart msiexec /x oracle_documents_setup.msi /forcerestart</pre>

オプション	パラメータ	意味	例
/f {p o e d c a u m s v}		製品を修復します。 <ul style="list-style-type: none"> • p: ファイルがない場合にのみ再インストールします • o: ファイルがないか、古いバージョンがインストールされている場合に再インストールします • e: ファイルがないか、同じまたは古いバージョンがインストールされている場合に再インストールします • d: ファイルがないか、異なるバージョンがインストールされている場合に再インストールします • c: ファイルがないか、格納されているチェックサムが計算された値と一致しない場合にインストールします • a: すべてのファイルを強制的に再インストールします • u: すべての必要なユーザー固有レジストリ・エントリをリライトします • m: すべての必要なコンピュータ固有レジストリ・エントリをリライトします • s: スタート・メニューのショートカットを上書きします。デスクトップまたはお気に入りのショートカットは上書きしません。 	<pre>msiexec /fomus oracle_documents_setup.msi msiexec /fpecms oracle_documents_setup.msi</pre>
/i x f / q{n b r f}		/qを次のいずれかのオプションとともに使用して、製品のインストール、アンインストールまたは修復時に表示されるユーザー・インタフェースのレベルを設定します。 <ul style="list-style-type: none"> • n: ユーザー・インタフェースを表示しません。 • b: インストール時に進行状況バーのみ表示します。 • r: インストールの最後に表示されるモーダル・ダイアログで縮小されたユーザー・インタフェースを表示します • f: 最後に表示されるモーダル・ダイアログで完全なユーザー・インタフェースを表示します 	<pre>msiexec /i oracle_documents_setup.msi /qn</pre>

Active Directory のグループ・ポリシーを通じた MSI インストーラのデプロイ

Microsoft Active Directory 2008 グループ・ポリシーを使用して、デスクトップ・アプリケーションをコンピュータに配布できます。

1. 「スタート」メニューから、「コントロール パネル」を選択し、「管理ツール」を選択します。
2. 「Active Directory ユーザーとコンピューター」をクリックします。Oracle Content Management をインストールするすべてのコンピュータを含む組織単位を作成します。
3. 「スタート」メニューから、「コントロール パネル」を選択し、「管理ツール」、「グループ ポリシー管理コンソール」の順に選択します。
4. コンソール・ツリーで、グループ・ポリシー・オブジェクトを作成するフォレストとドメインの「グループ ポリシー オブジェクト」を右クリックします。
5. 「新規作成」をクリックします。ダイアログ・ボックスで新規グループ・ポリシーの名前を指定し、「OK」をクリックします。
6. 新規に作成したオブジェクトを選択し、「編集」を選択してグループ・ポリシー管理エディターを開きます。
7. 「コンピューターの構成」ノードを選択して展開します。
8. 「コンピューターの構成」ノードの下にある「ソフトウェアの設定」フォルダを展開します。
9. 「ソフトウェア インストール」を右クリックし、「新規作成」を選択します。
10. ショートカット・メニューで、「パッケージ」をクリックします。
11. 抽出された MSI パッケージのパスを入力します。パスが UNC パスであり、グループ・ポリシーのターゲットとなるすべてのマシンからアクセス可能であることを確認します。
12. 「割り当て」を選択し、「OK」をクリックします。
13. 「プロジェクト」ダイアログ・ボックスで、「OK」をクリックします。
14. 「Active Directory ユーザーとコンピューター」コンソールを終了します。

インストールのデフォルトの設定

次のレジストリ・エントリは、デスクトップ・アプリケーションがインストールされているマシンで管理者が設定できます。

- デフォルト・サーバー URL:
[HKEY_CURRENT_USER\Software\Oracle\Oracle Documents\Account]
"DefaultServer"="server_URL"。ユーザーは、プリファレンスで別のサーバーを追加することでデフォルト・サーバー URL をオーバーライドできます。
- 特定のマシンのユーザーのデフォルト・サーバー URL の設定:
[HKEY_LOCAL_MACHINE\Software\Oracle\Oracle Documents\Account]
"DefaultServer"="server_URL"

- アップグレード・プロンプトのブロック:
[HKEY_CURRENT_USER\Software\Oracle\Oracle Documents\Update]
"SuppressDisplay"="true"
- 特定のマシンのすべてのユーザーに対するアップグレード・プロンプトのブロック:
[HKEY_LOCAL_MACHINE\Software\Oracle\Oracle Documents\Update]
"SuppressDisplay"="true"

HKEY_CURRENT_USER 設定は、HKEY_LOCAL_MACHINE 設定より優先されます。

4

システム設定の構成

サービス管理者は、アップロードを許可するファイルのサイズ、ユーザーの割当て制限値、サービス使用の他の設定など、Oracle Content Management の設定を構成できます。

- [一般設定の構成](#)
- [セキュリティ設定の構成](#)
- [請求設定の構成](#) (このオプションは、Oracle Content Management が Oracle Cloud Infrastructure (OCI)で実行されている場合にのみ表示されます。)
- [ユーザー設定の構成](#)
- [アセット設定の構成](#)
- [サイト設定の構成](#)
- [サイトの SEO 設定の構成](#)
- [ドキュメント設定の構成](#)
- [会話設定の構成](#)
- [メタデータ・セットの構成](#)

一般設定の構成

一般設定には、ファイルとアセットの制限、カスタマイズされたブランディング情報、電子メール通知を有効または無効にする設定、デフォルトのタイム・ゾーンなどが含まれます。

「**一般**」 ページでは、次のアクションを実行できます。

- [ファイルおよびアセット・タイプとサイズの制限](#)
- [カスタム・ブランディングおよび URL の適用](#)
- [電子メール通知の有効化または無効化](#)
- [デフォルトのタイム・ゾーンおよび言語の設定](#)
- [使用状況アナリティクスの有効化または無効化](#)
- [コンテンツ配信ネットワーク\(CDN\)キャッシュのページ](#)

ファイルおよびアセット・タイプとサイズの制限

アップロードできるファイルのタイプの制限、ファイル・スキャン・オプションの設定、およびアップロードされるファイルのサイズの制限を行うことができます。

1. Oracle Content Management Web アプリケーションに管理者としてサインインしたら、ナビゲーション・メニューの「管理」領域の「**システム**」をクリックします。
2. 「**一般**」 ページの**ファイルとアセットの制限**の下にある次のデフォルトを設定します。

- **スキャンできないファイルのアップロードを許可:** デフォルトでは、このオプションは無効です。
ウイルス・スキャンは、次の場合に失敗します:

- (zip ファイルなどの)ファイルにフォルダの深さが **10** レベルを超えるフォルダが含まれている場合。
- 他のファイルを含むファイルのスキャン時間が **3** 分を超える場合。
- 含んでいるファイル内の **1** つのファイルが **100MB** を超える場合。

ウイルス・スキャンが失敗すると、ファイルは感染され、検出済としてマークされ、電子メールがファイル作成者に送信され、通知されます。

ウイルスをチェックできないファイル(4GB を超えるファイルなど)や、スキャンできないファイル(パスワード保護された PDF など)をユーザーがアップロードできるようにする場合は、このオプションを選択します。

ノート:

このオプションを有効化した場合、それはお客様の責任であり、その結果生じた損害についてもお客様がすべての責任を負います。スキャンしていないファイルのアップロードを許可すると、自分または他のユーザーに対するリスクとなる可能性があります。Oracle Content Management インタフェースはスキャンされていないファイルをマークしますが、この視覚的なインジケータはすべてのインタフェースで使用可能なわけではなく、1 つ以上のファイルに対してウイルス・スキャンが実行されていないことをユーザーが気付かない可能性があります。また、ファイルがウイルス・スキャンに合格しない場合は、パブリック・リンクを通じてダウンロードできません。

- **最大アップロードおよび同期ファイル・サイズ:** 最大ファイル・サイズを MB 単位で入力します。
- **次のファイル・タイプをアップロードと同期からブロック:** アップロードをブロックするファイル・タイプ拡張子のカンマ区切りのリストを入力します。ピリオド・セパレータを除く拡張子(mp3 など)を入力します。

カスタム・ブランディングおよび URL の適用

独自のロゴやその他のブランディング・カスタマイズを追加したり、アプリケーションのダウンロード、ヘルプへのアクセス、フィードバックの送信のための、ユーザー・メニュー内のリンクを変更して、Oracle Content Management をカスタマイズできます。

1. Oracle Content Management Web アプリケーションに管理者としてサインインしたら、ナビゲーション・メニューの「管理」領域の「システム」をクリックします。
2. 「一般」ページで、「ブランディング」の下にある次の要素をカスタマイズします。
 - **コーポレート・ブランディング・テキスト:** ユーザー・インタフェース・ハンドラと新規ユーザーへの招待メールに含めるテキストを制御します。
 - 「Content Management」を表示するには、「デフォルト」を選択します。

- カスタム・テキストを表示するには、「**カスタム**」を選択し、テキストを入力します。
- テキストを表示しない場合は、「**カスタム**」を選択し、テキスト・ボックスを空白のままにします。
- **企業ロゴ:** カスタマイズしたサービスのロゴとして使用するイメージを追加します。ロゴはユーザー・インタフェース・ヘッダーとユーザーへの通知電子メールに表示されます。ロゴ・イメージは幅 **160** ピクセル、高さ **24** ピクセル以下にする必要があります。これより大きいイメージはサイズ変更されます。
- **アプリケーション URL のダウンロード:** Oracle Content Management アプリケーション・インストール・ファイルの場所のパスを入力します。この URL は、ユーザー・メニュー内の「**アプリケーションのダウンロード**」リンクに使用されます。
- **ヘルプ URL:** ヘルプ・ファイルの場所の URL を入力します。この URL は、ユーザー・メニューの横の「**ヘルプ**」リンクに使用されます。状況依存ヘルプを利用するには、ヘルプ URL の最後に"`?ctx=cloud&id=cecsshelp`"を追加します(たとえば、`http://www.oracle.com/pls/topic/lookup?ctx=cloud&id=cecsshelp`)。
- **フィードバック URL の共有:** ユーザーがフィードバックを行う場所の URL を入力します。この URL は、ユーザー・メニュー内の「**フィードバックの共有**」リンクに使用されます。

電子メール通知の有効化または無効化

通知とは、特定のイベントが発生したとき(誰かがユーザーにフラグを設定したときや、誰かがファイルまたはフォルダのパブリック・リンクを作成したときなど)にユーザーに注意を喚起するものです。通知が、電子メールまたはデスクトップ・アプリケーションのポップアップ・メッセージを通じて送信されます。管理者は、**電子メール通知が Oracle Content Management** で使用可能かどうかを制御できます。

❗ 重要:

この設定により、ユーザーが追加されたときのように電子メールや誰かがファイルまたはフォルダを共有したときのドキュメント・リンク電子メールも含め、**Oracle Content Management** からの電子メール通知のすべてが有効または無効になります。

電子メール通知を有効化するには:

1. **Oracle Content Management Web** アプリケーションに管理者としてサインインしたら、ナビゲーション・メニューの「管理」領域の「**システム**」をクリックします。
2. 電子メール通知をユーザーに送信する場合、「**一般**」ページで、「**通知**」の下にある「**有効**」をクリックします。
3. 「**一般**」ページを保存します。

デフォルト設定は電子メール通知を無効にすることですが、アップグレード後は、管理者が設定を「**有効**」に変更して「**無効**」に戻し、「**一般**」ページを再保存するまで、ユーザーはフォルダの共有時に電子メール通知を引き続き受信できます。

電子メール通知を有効化した後、ユーザーは電子メール通知プリファレンスを設定できます。Web クライアント・ユーザー・メニューで、「**プリファレンス**」を選択し、「**通知**」を選択します。

デスクトップ・アプリケーションのポップアップ通知は、ユーザーによってデスクトップ・アプリケーション内で制御されます。デスクトップ・アプリケーションで、「**プリファレンス**」を開き、「**通知の選択**」をクリックします。

Collaborating on Documents with Oracle Content Management の通知とプリファレンスの設定を参照してください。

デフォルトのタイム・ゾーンおよび言語の設定

デフォルトでは、Web インタフェースのタイム・ゾーン、言語および日付形式は Web ブラウザのロケールにあわせて設定されていますが、ユーザーは(「**一般**」 ページ上の)ユーザー・プリファレンスでこれらをオーバーライドできます。ユーザーがこれらの設定を変更しても、これらの変更は次のサインイン時までは有効になりません。*Collaborating on Documents with Oracle Content Management* のプロファイルと設定のカスタマイズを参照してください。

Web ブラウザのロケール設定が使用可能でない場合、サービス管理者が、使用するフォールバック設定を構成できます。

1. Oracle Content Management Web アプリケーションに管理者としてサインインしたら、ナビゲーション・メニューの「管理」領域の「**システム**」をクリックします。
2. 「**一般**」 ページで、「**タイムゾーンおよび言語**」の下にあるデフォルトのタイムゾーン、言語および日時フォーマットを選択します。

デスクトップ・アプリケーションおよびモバイル・アプリケーションのユーザー・インタフェースのタイム・ゾーン、言語および日付形式は、オペレーティング・システムに設定されているユーザー・ロケールに基づいて自動的に設定されます。この言語設定はオーバーライドできません。たとえば、ユーザーが Microsoft Windows のスペイン語バージョンでデスクトップ・アプリケーションを実行している場合、デスクトップ・アプリケーションもスペイン語になります。

使用状況アナリティクスの有効化または無効化

Oracle Content Management は、製品の改善のためにデフォルトで匿名の製品使用状況情報を収集するようになりました。希望に応じて、インスタンスでこの機能を無効化できます。

使用状況アナリティクスの収集を有効化または無効化するには:

1. Oracle Content Management Web アプリケーションに管理者としてサインインしたら、ナビゲーション・メニューの「管理」領域の「**システム**」をクリックします。
2. 「**一般**」 ページの**使用状況アナリティクス**で、設定を有効化または無効化します。
3. 「**保存**」 をクリックしてからブラウザをリフレッシュし、保存された設定をセッションで有効にします。

コンテンツ配信ネットワーク(CDN)キャッシュのページ

デフォルトでは、Oracle Content Management サイトおよびアセットは、パフォーマンスとセキュリティを向上させるために CDN を使用して配信されます。CDN キャッシュを手動でページして、ファイルの削除または強制的な即時更新を行うことができます。

1. Oracle Content Management Web アプリケーションに管理者としてサインインしたら、ナビゲーション・メニューの「管理」領域の「システム」をクリックします。
2. 「一般」ページのコンテンツ配信ネットワークで、「ページ」をクリックします。CDN キャッシュがリフレッシュされる間、パフォーマンスが一時的に影響を受ける場合があります。

また、アイテムがシステム管理「アセット」ページにキャッシュされる時間の長さを構成できます。

セキュリティ設定の構成

セキュリティ設定には、Cross-Origin Resource Sharing (CORS)の有効化および他のドメインへのコンテンツの埋込みが含まれます。

「セキュリティ」ページから、次のアクションを実行できます。

- [Cross-Origin Resource Sharing \(CORS\)の有効化](#)
- [他のドメインへのコンテンツの埋込み](#)

Cross-Origin Resource Sharing (CORS)の有効化

Cross-Origin Resource Sharing (CORS)を使用すると、Web ページで別のドメインへの XMLHttpRequest などのリクエストを行うことができます。Oracle Content Management と統合されたブラウザ・アプリケーションがあっても、それが別のドメインにホストされている場合は、ブラウザ・アプリケーション・ドメインを Oracle Content Management の CORS オリジン・リストに追加します。

REST API はブラウザで実行される JavaScript コードからコールされ、REST API と Oracle Content Management は異なるドメインでホストされているため、REST API は CORS を使用します。

ブラウザ・アプリケーションで、CORS をサポートしない、またはサービス・アカウント資格証明を必要とする REST エンドポイントを使用する必要がある場合、かわりに Oracle Content Management の統合プロキシ・サービスを通じてエンドポイントを登録し使用できます。プロキシ・サービス設定の構成を参照してください。

一般に、インライン・フレームのプロトコル、ドメインおよびポートが表示するコンテンツのものと同様である場合、インライン・フレームはコンテンツをホストできます。たとえば、デフォルトでは、ページ `http://www.example.com:12345/home.html` 上のインライン・フレームは、コンテンツのプロトコルが `http` で、ドメインが `www.example.com` で、ポートが `12345` である場合のみコンテンツをホストできます。

ただし、アプリケーションが Oracle Content Management 以外のドメイン内にある場合、アプリケーションのホスト・マシン情報を、フロント・チャンネルの CORS オリジン、バック・チャンネルの CORS のオリジンまたは両方のリストに追加する必要があります。

- リクエストが、Oracle Content Management によって処理されるドメイン間リクエストである場合(Oracle Content Management のドメインから発生したものではない場合)、フロント・チャンネル CORS オリジンを追加する必要があります。フロント・チャンネル CORS は、通常、カスタム・アプリケーション統合に役立ちます。たとえば、REST API はフロント・チャンネルと情報をやり取りします。
- リクエストが、Oracle Content Management から別のドメイン内の接続クライアントに直接行われている場合、バック・チャンネル CORS オリジンを追加する必要があります。たとえば、Oracle Content Management は、バック・チャンネル・メッセージ(リアルタイム更新)をアプリケーションに送信できます。
- アプリケーションが Oracle Content Management からのフロント・チャンネルとバック・チャンネルの両方の通信を行う場合、フロント・チャンネルとバック・チャンネルの両方の CORS オリジン・リストにドメインを追加する必要があります。

CORS の設定は、Oracle Content Management のすべてのコール(ドキュメント、ソーシャルおよびサービスとしてのコンテンツ)に適用されます。

Oracle Content Management と統合され、異なるドメインにホストされているブラウザ・アプリケーション間でのリソース共有を可能にするには、次の手順を実行します:

1. Oracle Content Management Web アプリケーションに管理者としてサインインしたら、ナビゲーション・メニューの「管理」領域の「システム」をクリックします。
2. 「システム」メニューで、「セキュリティ」をクリックします。
3. 「CORS (Cross-Origin Resource Sharing)」で、適切な CORS オリジン・テキスト・ボックスに `http[s]://domainname.com` の形式でドメインを入力します。エントリをカンマで区切ります。たとえば、サーバー上のアプリケーションに対して CORS を有効にするには、「バック・チャンネルの CORS のオリジン」および「フロント・チャンネルの CORS のオリジン」ボックスに次のような値を入力します。

```
https://www.example.com/app
```

カスタム・ドメイン URL を使用する場合は、同様にカスタム URL を入力します。

4. 完了したら、「保存」をクリックします。

オリジン値として*を使用しないでください。すべてのホストからのアクセスが許可されます。

セキュリティ・メジャーは、ブラウザおよびブラウザ・バージョンによって異なります。<http://www.w3.org/TR/UISecurity/>を参照してください。

CORS の設定は、Oracle Content Management のすべてのコール(ドキュメント、ソーシャルおよびサービスとしてのコンテンツ)に適用されます。

他のドメインへのコンテンツの埋込み

他のドメイン内の Oracle Content Management のコンテンツを表示できます。たとえば、Oracle Content Management Web ユーザー・インタフェースをユーザー独自の Web アプリケーションに埋め込んで、アプリケーション内でフォルダおよびドキュメント管理機能にアクセスすることができます。

コンテンツの埋込み、埋込みコンテンツの有効化およびドメインの追加をユーザーに許可するには:

1. Oracle Content Management Web アプリケーションに管理者としてサインインしたら、ナビゲーション・メニューの「管理」領域の「システム」をクリックします。
2. 「システム」メニューで、「セキュリティ」をクリックします。
3. 「埋込みコンテンツ」で、「有効」を選択します。
4. 「許可されるドメイン」ボックスに、許可されるドメインのカンマ区切りのリストを入力します。ドメインは、`www.example.com` の形式にする必要があります。
 - ドメインを特定のポートに制限するには、指定にポートを含めます。たとえば、`www.example.com:12345` などです。
 - 複数のサブドメインを持つドメインを許可する場合は、*ワイルドカード文字を使用できます。たとえば、`www.example.*`にはドメイン `www.example.com`、`www.example.co.uk` などが含まれます。

Oracle Content Management Web ユーザー・インタフェースの埋込みについて学習するには、別のアプリケーションへの Web ユーザー・インタフェースの埋込みを参照してください。

請求設定の構成

請求メトリックについて通知を受ける制限、およびいくつかのその他の請求オプションを指定できます。現在の請求アイテム数も表示できます。これらの設定は、Oracle Cloud Infrastructure (OCI)上で実行される Oracle Content Management にのみ適用されます。

ノート:

Oracle Content Management Starter Edition の機能セットは制限されています。完全な機能セットを利用するには、[Premium Edition](#) にアップグレードします。

1. Oracle Content Management Web アプリケーションに管理者としてサインインしたら、ナビゲーション・メニューの「管理」領域の「システム」をクリックします。
2. 「システム設定」ドロップダウン・メニューで、**請求**を選択します。
3. 特定の請求制限に到達しそうなときに通知を受ける場合、制限を設定して「**管理警告の送信**」を有効にします。指定した請求制限のいずれかの **90%**に到達した場合、電子メールを受け取ります。次の制限を設定できます。
 - **アセット制限:** システムのアセットの合計数が制限を超えたときに通知を受ける場合、ここにその数値を入力します。制限を設定しない場合、**0**を入力してください。現在のアセット数が設定の横に表示されます。
 - **Video Plus アセット制限:** Video Plus (次を参照)を有効化し、システム内の Video Plus アセットの合計数が制限を超えたときに通知を受ける場合、ここにその数値を入力します。制限を設定しない場合、**0**を入力してください。現在の Video Plus アセット数が設定の横に表示されます。
 - **ファイル制限:** システムのファイルの合計数が制限を超えたときに通知を受ける場合、ここにその数値を入力します。制限を設定しない場合、**0**を入力してください。現在のファイル数が設定の横に表示されます。

- **ビジネス・アセット制限:** システムのビジネス・アセットの合計数が制限を超えたときに通知を受ける場合、ここにその数値を入力します。制限を設定しない場合、0を入力してください。現在のビジネス・アセット数が設定の横に表示されます。
 - **ストレージ制限:** 使用しているストレージの合計 GB が制限を超えたときに通知を受ける場合、ここにその数値を入力します。制限を設定しない場合、0を入力してください。現在のストレージ使用量が設定の横に表示されます。
 - **制限値の適用:** 選択した請求制限に達したときにユーザーが新しいオブジェクト(アセットやファイルなど)を作成できないようにする場合、このオプションを有効にします。請求制限に達しているオブジェクト・タイプを作成しようとすると、エラーが発生します。
4. 指定したアウトバウンド・データ転送の制限に到達しそうなときに通知を受ける場合、「**アウトバウンド・データ転送制限**」を設定して、「**管理警告の送信**」を有効にします。1時間で転送されたデータの合計 GB が指定した制限の90%に到達した場合、電子メールを受け取ります。制限を設定しない場合、0を入力してください。設定の横に、元のトラフィックとコンテンツ配信ネットワーク(CDN)トラフィックの両方について現在の請求期間中に転送された現在のデータ量が表示されます。
- 制限値の適用:** 選択したアウトバウンド・データ転送制限に達したときにユーザーが Oracle Content Management と、Oracle Content Management で作成されたサイトにアクセスできないようにする場合、このオプションを有効にします。Oracle Content Management または Oracle Content Management で作成されたサイトにアクセスしようとすると、エラーが発生します。
5. 次の請求オプションを設定します。
- **請求開始日:** 請求期間が始まる月の日を入力します。
 - **ビデオ機能:** 次のオプションから選択します。
 - **標準:** ビデオのアップロード、管理、プレビューおよびダウンロードをユーザーに許可します。このオプションは、他のアセットと同じ管理および配信機能を提供し、タグ付け、カテゴリ化、レビュー、会話、基本的な再生などが可能です。
 - **Video Plus - 高度なビデオ管理:** Video Plus は、豊富なビデオ管理および配信エクスペリエンスを提供し、すべての標準機能に加え、最適化された編集、ストリーミング、自動トランスコードおよび会話のための高度な機能、ならびによりレスポンスな再生オプションを使用できます。Video Plus を使用する場合、Video Plus の高度なビデオ機能の追加料金にも同意する必要があります。Video Plus は、関連する料金を伴う追加サービスです。料金は、システム内のビデオ・アセット数に基づき毎月請求されます。アウトバウンド・トラフィックおよびストレージの既存料金は変更されず、他のアセットのようにビデオに適用されます。料金は比例配分されます。価格設定、請求および関連する割引の詳細については、営業担当者に問い合わせいただき、[Oracle PaaS および IaaS ユニバーサル・クレジット・サービスの説明](#)の Oracle Content Management Cloud Services に関する項を参照してください。

ユーザー設定の構成

Oracle Content Management の「管理: システム」の「ユーザー」ページを使用して、Oracle Content Management 固有のユーザーおよびグループ設定を構成できます。

ユーザーまたはグループの作成やユーザーのロールの変更などのタスクを実行するための、Oracle Identity Cloud Service を通じたユーザーまたはグループの管理の詳細は、[Oracle Identity Cloud Service を使用したユーザーの管理](#)または [Oracle Identity Cloud Service を使用したグループの管理](#)を参照してください。

「**ユーザー**」 ページでは、次のアクションを実行できます。

- [新しいフォルダ・メンバーのデフォルト・リソース・ロールの設定](#)
- [ユーザー・プロフィール・データの同期](#)
- [ユーザーの会話のメンバーシップ・メッセージの表示](#)
- [ユーザーのストレージ割当て制限のオーバーライド](#)
- [ファイル所有権の移管](#)
- [同期されていないグループの表示および再同期](#)
- [ユーザーの一時割当て制限のオーバーライド](#)
- [リンクされたデバイスへのアクセスの取消し](#)
- [グループの設定の変更](#)

ユーザーまたはグループの検索

ユーザーまたはグループのプロパティを編集する前に、目的のユーザーを検索する必要があります。

「**検索**」 タブで個々のユーザーまたはグループを検索できます。「**管理者**」 タブを選択して、管理者のリストを表示します。

個々のユーザーまたはグループを検索するには、テキスト・ボックスにユーザー名かグループ名、表示名、または電子メール・アドレスの一部を入力し、「**検索**」をクリックします。一致するすべてのユーザーおよびグループ・アカウントが表示されます。「**プロビジョニング解除されたユーザー**」 タブを選択して削除されたユーザーのリストを表示します。

ユーザー/グループのリストには、名前、ユーザーやグループのタイプなどのユーザーおよびグループに関する基本情報がいくつか表示されます。ユーザーの場合は、電子メール・アドレスと **検証**ステータスを表示することもできます。

検証済ユーザー・アカウントは、次のいずれかの方法を使用して検証されています。

- ユーザーは LDAP (Lightweight Directory Access Protocol)ディレクトリ・サービス・ディレクトリなどの外部アカウント・データベースに存在しました。
- ユーザーに電子メールが送信され、ユーザーはその電子メールのリンクをクリックして、自分のアイデンティティを証明し、サインインしました。

新しいフォルダ・メンバーのデフォルト・リソース・ロールの設定

組織内のユーザーは他のユーザーとフォルダを共有し、共有フォルダ内のリソース・ロールを自分に割り当てることができます。次のロールを使用できます。

- **参照者**: 参照者はファイルおよびフォルダを参照できますが、内容の変更はできません。
- **ダウンロード実行者**: ダウンロード実行者は、ファイルをダウンロードして自分のコンピュータに保存することもできます。

- **コントリビュータ:** コントリビュータは、ファイルの変更、ファイルの更新、新規ファイルのアップロード、およびファイルの削除を行うこともできます。
- **マネージャ:** マネージャは他のロールのすべての権限を持ち、他のユーザーをメンバーとして追加したり削除できます。

デフォルトのリソース・ロールを変更するには:

1. Oracle Content Management Web アプリケーションに管理者としてサインインしたら、ナビゲーション・メニューの「管理」領域の「システム」をクリックします。
2. 「システム」メニューで、「ユーザー」をクリックします。
3. 「メンバー」の下にある「フォルダに追加された新規メンバーのデフォルトのロール」リストで、ユーザーがフォルダに追加されたときにデフォルトで割り当てられるリソース・ロールを選択します。

ユーザー・プロフィール・データの同期

ユーザーを追加してアプリケーション・ロールを割り当てたら、その変更を Oracle Content Management サーバーと即座に同期できます。ユーザー・プロフィール・データを同期しない場合、変更が伝播されるまで最大 1 時間かかる可能性があります。

ユーザーの既存プロフィール情報を識別ストアの情報で置き換えることができます:

1. Oracle Content Management Web アプリケーションに管理者としてサインインしたら、ナビゲーション・メニューの「管理」領域の「システム」をクリックします。
2. 「システム」メニューで、「ユーザー」をクリックします。
3. プロファイル・データを同期するユーザーを検索し、ユーザー名の横にある「編集」をクリックして、ユーザー詳細ページの「プロフィールをすぐに同期」をクリックします。

ユーザーの会話のメンバーシップ・メッセージの表示

ユーザーに対する会話メンバーシップ・メッセージのデフォルト表示設定を設定できます。

1. Oracle Content Management Web アプリケーションに管理者としてサインインしたら、ナビゲーション・メニューの「管理」領域の「システム」をクリックします。
2. 「システム」メニューで、「ユーザー」をクリックします。
3. 「検索」タブで、デフォルトを設定するユーザーを検索します。テキスト・ボックスにユーザー名、表示名または電子メール・アドレスの一部を入力し、「検索」をクリックします。
4. ユーザー名の横にある「編集」をクリックします。
5. デフォルトでの会話メンバーシップ・メッセージの表示チェック・ボックスを選択して、「保存」をクリックします。

ユーザーのストレージ割当て制限のオーバーライド

ユーザーに割り当てるストレージ容量のデフォルトのユーザー割り当て制限を設定できます。特定のユーザーのデフォルトをオーバーライドする必要がある場合は、次の手順を使用して実行できます。

1. Oracle Content Management Web アプリケーションに管理者としてサインインしたら、ナビゲーション・メニューの「管理」領域の「システム」をクリックします。
2. 「システム」メニューで、「ユーザー」をクリックします。
3. 設定をオーバーライドするユーザーを検索し、ユーザー名の横の「編集」をクリックします。
4. 「ユーザー割当て制限」ボックスに、割当て制限容量を GB 単位で入力し、「保存」をクリックします。
ユーザーが使用したストレージの大きさが消費ストレージの横に表示されます。

ファイル所有権の移管

あるユーザーが組織を退社した場合またはロールが変更になった場合、そのファイルおよびフォルダを別のユーザーに割り当てて、その記憶領域を割当てに使用可能な合計割当て制限に追加できます。ユーザーのコンテンツの全ライブラリを他のユーザーに割り当てることができます。コンテンツは新しいユーザーのルート・フォルダにフォルダとして表示されます。すべての共有アクション(メンバー、パブリック・リンクなど)は、そのまま残ります。

1. Oracle Content Management Web アプリケーションに管理者としてサインインしたら、ナビゲーション・メニューの「管理」領域の「システム」をクリックします。
2. 「システム」メニューで、「ユーザー」をクリックします。
3. 次のいずれかの方法を使用して、移管するファイルの所有者であるユーザーを検索します。
 - アクティブなユーザーを検索するには、「検索」タブでテキスト・ボックスにユーザー名、表示名または電子メール・アドレスの一部を入力し、「検索」をクリックします。ユーザー名をクリックするか、ユーザーの横にある「編集」をクリックして、ユーザー・プロパティを開きます。
 - プロビジョニング解除されたユーザーを検索するには、「プロビジョニング解除されたユーザー」タブをクリックします。組織のシステムから削除されたすべてのユーザーのリストが、名前ですべてソートされて表示されます。このリストは定期的にリフレッシュされますが、「プロファイル・データの同期」をクリックして、手動で更新することもできます。

削除されたすべてのユーザーの CSV ファイルをダウンロードするには、「プロビジョニング解除されたユーザーのエクスポート」をクリックします。

4. 「所有権の移管」をクリックします。アクティブなユーザーの場合、ボタンはプロパティの下部にあります。プロビジョニング解除されたユーザーの場合、ユーザーの横にあるボタンをクリックします。
5. コンテンツを受け取るユーザーのユーザー名、表示名または電子メール・アドレスの一部を入力し、「検索」をクリックします。
6. コンテンツの移管先のユーザーを選択します。転送されるコンテンツの大きさだけ受信者の割当て制限が増加するというメッセージが表示されます。また、解放されて再び使用可能な合計割当て制限に追加されるストレージの大きさも表示されます。

7. 「転送」をクリックします。コンテンツが転送されて、プロビジョニング解除されたアカウントが失われたことがリストに示されます。

または、プロビジョニング解除されたユーザーの場合、コンテンツを削除できます。「プロビジョニング解除されたユーザー」タブで、削除対象のコンテンツを持つユーザーの横にある「コンテンツの削除」をクリックします。

ユーザーは、独自のフォルダの所有権を移管することもできます。

同期されていないグループの表示および再同期

Oracle Content Management 内のグループがアイデンティティ・プロバイダと同期されていない場合、不一致のレポートが表示され、グループを手動で再同期できます。

グループ同期の不一致を表示するには:

1. Oracle Content Management Web アプリケーションに管理者としてサインインしたら、ナビゲーション・メニューの「管理」領域の「システム」をクリックします。
2. 「システム」メニューで、「ユーザー」をクリックします。
3. 「グループ同期」タブをクリックします。
4. 同期されていないと思われるグループを検索し、「同期ステータスのチェック」をクリックします。
5. レポートに Oracle Content Management 内のグループがアイデンティティ・プロバイダと同期されていないことが示されている場合、「同期」をクリックします。

ユーザーの一時割当て制限のオーバーライド

デフォルトでは、アップロードと同期の最大ファイル・サイズは 2GB (「ドキュメント」ページで設定)です。複数の 2GB のファイルを同時にアップロードできるよう、ユーザーのデフォルトの一時ストレージ割当て制限は 5GB になっています。最大ファイル・サイズがこれより大きく設定されていると、ユーザーの一時ストレージ割当て制限は、自動的にその量の 2.5 倍に増加されます(たとえば、最大ファイル・サイズが 10GB に設定されている場合、ユーザーの一時ストレージ割当て制限は 25GB に設定されます)。

この一時ストレージ割当て制限の設定は、通常の状態には十分ですが、特定のユーザーの一時ストレージ割当て制限をこれよりも大きくする必要がある場合は、設定をオーバーライドできます。

1. Oracle Content Management Web アプリケーションに管理者としてサインインしたら、ナビゲーション・メニューの「管理」領域の「システム」をクリックします。
2. 「システム」メニューで、「ユーザー」をクリックします。
3. 設定をオーバーライドするユーザーを検索し、ユーザー名の横の「編集」をクリックします。
4. 「一時割当て制限」ボックスに、割当て制限容量を GB 単位で入力し、「保存」をクリックします。

リンクされたデバイスへのアクセスの取消し

ユーザーはデバイスを変更するかデバイスの1つを紛失したときに、リンクされたデバイスの1つへのアクセスを取り消すことができます。ただし、管理者としてこのアクションを実行する必要がある場合があります。リンクされたデバイスへのアクセスを取り消すと、ユーザーのサインイン・セッションが終了します。自分または他のユーザーがそのデバイスから Oracle Content Management にアクセスしようとする、アカウントはサインアウトされ、そのアカウントに関してデバイスに格納されているすべてのローカル・コンテンツが削除されます。

デバイスのアクセスの取消しは1つのアカウントにのみ影響します。そのため、複数のユーザー・アカウントを使用している場合、Oracle Content Management に対するすべてのアクセスをブロックするには、各ユーザー・アカウントで別々にアクセスを取り消し、デバイスに格納されているすべてのローカル・コンテンツを削除する必要があります。

1. Oracle Content Management Web アプリケーションに管理者としてサインインしたら、ナビゲーション・メニューの「管理」領域の「システム」をクリックします。
2. 「システム」メニューで、「ユーザー」をクリックします。
3. デバイスへのアクセスを取り消すユーザーを検索し、ユーザーの名前の横にある「編集」をクリックします。
4. 「リンクされたデバイス」の下で、適切なデバイスの横の「取消し」をクリックします。

グループの設定の変更


グループの共有および通知設定を変更して、グループ情報をアイデンティティ・プロバイダと同期できます。

グループの設定を変更する手順:

1. Oracle Content Management Web アプリケーションに管理者としてサインインしたら、ナビゲーション・メニューの「管理」領域の「システム」をクリックします。
2. 「システム」メニューで、「ユーザー」をクリックします。
3. 設定を変更するグループを検索し、グループの名前の横の「編集」をクリックします。
4. ユーザーがグループをオブジェクト(ドキュメントやサイトなど)に追加できないようにするためにグループを共有に使用しない場合は、「共有には使用できません」を選択します。
5. このグループに通知を送信しない場合は、「通知は送信されません」を選択します。
6. Oracle Content Management のグループ情報をアイデンティティ・プロバイダと同期する必要がある場合は、「同期」をクリックします。

アセット設定の構成

1. Oracle Content Management Web アプリケーションに管理者としてサインインしたら、ナビゲーション・メニューの「管理」領域の「システム」をクリックします。
2. 「システム」メニューで、「アセット」をクリックします。
3. アセット当たりのカスタム・レンディションの最大数を構成します。デフォルトは20です。

 ノート:

Oracle Content Management Starter Edition を使用している場合、カスタム・レンディションはサポートされません。完全な機能セットを利用するには、[Premium Edition にアップグレード](#)します。

4. 「**最大ビデオ・ファイル・サイズ**」(MB 単位)を構成します。デフォルトは 200MB です。
5. **デフォルト・アセット・キャッシュ有効期間**を構成して、新規コンテンツのリクエストがサーバーに対して行われる前にパブリック・アセットがコンテンツ配信ネットワーク(CDN)にキャッシュされる時間の長さを制御します。デフォルトは 15 分です。
デフォルトのキャッシュ時間は、新規コンテンツの必要性和キャッシュによるパフォーマンス上のメリットのバランスをとります。キャッシュ時間を短縮すると、顧客は新規コンテンツをより迅速に使用可能になりますが、キャッシュによって提供される可能性のあるパフォーマンス上のメリットが最小化されます。主に静的なコンテンツを操作する場合は、キャッシュ時間を長くして、配信パフォーマンスを向上させることができます。

この設定は、セキュリティで保護されたチャンネルで公開されているアセットには影響しません。プライベート・コンテンツが **CDN** またはクライアント・デバイスに格納されるのを回避するために、これらのアセットはキャッシュされません。

または、“&cb=xxx” URL パラメータを使用して、個々のアセットをキャッシュ可能にできます。xxx をランダムな数字に置き換えて、一意の 15 日のキャッシュ・ウィンドウを作成します。このリクエスト・パラメータへのレスポンスには、最大有効期間値が 15 日の **Cache-Control** ヘッダーが含まれます。キャッシュ・ウィンドウが期限切れになる前にコンテンツをリフレッシュする必要がある場合は、新規リクエストに新しいランダム数値を含めます。

[CDN キャッシュを手動でページ](#)して、ファイルの削除または強制的な即時更新を行うことができます。
6. 「**ビデオ・トークンのデフォルト有効期間**」を構成します。デフォルトは 8 時間です。

サイト設定の構成

サイトの機能を作成、共有および使用できるユーザーを指定することで、ユーザーによる Oracle Cloud にホストされている Web サイトの設計、作成、公開および管理が可能になります。

Oracle Content Management のサイト機能は、コンテンツ、コラボレーションおよび創造性を 1 つのユーザー・インタフェースに統合します。シームレスにコンテンツを取得および再利用したサイトの構築、サイト・コンテンツの管理、以前より簡単なグループ間での共有コンテンツのコラボレーションを行うことができます。

 ノート:

Oracle Content Management Starter Edition を使用している場合は、1 つのサイトのみ制限され、サイト・ガバナンスはサポートされません。完全な機能セットを利用するには、[Premium Edition にアップグレード](#)します。

「**サイト**」 ページでは、次のアクションを実行できます。

- サイトの作成の許可
- サイトのガバナンスの有効化
- オンライン・サイトの最小限のセキュリティの設定
- サイトおよびテーマの共有の許可
- サイト、テンプレートまたはコンポーネントの作成のサイト管理者への制限
- サイトへの分析追跡コードの追加
- コンパイル済サイトのカスタム・キャッシュ制御ヘッダーの設定
- コンパイル・エンドポイント URL の設定
- 期限切れのサイトの自動処理
- デフォルト・サイト・テンプレートのインストール
- カスタム・サインインの有効化

サイトの作成の許可

1. Oracle Content Management Web アプリケーションに管理者としてサインインしたら、ナビゲーション・メニューの「管理」領域の「**システム**」をクリックします。
2. 「**システム**」メニューで、「**サイト**」をクリックします。
3. 「**サイトの作成を許可**」の隣で、「**有効**」を選択して、サービス・ユーザーがサイトを作成できるようにします。サイトを作成する機能を有効にすると、すべてのユーザーがテンプレートおよびサイトを作成できるようになります。
サイトの作成を無効化しても、ユーザーは、階層内のテンプレートおよび他のフォルダを表示し操作できます。また、サイトを共有している場合、既存のサイトを操作できます。ロールに応じて、サイトを表示、編集または管理できます。

サイト機能を有効にした場合、ユーザーは、機密情報を含め、自分がアクセス権を持つコンテンツを公開できます。ユーザーをセキュアなサイトのみでの作成に制限できます。これにより、ユーザーはサイトのコンテンツを表示する前にサインインしなければならなくなります。さらにセキュリティを高めるために、サイトの作成を管理者に限定できます。

Building Sites with Oracle Content Management のサイトの作成と管理を参照してください。

サイトのガバナンスの有効化

1. Oracle Content Management Web アプリケーションに管理者としてサインインしたら、ナビゲーション・メニューの「管理」領域の「**システム**」をクリックします。
2. 「**システム**」メニューで、「**サイト**」をクリックします。
3. 「**サイトのガバナンスの有効化**」の隣で、「**有効**」を選択し、サイト管理者ではないビジネス・ユーザーへのサイトの提供が簡素化および迅速化されるとともに、サイト管理者がサイトの制御および追跡を一元化された場所から簡単な方法で行えるようにします。
ガバナンスが有効になっている場合:
 - 開発者は、様々な事業部門のニーズに対応したサイト・テンプレートのセットをテンプレート・カタログに移入できます。新規サイトが準拠する必要があるセキュリティのタイプや、新規サイトが承認を必要とするかどうかに関するポリシーを適用できます。

- ビジネス・ユーザーは、新規サイトを必要な承認および自動プロビジョニングとともに迅速にリクエストできます。
- サイト管理者は、誰がサイトを作成してデプロイしたかに関係なく、すべてのサイトを1箇所から管理できます。任意のデプロイ済サイトについて、サイト・ステータスの監視およびステータスの変更が行えます。

Building Sites with Oracle Content Management のサイト・ガバナンスの理解を参照してください。

オンライン・サイトの最小限のセキュリティの設定

1. Oracle Content Management Web アプリケーションに管理者としてサインインしたら、ナビゲーション・メニューの「管理」領域の「システム」をクリックします。
2. 「システム」メニューで、「サイト」をクリックします。
3. 「オンライン・サイトの最小限のセキュリティ」の隣で、ドロップダウン・リストから次のいずれかのオプションを選択します。
 - **特定のサービス・ユーザー**—選択されたサービス・ユーザーのみ(デフォルト設定)
メンバーとして明示的に選択した認証済ユーザーのみが公開されたサイトにアクセスできます。選択されたユーザーをさらに Oracle Content Management ユーザーに制限できます。
 - **特定のクラウド・ユーザー**—選択されたクラウド・ユーザーのみ
 - **サービス・ユーザー**—すべてのサービス・ユーザー
認証済のサービス・ユーザー、標準ユーザーまたはエンタープライズ・ユーザーのみがセキュア・サイトにアクセスできます。認証されたビジターは除外されます。
 - **クラウド・ユーザー**—ドメインにサインインできるすべてのクラウド・ユーザー。
 - **全員**—サインインしていないすべてのユーザー

パブリック・サイトにアクセスできるユーザーの指定の詳細は、*Building Sites with Oracle Content Management* のサイト・セキュリティの変更を参照してください。

サイトおよびテーマの共有の許可

1. Oracle Content Management Web アプリケーションに管理者としてサインインしたら、ナビゲーション・メニューの「管理」領域の「システム」をクリックします。
2. 「システム」メニューで、「サイト」をクリックします。
3. 「UIからのサイトおよびテーマの共有を許可」の隣で、「有効」を選択して、ユーザーがサイトおよびテーマを他の Oracle Content Management ユーザーと共有できるようにします。
共有を無効にした場合でも、ユーザーはテーマおよびサイトを作成および公開できます。テーマまたはサイトに対してマネージャ・ロールを持つユーザー(所有者または管理者)は、テーマまたはサイトを編集または公開できます。

共有を無効にした場合、ユーザーはユーザー・インタフェースを通じてサイトおよびテーマを共有できなくなります。Oracle Cloud REST API for Content

Management を使用してテーマおよびサイト・フォルダの共有を実装することはできません。

サイト、テンプレートまたはコンポーネントの作成のサイト管理者への制限

1. Oracle Content Management Web アプリケーションに管理者としてサインインしたら、ナビゲーション・メニューの「管理」領域の「システム」をクリックします。
2. 「システム」メニューで、「サイト」をクリックします。
3. 「サイト管理者のみがサイトを作成できます」の隣で、「有効」を選択して、サイト作成機能をサイト管理者のアプリケーション・ロールを持つユーザーに制限します。
4. 「サイト管理者のみがテンプレートを作成できます」の隣で、「有効」を選択して、テンプレート作成機能をサイト管理者のアプリケーション・ロールを持つユーザーに制限します。
5. 「サイト管理者のみがコンポーネントを作成できます」の隣で、「有効」を選択して、コンポーネント作成機能をサイト管理者のアプリケーション・ロールを持つユーザーに制限します。

サイトへの分析追跡コードの追加

1. Oracle Content Management Web アプリケーションに管理者としてサインインしたら、ナビゲーション・メニューの「管理」領域の「システム」をクリックします。
2. 「システム」メニューで、「サイト」をクリックします。
3. オプションで、Web 分析追跡用の JavaScript 追跡コードをサイトに追加すると、Google、Adobe または Oracle Infinity などの外部のアナリティクス・プロバイダとの統合が容易になります。ここでスニペットを追加すると、すべての新規サイトおよびページにそれが伝播されます。個々のサイトまたはページに直接スニペットを追加したり、伝播されたスニペットを必要に応じてカスタマイズしたりすることもできます。「編集」をクリックし、次に示す Google Analytics 用の Web 分析追跡スニペットのようなスニペットを追加します:

```
<!--Global site tag (gtag.js - Google Analytics -->
<script async src="https://www.googletagmanager.com/gtag/js?
id=UA-85172963-3"></script>
<script>
window.dataLayer = window.dataLayer || [];
function gtag(){dataLayer.push(arguments);}
gtag('js', new Date);

gtag('config', 'UA-85172963-3');
</script>
```

「完了」をクリックし、「保存」をクリックします。

この追跡スニペットはサイトの設定で使用可能になりますが、そのサイトの分析を収集するには、サイト・マネージャがサイトでスニペットを有効化して変更を公開し、必要に応じてサイトをオンラインにする必要があります。サイト・マネージャは、サイト設定またはページ設定でスニペットをカスタマイズすることもできます。

サイト・マネージャがサイトを公開してオンラインにすると、追跡された分析データを Google Analytics などベンダーのサイト上で表示できます。Oracle Infinity 分析追跡用のスニペットを使用した場合、Oracle Infinity ホーム・ページに移動し「分析」をクリックしてデータを表示し、レポートを選択または作成します。

コンパイル済サイトのカスタム・キャッシュ制御ヘッダーの設定

会社でコンパイル済サイトが使用されている場合、インスタンスで作成されたコンパイル済サイトに対してデフォルトで使用されるカスタム・キャッシュ制御ヘッダーを設定できます。

デフォルトで、コンパイル済のサイトは、300 秒(5 分間)ユーザーのブラウザにキャッシュされます。ただし、管理設定を通じて、インスタンスのこのデフォルトを変更できます。サイト管理者が、サイト・プロパティで個別のサイトの設定を変更することもできます。

コンパイル済サイトのデフォルト・キャッシュの設定を変更するには、次の手順を実行します。

1. Oracle Content Management Web アプリケーションに管理者としてサインインしたら、ナビゲーション・メニューの「管理」領域の「システム」をクリックします。
2. 「システム」メニューで、「サイト」をクリックします。
3. コンパイル済サイトのデフォルト・キャッシュの設定を変更するには、次に太字で表示されている値を編集します。値は秒単位です。

Cache-Control: max-age=**300**

Edge-Control: !no-store,max-age=**1800**,downstream-ttl=**1800**

- Cache-Control は、ページがユーザーのブラウザにキャッシュされる期間を決定します。デフォルトは 300 秒(5 分)です。
- Edge-Control は、Akamai 固有の設定です。インスタンスで Akamai が使用されていない場合、この設定の影響はありません。
 - !no-store は、この設定により、対応するプロパティの Akamai キャッシュ構成がオーバーライドされることを示しています。
 - max-age により、Akamai がこのページをキャッシュする長さが決定されます。デフォルトは 1800 秒(30 分)です。この間、Akamai は、Oracle Content Management のページをリクエストすることなく、ページのリクエストを実行します。
 - downstream-ttl は、Akamai に"Cache-Control: max-age"ヘッダーをそのレスポンスとともにクライアント・ブラウザに送信するように伝え、これらのブラウザに、割り当てられた時間の間、ページをキャッシュするように指示します。デフォルトは 1800 秒(30 分)です。

設定を変更した後、「保存」をクリックします。

デフォルト値に戻すには、「デフォルトを表示」をクリックして、次に「保存」をクリックします。

コンパイル・エンドポイント URL の設定

サイト・コンパイル・サービスを使用している場合は、サイトを公開時にコンパイルできるようにコンパイル・エンドポイント URL を Oracle Content Management に登録する必要があります。

サイト・コンパイル・サービスの設定の詳細は、*Integrating and Extending Oracle Content Management* のサイト・コンパイル・サービスのセットアップに関する項を参照してください。

1. Oracle Content Management Web アプリケーションに管理者としてサインインしたら、ナビゲーション・メニューの「管理」領域の「システム」をクリックします。
2. 「システム」メニューで、「サイト」をクリックします。
3. 「コンパイル・エンドポイント URL」ボックスに、サーバーに登録する完全修飾 URL を入力し、「テスト」をクリックしてエンドポイントを検証します。

期限切れのサイトの自動処理

サイト・ガバナンスが有効になっている場合は、有効期限切れのサイトを自動的にオフラインにしたり、削除することもできます。

1. Oracle Content Management Web アプリケーションに管理者としてサインインしたら、ナビゲーション・メニューの「管理」領域の「システム」をクリックします。
2. 「システム」メニューで、「サイト」をクリックします。
3. 「サイトの有効期限」で、期限切れになったときにサイトを自動的にオフラインにする場合は、「期限切れのサイトを自動的にオフラインにする」を有効にします。
4. 期限切れのサイトの削除も行う場合は、「期限切れのサイトを自動的に削除」を有効にし、削除する前に待つ日数を入力します。
ナビゲーション・メニューの「サイト」をクリックし、「サイト」メニューから「ごみ箱」を選択することで、削除されたサイトのリストを表示できます。

Building Sites with Oracle Content Management のサイト・ガバナンスの理解を参照してください。

デフォルト・サイト・テンプレートのインストール

1. Oracle Content Management Web アプリケーションに管理者としてサインインしたら、ナビゲーション・メニューの「管理」領域の「システム」をクリックします。
2. 「システム」メニューで、「サイト」をクリックします。
3. デフォルトのサイト・テンプレートのセットをインストールしてユーザーによる独自サイトの構築開始を支援する場合は、「デフォルト・サイト・テンプレートのインストール」をクリックします。
このオプションでは、Oracle Content Management 付属のテンプレートがインストールされます。テンプレートをインストールするのが初めての場合、テンプレート、関連付けられているテーマ、およびテンプレートに含まれるすべてのカスタム・コンポーネントについて、新しいフォルダが作成されます。これらのテンプレートを以前インストールしている場合、再度インストールすると、関連付けられているテンプレート、テーマおよびカスタム・コンポーネント・ファイルが、設定済の共有設定も含めて上書きされます。テンプレートのインストール後、目的のユーザーとテンプレートを共有します。

テンプレートは、共有するまで他のユーザーは使用できません。テンプレートをユーザーと初めて共有すると、関連付けられたテーマおよび関連付けられたカスタム・コンポーネントは、テーマおよびコンポーネントに対するダウンロード実行者ロールが付与された指定のユーザーと自動的に共有され、ユーザーがテンプレートからサイトを作成する場合に使用できるようになります。その後、テンプレート内で1人以上のユーザーのロールに変更を加えても、関連付けられたテーマまたはカスタム・コンポーネントの共有情報は更新されません。

カスタム・サインインの有効化

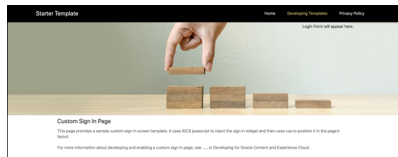
Oracle Identity Cloud Service (IDCS)には、デフォルトで、埋込みのサインイン・ページが含まれています。IDCSには、サインイン・ページのカスタマイズ方法が用意されています。ただし、ブランディング機能でサポートされている範囲を超えてサインイン・ページのロック・アンド・フィールをパーソナライズする必要がある場合は、IDCSが提供する[認証 API](#)を使用して、カスタマイズされた独自のサインイン・ページを作成できます。

Oracle Content Managementにはカスタム・サインイン機能があり、サイト・ページをカスタム・サインイン・ページとして使用できます。一度構成すると、それがOracle Content Managementとすべてのセキュア・サイトのサインイン・ページになります。

ノート:

カスタム・サインイン機能を使用できるのは、第2世代の Oracle Cloud Infrastructure (OCI)上でネイティブに実行されている(つまり、Infrastructure コンソールを使用してサービス・インスタンスを管理している) Oracle Content Management インスタンスのみです。

Starter テンプレートには、使用開始をサポートするサンプルのサインイン・ページと、カスタムのサインイン・コンポーネントが含まれています。



カスタム・サインインの使用ステップ

次に、実行が必要な内容の概要を示します:

1. Starter テンプレートからパブリック・サイトを作成します。
2. サイト・ビルダーを使用して、サイトのサインイン・ページを編集します。
3. カスタム・サインイン・サイトを公開して、オンラインにします。
4. 管理ユーザー・インタフェース(後で説明)で、カスタム・サインインを有効化します。

カスタム・サインインの有効化

サイトを公開してオンラインにしたら、カスタム・サインイン用に有効化する必要があります。

1. システム管理にアクセスできるユーザーとしてサインインしていない場合は、管理者として Oracle Content Management にサインインします。
2. ナビゲーション・メニューの「管理」領域で、「システム」をクリックします。
3. 「システム」メニューで、「サイト」をクリックします。
4. カスタム・ログイン画面で、「有効」をクリックして、カスタム・ログイン用に作成したサイトとページを選択して、「保存」をクリックします。

❗ 重要:

正しいページを選択していることを確認してください。サインアウトした場合やセッションが終了した場合は、Oracle Content Management に再度直接サインインすることはできません。Oracle Cloud にサインインしてから、Oracle Content Management インスタンスに移動する必要があります。その後、「サイトとアセット」ページに戻って、問題を修正します。

カスタム・サインイン・ページを構成したら、関連するサイトをオフラインにすることや、非公開にすることはできません。

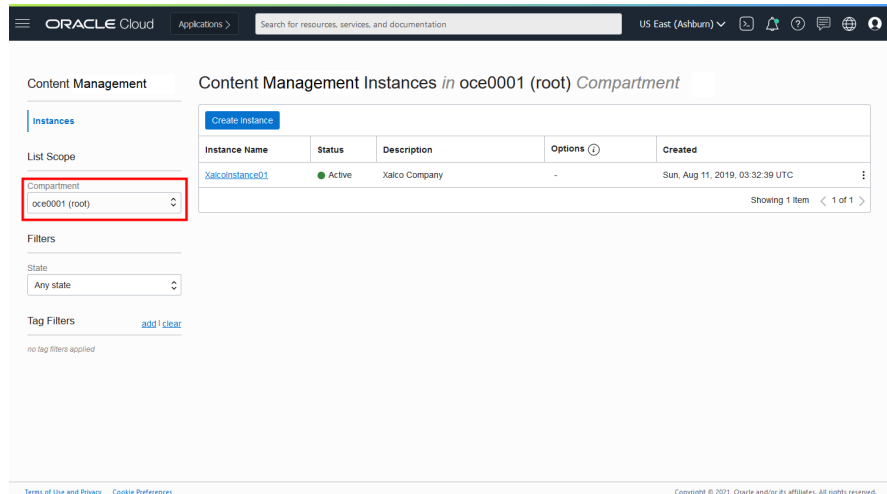
ユーザーに新しいサインイン・ページが表示されることを伝え、フィッシング詐欺やその類いのものと心配させないようにする必要があります。

カスタム・サインインのリセット

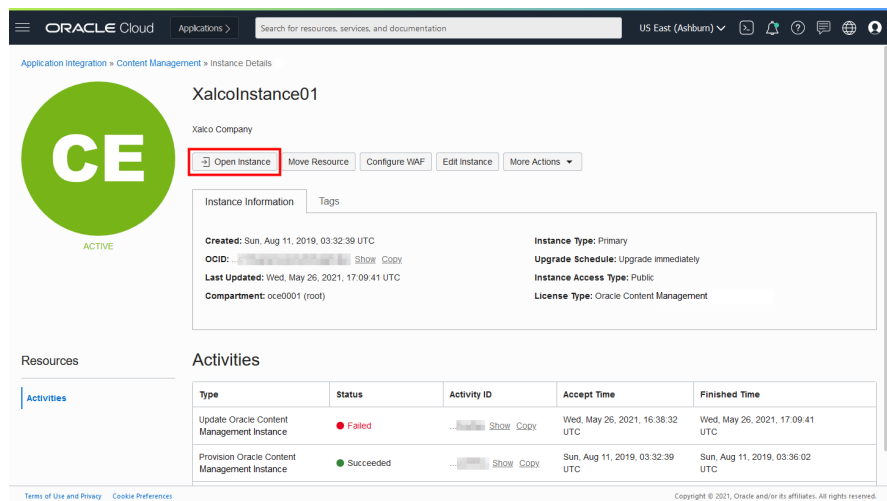
サインイン・ページは、次の方法で、Oracle Identity Cloud Service (IDCS)に含まれているすぐに利用可能なサインイン・ページにリセットできます:

- Oracle Content Management から:
 1. サービス管理者ユーザー(システム管理にアクセスできるユーザー)としてサインインしていない場合は、管理者として Oracle Content Management にサインインします。
 2. ナビゲーション・メニューの「管理」領域で、「システム」をクリックします。
 3. 「システム設定」ドロップダウン・メニューで、「サイトとアセット」を選択します。
 4. カスタム・ログイン画面で、「無効」、「保存」の順にクリックします。
- サインイン・ページが正しく構成されなかったために Oracle Content Management にサインインできない場合は、次の2つの方法のいずれかでサインイン・ページをリセットできます:
 - シングル・サインオン(SSO)で Oracle Cloud Infrastructure (OCI)にサインインする場合は、次のステップに従ってサインイン・ページをリセットします:
 1. Infrastructure コンソールに移動します。たとえば、アッシュバーン・データセンターのコンソールは <https://console.us-ashburn-1.oraclecloud.com/>です。テナント名を入力し、「続行」をクリックします。
 2. シングル・サインオン(SSO)のサインイン・ページで、適切なアイデンティティ・プロバイダが選択されていることを確認し、「続行」をクリックします。

3. IDCS のサインイン・ページで、サービス管理者ユーザー(Oracle Content Management のシステム管理にアクセスできるユーザー)のユーザー名とパスワードを入力して、「サインイン」をクリックします。
4. Infrastructure コンソールで、☰ をクリックしてナビゲーション・メニューを開き、「開発者サービス」を展開して、「コンテンツ管理」をクリックします。これにより、Content Management インスタンス・ページが開きます。
5. 左にある「コンパートメント」メニューで、Oracle Content Management インスタンスのコンパートメントを選択します。



6. サービス・インスタンスをクリックして開きます。
7. **インスタンスを開く**をクリックします。これにより、サインインせずに、Oracle Content Management インスタンスが開きます。



8. ナビゲーション・メニューの「管理」領域で、「システム」をクリックします。

9. 「システム設定」ドロップダウン・メニューで、「**サイトとアセット**」を選択します。
 10. カスタム・ログイン画面で、「**無効**」、「**保存**」の順にクリックします。
- SSO を使用せずに OCI にサインインする場合は、**Oracle Support** でサポート・チケットをオープンし、サインイン・ページをリセットします。

サイトの SEO 設定の構成

サイトの SEO 設定には、サイトのプリレンダーを有効化または無効化し、追加のユーザー・エージェントを構成するための設定が含まれます。

「**サイトの SEO**」ページから、次のアクションを実行できます：

- [プリレンダーの有効化](#)
- [ユーザー・エージェントの構成](#)

プリレンダーの有効化

ページをプリレンダーすることにより、ページが Web クローラまたは他のボットによって適切に読み取られるようにするには、この機能を一般設定を有効化します。

1. **Oracle Content Management Web** アプリケーションに管理者としてサインインしたら、ナビゲーション・メニューの「管理」領域の「**システム**」をクリックします。
2. 「**システム**」メニューで、「**サイトの SEO**」をクリックします。
3. 「**プリレンダー・サービス**」で、「**有効**」を選択します。

ユーザー・エージェントの構成

すぐに使用可能なものとして定義されていないユーザー・エージェントが必要な場合、一般設定でこれらを定義できます。

1. **Oracle Content Management Web** アプリケーションに管理者としてサインインしたら、ナビゲーション・メニューの「管理」領域の「**システム**」をクリックします。
2. 「**システム**」メニューで、「**サイトの SEO**」をクリックします。
3. 「**User-Agents の構成**」で、追加のユーザー・エージェントをカンマで区切って入力します。

エクスペリエンス設定の構成

Oracle Content Management は、コンテンツ・リポジトリと公開チャネルを **Oracle Content Management** の外部で開発および管理されたエクスペリエンスに接続し、コンテンツの変更や公開済ステータスに基づいてデプロイメントを自動的にトリガーする方法を提供します。コンテンツ・プロバイダは、コンテンツを整理、取得、翻訳、コラボレーション、承認および公開するための強力なツールなど、リポジトリ・アセット管理の利点を活用できます。エクスペリエンス開発者は、所有しているツールを使用して、関連付けられたリポジトリ内のコンテンツへの変更や、関連付けられた公開チャネル内のコンテンツの公開ステータスに基づいて自動的に構築されるエクスペリエンスを構成できます。

 ノート:

Oracle Content Management Starter Edition を使用している場合は、1つのエクスペリエンスのみに制限されます。エクスペリエンスの数を増やし、完全な機能セットを利用するには、[Premium Edition にアップグレードします](#)。

エクスペリエンスを有効にするには:

1. Oracle Content Management Web アプリケーションに管理者としてサインインしたら、ナビゲーション・メニューの「管理」領域の「**システム**」をクリックします。
2. 「**システム**」メニューで、「**エクスペリエンス**」をクリックします。
3. 「**有効**」を選択して、エクスペリエンスを作成する開発者ロールを持つエンタープライズ・ユーザーを許可します。

ドキュメント設定の構成

ドキュメント設定には、ユーザー割当て制限およびリンク設定が含まれます。

 ノート:

Oracle Content Management Starter Edition を使用している場合、「ドキュメント」セクションはサポートされません。完全な機能セットを利用するには、[Premium Edition にアップグレードします](#)。

「ドキュメント」ページでは、次のアクションを実行できます。

- [ファイルとフォルダの削除の制限](#)
- [ユーザー割当て制限の設定と記憶領域の管理](#)
- [デフォルトのリンク動作の設定](#)

ファイルとフォルダの削除の制限

ファイルまたはフォルダを削除できるユーザーを制限して、ファイル作成者とフォルダ管理者だけが削除できるようにすることができます。

ファイルとフォルダの削除を制限する手順:

1. Oracle Content Management Web アプリケーションに管理者としてサインインしたら、ナビゲーション・メニューの「管理」領域の「**システム**」をクリックします。
2. 「**システム**」メニューで、「**ドキュメント**」をクリックします。
3. **ファイルとフォルダの制限**で、「**有効**」を選択して、削除をファイル作成者とフォルダ管理者のみに制限します。

ユーザー割当て制限の設定と記憶領域の管理

ユーザーに割り当てるストレージ領域容量の割当て制限を設定できます。また、完全に削除される前にアイテムがごみ箱に残っている時間の長さを制限したり、古いバージョンが削除される前に保持されるバージョン数を制限することでストレージ領域を節約することもできます。

割当て制限およびストレージ領域を設定するには:

1. Oracle Content Management Web アプリケーションに管理者としてサインインしたら、ナビゲーション・メニューの「管理」領域の「システム」をクリックします。
2. 「システム」メニューで、「ドキュメント」をクリックします。
3. 「割当て制限」の下にある次のデフォルトを設定します。
 - **ユーザーごとのデフォルトの割当て制限:** ユーザーごとの記憶領域の量を GB 単位で指定します。1 から 999 までの値を入力します。
 - **ファイルおよびフォルダをごみ箱に保持する最大日数:** ファイルが完全に削除される前にごみ箱に保存される日数を指定します。このオプションを"0"に設定した場合、次回ページ・ジョブを実行したときにファイルが削除されます。ページ・ジョブは1日に1回実行されます。
 - **無制限バージョンを許可:** 保持するバージョン数を制限する場合、「無効」を選択し、「ファイル当たりのバージョンの最大数」を指定します。バージョンの最大数を超えると、より古いバージョンが削除されます。
 - **クリーンアップしたリビジョンを完全に削除:** デフォルトでは、バージョンの最大数を超えると、最も古いファイル・リビジョンが即時に削除されます。かわりに古いバージョンをごみ箱に移動する場合は、このオプションを無効にします。

ストレージの量を表示し、特定のユーザーのストレージ割当て制限をオーバーライドするには、[ユーザーのストレージ割当て制限のオーバーライド](#)を参照してください。

デフォルトのリンク動作の設定

管理者は、サービス全体にわたるパブリック・リンクの処理方法を決定できます。この種類のリンクでは、受信者にフォルダ内のファイルの使用を許可しながら、他のフォルダへのアクセス権を制限できます。ファイルへのパブリック・リンクを送信すると、受信者はその1ファイルのみにアクセスできます。

リンクの動作を設定するには、次のステップに従ってください。

1. Oracle Content Management Web アプリケーションに管理者としてサインインしたら、ナビゲーション・メニューの「管理」領域の「システム」をクリックします。
2. 「システム」メニューで、「ドキュメント」をクリックします。
3. 「リンク」で、次の設定を構成します。
 - **ファイルおよびフォルダへのパブリック・リンクを許可:** ユーザーにパブリック・リンクの作成および他のユーザーとのそれらのリンクの共有を許可する場合は、「有効」を選択します。
 - **デフォルト共有リンク・タイプ:** パブリック・リンクを有効にした場合は、共有リンクのデフォルトを「メンバー専用」または「パブリック」に指定します。ユーザーが

誤ってパブリック・リンクを作成しないように、この設定を「メンバー専用」のままにしておくことができます。

- アクセス・オプション:** パブリック・リンクを有効にした場合、ユーザーがパブリック・リンクを送信できるのはすべてのユーザー(「**すべてのユーザー**」)かまたは Oracle Content Management アカウントを持っているユーザー(「**すべての登録済ユーザー**」)かを指定します。

パブリック・リンクをすべてのユーザーに送信することを許可すると、ユーザーが社外のユーザーと機密情報を共有する可能性があるため、セキュリティが低下します。これを「**すべてのユーザー**」に設定するのは、それが会社で許容される慣習であるとわかっている場合のみにしてください。
- パブリック・リンクの作成時にユーザーに警告を表示:** パブリック・リンクの作成時にユーザーに警告する場合は、「**有効**」を選択します。
- ユーザーがパブリック・リンクを作成する際に表示する警告メッセージのカスタマイズ:** 警告メッセージを有効にした場合、パブリック・リンクを使用しようとしていることをユーザーに警告するための独自のメッセージを設定できます。「**有効**」を選択し、カスタム・メッセージを入力します。
- パブリック・リンクに使用可能な最大ロール:** ユーザーがパブリック・リンクを作成するときに、ユーザーが割り当てることができる最上位のロールを選択します。これは、サービスからコンテンツを追加またはダウンロードできるユーザーを制御するのに役立ちます。
- 新規パブリック・リンクのデフォルト・ロール:** ユーザーがパブリック・リンクを作成するときに、デフォルトで割り当てられるロールを選択します。このロールでは、**最大ロール**に設定したロールよりも多くの権限を許可することはできません。
- すべてのパブリック・リンクに有効期限を強制:** パブリック・リンクを作成するとき、リンクに名前を付け、オプションで有効期限とアクセス・コードを設定します。確実にすべてのパブリック・リンクに有効期限があるようにする場合は、「**有効**」を選択し、最大有効期限を設定します。
- 最大有効期限の設定:** パブリック・リンクに有効期限を強制する場合、リンクが期限切れになるまでの最大有効日数を入力します。これにより、作成したリンクが使用中であること、リンクが有効なままで長期間未使用の状態になっていないことを確認できます。リンクが期限切れの場合、リンクの所有者は必要に応じて再作成および再送できます。

会話設定の構成

特定の語をハッシュタグとして管理されないようにすることができます。たとえば、ユーザーが検閲されたハッシュタグを入力すると、リンクとして表示されず、ハッシュタグの検索結果に含まれません。

ノート:

Oracle Content Management Starter Edition を使用している場合、「会話」領域はサポートされません(スタンドアロンの会話はありません)。完全な機能セットを利用するには、[Premium Edition](#) にアップグレードします。

1. Oracle Content Management Web アプリケーションに管理者としてサインインしたら、ナビゲーション・メニューの「管理」領域の「システム」をクリックします。
2. 「システム」メニューで、「会話」をクリックします。
3. 「ハッシュタグの管理」で、ハッシュタグのカンマ区切りリストを#記号なしで入力します。例:
banthistag, banthisoothertag

メタデータ・セットの構成

ユーザーがファイルとフォルダを追加の説明で迅速に分類できるようにメタデータをドキュメントに追加できます。たとえば、ポリシーの有効日を追跡することが必要な場合があります。開始日と終了日などのフィールドをリストする「有効」というメタデータ・グループを作成できます。理由のリストを追加して、ポリシーが有効でなくなった場合にそこから選択することもできます。

ノート:

メタデータはアセット用ではなくドキュメント専用です。

サービス管理者は、メタデータ・グループおよびフィールドを作成し、ファイルとフォルダのユーザー・インタフェースに表示できるようにします。次に、所有者、マネージャまたはコントリビュータ・ロールを持つユーザーが、ファイルおよびフォルダにメタデータを適用します。ロールが参照者またはダウンロード実行者のユーザーは、設定されたメタデータを表示できます。

メタデータを構成するには:

1. Oracle Content Management Web アプリケーションに管理者としてサインインしたら、ナビゲーション・メニューの「管理」領域の「システム」をクリックします。
2. 「システム」メニューで、「メタデータ」をクリックします。
3. 「新規グループ」をクリックして、メタデータに関連付けられているフィールドのグループを作成します。
4. メタデータ・グループの名前を入力します。
5. 「追加」をクリックして、新規フィールドを作成します。ユーザーに表示する順序でフィールドを追加します。
6. 作成するフィールドのタイプ(「テキスト」、「日付」、「数値」または「ブール」)を選択します。
ユーザーが入力できるフィールド値には次の制限が適用されます:
 - **テキスト:** 最大 1,000 文字。# * & | ? < > ^ ; { } () ' = + \ を含めることはできません
 - **数値:** 最大 15 文字。整数にする必要があり、小数は使用できません。
7. フィールドのラベルを入力します。
8. フィールドにデフォルト値を設定する場合は、**デフォルト値**を入力します。
9. テキスト・フィールドの場合は、フィールドに「ヒント」を追加して、何のためのフィールドかを明確にできます。

10. ユーザーが変更できない値を設定する場合は、**デフォルト値**を入力してから、「**読取り専用**」を「**はい**」に設定します。

11. 完了したら、「**追加**」をクリックします。

メタデータ・フィールドがユーザーにどのように表示されるかを確認するには、メタデータ・グループをクリックして展開します。

新規フィールドを追加したり、フィールドを編集したり、メタデータ・グループを削除するには、**...**をクリックします。

メタデータの構成が完了したら、「**有効**」を選択して、ファイルおよびフォルダに対してユーザー・インタフェースに表示されるようにします。

5

ユーザー、グループおよびアクセスの管理

ユーザーが会社に入社または退職するため、またシステムの拡張に応じて変更が必要になるため、システムの保護は継続的なプロセスです。

- [Single Sign-On \(SSO\)の有効化](#)
- [Oracle Identity Cloud Service を使用したユーザーの管理](#)
- [Oracle Identity Cloud Service を使用したグループの管理](#)
- [新しいフォルダ・メンバーのデフォルト・リソース・ロールの設定](#)
- [ユーザー・プロファイル・データの同期](#)
- [ユーザーの会話のメンバーシップ・メッセージの表示](#)
- [ユーザーのストレージ割当て制限のオーバーライド](#)
- [ファイル所有権の移管](#)
- [同期されていないグループの表示および再同期](#)
- [ユーザーの一時割当て制限のオーバーライド](#)
- [リンクされたデバイスへのアクセスの取消し](#)
- [グループの設定の変更](#)

Single Sign-On (SSO)の有効化

Oracle Content Management 環境でフェデレーテッド・シングル・サインオン(SSO)を使用している場合、それを有効にしてサインイン手順をカスタマイズできます。シングル・サインオン(SSO)が有効になっている場合、ユーザーは企業のセキュリティ 資格証明を使用して 1 つのインスタンスにサインインすると、再度サインインしなくても同じドメイン内の別のインスタンスにアクセスすることができます。たとえば、2 つの Oracle Cloud サービスがある企業の管理者であるとする、これらのサービスを企業の組織、ロールおよびユーザーに対してプロビジョニングする必要があります。企業には、オンプレミス・アプリケーションと他のベンダーのクラウド・サービスもある可能性があります。これらのサービスとアプリケーション間の通信が安全な方法で行われることが重要です。SSO を使用すると、ユーザーは、アイデンティティ・ドメイン・システムを使用して管理される資格証明の同じセットを使用して、これらすべてにサインインできます。


OAuth は、Oracle Cloud 内のすべてのサービスへの安全なアクセスを提供します。サービス間の通信用のアクセス・トークンを提供します。トークンは限られた時間有効であり、サインイン・セッションのセキュリティ 資格証明を含みます。これは、ユーザーとユーザーのグループを識別します。

アイデンティティ・ドメインが Oracle Cloud の多くの機能の管理に使用される方法について学習するには、*Understanding Identity Concepts* のアイデンティティ・ドメインのロールを参照してください。

SSO 構成の概要

Oracle Cloud は、SAML 2.0 標準を使用して、Oracle Cloud と、オンプレミスまたは別のクラウドにある他の SAML 対応サイトとの間の安全なドメイン間通信を可能にします。管理者は、Oracle Cloud とアイデンティティ・プロバイダ間に SAML 2.0 SSO を構成する必要があります。SSO が有効になっている場合、アイデンティティ・プロバイダは Oracle Cloud の認証を実行します。

SSO を構成するには、次のステップを実行します:

1. クラウド・アカウント管理者として **Oracle Cloud** にサインインします。アカウント名とログイン情報は、ようこそ電子メールに記載されています。
2. Infrastructure コンソールで、左上の  をクリックしてナビゲーション・メニューを開き、「**アイデンティティとセキュリティ**」をクリックし、「**アイデンティティ**」で、「**フェデレーション**」をクリックします。
3. 「フェデレーション」ページで **OracleIdentityCloudService** をクリックしてから、「**アイデンティティ・プロバイダの詳細**」ページで **Oracle Identity Cloud Service Console** へのリンクをクリックします。IDCS コンソールが新しいウィンドウで開きます。
4. IDCS コンソールで、SAML アプリケーションを追加して SSO 詳細を構成します。*Administering Oracle Identity Cloud Service* の SAML アプリケーションの追加を参照してください。

Oracle Identity Cloud Service を使用したユーザーの管理

システムを使用する前に、ユーザーを追加し、場合によりシングル・サインオン(SSO)を有効にする必要があります。システムの使用を継続する際に、ユーザーを追加および削除するか、設定の一部を変更する必要があります。たとえば、ユーザーの部署が変わるとロールを変更する必要がある場合があり、ユーザーが組織を離れたらシステムから削除する必要があります。



Oracle Content Management 固有のユーザー設定を管理する必要がある場合は、システム管理の [ユーザー](#) ページで実行できます。

ノート:

Oracle Content Management Starter Edition を使用している場合は、5 ユーザーのみに制限されます。ユーザーの数を増やし、完全な機能セットを利用するには、[Premium Edition](#) にアップグレードします。

ユーザーを管理するには:

1. クラウド・アカウント管理者として **Oracle Cloud** にサインインします。アカウント名とログイン情報は、ようこそ電子メールに記載されています。

2. Infrastructure コンソールで、左上の  をクリックしてナビゲーション・メニューを開き、「アイデンティティとセキュリティ」をクリックし、「アイデンティティ」で、「フェデレーション」をクリックします。
3. 「フェデレーション」ページで **OracleIdentityCloudService** をクリックしてから、「アイデンティティ・プロバイダの詳細」ページで **Oracle Identity Cloud Service Console** へのリンクをクリックします。IDCS コンソールが新しいウィンドウで開きます。
- 4.
5. IDCS コンソールで、 をクリックし、「ユーザー」をクリックします。
6. 次のいずれかのタスクを行います。
 - ユーザーを作成するには、「追加」をクリックします。
ユーザーを追加すると、ユーザーは2通の電子メールを受信します。Oracle Cloud アカウントをアクティブ化するように求める電子メールと、Oracle Content Management へようこそという電子メールです。Oracle Cloud ユーザー・アカウントは、リンクが失効する前にアクティブ化して、使用できるようにする必要があります。必要に応じて、招待をもう1通送信できます。
 - ユーザーをインポートするには、「インポート」をクリックします。
 - ユーザーをエクスポートするには、「エクスポート」をクリックします。
 - ユーザーをアクティブ化するには、ユーザーを選択して、「アクティブ化」をクリックします。
 - ユーザーを非アクティブ化するには、ユーザーを選択して、「非アクティブ化」をクリックします。
 - ユーザーに招待を再送信するには、ユーザーを選択して、「招待の再送信」をクリックします。
 - ユーザーのパスワードをリセットするには、そのユーザーを選択し、「パスワードのリセット」をクリックします。
 - ユーザーをプロビジョニング解除するには、ユーザーを選択し、「削除」をクリックします。

Administering Oracle Identity Cloud Service の Oracle Identity Cloud Service ユーザーの管理を参照してください。

Oracle Identity Cloud Service を使用したグループの管理

ベスト・プラクティスとして、Oracle Identity Cloud Service (IDCS)の組織ロールのグループを作成し、適切なユーザー・ロールをそのグループに割り当てることができます。次に、これらのグループにユーザーを追加すると、適切なユーザー・ロールがユーザーに自動的に割り当てられます。

ノート:

Oracle Content Management Starter Edition を使用している場合、IDCS グループはサポートされません(Oracle Content Management グループのみ)。完全な機能セットを利用するには、**Premium Edition** にアップグレードします。

Oracle Content Management グループを管理する必要がある場合は、ユーザー・メニューのグループ・ページで実行でき、システム管理の**グループ設定**を管理できます。

- [グループの管理](#)
- [ロールのグループへの割当て](#)
- [グループへのユーザーの割当て](#)

グループの管理

システムを使用する際に、グループを追加、インポート、エクスポートまたは削除できます。

グループを管理するには:

1. クラウド・アカウント管理者として [Oracle Cloud](#) にサインインします。アカウント名とログイン情報は、ようこそ電子メールに記載されています。
2. Infrastructure コンソールで、左上の  をクリックしてナビゲーション・メニューを開き、「**アイデンティティとセキュリティ**」をクリックし、「**アイデンティティ**」で、「**フェデレーション**」をクリックします。
3. 「フェデレーション」ページで **OracleIdentityCloudService** をクリックしてから、「**アイデンティティ・プロバイダの詳細**」ページで **Oracle Identity Cloud Service Console** へのリンクをクリックします。IDCS コンソールが新しいウィンドウで開きます。
4. IDCS コンソールで、 をクリックし、「**グループ**」をクリックします。
5. 次のいずれかのタスクを行います。
 - グループを作成するには、「**追加**」をクリックします。
 - グループをインポートするには、「**インポート**」をクリックします。
 - グループをエクスポートするには、「**エクスポート**」をクリックします。
 - グループを削除するには、グループを選択し、「**削除**」をクリックします。



Administering Oracle Identity Cloud Service の Oracle Identity Cloud Service グループの管理を参照してください。

ロールのグループへの割当て

組織ロールのグループを作成したら、必要な Oracle Content Management 機能へのアクセス権を付与するために、それらのグループに適切なユーザー・ロールを割り当てます。

ロールをグループに割り当てるには:

1. まだ Oracle Identity Cloud Service コンソールが表示されていない場合:
 - a. クラウド・アカウント管理者として [Oracle Cloud](#) にサインインします。アカウント名とログイン情報は、ようこそ電子メールに記載されています。
 - b. Infrastructure コンソールで、左上の  をクリックしてナビゲーション・メニューを開き、「**アイデンティティとセキュリティ**」をクリックし、「**アイデンティティ**」で、「**フェデレーション**」をクリックします。

- c. 「フェデレーション」ページで **OracleIdentityCloudService** をクリックしてから、「アイデンティティ・プロバイダの詳細」ページで **Oracle Identity Cloud Service Console** へのリンクをクリックします。IDCS コンソールが新しいウィンドウで開きます。
2. IDCS コンソールで、 をクリックしてから、「**Oracle クラウド・サービス**」をクリックします。
3. 「Oracle Cloud サービス」ページで **CECSAUTO_instanceCECSAUTO** アプリケーション (*instance* は作成した Oracle Content Management インスタンスの名前)を探してこれを開きます。
4. **CECSAUTO_instanceCECSAUTO** アプリケーションの詳細ページで、「**アプリケーション・ロール**」をクリックします。
5. 割り当てるロールの横にある  をクリックしてから、**グループの割当て**を選択します。
6. 必要なグループを探して選択し、「**OK**」をクリックします。
一般的な組織ロールと、必要とされるユーザー・ロールのリストは、「**一般的な組織ロール**」を参照してください。Oracle Content Management での事前定義済みのロールの説明は、[アプリケーション・ロール](#)を参照してください。

グループへのユーザーの割当て

ユーザーをグループに割り当てると、自動的に Oracle Content Management の適切なロールと権限が付与されます。

ユーザーをグループに割り当てるには:

1. まだ Oracle Identity Cloud Service コンソールが表示されていない場合:
 - a. クラウド・アカウント管理者として **Oracle Cloud** にサインインします。アカウント名とログイン情報は、ようこそ電子メールに記載されています。
 - b. Infrastructure コンソールで、左上の  をクリックしてナビゲーション・メニューを開き、「**アイデンティティとセキュリティ**」をクリックし、「**アイデンティティ**」で、「**フェデレーション**」をクリックします。
 - c. 「フェデレーション」ページで **OracleIdentityCloudService** をクリックしてから、「アイデンティティ・プロバイダの詳細」ページで **Oracle Identity Cloud Service Console** へのリンクをクリックします。IDCS コンソールが新しいウィンドウで開きます。
2. IDCS コンソールで、 をクリックし、「**グループ**」をクリックします。
3. ユーザーを割り当てるグループを開きます。
4. 「**ユーザー**」タブをクリックします。
5. 「**割当て**」をクリックします。
6. 追加するユーザーを選択して、「**OK**」をクリックします。

新しいフォルダ・メンバーのデフォルト・リソース・ロールの設定

組織内のユーザーは他のユーザーとフォルダを共有し、共有フォルダ内のリソース・ロールを自分に割り当てることができます。次のロールを使用できます。

- **参照者:** 参照者はファイルおよびフォルダを参照できますが、内容の変更はできません。
- **ダウンロード実行者:** ダウンロード実行者は、ファイルをダウンロードして自分のコンピュータに保存することもできます。
- **コントリビュータ:** コントリビュータは、ファイルの変更、ファイルの更新、新規ファイルのアップロード、およびファイルの削除を行うこともできます。
- **マネージャ:** マネージャは他のロールのすべての権限を持ち、他のユーザーをメンバーとして追加したり削除できます。

デフォルトのリソース・ロールを変更するには:

1. Oracle Content Management Web アプリケーションに管理者としてサインインしたら、ナビゲーション・メニューの「管理」領域の「システム」をクリックします。
2. 「システム」メニューで、「ユーザー」をクリックします。
3. 「メンバー」の下にある「フォルダに追加された新規メンバーのデフォルトのロール」リストで、ユーザーがフォルダに追加されたときにデフォルトで割り当てられるリソース・ロールを選択します。

ユーザー・プロフィール・データの同期

ユーザーの既存プロフィール情報を識別ストアの情報で置き換えることができます:

1. Oracle Content Management Web アプリケーションに管理者としてサインインしたら、ナビゲーション・メニューの「管理」領域の「システム」をクリックします。
2. 「システム」メニューで、「ユーザー」をクリックします。
3. プロファイル・データを同期するユーザーを検索し、ユーザー名の横にある「編集」をクリックして、ユーザー詳細ページの「プロフィールをすぐに同期」をクリックします。

ユーザーの会話のメンバーシップ・メッセージの表示

ユーザーに対する会話メンバーシップ・メッセージのデフォルト表示設定を設定できます。

1. Oracle Content Management Web アプリケーションに管理者としてサインインしたら、ナビゲーション・メニューの「管理」領域の「システム」をクリックします。

2. 「システム」メニューで、「ユーザー」をクリックします。
3. 「検索」タブで、デフォルトを設定するユーザーを検索します。テキスト・ボックスにユーザー名、表示名または電子メール・アドレスの一部を入力し、「検索」をクリックします。
4. ユーザー名の横にある「編集」をクリックします。
5. デフォルトでの会話メンバーシップ・メッセージの表示チェック・ボックスを選択して、「保存」をクリックします。

ユーザーのストレージ割当て制限のオーバーライド

ユーザーに割り当てるストレージ容量のデフォルトのユーザー割り当て制限を設定できません。特定のユーザーのデフォルトをオーバーライドする必要がある場合は、次の手順を使用して実行できます。

1. Oracle Content Management Web アプリケーションに管理者としてサインインしたら、ナビゲーション・メニューの「管理」領域の「システム」をクリックします。
2. 「システム」メニューで、「ユーザー」をクリックします。
3. 設定をオーバーライドするユーザーを検索し、ユーザー名の横の「編集」をクリックします。
4. 「ユーザー割当て制限」ボックスに、割当て制限容量を GB 単位で入力し、「保存」をクリックします。
ユーザーが使用したストレージの大きさが消費ストレージの横に表示されます。

ファイル所有権の移管

あるユーザーが組織を退社した場合またはロールが変更になった場合、そのファイルおよびフォルダを別のユーザーに割り当てて、その記憶領域を割当てて使用可能な合計割当て制限に追加できます。ユーザーのコンテンツの全ライブラリを他のユーザーに割り当てることができます。コンテンツは新しいユーザーのルート・フォルダにフォルダとして表示されます。すべての共有アクション(メンバー、パブリック・リンクなど)は、そのまま残ります。

1. Oracle Content Management Web アプリケーションに管理者としてサインインしたら、ナビゲーション・メニューの「管理」領域の「システム」をクリックします。
2. 「システム」メニューで、「ユーザー」をクリックします。
3. 次のいずれかの方法を使用して、移管するファイルの所有者であるユーザーを検索します。
 - アクティブなユーザーを検索するには、「検索」タブでテキスト・ボックスにユーザー名、表示名または電子メール・アドレスの一部を入力し、「検索」をクリックします。ユーザー名をクリックするか、ユーザーの横にある「編集」をクリックして、ユーザー・プロパティを開きます。
 - プロビジョニング解除されたユーザーを検索するには、「プロビジョニング解除されたユーザー」タブをクリックします。組織のシステムから削除されたすべてのユーザーのリストが、名前でソートされて表示されます。このリストは定期的にはリフレッシュされますが、「プロファイル・データの同期」をクリックして、手動で更新することもできます。

削除されたすべてのユーザーの CSV ファイルをダウンロードするには、「プロビジョニング解除されたユーザーのエクスポート」をクリックします。

4. 「**所有権の移管**」をクリックします。アクティブなユーザーの場合、ボタンはプロパティの下部にあります。プロビジョニング解除されたユーザーの場合、ユーザーの横にあるボタンをクリックします。
5. コンテンツを受け取るユーザーのユーザー名、表示名または電子メール・アドレスの一部を入力し、「**検索**」をクリックします。
6. コンテンツの移管先のユーザーを選択します。転送されるコンテンツの大きさだけ受信者の割当て制限が増加するというメッセージが表示されます。また、解放されて再び使用可能な合計割当て制限に追加されるストレージの大きさも表示されます。
7. 「**転送**」をクリックします。コンテンツが転送されて、プロビジョニング解除されたアカウントが失われたことがリストに示されます。

または、プロビジョニング解除されたユーザーの場合、コンテンツを削除できます。「**プロビジョニング解除されたユーザー**」タブで、削除対象のコンテンツを持つユーザーの横にある「**コンテンツの削除**」をクリックします。

ユーザーは、独自のフォルダの所有権を移管することもできます。

同期されていないグループの表示および再同期

Oracle Content Management 内のグループがアイデンティティ・プロバイダと同期されていない場合、不一致のレポートが表示され、グループを手動で再同期できます。

グループ同期の不一致を表示するには:

1. Oracle Content Management Web アプリケーションに管理者としてサインインしたら、ナビゲーション・メニューの「管理」領域の「**システム**」をクリックします。
2. 「**システム**」メニューで、「**ユーザー**」をクリックします。
3. 「**グループ同期**」タブをクリックします。
4. 同期されていないと思われるグループを検索し、「**同期ステータスのチェック**」をクリックします。
5. レポートに Oracle Content Management 内のグループがアイデンティティ・プロバイダと同期されていないことが示されている場合、「**同期**」をクリックします。

ユーザーの一時割当て制限のオーバーライド

デフォルトでは、アップロードと同期の最大ファイル・サイズは 2GB (「**ドキュメント**」ページで設定)です。複数の 2GB のファイルを同時にアップロードできるよう、ユーザーのデフォルトの一時ストレージ割当て制限は 5GB になっています。最大ファイル・サイズがこれより大きく設定されていると、ユーザーの一時ストレージ割当て制限は、自動的にその量の 2.5 倍に増加されます(たとえば、最大ファイル・サイズが 10GB に設定されている場合、ユーザーの一時ストレージ割当て制限は 25GB に設定されます)。

この一時ストレージ割当て制限の設定は、通常の状態には十分ですが、特定のユーザーの一時ストレージ割当て制限をこれよりも大きくする必要がある場合は、設定をオーバーライドできます。

1. Oracle Content Management Web アプリケーションに管理者としてサインインしたら、ナビゲーション・メニューの「管理」領域の「**システム**」をクリックします。

2. 「システム」メニューで、「ユーザー」をクリックします。
3. 設定をオーバーライドするユーザーを検索し、ユーザー名の横の「編集」をクリックします。
4. 「一時割当て制限」ボックスに、割当て制限容量を GB 単位で入力し、「保存」をクリックします。

リンクされたデバイスへのアクセスの取消し

ユーザーはデバイスを変更するかデバイスの1つを紛失したときに、リンクされたデバイスの1つへのアクセスを取り消すことができます。ただし、管理者としてこのアクションを実行する必要がある場合があります。リンクされたデバイスへのアクセスを取り消すと、ユーザーのサインイン・セッションが終了します。自分または他のユーザーがそのデバイスから Oracle Content Management にアクセスしようとする、アカウントはサインアウトされ、そのアカウントに関してデバイスに格納されているすべてのローカル・コンテンツが削除されます。

デバイスのアクセスの取消しは1つのアカウントにのみ影響します。そのため、複数のユーザー・アカウントを使用している場合、Oracle Content Management に対するすべてのアクセスをブロックするには、各ユーザー・アカウントで別々にアクセスを取り消し、デバイスに格納されているすべてのローカル・コンテンツを削除する必要があります。

1. Oracle Content Management Web アプリケーションに管理者としてサインインしたら、ナビゲーション・メニューの「管理」領域の「システム」をクリックします。
2. 「システム」メニューで、「ユーザー」をクリックします。
3. デバイスへのアクセスを取り消すユーザーを検索し、ユーザーの名前の横にある「編集」をクリックします。
4. 「リンクされたデバイス」の下で、適切なデバイスの横の「取消し」をクリックします。

グループの設定の変更

グループの共有および通知設定を変更して、グループ情報をアイデンティティ・プロバイダと同期できます。

グループの設定を変更する手順:

1. Oracle Content Management Web アプリケーションに管理者としてサインインしたら、ナビゲーション・メニューの「管理」領域の「システム」をクリックします。
2. 「システム」メニューで、「ユーザー」をクリックします。
3. 設定を変更するグループを検索し、グループの名前の横の「編集」をクリックします。
4. ユーザーがグループをオブジェクト(ドキュメントやサイトなど)に追加できないようにするためにグループを共有に使用しない場合は、「共有には使用できません」を選択します。
5. このグループに通知を送信しない場合は、「通知は送信されません」を選択します。
6. Oracle Content Management のグループ情報をアイデンティティ・プロバイダと同期する必要がある場合は、「同期」をクリックします。

6

サービス使用状況の分析

サービスの使用全体について、サービス使用統計を表示して、システム・ニーズや問題を分析できます。

ノート:

Oracle Content Management Starter Edition を使用している場合は、基本的な使用状況情報(ダッシュボード)のみに制限されます。完全な機能セットを利用するには、[Premium Edition](#) にアップグレードします。

分析リフレッシュ・ジョブは毎晩実行されます。

- [アナリティクスの理解](#)
- [分析ダッシュボードの表示](#)
- [ユーザー統計の表示](#)
- [アセットおよびコンテンツ・メトリックの表示](#)
- [サイトおよびチャネル分析の表示](#)
- [ファイルおよび会話の統計の表示](#)
- [キャプチャ・メトリックの表示](#)
- [レポートとメトリックの表示](#)

アナリティクスの理解

アナリティクス・インタフェースには、Oracle Content Management の使用状況およびコンテンツに関する統計が表示されます。

Oracle Content Management アナリティクス・インタフェースを使用するには:

1. Oracle Content Management Web アプリケーションに管理者としてサインインしたら、ナビゲーション・メニューの「**分析**」をクリックします。
2. 「**アナリティクス**」メニューで、ページを選択します。
 - **ダッシュボード**: 合計ユーザー、日次アクティブ・ユーザー、合計リポジトリ、合計チャネル、合計アセット、合計ドキュメント、日次新規アセット、デバイス・タイプ(たとえば Web クライアントや iOS)別のサインイン、タイプ別のアセットなど、最も重要な使用統計をまとめます。
 - **ユーザー統計**: ユーザーとシステムの使用状況に関する合計と日次の統計が表示されます。
 - **アセットおよびコンテンツ**: 少なくとも 1 つのリポジトリ内にマネージャ・ロールを持つユーザーは、リポジトリ、コレクションおよびチャネルのメトリックを表示できます。

- **サイトおよびチャネル:** 訪問数、上位言語、デバイス、ブラウザ、最多および最少の訪問数など、サイトとチャネルの分析が表示されます。
- **ファイルおよび会話:** ドキュメント、共有リンクおよび会話のデータが表示されます。
- **キャプチャ:** 個々のドキュメントおよび監査履歴のコンポジット・データを表示します。メトリックには、キャプチャされる内容と、ユーザーによるコンテンツ・キャプチャの効率的な使用方法が表示されます。
- **レポートとメトリック:** このページを使用して、ユーザーとドキュメントの使用状況に関するレポートを表示してシステムの使用状況をよく理解できるようにし、サービス・アクティビティを監視します。実行するレポートを検索するか、「ユーザー・リスト」、「デバイス・タイプ別ユーザー・ログイン」、「ドキュメント使用ログ」、アセット・アクティビティ、ユーザー・アクティビティまたはキャプチャ・アクティビティの各レポートを選択することができます。


分析データについて

分析データを理解するために役立ついくつかのポイントを次に示します:

- システム・ユーザー、統合ユーザー、および実際には **Oracle Content Management** ユーザーではないその他の内部ユーザー・タイプは統計に含まれません。
- 分析リフレッシュ・ジョブは毎晩実行されます。
- (会話、グループ・ウォールなどにある)メッセージの数に関連するデータについては、メッセージ件数にはメンバーシップ・メッセージが含まれることに注意してください。たとえば、ユーザーが会話に別のユーザーを追加する場合、その追加を知らせるメッセージはカウントされます。
- 一部のグラフには、過去の 12 か月間のデータが表示されます。月の完全なデータがシステムにまだ存在しない場合、これらのグラフは空白になります。

分析チャート、グラフおよびレポート機能

チャート、グラフおよびレポートでは、次の機能を使用できます:

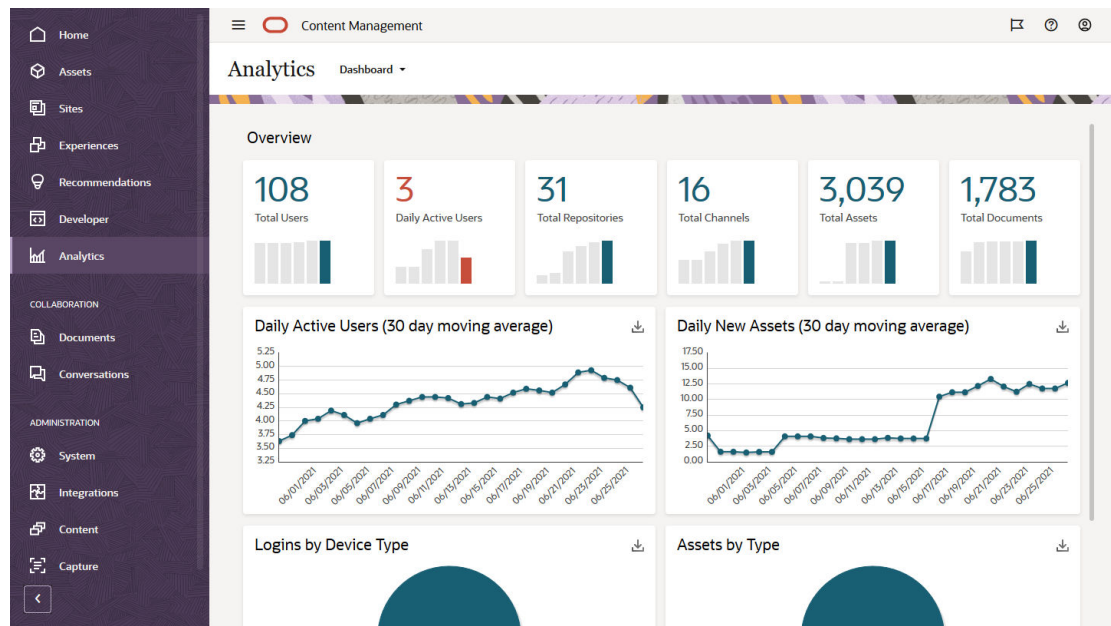
- 表示されている期間の具体的な数を確認するには、グラフの点、または棒グラフや円グラフのセグメントの上にカーソルを合わせます。
- ほとんどの表およびチャートで、 をクリックすることで、表示されているデータを含む **CSV** ファイルをダウンロードできます。**CSV** ファイルを確認する際は、次の考慮事項に注意してください:
 - ファイル名はレポート名と統計の最新更新日に基づいています。たとえば、最後の更新が 2018 年 11 月 15 日の「デバイス・タイプ別ログイン」レポートには、*Logins_by_Device_Type_11-15-2018* という名前が付けられます。
 - 円グラフからエクスポートされた **CSV** ファイルには、円グラフに表されたパーセンテージではなく実際の数値データが表示されます。
 - 特定の **CSV** ファイルには、ユーザー・インタフェース内のチャートより多いラベル(見出し)が含まれていることがあります。たとえば、移動平均が小さくなっていることを示すチャートは、トレンドを表示することを目的としています。すべてのラベルが含まれていると、チャートの読取りが困難になります。

分析ダッシュボードの表示

分析ダッシュボードでは、ユーザー、リポジトリ、チャンネル、アセットおよびドキュメントの使用状況、使用率およびトラフィック分析を参照できます。

分析ダッシュボードを表示するには:


1. Oracle Content Management Web アプリケーションに管理者としてサインインしたら、ナビゲーション・メニューの「分析」をクリックします。
2. 「分析」メニューで、「ダッシュボード」を選択します。



「ダッシュボード」ページには、重要な使用統計の概要が表示されます。

統計	説明
概要	<p>「概要」表には、次のメトリックが表示されます。</p> <ul style="list-style-type: none"> • 合計ユーザー数: 少なくとも 1 回サインインしている、現在有効なすべてのユーザー。 • 日次アクティブ・ユーザー数: 任意のクライアント/デバイスで Oracle Content Management にサインインした 1 日当たりの平均ユーザー数。 • 合計リポジトリ: システムで作成されたアセット・リポジトリの数 • チャンネル合計: アセットが公開またはターゲット設定されたチャンネルの数 • 合計アセット: システム内のアセットの合計数 • ドキュメントの合計: システム内のドキュメントの総数。
日次アクティブ・ユーザー数	折れ線グラフには、システム上のアクティブ・ユーザー数の 30 日移動平均が表示されます。アクティブ・ユーザーは、クライアント/デバイス・タイプ (ブラウザ、デスクトップ・アプリケーション、モバイル・デバイスなど) を使用して Oracle Content Management にサインインしたユーザーです。
日次新規アセット	折れ線グラフには、追加された新規アセットの数の 30 日移動平均が表示されます。

統計	説明
デバイス・タイプ別ログイン	円グラフには、Oracle Content Management への合計ログイン数に基づいて、デバイス・タイプ別のログインが表示されます。Java API のデバイスは、プログラムによるログインを表します。
タイプ別アセット	円グラフには、Oracle Content Management の合計アセット数に基づいて、タイプ別のアセットのパーセンテージが表示されます。

チャート、グラフおよびレポートで使用できる分析データおよび機能の詳細は、「[アナリティクスの理解](#)」を参照してください。たとえば、 をクリックすることで、表示されているデータを含む CSV ファイルをダウンロードできます。

ユーザー統計の表示


ユーザー統計を表示するには:

1. Oracle Content Management Web アプリケーションに管理者としてサインインしたら、ナビゲーション・メニューの「**分析**」をクリックします。
2. 「**アナリティクス**」メニューで、「**ユーザー統計**」をクリックします。
3. デフォルトでは、「ユーザー統計」ページにはすべてのグループのユーザーのデータが表示されます。特定のグループのユーザーのデータを表示するには、検索ボックスにグループ名を入力します。

次の表は、ユーザーの統計の要約を示しています。

統計	説明
概要メトリック	<ul style="list-style-type: none"> • 有効なユーザーの合計数(合計ユーザー人口) • 過去 30 日間に有効になったユーザー • プロビジョニング解除されたユーザー

統計	説明
チャート	<ul style="list-style-type: none"> 有効なユーザーの月別合計数(合計ユーザー人口): チャートの青い棒は、過去 12 か月間にシステムに存在していたユーザー数を示します。チャートの緑の棒は、アクティブ・ユーザー(少なくとも 1 回サインインしたユーザー)の数を示します。 1 日当たりの新規ユーザー数: 棒グラフは、ドロップダウン・リストで選択した期間(デフォルトでは、過去 30 日間)について、ユーザーの新規追加のトレンドを示します。 1 か月当たりの新規ユーザー: 棒グラフは、過去 12 か月間の 1 か月当たりの新規ユーザー数を示します。 1 日当たりの一意のユーザー・ログイン: ドロップダウン・リストを使用して、データを表示する期間を選択します(デフォルトでは、過去 30 日間)。 ログイン頻度別ユーザー: 円グラフは、過去 12 か月間に基づいてユーザーがシステムにサインインする頻度を示します。 デバイス・タイプ別ログイン: 円グラフは、過去 12 か月間でユーザーがシステムへのサインインに使用するデバイスのタイプを示します。 デバイス・タイプ・トレンド: 棒グラフは、過去 12 か月間でユーザーがシステムへのサインインに毎月使用したデバイスのタイプを示します。 アクティブ・ユーザー・ベースの変更: 棒グラフは、新規ユーザー、再訪ユーザーおよび脱退ユーザーの比較と、過去 12 か月間の 1 か月当たりの純変動を示します。 月次流動率: 棒グラフは、過去 12 か月間で 1 か月当たりになされたユーザーの数を示します。 平均連続使用月数: 棒グラフは、システムを 2 か月以上連続して使用したユーザーの平均数を示しています。データは、過去 12 か月間の月ごとに表示されます。
レポート	<ul style="list-style-type: none"> アクティビティ 別の上位ユーザー: リストには、アクティビティ (たとえば、ログインおよび送信済ファイル)が多いユーザーがアクティビティの降順で表示されます。このレポートでは、ユーザーごとに次の使用状況情報を提供します。 <ul style="list-style-type: none"> ユーザー名 ログイン 追加されたアセット 送信済ファイル 作成済会話 会話のメンバーシップ 共有リンク ストレージ別の上位ユーザー: リストには、ストレージ使用量が多いユーザーがストレージ使用量の降順で表示されます。このレポートでは、ユーザーごとに次の使用状況情報を提供します。 <ul style="list-style-type: none"> ユーザー名 個人ストレージ(GB) 共有ストレージ(GB)

チャート、グラフおよびレポートで使用できる分析データおよび機能の詳細は、「[アナリティクスの理解](#)」を参照してください。たとえば、 をクリックすることで、表示されているデータを含む CSV ファイルをダウンロードできます。


アセットおよびコンテンツ・メトリックの表示

サービス管理者は、「アナリティクス」メニューの **アセットおよびコンテンツ** オプションを使用して、任意のリポジトリ、コレクションおよびチャンネルのコンテンツ・メトリックを表示できます。リポジトリ管理者は、マネージャ・ロールを持つ任意のリポジトリ、コレクショ

ンおよびチャンネルのコンテンツ・メトリックを表示できます。コンテンツ・コントリビュータは、コントリビュータ・ロールを持つ任意のリポジトリ、コレクションおよびチャンネルのコンテンツ・メトリックを表示できます。

アセットおよびコンテンツ・メトリックを表示するには:

1. Oracle Content Management Web アプリケーションに管理者としてサインインしたら、ナビゲーション・メニューの「分析」をクリックします。
2. 「アナリティクス」メニューで、アセットおよびコンテンツをクリックします。
3. 左ペインのページを選択して、次のコンテンツ・オブジェクトの詳細なメトリック、トレンドおよびレポートを表示します:
 - リポジトリ
 - コンテンツ・メトリック
 - チャンネル
 - コレクション

チャート、グラフおよびレポートで使用できる分析データおよび機能の詳細は、「アナリティクスの理解」を参照してください。たとえば、 をクリックすることで、表示されているデータを含む CSV ファイルをダウンロードできます。

リポジトリ・メトリック

サービス管理者は、すべてのリポジトリまたは特定のリポジトリのコンテンツ・メトリックを表示できます。リポジトリ管理者は、マネージャ・ロールを持つ任意のリポジトリのコンテンツ・メトリックを表示できます。コンテンツ・コントリビュータは、コントリビュータ・ロールを持つ任意のリポジトリのコンテンツ・メトリックを表示できます。


リポジトリ・メトリックを表示するには:

1. Oracle Content Management Web アプリケーションに管理者としてサインインしたら、ナビゲーション・メニューの「分析」をクリックします。
2. 「アナリティクス」メニューで、アセットおよびコンテンツをクリックします。「リポジトリ」ページがデフォルトで表示されます。
3. デフォルトでは、すべてのリポジトリのメトリックが表示されます。特定のリポジトリのメトリックを表示するには、ページの上にある検索ボックスにリポジトリ名を入力します。
特定のリポジトリを選択すると、概要のアセット・メトリックをクリックして、そのリポジトリのアセットを表示できます。たとえば、リポジトリを選択した場合は、「ビデオ」メトリックをクリックすると「アセット」ページが表示され、選択したリポジトリにあるビデオのみを確認できます。
4. デフォルトでは、すべてのコンテンツ・タイプのメトリックが表示されます。特定のコンテンツ・タイプのメトリックを表示するには、ドロップダウン・リストからタイプを選択します。

次の表は、リポジトリのコンテンツ・メトリックを示しています。

メトリック	説明
リポジトリ	リポジトリの数。

メトリック	説明
コレクション	選択したリポジトリ内のコレクション数。
アセット	選択したリポジトリ内のアセット数。 特定のリポジトリを選択した場合は、このメトリックをクリックすると、「アセット」ページが表示され、選択したリポジトリのアセットを参照できます。
ビデオ	選択したリポジトリ内のビデオ数。 特定のリポジトリを選択した場合は、このメトリックをクリックすると、「アセット」ページが表示され、選択したリポジトリのビデオを参照できます。
チャンネル	選択したリポジトリ内のチャンネル数。
コントリビュータ	選択したリポジトリ内のコントリビュータ数。
使用済ストレージ(MB)	選択したリポジトリで使用されるストレージの経時的なサイズ (メガバイト単位) であり、デジタル・アセットの合計サイズを青色で示す棒グラフで表されます。ドロップダウン・リストを使用して、データを表示する期間を選択します (デフォルトでは、過去 30 日間)。
追加されたアセット	時間の経過とともに追加されたアセットの数であり、デジタル・アセットを青色、コンテンツ・アイテムを緑色で示す線グラフで表されます。ドロップダウン・リストを使用して、データを表示する期間を選択します (デフォルトでは、過去 30 日間)。
コンテンツ・タイプ別のアセット	アセット数別に上位 10 件のタイプが棒グラフで表されます。11 番目以降のものは、「その他」にまとめられます。
リポジトリ	各リポジトリの名前、およびそのアセット数、ビデオ数、コレクション数、チャンネル数およびコントリビュータ数。管理者が Video Plus を有効にした場合、標準および Video Plus ビデオのブレイクダウンも表示されます。
トップ・コントリビュータ	選択した期間のトップ・コントリビュータのユーザー名、および各コントリビュータが追加してコンテンツ・アイテムおよびデジタル・アセット別に分類されたアセット数。管理者が Video Plus を有効にした場合、高度なビデオ数も表示されます。ドロップダウン・リストを使用して、データを表示する期間を選択します (デフォルトでは、全期間)。

チャート、グラフおよびレポートで使用できる分析データおよび機能の詳細は、「[アナリティクスの理解](#)」を参照してください。たとえば、 をクリックすることで、表示されているデータを含む CSV ファイルをダウンロードできます。

コンテンツ・メトリック


サービス管理者は、すべてのコンテンツ・メトリックを表示できます。リポジトリ管理者は、マネージャ・ロールを持つ任意のリポジトリのコンテンツ・メトリックを表示できます。コンテンツ・コントリビュータは、コントリビュータ・ロールを持つ任意のリポジトリのコンテンツ・メトリックを表示できます。

コンテンツ・メトリックを表示するには:

1. Oracle Content Management Web アプリケーションに管理者としてサインインしたら、ナビゲーション・メニューの「分析」をクリックします。
2. 「アナリティクス」メニューで、アセットおよびコンテンツをクリックします。
3. 左ペインで「Content」をクリックします。

次の表は、コンテンツ・メトリックを示しています。

メトリック	説明
公開済アセット経過時間 - 最も古いアセット(日数)	最も古い 20 件のアセットを示す棒グラフ。棒にカーソルを合わせると、アセット名、リポジトリ、関連付けられているすべての公開チャンネルおよびそのチャンネル内の対応する経過時間が表示されます。
コンテンツ・タイプ別のアセット	アセット数別に上位 10 件のタイプが棒グラフで表されます。11 番目以降のものは、「その他」にまとめられます。
トップ・コントリビュータ	選択した期間のトップ・コントリビュータのユーザー名、および各コントリビュータによって追加され、コンテンツ・アイテムおよびデジタル・アセット・タイプ別に分類されたアセット数。管理者が Video Plus を有効にした場合、高度なビデオ数も表示されます。ドロップダウン・リストを使用して、データを表示する期間を選択します(デフォルトでは、全期間)。
レビューが完了したがまだ公開されていないアセット	レビュー済だが公開されていないアセット。各エントリには、アセット名、アセット作成者、アセットがレビューされた日付およびその日から経過した日数が含まれます。
親のないアセット	選択した時間を超えて公開されていないアセット。これにより、請求されるアセット数を減らすために削除できる可能性のあるアセットを検出できます。各エントリには、アセット名、未使用日数、ターゲット対象チャンネルおよびアセットが確認済かどうかが含まれます。デフォルトで、30 日間を超えて未使用のアセットが表示されますが、ドロップダウン・リストから異なる期間を選択できます。表は、最初に未使用日数でソートされます。

チャート、グラフおよびレポートで使用できる分析データおよび機能の詳細は、「[アナリティクスの理解](#)」を参照してください。たとえば、 をクリックすることで、表示されているデータを含む CSV ファイルをダウンロードできます。

チャンネル・メトリック

サービス管理者は、すべてのチャンネルまたは特定のチャンネルのコンテンツ・メトリックを表示できます。リポジトリ管理者は、マネージャ・ロールを持つ任意のチャンネルのコンテンツ・メトリックを表示できます。コンテンツ・コントリビュータは、コントリビュータ・ロールを持つ任意のチャンネルのコンテンツ・メトリックを表示できます。


チャンネル・メトリックを表示するには:

1. Oracle Content Management Web アプリケーションに管理者としてサインインしたら、ナビゲーション・メニューの「分析」をクリックします。
2. 「アナリティクス」メニューで、アセットおよびコンテンツをクリックします。
3. 左ペインで「チャンネル」をクリックします。
4. デフォルトでは、すべてのチャンネルのメトリックが表示されます。特定のチャンネルのメトリックまたは特定のリポジトリ内のチャンネルのメトリックを表示するには、ページの上にある検索ボックスにチャンネルまたはリポジトリ名を入力します。特定のリポジトリまたはチャンネルを選択すると、概要のアセット・メトリックをクリックして、そのリポジトリまたはチャンネルのアセットを表示できます。たとえば、チャンネルを選択した場合は、「公開済アセット」メトリックをクリックすると「アセット」ページが表示され、選択したチャンネルの公開済メトリックのみを確認できます。

5. デフォルトでは、すべてのコンテンツ・タイプของメトリックが表示されます。特定のコンテンツ・タイプのメトリックを表示するには、ドロップダウン・リストからタイプを選択します。

次の表は、チャンネルのコンテンツ・メトリックを示しています。

メトリック	説明
チャンネル	選択したリポジトリ内のチャンネル数。
合計アセット	選択されたチャンネルまたはリポジトリ内の合計アセット数。 特定のリポジトリまたはチャンネルを選択した場合は、このメトリックをクリックすると、「アセット」ページが表示され、選択したリポジトリまたはチャンネルのアセットを参照できます。
公開済アセット	選択されたチャンネルまたはリポジトリ内の公開済アセット数。 特定のリポジトリまたはチャンネルを選択した場合は、このメトリックをクリックすると、「アセット」ページが表示され、選択したリポジトリまたはチャンネルの公開済アセットを参照できます。
保留中のアセット	「ドラフト」、「レビュー中」、「承認済」または翻訳中の状態であり、選択されたチャンネルまたはリポジトリにまだ公開されていないか、却下されていない保留中のアセット数。 特定のリポジトリまたはチャンネルを選択した場合は、このメトリックをクリックすると、「アセット」ページが表示され、選択したリポジトリまたはチャンネルの保留中のアセットを参照できます。
却下済アセット	却下されているがターゲット設定されており、選択されたチャンネルまたはリポジトリに公開されていないアセットの数。 特定のリポジトリまたはチャンネルを選択した場合は、このメトリックをクリックすると、「アセット」ページが表示され、選択したリポジトリまたはチャンネルの却下済アセットを参照できます。
経過時間別公開済アセット	選択されたチャンネルまたはリポジトリ内のアセットがどれぐらい前に公開されたかを示す棒グラフ。
公開されたアセット	選択されたチャンネルまたはリポジトリ内の、一定期間に公開されたアセットの棒グラフ。ドロップダウン・リストを使用して、データを表示する期間を選択します(デフォルトでは、過去 30 日間)。
コンテンツ・タイプおよびステータス別のアセット	選択されたチャンネルまたはリポジトリ内の各コンテンツ・タイプのアセット数を示す棒グラフ。青色は公開済アセット、緑色は保留中アセット、金色は却下済アセットです。
上位チャンネル	上位チャンネルのリストであり、選択したリポジトリのチャンネル名および各チャンネル内の公開済、保留中、却下済および合計アセットの数も示します。
翻訳別アセット	翻訳用の言語のリストであり、選択したチャンネルまたはリポジトリ内の各言語での公開済、保留中、却下済および合計アセットの数も示します。

チャート、グラフおよびレポートで使用できる分析データおよび機能の詳細は、「[アナリティクスの理解](#)」を参照してください。たとえば、 をクリックすることで、表示されているデータを含む CSV ファイルをダウンロードできます。

コレクション・メトリック

サービス管理者は、すべてのコレクションまたは特定のコレクションのコンテンツ・メトリックを表示できます。リポジトリ管理者は、マネージャ・ロールを持つ任意のコレクションのコンテンツ・メトリックを表示できます。コンテンツ・コントリビュータは、コントリビュータ・ロールを持つ任意のコレクションのコンテンツ・メトリックを表示できます。


コレクション・メトリックを表示するには:

1. Oracle Content Management Web アプリケーションに管理者としてサインインしたら、ナビゲーション・メニューの「分析」をクリックします。
2. 「アナリティクス」メニューで、アセットおよびコンテンツをクリックします。
3. 左ペインで「コレクション」をクリックします。
4. デフォルトでは、すべてのコレクションのメトリックが表示されます。特定のコレクションのメトリックまたは特定のリポジトリ内のコレクションのメトリックを表示するには、ページの上にある検索ボックスにコレクションまたはリポジトリ名を入力します。
特定のリポジトリまたはコレクションを選択すると、概要のアセット・メトリックをクリックして、そのリポジトリまたはコレクションのアセットを表示できます。たとえば、コレクションを選択した場合は、「公開済アセット」メトリックをクリックすると「アセット」ページが表示され、選択したコレクションの公開済メトリックのみを確認できます。
5. デフォルトでは、すべてのコンテンツ・タイプのメトリックが表示されます。特定のコンテンツ・タイプのメトリックを表示するには、ドロップダウン・リストからタイプを選択します。

次の表は、コレクションのコンテンツ・メトリックを示しています。

メトリック	説明
コレクション	リポジトリ別にフィルタ処理できるコレクション数。
合計アセット	リポジトリおよびコレクション別にフィルタ処理できるアセットの合計数。 特定のリポジトリまたはコレクションを選択した場合は、このメトリックをクリックすると、「アセット」ページが表示され、選択したリポジトリまたはコレクションのアセットを参照できます。
公開済アセット	リポジトリおよびコレクション別にフィルタ処理できる公開済アセットの数。翻訳されたアセットの各翻訳は別々にカウントされます。 特定のリポジトリまたはコレクションを選択した場合は、このメトリックをクリックすると、「アセット」ページが表示され、選択したリポジトリまたはコレクションの公開済アセットを参照できます。
保留中のアセット	リポジトリおよびコレクション別にフィルタ処理できる保留中のアセット(未公開)の数。アセットは、ドラフト、レビュー中、承認済または翻訳中の状態です。翻訳されたアセットの各翻訳は別々にカウントされます。 特定のリポジトリまたはコレクションを選択した場合は、このメトリックをクリックすると、「アセット」ページが表示され、選択したリポジトリまたはコレクションの保留中のアセットを参照できます。
却下済アセット	公開されていない却下済アセットの数。これは、リポジトリおよびコレクション別にフィルタ処理できます。翻訳されたアセットの各翻訳は別々にカウントされます。 特定のリポジトリまたはコレクションを選択した場合は、このメトリックをクリックすると、「アセット」ページが表示され、選択したリポジトリまたはコレクションの却下済アセットを参照できます。
アセット当たりの平均コレクション・メンバーシップ数	すべてまたは指定されたリポジトリ内の、アセットが属しているコレクションの平均数。

メトリック	説明
コレクション当たりの平均アセット数	すべてまたは指定されたリポジトリのコレクション内のアセットの平均数。
コンテンツ・タイプおよびステータス別のアセット	すべてまたは指定されたリポジトリ内の各コンテンツ・タイプのアセット公開数を示す棒グラフ。
追加されたアセット	時間の経過とともに追加されたアセット数を示す棒グラフ。ドロップダウン・リストを使用して、データを表示する期間を選択します(デフォルトでは、過去 30 日間)。
公開されたアセット	時間の経過とともに公開されたアセット数を示す棒グラフ。ドロップダウン・リストを使用して、データを表示する期間を選択します(デフォルトでは、過去 30 日間)。
上位の収集	上位コレクションのリストであり、コレクションとリポジトリの名前、および各コレクション内の公開済、保留中、却下済および合計アセットの数も示します。

チャート、グラフおよびレポートで使用できる分析データおよび機能の詳細は、「[アナリティクスの理解](#)」を参照してください。たとえば、 をクリックすることで、表示されているデータを含む CSV ファイルをダウンロードできます。

サイトおよびチャネル分析の表示

サイトおよびチャネルのグラフとチャートでは、作成したサイトとチャネルの使用状況、使用率およびトラフィックの分析を参照できます。

Web 分析追跡用の [JavaScript 追跡コード](#) を [サイトおよびページ](#) に追加して、Google、Adobe または Oracle Infinity などの外部のアナリティクス・プロバイダとの統合を容易にすることもできます。

サイトおよびチャネルの統計を表示するには:


1. Oracle Content Management Web アプリケーションに管理者としてサインインしたら、ナビゲーション・メニューの「**分析**」をクリックします。
2. 「**アナリティクス**」メニューで、「**サイトおよびチャネル**」をクリックします。Video Plus がサービスで有効になっている場合、「**一般的な使用方法**」および「**Video Plus**」の 2 つのタブが表示されます。
3. デフォルトでは、「**サイトとチャネル**」ページ(または「**一般的な使用方法**」タブ)に、指定した期間(デフォルトでは過去 30 日間)のすべてのサイトおよびチャネルのデータがすべての言語で表示されます。データをフィルタするには、サイトまたはチャネルの名前、あるいは特定の言語を検索ボックスに入力するか、ドロップダウン・リストから別の期間を選択します。
次の表は、サイトおよびチャネルの一般的な使用方法の統計の要約を示しています。

統計	説明
訪問数	折れ線グラフには、サイトとチャネルに対する一定の日数における訪問数が表示されます。"一意の訪問"がカウントされ、これらは 1 時間以内で一意です。そのため、1 時間以内に 20 回サイトを訪問しても、1 回のみの一意的訪問としてカウントされます。 訪問は各チャネルに対して 60 分の粒度でカウントされます。つまり、訪問者は 1 日に異なる 2 つの時間帯に同じサイトを訪問した場合、2 回の訪問としてカウントされます。

統計	説明
上位の言語	棒グラフには、サイトとチャンネルの訪問における上位 6 の言語が表示されます。
デバイス	円グラフには、サイトとチャンネルの訪問に使用されたデバイスが表示されます。
ブラウザ	円グラフには、サイトとチャンネルの訪問に使用されたブラウザが表示されます。
訪問数最多	棒グラフには、一定の日数において訪問数が最大のサイトとチャンネルが表示されます。
訪問数最少	棒グラフには、一定の日数において訪問数が最小のサイトとチャンネルが表示されます。

4. デフォルトでは、「Video Plus」ページには、指定した期間(デフォルトでは過去 30 日間)のすべてのサイトおよびチャンネルのデータがすべての言語で表示されます。データをフィルタするには、サイトまたはチャンネルの名前、あるいは特定の言語を検索ボックスに入力するか、ドロップダウン・リストから別の期間を選択します。次の表は、サイトおよびチャンネルの Video Plus の統計の要約を示しています。

統計	説明
ビデオ	Video Plus アセットの数。
プレーヤの合計ロード数	ビデオが再生されたかどうかに関係なく、プレーヤがページにロードした回数。
合計再生数	ビデオが再生された回数。
平均完了率	再生されたビデオの平均パーセンテージ。
再生完了	最後まで完了した再生のパーセンテージ。
国	ビデオが再生された国の数。
上位プラットフォーム	この円グラフには、ビデオが表示された上位 5 つのプラットフォームが示されます。
ブラウザ	この円グラフには、ビデオが表示された上位 5 つのブラウザが示されます。
上位の国	この円グラフには、ビデオが表示された上位 5 つの国が示されます。
再生数を基準とした最上位ビデオ・コンテンツ	この表は、再生回数別に上位のビデオを示します。ビデオの名前をクリックしてプレビューします(アセットへのアクセス権がある場合)。
ドロップオフを基準とした最上位ビデオ・コンテンツ	この表は、再生されたビデオのパーセンテージ別に上位のビデオを示します。ビデオの名前をクリックしてプレビューします(アセットへのアクセス権がある場合)。
上位の国	この表は、ビデオが表示された国を再生回数順に示します。
ブラウザ	この表は、ビデオが表示されたブラウザを再生回数順に示します。
プラットフォーム	この表は、ビデオが表示されたプラットフォームを再生回数順に示します。

チャート、グラフおよびレポートで使用できる分析データおよび機能の詳細は、「[アナリティクスの理解](#)」を参照してください。たとえば、 をクリックすることで、表示されているデータを含む CSV ファイルをダウンロードできます。


ファイルおよび会話の統計の表示

ファイルおよび会話の統計ページには、システム・オブジェクトの詳細な統計が表示されます。

ファイルおよび会話のメトリックを表示するには:

1. Oracle Content Management Web アプリケーションに管理者としてサインインしたら、ナビゲーション・メニューの「分析」をクリックします。
2. 「アナリティクス」メニューで、**ファイルおよび会話**をクリックします。

3. 左ペインのページを選択して、次のシステム・オブジェクトの詳細なメトリック、グラフおよびチャートを表示します:
 - ドキュメント
 - 共有リンク
 - 会話

チャート、グラフおよびレポートで使用できる分析データおよび機能の詳細は、「[アナリティクスの理解](#)」を参照してください。たとえば、 をクリックすることで、表示されているデータを含む CSV ファイルをダウンロードできます。

ドキュメント・メトリック


ドキュメント・メトリックを表示するには:

1. Oracle Content Management Web アプリケーションに管理者としてサインインしたら、ナビゲーション・メニューの「**分析**」をクリックします。
2. 「**アナリティクス**」メニューで、**ファイルおよび会話**をクリックします。「ドキュメント」ページがデフォルトで表示されます。
3. デフォルトでは、すべてのグループのメトリックが表示されます。特定のグループのメトリックを表示するには、ページの上にある検索ボックスにグループ名を入力します。

次の表は、「**ドキュメント**」インタフェースを介して表示されるファイルを含むドキュメントの一般統計を示しています。これらの統計では、サイトに関連付けられたアセット、コンテンツ・アイテムおよびファイルは除外されます。

統計	説明
概要メトリック	<ul style="list-style-type: none"> • ドキュメントの合計数: 現在システムにあるドキュメントの合計数を示します。 • 過去 30 日間に作成済: 過去 30 日間に作成されたドキュメントの数を示します。 • 1 日当たりの追加されたドキュメントの平均数: 過去 30 日間に基づいて、1 日当たりに追加されたドキュメントの平均数を示します。 • 1 日当たりの追加された平均コンテンツ・サイズ: 過去 30 日間に基づいて、1 日当たりに追加されたコンテンツの平均量を MB 単位で示します。 • ユーザー当たりの平均ドキュメント数: 過去 30 日間に基づいて、各ユーザーが所有するドキュメントの平均数を示します。 <p>ファイルをアップロードすると、複数のファイルが作成および格納されることがあります。たとえば、イメージをアップロードすると、そのイメージの複数の解像度が作成および格納されます。ファイルはすべて、ドキュメントの合計数に含まれます。</p> <p>ファイルを削除した結果、ドキュメント数が減少します。</p>

統計	説明
チャート	<ul style="list-style-type: none"> ドキュメントの月別合計数 棒グラフは、過去 12 か月間のシステム内のドキュメントの合計数を示します。 ドキュメント更新 vs 新規ドキュメント 棒グラフは、ドロップダウン・リストで選択した期間の、1 日当たりに更新されたドキュメント数と追加された新規ドキュメント数を示します。ファイル・タイプでグラフをフィルタすることもできます。 合計ドキュメント・コンテンツ・サイズ(MB) 棒グラフは、現在システムにあるコンテンツの合計量を MB 単位で示します。 1 日当たりのコンテンツの量(MB) 棒グラフは、ドロップダウン・リストで選択した期間の、1 日当たりのシステム内のコンテンツの量を MB 単位で示します。 月別ドキュメント・ビュー 棒グラフは、過去 12 か月間のユーザーが 1 か月当たりにドキュメントを表示した回数を示します。 日別ドキュメント・ビュー 棒グラフは、ドロップダウン・リストで選択した期間の、ユーザーが 1 日当たりにドキュメントを表示した回数を示します。 ユーザー当たりのドキュメント数 折れ線グラフは、過去 12 か月間のユーザーごとのドキュメントの数を示します。 未使用月数ごとの未使用ドキュメント数 棒グラフは、アクティビティ (表示、ダウンロードまたは更新)がないドキュメントの数を、アクティビティがない期間(3 か月から 3 年)ごとにグループ化して示します。

チャート、グラフおよびレポートで使用できる分析データおよび機能の詳細は、「[アナリティクスの理解](#)」を参照してください。たとえば、 をクリックすることで、表示されているデータを含む CSV ファイルをダウンロードできます。

共有リンク・メトリック


共有リンク・メトリックを表示するには:

- Oracle Content Management Web アプリケーションに管理者としてサインインしたら、ナビゲーション・メニューの「**分析**」をクリックします。
- 「**アナリティクス**」メニューで、**ファイルおよび会話**をクリックします。
- 左ペインで「**共有リンク**」をクリックします。
- デフォルトでは、すべてのグループのメトリックが表示されます。特定のグループのメトリックを表示するには、ページの上部にある検索ボックスにグループ名を入力します。

次の表は、共有リンクの一般統計について説明しています

統計	説明
概要メトリック	<ul style="list-style-type: none"> 共有リンクの合計数 過去 30 日間に作成済 ユーザー当たりの平均共有リンク 共有されたドキュメントの割合

統計	説明
チャート	<ul style="list-style-type: none"> • 共有リンクの月別合計数 折れ線グラフには、過去の 12 か月間にシステムに存在した共有リンクの総数が表示されます。 • 1 日当たりの共有リンク数 棒グラフには、ドロップダウン・リストで選択した期間の、1 日当たりによりユーザーによって共有されたリンクの数が表示されます。 • ユーザー当たりの共有リンク数 • 1 か月当たりのアクティブ・ユーザー vs 共有リンク・ユーザー

チャート、グラフおよびレポートで使用できる分析データおよび機能の詳細は、「[アナリティクスの理解](#)」を参照してください。たとえば、 をクリックすることで、表示されているデータを含む CSV ファイルをダウンロードできます。


会話メトリック

会話メトリックを表示するには:

1. Oracle Content Management Web アプリケーションに管理者としてサインインしたら、ナビゲーション・メニューの「**分析**」をクリックします。
2. 「**アナリティクス**」メニューで、**ファイルおよび会話**をクリックします。
3. 左ペインで「**会話**」をクリックします。
4. デフォルトでは、すべてのグループのメトリックが表示されます。特定のグループのメトリックを表示するには、ページの上にある検索ボックスにグループ名を入力します。

次の表は、会話の一般統計について説明しています

統計	説明
概要メトリック	<ul style="list-style-type: none"> • 会話の合計数 • 過去 30 日間に作成済 • 会話当たりの平均ユーザー数 • ユーザー当たりの平均作成済会話数
チャート	<ul style="list-style-type: none"> • 会話の月別合計数 折れ線グラフには、過去の 12 か月間にシステムに存在した会話の総数が表示されます。 • 1 日当たりの新規会話数 棒グラフには、ドロップダウン・リストで選択した期間の、1 日当たりにより作成された新規会話の数が表示されます。 • ユーザー別作成済会話数 • ユーザーがメンバーである会話の数 • 1 か月当たりの一意の入力済会話 棒グラフには、月当たりによりユーザーが入力した一意の会話の数が表示されます。 • 1 日当たりの一意の入力済会話 棒グラフには、ドロップダウン・リストで選択した期間の、1 日当たりによりユーザーが入力した一意の会話の数が表示されます。

チャート、グラフおよびレポートで使用できる分析データおよび機能の詳細は、「[アナリティクスの理解](#)」を参照してください。たとえば、 をクリックすることで、表示されているデータを含む CSV ファイルをダウンロードできます。

キャプチャ・メトリックの表示

コンテンツ・キャプチャ・メトリックでは、個々のドキュメントおよび監査履歴のコンポジット・データが表示されます。メトリックには、キャプチャされる内容と、ユーザーによるコンテンツ・キャプチャの効率的な使用方法が表示されます。

ユーザーのキャプチャ・アクティビティで [レポートを表示](#) すると、コンテンツ・キャプチャがどのように使用されているかを把握することもできます。


キャプチャ・メトリックを表示するには:

1. Oracle Content Management Web アプリケーションに管理者としてサインインしたら、ナビゲーション・メニューの「[分析](#)」をクリックします。
2. 「[アナリティクス](#)」メニューで、「[キャプチャ](#)」をクリックします。
3. デフォルトでは、「[キャプチャ](#)」ページには過去 7 日間のデータが表示されます。別の期間のデータを表示するには、ドロップダウン・リストからこれを選択します。

次の表は、キャプチャのメトリックの要約を示しています。

統計	説明
概要メトリック	<ul style="list-style-type: none"> • 処理されたドキュメントの合計: すべてのプロシージャで処理されたドキュメント(バッチではない)の合計数。 • ユーザーの数: Content Capture 内でキャプチャ管理者またはキャプチャ・クライアントのアプリケーション・ロールを持つユーザーの数。 • 定義されたソースの合計: バッチを作成したすべてのプロシージャにわたるインポート・プロセッサの合計数。 • 処理されたドキュメントの合計(OCR): OCR が適用されているドキュメントの合計数。 • 認識された合計ドキュメント数: バー・コード認識プロセスが完了した合計ドキュメント数。 • 取得されたドキュメントのタイプ: キャプチャされたファイル形式の固有の数。
チャート	<ul style="list-style-type: none"> • 取得された日次ドキュメント: 折れ線グラフに、ファイル、電子メール、スキャナなどのソースを使用して毎日キャプチャされたドキュメントのデータが示されます。 • ドキュメントのソース: 円グラフに、ユーザーがドキュメントをキャプチャするために使用した各種ソースの分布が示されます。ソースは、電子メール、ファイル・フォルダおよびスキャナです。 • ドキュメント - OCR 使用状況: このグラフは、(合計ドキュメント数のうち)ユーザーが OCR を適用したドキュメント数を示します。 • スキャンされた合計ドキュメント数(ユーザー別): このグラフには、処理されたドキュメントのユーザー・データ(日次平均、現在までのユーザー当たりのドキュメント合計)が示されます。見やすくなるように、上位 10 人のユーザーでフィルタ処理されています。全体的なデータはダウンロード可能です。

統計	説明
アクティビティの取得	<ul style="list-style-type: none"> • インポート・プロセッサ: インポート・プロセッサが使用されている場合、プロセッサの名前。 • プロセッサ・タイプ: 使用されているインポート・プロセッサのタイプ (電子メール、ファイル・フォルダまたはクライアント)。 • プロセス: インポート・プロセッサが定義されているプロセスの名前。 • 取得されたドキュメント: インポート・プロセッサを使用してキャプチャされたドキュメントの合計数。 • OCR 化されたドキュメント: OCR が適用されているドキュメントの合計数。 • 変換されたドキュメント: 変換されたキャプチャ済ドキュメントの合計数。 • 認識されたドキュメント: バー・コード認識が実行されたキャプチャ済ドキュメントの合計数。

チャート、グラフおよびレポートで使用できる分析データおよび機能の詳細は、「[アナリティクスの理解](#)」を参照してください。たとえば、 をクリックすることで、表示されているデータを含む CSV ファイルをダウンロードできます。

レポートとメトリックの表示

ユーザーとドキュメントの使用状況に関するレポートを表示し、システムの使用状況を理解できます。


1. Oracle Content Management Web アプリケーションに管理者としてサインインしたら、ナビゲーション・メニューの「**分析**」をクリックします。
2. 「**アナリティクス**」メニューで、「**レポートとメトリック**」をクリックします。
3. レポートを選択します。

レポート	説明
ユーザー・リスト	<p>Oracle Content Management インスタンスの各ユーザーに関する基本的なシステム情報を示します。レポートはユーザー ID (電子メール・アドレス)順に表示されます。</p> <ul style="list-style-type: none"> • オブジェクト ID - システムで割り当てられたユーザー・オブジェクトの数値 ID。 • GUID—システムで割り当てられたユーザーの数値 ID。これは、システム内のユーザーの一意識別子で、 / ServiceRoot/GUID/ の形式です。ユーザー・インタフェースでは、これらはユーザーの名前にデコードされますが、エクスポートされたレポートにはユーザーの名前は表示されません。 • ユーザー - ユーザー名(通常は電子メール・アドレス)。 • ユーザー名 - ユーザーの表示名。 • 有効 - ユーザーがシステムで有効(T)か無効(F)かを示します。 • サービス管理者 - ユーザーのロールを示します。T は、ユーザーにロールが割り当てられていることを示します。F は、ユーザーにロールが割り当てられていないことを示します。すべてのユーザー・ロール・エンティティが F の場合、そのユーザーは追加ロールを持たない従業員です。
デバイス・タイプ別ユーザー・ログイン	<p>各ユーザーと、各クライアント/デバイスを使用したログインの回数を示します。レポートはユーザー名順に表示されます。</p>

レポート	説明
ドキュメント使用ログ	<p>過去 3 か月間のシステム内のドキュメントに関する次の情報が表示されます:</p> <ul style="list-style-type: none"> • アクティビティ - 実行されたアクティビティのタイプ(アップロード、表示、ダウンロード、削除)。 • 日付—アクティビティが実行された日付(UTC タイムゾーンに基づく)。 • ユーザー名 - アクティビティを実行したユーザー。 • タイプ - アクティビティのターゲット(ファイルまたはフォルダ)。 • 親 - 親フォルダの名前。 • 名前 - ファイルまたはフォルダの名前。 • GUID - ファイルまたはフォルダの一意的識別子。 • ファイル・サイズ - ファイルのサイズ(メガバイト単位)。 <p>このレポートは、日付範囲、ユーザー、ファイルまたはフォルダの名前、GUID アクションおよびステータス(すべてのファイル、アクティブなファイル、または削除されたファイル)でフィルタできます。</p> <p>CSV を Microsoft Excel にダウンロードする場合、列はすべてソート可能です。画面上のレポートの場合、アクティビティ日付の降順にソートされます(最近のアクティビティが一番上)。他のフィールドは画面上でソートできません。</p>
アセット・アクティビティ	<p>アセット・イベントについて次の情報が表示されます:</p> <ul style="list-style-type: none"> • アセット—アセットの名前および ID。アセットを表示するには名前をクリックします。 • コンテンツ・タイプ—アイテムに基づくコンテンツ・タイプ、またはデジタル・アセット。 • アクティビティ—発生したアクティビティのタイプ。 • アクティビティ 詳細—アクティビティの仕様。 • バージョン—アセットのバージョン。 • 実行者—アクティビティを実行したユーザー。 • 日付—アクティビティが実行された日時(UTC タイムゾーンに基づく)。 <p>リポジトリ、日付、アクティビティ・タイプおよびコンテンツ・タイプでフィルタできます。特定のアセットまたはイベントを検索することもできます。CSV を Microsoft Excel にダウンロードする場合、列はすべてソート可能です。画面上のレポートの場合、日付の降順にソートされます(最近のアクティビティが一番上)。他のフィールドは画面上でソートできません。</p>

レポート	説明
ユーザー・アクティビティ	<p>指定した期間について、ユーザー・アクティビティに関する次の情報が表示されます:</p> <ul style="list-style-type: none"> • オブジェクト—アクティビティが実行されたオブジェクトの名前と GUID。 • オブジェクト・タイプ—デジタル・アセット、コンテンツ・アイテム、リポジトリなどのオブジェクトのタイプ。 • 親—オブジェクトが格納されているリポジトリ。 • アクティビティ—発生したアクティビティのタイプ。 • アクティビティ 詳細—アクティビティの仕様。 • バージョン—アセットのバージョン。 • 実行者—アクティビティを実行したユーザー。 • 日付—アクティビティが発生した日時。 <p>レポートは、日付、ユーザー、アクティビティ・タイプまたはオブジェクト・タイプでフィルタできます。特定のユーザー、アクティビティまたはオブジェクトを検索することも可能です。</p>
アクティビティの取得	<p>次のドロップダウン・リストから、「アセット」、「ビジネス・アセット」または「ドキュメント」を選択します。指定した期間のユーザー・アクティビティに関する次の情報を、日付の降順にソートして(最近のアクティビティが一番上)表示します:</p> <ul style="list-style-type: none"> • アセットまたはドキュメント—アセットまたはドキュメントの名前および ID。 • コンテンツ・タイプ—アイテムまたはドキュメントに基づくコンテンツ・タイプまたはデジタル・アセット。 • アクティビティ—発生したアクティビティのタイプ。 • アクティビティ 詳細—アクティビティの仕様。 • バージョン—アセットのバージョン。 • 実行者—アクティビティを実行したユーザー。 • 日付—アクティビティが実行された日時(UTC タイムゾーンに基づく)。 <p>リポジトリ、日付およびアクティビティ・タイプ別にフィルタしたり、特定のアクティビティを検索できます。ビジネス・アセットを選択した場合、コンテンツ・タイプでフィルタすることもできます。</p>

デバイス・タイプ別ユーザー・リストおよびユーザー・ログインのレポートは、Oracle Content Management インスタンスの履歴全体に基づきます。ドキュメント使用ログ、アセット・アクティビティ、ユーザー・アクティビティおよびアクティビティのキャプチャのレポートは、過去 3 か月のアクティビティに基づいています。

チャート、グラフおよびレポートで使用できる分析データおよび機能の詳細は、「[アナリティクスの理解](#)」を参照してください。たとえば、 をクリックすることで、表示されているデータを含む CSV ファイルをダウンロードできます。

Oracle Content Management サブスクリプションのタイプに応じて、**Infrastructure** コンソールまたは **Infrastructure Classic** コンソールで追加のメトリックを表示できます:

- **Oracle Cloud Infrastructure (OCI)上で実行され、Infrastructure コンソールで管理されている Oracle Content Management**
- **Oracle Cloud Infrastructure (OCI)上に構築され、Infrastructure Classic コンソールで管理されている Oracle Content Management**
- **Oracle Cloud Infrastructure Classic 上の Oracle Content Management**
- **政府向け Oracle Content Management**
- **SaaS 向け Oracle Content Management**
- **Oracle Content Management 権限付与の非従量制サブスクリプション**

7

サービスのモニター

次の方法でサービスをモニターできます：

- [請求および使用状況メトリックを表示](#)。
- [Web 分析追跡コードをサイトおよびページに追加](#)した場合、ベンダーのサイト(Google、Adobe または Oracle Infinity)で分析を表示できます。
- [サービス使用状況統計を表示](#)。

問題が発生した場合、オラクル社カスタマ・サポートに[問題を報告](#)できます。


ノート:


2019 年 9 月より前にサブスクリプションを購入した場合、サービスのモニター方法が異なる可能性があります。[レガシー環境での Oracle Content Management の管理](#)を参照してください。

請求と使用状況のモニター

Infrastructure コンソールには、Oracle Content Management の請求、サービス・コストおよび使用状況のモニターを容易にする様々な請求および支払ツールがあります。

請求および使用状況を表示するには、次のステップを実行します：

1. クラウド・アカウント管理者として [Oracle Cloud](#) にサインインします。アカウント名とログイン情報は、ようこそ電子メールに記載されています。
2. Infrastructure コンソールで  をクリックし、「ガバナンスと管理」で「**アカウント管理**」を展開して、次のオプションのいずれかをクリックします：
 - **コスト分析**: 支出の追跡と最適化に役立つ、使いやすい視覚化ツールを提供します。
 - **支払方法**: 使用状況に対する支払いの方法を簡単に管理できます。
 - **請求書**: 使用状況に対する請求書を表示およびダウンロードします。
 - **予算**: 支出のしきい値を設定します。予算にアラートを設定して、予算を超える可能性があるときに通知を受けることができます。また、予算と支出のすべてを 1 箇所から表示できます。
[Oracle Content Management-特定の請求制限](#)も設定できます。
 - **使用状況レポート**: 監査または請求書照合用にリソースの詳細な内訳が得られる、カンマ区切り値(CSV)ファイルを表示します。

 ノート:

使用状況レポートに初めてアクセスする際、ルート・コンパートメントにポリシーを作成する必要があります。「使用状況レポート」ページの手順に従ってポリシーを作成し、指示どおり文をコピーします。

請求および支払ツールの詳細は、「[請求および支払ツールの概要](#)」を参照してください。

問題の報告

問題が発生した場合、ユーザー支援にアクセスするか、Oracle Cloud コミュニティの支援を受けるか、サポートに連絡するか、Oracle サポート担当者とのライブ・オンライン・チャットを開始することができます。

Infrastructure コンソールで、 をクリックして次のアクションを実行します:

- ドキュメントまたは Oracle Cloud コミュニティにアクセスするには、「ヘルプ」の下のいずれかのリンクをクリックします。
- Oracle サポートに連絡する様々な方法を表示するには、「**サポートに連絡**」をクリックします。
- Oracle サポート担当者とのライブ・オンライン・チャットを開始するには、「**ライブ・チャット**」をクリックします。

A

トラブルシューティング

この項では、Oracle Content Management の管理機能のトラブルシューティングについて説明します。

- 「管理」ページにアクセスできません
- ユーザーが自分のアカウントにファイルを追加できません
- ユーザーのストレージ割当て制限を変更する必要があります
- 別のユーザーのファイルを再割当てする必要があります
- ユーザーを作成しましたが、そのユーザーがシステムに見つかりません
- 購入数を超えるユーザーにロールを付与しました
- ユーザーは同期クライアントを使用してサービスに接続できません
- 誰がファイルまたはフォルダを削除したのかを明らかにする必要があります

「管理」ページにアクセスできません

サービス・インスタンスに対する Oracle Content Management 管理ロールが付与されていることを確認します。

1. **Oracle Cloud** にサインインします。アカウント名とログイン情報は、ようこそ電子メールに記載されています。
2. **Infrastructure** コンソールで、左上の  をクリックしてナビゲーション・メニューを開き、「**アイデンティティとセキュリティ**」をクリックし、「**アイデンティティ**」で、「**フェデレーション**」をクリックします。
3. 「**フェデレーション**」ページで **OracleIdentityCloudService** をクリックしてから、「**アイデンティティ・プロバイダの詳細**」ページで **Oracle Identity Cloud Service Console** へのリンクをクリックします。IDCS コンソールが新しいウィンドウで開きます。
4. IDCS コンソールで、 をクリックし、「**アプリケーション**」をクリックします。
5. 確認するサービスの名前をクリックします。
6. ユーザー名を見つけて、ロールにカーソルを合せると、割り当てた **アプリケーション・ロール** がすべて表示されます。次のロールには、管理ページへの様々なアクセス権が含まれています：
 - CECServiceAdministrator
 - CECDeveloperUser
 - CECContentAdministrator
 - CECRepositoryAdministrator

ユーザーが自分のアカウントにファイルを追加できません

サブスクリプションの購入時には、ユーザー数と記憶領域の量を指定できます。記憶領域制限に達すると、ファイルを追加できなくなります。ユーザーにファイルを削除してもらったか、記憶領域を追加購入する必要があります。

ユーザーのストレージ割当て制限を変更する必要があります

ユーザーのストレージ割当て制限を変更する必要がある場合、システム設定で変更できます。

ユーザーに割り当てるストレージ容量のデフォルトのユーザー割り当て制限を設定できます。特定のユーザーのデフォルトをオーバーライドする必要がある場合は、次の手順を使用して実行できます。

1. Oracle Content Management Web アプリケーションに管理者としてサインインしたら、ナビゲーション・メニューの「管理」領域の「システム」をクリックします。
2. 「システム」メニューで、「ユーザー」をクリックします。
3. 設定をオーバーライドするユーザーを検索し、ユーザー名の横の「編集」をクリックします。
4. 「ユーザー割当て制限」ボックスに、割当て制限容量を GB 単位で入力し、「保存」をクリックします。
ユーザーが使用したストレージの大きさが消費ストレージの横に表示されます。

別のユーザーのファイルを再割当てする必要があります

あるユーザーが組織を退社した場合またはロールが変更になった場合、そのファイルおよびフォルダを別のユーザーに割り当てて、その記憶領域を割当てに使用可能な合計割当て制限に追加できます。ユーザーのコンテンツの全ライブラリを他のユーザーに割り当てることができます。コンテンツは新しいユーザーのルート・フォルダにフォルダとして表示されます。すべての共有アクション(メンバー、パブリック・リンクなど)は、そのまま残ります。

1. Oracle Content Management Web アプリケーションに管理者としてサインインしたら、ナビゲーション・メニューの「管理」領域の「システム」をクリックします。
2. 「システム」メニューで、「ユーザー」をクリックします。
3. 次のいずれかの方法を使用して、移管するファイルの所有者であるユーザーを検索します。
 - アクティブなユーザーを検索するには、「検索」タブでテキスト・ボックスにユーザー名、表示名または電子メール・アドレスの一部を入力し、「検索」を

クリックします。ユーザー名をクリックするか、ユーザーの横にある「編集」をクリックして、ユーザー・プロパティを開きます。

- プロビジョニング解除されたユーザーを検索するには、「**プロビジョニング解除されたユーザー**」タブをクリックします。組織のシステムから削除されたすべてのユーザーのリストが、名前でソートされて表示されます。このリストは定期的にリフレッシュされますが、「**プロファイル・データの同期**」をクリックして、手動で更新することもできます。
削除されたすべてのユーザーの CSV ファイルをダウンロードするには、「**プロビジョニング解除されたユーザーのエクスポート**」をクリックします。
- 4. 「**所有権の移管**」をクリックします。アクティブなユーザーの場合、ボタンはプロパティの下部にあります。プロビジョニング解除されたユーザーの場合、ユーザーの横にあるボタンをクリックします。
- 5. コンテンツを受け取るユーザーのユーザー名、表示名または電子メール・アドレスの一部を入力し、「**検索**」をクリックします。
- 6. コンテンツの移管先のユーザーを選択します。転送されるコンテンツの大きさだけ受信者の割当て制限が増加するというメッセージが表示されます。また、解放されて再び使用可能な合計割当て制限に追加されるストレージの大きさも表示されます。
- 7. 「**転送**」をクリックします。コンテンツが転送されて、プロビジョニング解除されたアカウントが失われたことがリストに示されます。

または、プロビジョニング解除されたユーザーの場合、コンテンツを削除できます。「**プロビジョニング解除されたユーザー**」タブで、削除対象のコンテンツを持つユーザーの横にある「**コンテンツの削除**」をクリックします。

ユーザーは、独自のフォルダの所有権を移管することもできます。

ユーザーを作成しましたが、そのユーザーがシステムに見つかりません

ユーザーは、システムにサインインする時にプロビジョニングされます。ユーザーがサインインすると、管理ページにユーザー名が表示されます。

購入数を超えるユーザーにロールを付与しました

アイデンティティ・ドメインでは、ロールを割り当てられるユーザーの数は制限されませんが、サービスが購入した制限に達すると、一部のユーザーのプロビジョニングを解除するか、追加のユーザーを購入しないかぎり、それ以上のユーザーがサインインできなくなります。

ユーザーは最初のサインインでプロビジョニングされるため、これは、サインイン順で処理されます。


ユーザーは同期クライアントを使用してサービスに接続できません

中間者(MITM)プロキシを使用する場合は、自己署名 MITM プロキシを Java キー・ストアにコピーする必要があります。この問題についての支援が必要な場合は、Oracle サポートに連絡してください。

誰がファイルまたはフォルダを削除したのかを明らかにする必要があります

過去 3 か月間でファイルまたはフォルダが削除されたときに、誰が削除したのかを明らかにする必要があります。ドキュメント使用ログを参照できます。

1. Oracle Content Management Web アプリケーションに管理者としてサインインしたら、ナビゲーション・メニューの「**分析**」をクリックします。
2. 「**分析**」メニューで、「**レポートとメトリック**」を選択します。
3. 「**ドキュメント使用ログ**」を選択します。
4. 日付範囲(過去 3 か月以内)を設定します。ドキュメント使用ログでは、過去 3 か月間のアクティビティのみが報告されます。
5. 「アクション」リストで、「**ごみ箱に移動**」または**リビジョンをごみ箱に移動**を選択し、「**リフレッシュ**」をクリックします。

 をクリックし、CSV ファイルとしてデータをエクスポートします。

B

サポートされているソフトウェア、デバイス、言語およびファイル形式

Oracle Content Management は、様々な Web ブラウザ、ソフトウェア、デバイス、言語およびファイル形式をサポートしています。

- サポートされている Web ブラウザ
- サポートされているソフトウェア
- サポートされるモバイル・デバイス
- サポートされている言語
- サポートされているファイル形式

サポートされている Web ブラウザ

Oracle Content Management は、次の 4 つの主要ブラウザのリリース時に最新のバージョンをサポートしています：

- Google Chrome
- Mozilla Firefox
- Microsoft Edge
- Apple Safari

詳細は、「[Oracle Software Web Browser Support Policy](#)」を参照してください。

ドキュメントまたはフォルダのリンクを共有する場合、Microsoft Edge のユーザーは、「**リンクの表示**」ボタンを使用して、ダイアログに表示されたリンクをコピーする必要があります。

サポートされているソフトウェア

Oracle Content Management は次のソフトウェアをサポートしています：

- Microsoft Windows 7、8.1 および 10 (32 ビットおよび 64 ビット)

ノート：

Oracle Content Management は Internet Explorer の埋込みブラウザ・コントロールに依存するため、システムに Internet Explorer 11 以上がインストールされている必要があります。Internet Explorer をブラウザとして使用する必要はありません。

- Microsoft Office 2016 および 2019
- Microsoft Outlook 2016 および 2019

- Microsoft 365 (別名 Office 365)
- Apple macOS Sierra (10.12)、High Sierra (10.13)、Mojave (10.14)、Catalina (10.15) および Big Sur (11)

ノート:

macOS High Sierra (10.13)以上で使用可能な新しい Apple File System (APFS)がサポートされています。HFS+の古いファイル・システムを APFS にアップグレードした場合は、デスクトップ・アプリケーションの「プリファレンス」メニューを使用して Oracle Content の旧アカウントを削除し、新しい APFS ボリュームに再度追加する必要があります。

サポートされるモバイル・デバイス

Oracle Content Management モバイル・アプリケーションは、次のデバイスで動作します:

- iOS 12 以上が実行されている Apple iPhone
- iOS 12 が実行されている Apple iPads または iPadOS 13 以上
- Android 7.0 以上が実行されている Android フォンおよびタブレット

サポートされている言語

Oracle Content Management は、Web インタフェース、デスクトップ・アプリケーションおよびモバイル・アプリケーションを対象としてローカライズされたユーザー・エクスペリエンスを提供します。次の言語を使用できます。

- チェコ語(cs)
- デンマーク語(da)
- ドイツ語(de)
- ギリシャ語(el)
- 英語(en)
- スペイン語(es)
- フィンランド語(fi)
- フランス語(fr)
- フランス語 - カナダ(fr_CA)
- ハンガリー語(hu)
- イタリア語(it)
- 日本語(ja)
- 韓国語(ko)
- オランダ語(nl)
- ノルウェー語 - ブークモール (no、nb_NO)
- ポーランド語(pl)
- ポルトガル語(pt)
- ポルトガル語 - ブラジル(pt_BR)
- ルーマニア語(ro)
- ロシア語(ru)
- スロバキア語(sk)
- スウェーデン語(sv)
- タイ語(th)
- トルコ語(tr)
- 中国語 - 簡体字(zh_CN)
- 中国語 - 繁体字(zh_TW)

表の言語は、ユーザー・インタフェースとヘルプ・コンテンツのみを参照しています。Oracle Content Management では、ドキュメント・コンテンツ、ファイル名、変換メッセージなどを多くの追加言語で処理できます。Oracle Content Management で作成するサイトおよびコンテンツ・アイテムについて、選択する言語の翻訳を提供できます。

Web インタフェース

デフォルトでは、Web インタフェースの言語は Web ブラウザのロケールにあわせて設定されていますが、ユーザーは(「一般」 ページ上の)ユーザー・プリファレンスでこれらをオーバーライドできます。ユーザーが言語設定を変更しても、これらの変更は次のサインイン時までは有効になりません。Collaborating on Documents with Oracle Content Management のプロファイルと設定のカスタマイズを参照してください。

Web ブラウザのロケール設定が使用可能でない場合、サービス管理者が、使用するフォールバック言語を構成できます。デフォルトのタイム・ゾーンおよび言語の設定を参照してください。

デスクトップ・アプリケーションとモバイル・アプリケーション

デスクトップ・アプリケーションおよびモバイル・アプリケーションのユーザー・インタフェース言語は、オペレーティング・システムに設定されているユーザー・ロケールに基づいて自動的に設定されます。この言語設定はオーバーライドできません。たとえば、ユーザーが Microsoft Windows のスペイン語バージョンでデスクトップ・アプリケーションを実行している場合、デスクトップ・アプリケーションもスペイン語になります。

Mac コンピュータのデスクトップ・アプリケーションでは、タイ語はサポートされていません。

サポートされているファイル形式

Oracle Content Management では、Web クライアントまたはモバイル・アプリケーションで多種多様なファイルのコンテンツを直接表示または再生できます。

サポートされているオーディオおよびビデオ用ファイル形式

次にベスト・プラクティスの一部を示します。

- 使用する形式は MP4 が最適です。
- ファイル・サイズは 10MB 未満にしてください。10MB を超えるファイルは全文索引付けされません。
- ファイルの最大アップロード・サイズは 5GB です。
- ファイル名は、Windows および Macintosh でサポートされている文字と長さに制限されます。

Web クライアント: HTML5 <video>要素をサポートしているブラウザで Web クライアントを表示する場合、サポートされているビデオ形式は Oracle Content Management のインタフェースで直接再生されます。他のブラウザで Web クライアントを表示し、サポートされていないビデオ形式を表示する場合、Oracle Content Management のインタフェースの外部でファイルをダウンロードして表示する必要があります。

直接表示するために次の形式がサポートされています。

- Chrome: mp4、WebM および Ogg
- Firefox: mp4、WebM および Ogg

- Safari: mp4

iPhone/iPad アプリケーション:

- ビデオ形式: mp4、m4v、mov
- オーディオ形式: mp3、aac、wav (iPhone のボイス・メモ用)、mov
一部の mov 形式を表示できない場合があります。

Android アプリケーション:

- ビデオ形式: 3gp、mp4、webm、mkv
- オーディオ形式: mkv、ogg、imy、ota、rtttl、rtx、mp3、3gp、flac、mid、xmf、mxmf、aac、m4a、wav

サポートされているイメージおよびビジネス用ファイル形式

拡張子	説明	全文索引付け
psd	Adobe Photoshop	
dwg	AUTOCAD	
bmp	ビットマップ・イメージ	
vcal	カレンダー	
vcard	連絡先(電子名刺)	
cdr	CorelDRAW	
wpd	Corel WordPerfect	
shw	Corel WordPerfect プレゼンテーション	
qpw	Corel WP Quattro	
msg、eml	電子メール(各種)	
eps	Encapsulated Postscript	
gif	GIF イメージ	
url	インターネット・ショートカット・ファイル	
jp2、jpg、jpeg	JPEG イメージ	
123	Lotus 1-2-3	
lwp	Lotus WordPro	
webloc	Mac インターネット・ショートカット・ファイル	
htm、html	Hypertext Markup Language (HTML)ファイル	
xml	eXtensible Markup Language (XML)ファイル	
xlt、xltx	Microsoft Excel テンプレート	
xls、xlsx	Microsoft Excel ワークブック	
ppt、pptx	Microsoft PowerPoint プレゼンテーション	

拡張子	説明	全文索引付け
sldx	Microsoft PowerPoint スライド	
pot、 potx	Microsoft PowerPoint テンプレート	✓
vsd、 vst、 vss、 vsw	Microsoft Visio	
doc、 docx	Microsoft Word ドキュメント	✓
dot、 dotx	Microsoft Word テンプレート	✓
wri	Microsoft Write	
ods、 odp、 odt、 ott、 ots、 otg、 otp	OpenOffice/LibreOffice ドキュメント	✓
png	PNG イメージ	
pdf	Portable Document Format (Adobe Acrobat)	✓
ps	Postscript	
rtf	リッチ・テキスト形式	✓
txt*、 text*、 list、 log、 c、 cpp、 h、 java、 json、 key、 bat、 sh、 m、 md、 mm、 plist	プレーン・テキスト・ファイル (各種)	* ✓
tif、 tiff	TIFF イメージ	

C

サービス制限、割当ておよびイベント

この項では、Oracle Content Management のサービス制限、割当て制限、ポリシーおよびイベントについて説明します。

- [サービス制限](#)
- [サービス割当て](#)
- [サービス・ポリシー](#)
- [サービス・イベント](#)

サービス制限

Oracle Content Management には、様々なデフォルト制限があります。Oracle Content Management インスタンスを作成する場合は必ず、システムによってリクエストが制限の境界内であることが確認されます。

必要な場合は、Infrastructure コンソール内の**制限、割当ておよび使用状況**ページから、制限を引き上げるリクエストを送信できます。[サービスの制限および使用状況について](#)を参照してください。

この表には、Oracle Content Management のデフォルトのサービス制限がリストされています。

リソース制限	制限の短縮名	デフォルト値	説明
Oracle Content Management サービスの最大値	max-services-count-per-tenant	100	テナント当たり作成できる Oracle Content Management インスタンスの最大数。

サービス割当て

割当て制限を使用して、他のユーザーが Oracle Cloud Infrastructure のコンパートメント間で Oracle Content Management リソースを割り当てる方法を決定できます。Oracle Content Management インスタンスを作成する場合は必ず、システムによってリクエストがそのコンパートメントの割当ての境界内であることが確認されます。

Infrastructure コンソールのサービス割当てでは、コンパートメントの詳細ページから管理できます。[コンパートメントの割当てについて](#)を参照してください。

この表には、Oracle Content Management のサービス割当てがリストされています。

割当て名	スコープ	説明
oce-instance-count	リージョナル	Oracle Content Management インスタンスの数

Oracle Content Management の割当て文の例

- MyCompartment でユーザーが作成できる Oracle Content Management インスタンスの数を 10 に制限します。

```
Set oce quota oce-instance-count to 10 in compartment MyCompartment
```

サービス・ポリシー

認可ポリシーを使用してテナンシ内のリソースへのアクセスを制御します。たとえば、ユーザーに Oracle Content Management インスタンスの作成と管理を認可するポリシーを作成できます。

Infrastructure コンソールを使用してポリシーを作成します。[ポリシーの管理](#)を参照してください。

次の情報は、Oracle Content Management のサービス・ポリシーに関連しています：

- [Oracle Content Management のリソース・タイプ](#)
- [サポートされている変数](#)
- [動詞とリソース・タイプの組合せの詳細](#)
- [API 操作ごとに必要な権限](#)
- [Oracle Content Management インスタンスを管理するためのポリシー文の例](#)

Oracle Content Management のリソース・タイプ

この表は、Oracle Content Management のリソース・タイプをリストしています。

リソース・タイプ	説明
oce-instance	単一の Oracle Content Management インスタンス。
oce-instances	1 つ以上の Oracle Content Management インスタンス。
oce-workrequest	Oracle Content Management の単一の作業リクエスト。 Oracle Content Management インスタンスで実行する操作ごとに、作業リクエストが作成されます。たとえば、作成、更新、終了などの操作です。
oce-workrequests	Oracle Content Management の 1 つ以上の作業リクエスト。

サポートされている変数

これらの変数の値は、Oracle Content Management から提供されています。さらに、他の一般的な変数もサポートされています。[すべてのリクエストの一般的な変数](#)を参照してください。

この表は、Oracle Content Management でサポートされている変数をリストしています。

変数	タイプ	説明	サンプル値
target.compartment.id	エンティティ	リクエストのプライマリ・リソースの OCID。	target.compartment.id = 'ocid1.compartment.oc1..<unique_ID>'
request.operation	文字列	リクエストの操作 ID(たとえば、'GetUser')。	request.operation = 'ocid1.compartment.oc1..<unique_ID>'
target.resource.kind	文字列	リクエストのプライマリ・リソースのリソース種類名。	target.resource.kind = 'ocid1.contentexperiencecloudservice.oc1..<unique_ID>'

動詞とリソース・タイプの組合せの詳細

Oracle Cloud Infrastructure では、Oracle Cloud Infrastructure リソース全体の権限を定義する動詞の標準セットを提供しています(**Inspect**、**Read**、**Use**、**Manage**)。次の表は、各動詞に関連付けられている Oracle Content Management 権限を示しています。アクセスのレベルは、**Inspect** から **Read**、**Use**、**Manage** の順に累積します。

INSPECT

リソース・タイプ	INSPECT 権限
<ul style="list-style-type: none"> oce-instance oce-instances oce-workrequest oce-workrequests oce-instance-family 	<ul style="list-style-type: none"> OCE_INSTANCE_INSPECT OCE_INSTANCE_WORKREQUEST_INSPECT OCE_INSTANCE_INSPECT OCE_INSTANCE_WORKREQUEST_INSPECT

READ

リソース・タイプ	READ 権限
<ul style="list-style-type: none"> oce-instance oce-instances oce-workrequest oce-workrequests oce-instance-family 	<ul style="list-style-type: none"> OCE_INSTANCE_INSPECT OCE_INSTANCE_READ OCE_INSTANCE_WORKREQUEST_INSPECT OCE_INSTANCE_WORKREQUEST_READ OCE_INSTANCE_INSPECT OCE_INSTANCE_READ OCE_INSTANCE_WORKREQUEST_INSPECT OCE_INSTANCE_WORKREQUEST_READ

USE

リソース・タイプ	USE 権限
<ul style="list-style-type: none"> oce-instance oce-instances 	<ul style="list-style-type: none"> OCE_INSTANCE_INSPECT OCE_INSTANCE_READ OCE_INSTANCE_UPDATE

リソース・タイプ	USE 権限
<ul style="list-style-type: none"> oce-workrequest oce-workrequests oce-instance-family 	<ul style="list-style-type: none"> OCE_INSTANCE_WORKREQUEST_INSPECT OCE_INSTANCE_WORKREQUEST_READ OCE_INSTANCE_INSPECT OCE_INSTANCE_READ OCE_INSTANCE_UPDATE OCE_INSTANCE_WORKREQUEST_INSPECT OCE_INSTANCE_WORKREQUEST_READ

MANAGE

リソース・タイプ	MANAGE 権限
<ul style="list-style-type: none"> oce-instance oce-instances 	<ul style="list-style-type: none"> OCE_INSTANCE_INSPECT OCE_INSTANCE_READ OCE_INSTANCE_CREATE OCE_INSTANCE_UPDATE OCE_INSTANCE_DELETE
<ul style="list-style-type: none"> oce-workrequest oce-workrequests 	<ul style="list-style-type: none"> OCE_INSTANCE_WORKREQUEST_INSPECT OCE_INSTANCE_WORKREQUEST_READ
<ul style="list-style-type: none"> oce-instance-family 	<ul style="list-style-type: none"> OCE_INSTANCE_INSPECT OCE_INSTANCE_READ OCE_INSTANCE_CREATE OCE_INSTANCE_UPDATE OCE_INSTANCE_DELETE OCE_INSTANCE_WORKREQUEST_INSPECT OCE_INSTANCE_WORKREQUEST_READ

API 操作ごとに必要な権限

この表は、リソース・タイプ別にグループ化された、Oracle Content Management に使用可能な API 操作を示します。

REST API 操作	CLI コマンド操作	操作の使用に必要な権限
ListOceInstances	oce-instance list	OCE_INSTANCE_INSPECT
GetOceInstance	oce-instance get	OCE_INSTANCE_READ
CreateOceInstance	oce-instance create	OCE_INSTANCE_CREATE
DeleteOceInstance	oce-instance delete	OCE_INSTANCE_DELETE
UpdateOceInstance	oce-instance update	OCE_INSTANCE_UPDATE
ChangeOceInstanceCompartment	oce-instance change-compartment	OCE_INSTANCE_UPDATE
ListWorkRequests	work-request list	OCE_INSTANCE_WORKREQUEST_INSPECT
GetWorkRequest	work-request get	OCE_INSTANCE_WORKREQUEST_READ
ListWorkRequestErrors	work-request-error list	OCE_INSTANCE_WORKREQUEST_INSPECT

REST API 操作	CLI コマンド操作	操作の使用に必要な権限
ListWorkRequestLogs	work-request-log list	OCE_INSTANCE_WORKREQ UEST_INSPECT

Oracle Content Management インスタンスを管理するためのポリシー文の例

次に、Oracle Content Management インスタンスへのアクセスを認可する際に使用する一般的なポリシー文を示します。

テナンシのポリシーを作成した場合、[ポリシーの継承](#)によってすべてのコンパートメントへのアクセス権をユーザーに付与します。あるいは、個々の Oracle Content Management インスタンスまたはコンパートメントにアクセスを制限することもできます。

管理者グループのユーザーに Oracle Content Management インスタンスを完全に管理させる

```
# Full admin permissions (CRUD)
allow group Administrators to manage oce-instances in tenancy
allow group Administrators to manage oce-workrequests in tenancy
```

```
# Full admin permissions (CRUD) using family
allow group Administrators to manage oce-instance-family in tenancy
```

group1 グループのユーザーに Oracle Content Management インスタンスおよび関連する作業リクエストを調査させる

```
# Inspect permissions (list oce instances and work requests) using metaverbs:
allow group group1 to inspect oce-instances in tenancy
allow group group1 to inspect oce-workrequests in tenancy
```

```
# Inspect permissions (list oce instances and work requests) using
permission names:
allow group group1 to {OCE_INSTANCE_INSPECT} in tenancy
allow group group1 to {OCE_INSTANCE_WORKREQUEST_INSPECT} in tenancy
```

group2 グループのユーザーに Oracle Content Management インスタンスおよび関連する作業リクエストに関する詳細の読取りを行わせる

```
# Read permissions (read complete oce instance and work request metadata)
using metaverbs:
allow group group2 to read oce-instances in tenancy
allow group group2 to read oce-workrequests in tenancy
```

```
# Read permissions (read complete oce instance and work request metadata)
using permission names:
allow group group2 to {OCE_INSTANCE_INSPECT, OCE_INSTANCE_READ} in tenancy
```



```
allow group group2 to {OCE_INSTANCE_WORKREQUEST_INSPECT,  
OCE_INSTANCE_WORKREQUEST_READ} in tenancy
```

group3 グループのユーザーにすべての Oracle Content Management インスタンスの読取りおよび関連する作業リクエストの読取りを行わせる

```
# Use permissions (read on oce instance, read on work request) using  
metaverbs:  
allow group group3 to use oce-instances in tenancy  
allow group group3 to read oce-workrequests in tenancy
```

```
# Use permissions (read on oce instance, read on work request) using  
permission names:  
allow group group3 to {OCE_INSTANCE_INSPECT, OCE_INSTANCE_READ,  
OCE_INSTANCE_UPDATE} in tenancy  
allow group group3 to {OCE_INSTANCE_WORKREQUEST_INSPECT,  
OCE_INSTANCE_WORKREQUEST_READ} in tenancy
```

group4 グループのユーザーに Oracle Content Management インスタンスおよび関連する作業リクエストを管理させる

```
# Manage permissions (use/delete on oce instance, read/cancel on work  
request) using metaverbs:  
allow group group4 to manage oce-instances in tenancy  
allow group group4 to manage oce-workrequests in tenancy
```

```
# Manage permissions (use/delete on oce instance, read/cancel on work  
request) using permission names:  
allow group group4 to {OCE_INSTANCE_INSPECT, OCE_INSTANCE_READ,  
OCE_INSTANCE_UPDATE,OCE_INSTANCE_CREATE, OCE_INSTANCE_DELETE} in tenancy  
allow group group4 to {OCE_INSTANCE_WORKREQUEST_INSPECT,  
OCE_INSTANCE_WORKREQUEST_READ} in tenancy
```

サービス・イベント

Oracle Content Management インスタンスに対してアクションを実行すると、イベントが発行されます。Infrastructure コンソールを使用すると、イベントの発生時に特定のアクションをトリガーするルールを定義できます。たとえば、インスタンスが削除されたときに、通知を管理者に送信するルールを定義できます。「[イベントの概要](#)」および「[イベントの開始](#)」を参照してください。

この表は、参照可能な Oracle Content Management のイベントをリストしています。

イベント名	イベント・タイプ
GetOceInstance	com.oraclecloud.oce.GetOceInstance
ListOceInstances	com.oraclecloud.oce.ListOceInstances
ChangeOceInstanceCompartment (開始)	com.oraclecloud.oce.ChangeOceInstanceCompartment.begin

イベント名	イベント・タイプ
ChangeOceInstanceCompartment (終了)	com.oraclecloud.oci.ChangeOceInstanceCompartment.end
CreateOceInstance (開始)	com.oraclecloud.oci.CreateOceInstance.begin
CreateOceInstance (終了)	com.oraclecloud.oci.CreateOceInstance.end
DeleteOceInstance (開始)	com.oraclecloud.oci.DeleteOceInstance.begin
DeleteOceInstance (終了)	com.oraclecloud.oci.DeleteOceInstance.end
UpdateOceInstance (開始)	com.oraclecloud.oci.UpdateOceInstance.begin
UpdateOceInstance (終了)	com.oraclecloud.oci.UpdateOceInstance.end

例

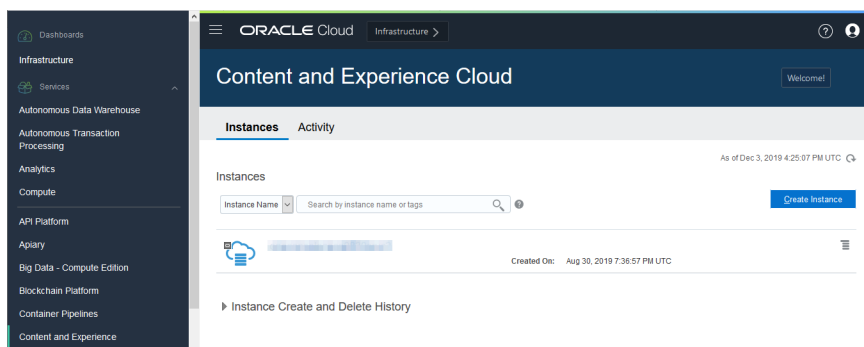
この例では、イベント **CreateOceInstance (開始)**に関連付けられた情報を示しています:

```
{
  "eventType": "com.oraclecloud.oci.CreateOceInstance.begin",
  "cloudEventsVersion": "0.1",
  "eventTypeVersion": "2.0",
  "source": "oci",
  "eventId": "<unique_ID>",
  "eventTime": "2019-10-10T04:33:06.133Z",
  "contentType": "application/json",
  "data": {
    "eventGroupingId": "ocid1.coreservicesworkrequest.oc1.<unique_ID>",
    "eventName": "CreateOceInstance",
    "compartmentId": "ocid1.compartment.oc1.<unique_ID>",
    "compartmentName": "my_compartment",
    "resourceName": "my_oci",
    "resourceId": "ocid1.contentexperiencecloudservice.oc1.<unique_ID>",
    "availabilityDomain": "<availability_domain>",
    "freeformTags": null,
    "definedTags": null,
    "identity": {
      "principalName": "admin",
      "principalId": "ocid1.user.oc1.<unique_ID>",
      "authType": "natv",
      "callerName": null,
      "callerId": null,
      "tenantId": "ocid1.tenancy.oc1.<unique_ID>",
      "ipAddress": "<ip_address>",
      "credentials": "ocid1.tenancy.oc1.<unique_ID>/
ocid1.user.oc1.<unique_ID>",
      "userAgent": null,
      "consoleSessionId": null
    },
    ...
  }
}
```

D

Oracle Content Management の移行

ある時点で、Oracle Content Management インスタンスの移行が必要になる場合があります。たとえば、第 2 世代の Oracle Cloud Infrastructure (OCI) 上でネイティブに実行(つまり、Infrastructure コンソールを使用してサービス・インスタンスを管理している)されていない Oracle Content Management インスタンスを保有している場合、そのインスタンスをこの新しいネイティブ OCI 環境に移行することをお勧めします。これにより、Oracle のクラウド・プラットフォームの利点と先進機能を将来にわたって活用できるようになります。あるいは、第 2 世代の OCI で実行しているインスタンスを別のリージョンに移動することが必要になる場合があります。



移行を開始するには、移行の前にいくつかの手順を実行し、Oracle Support を操作して移行をスケジュールする必要があります。

現在サポートされている唯一の自動移行パスは、次の環境からのパスです:

- OCI Gen 2、OCI Gen 1 または OCI Classic 上の Oracle Content Management
- 非従量制サブスクリプションを使用したレガシー・クラウド・インフラストラクチャ上の Oracle Content Management

他のデプロイメント環境からの自動移行は後日サポートされる予定です。データやファイルが限られているインスタンスの場合は、手動での移行も選択肢の 1 つになります。Oracle サポート・アカウントにサインインし、[Oracle Cloud Infrastructure \(OCI\) へのレガシー Oracle Content & Experience Cloud の移行](#)に関する項を参照してください。

Oracle Content Management インスタンスの移行

Oracle Cloud Infrastructure (OCI) Gen 1 または OCI Classic 上で動作している Oracle Content Management インスタンスを使用している場合、このインスタンスを新しいネイティブ OCI 環境(第 2 世代の OCI)に移行する(つまり、Infrastructure コンソールを使用してサービス・インスタンスを管理する)ことをお勧めします。これにより、Oracle のクラウド・プラットフォームの利点と先進機能を将来にわたって活用できるようになります。あるいは、第 2

世代の OCI で実行しているインスタンスを別のリージョンに移動することが必要になる場合があります。

ノート:

非従量制サブスクリプションを使用したレガシー・クラウド・インフラストラクチャ上でインスタンスを実行している場合、「[レガシー・クラウド・インフラストラクチャからの Oracle Content Management インスタンスの移行](#)」のステップに従います。

移行を開始するには、移行の前にいくつかの手順を実行し、Oracle Support を操作して移行をスケジュールする必要があります。

1. **Infrastructure** コンソールを使用して OCI 上で Oracle Content Management の新 **規インスタンスを作成**します。これが、データを移行するターゲット・インスタンスになります。移行が完了するまではこのインスタンスを使用しないでください。
2. 新しい Oracle Identity Cloud Service (IDCS) ドメインを使用している場合、IDCS ユーザーのエクスポートおよびインポート機能を使用して新しいドメインにすべてのユーザーを移行します。ロールと権限を移行プロセスの一環として適切に割り当てることができるようにユーザー名を保持するようにしてください。エクスポートした CSV ファイルでは、これは「User Name」エントリです。(OCI Classic ではなく)別の Gen2 OCI インスタンスまたは OCI Gen 1 から移行する場合は、すべてのグループを移行する必要もあります。
3. サービス・リクエストに必要な情報を収集し、移行後に実行する必要のあるステップ用に保有している統合のリストを作成して、**移行の準備**を整えます。
4. **移行サービス・リクエストを送信**し、移行の日時を確認します。
5. **移行の進行状況を監視**。サービス・リクエストは移行の進行に合わせて更新され、移行が終了すると、新しいインスタンスが予期したとおりに機能していることを確認するよう求められます。
6. インスタンスに存在する他のサービスやアプリケーションとの統合を移行するために必要なステップを完了して、**移行を完了**します。
7. **ユーザーに変更を伝達**します。

移行の準備

移行を準備するための情報を収集する必要があります:

- 作成した新しいインスタンス(ターゲット)の URL を書き留めて、移行リクエストに含めます。
- 古いインスタンス(ソース)の URL を書き留めて、移行リクエストに含めます。
- 直接か REST API コール経由かにかかわらず、古いインスタンスに存在する他のサービスやアプリケーションとの統合をすべてリストアップします。そのような統合が存在する場合、移行後になんらかのアクションを取る必要があります。

移行リクエストの送信

移行の準備が整ったら、移行リクエストを送信してプロセスを開始する必要があります:

1. Oracle Cloud Support にサインインします。
2. 新規サービス・リクエストを作成します。
3. 「問題タイプ」については、**サービス・インスタンス移行**を選択し、移行に適したオプションを選択します。
 - OCI-Gen1 から OCI-Gen2 へ
 - OCI-Gen2 から OCI-Gen2 へ
 - OCI-Classic から OCI-Gen2 へ
4. サービス・リクエストに次の情報を入力します:
 - ソース・インスタンス(移行元インスタンス)の URL
 - ターゲット・インスタンス(移行先インスタンス)の URL
 - オラクル社提供の Akamai を使用している場合、その旨を記載して、移行後にオラクル社が Akamai 構成内の URL を更新できるようにします
5. 移行開始の希望日を入力します。
6. サービス・リクエストを送信します。
Oracle サポートが移行サービス・リクエストを受信すると、リクエストされた日付に基づいて移行をスケジュールします。サービス・リクエストは移行の開始日時で更新されません。
7. 移行の開始日時を承認したことをサービス・リクエストで確認します。

サービス・リクエストが更新されて移行の進行状況が示されます。データの移行はバックエンドで行われます。サービス・リクエストの更新を随時確認することと、移行終了後に移行を検証することを除き、お客様側でのアクションは不要です。

移行プロセス

移行中に行われる処理を次に示します:


1. 移行が開始されると、Oracle サポートがサービス・リクエストを更新します。

❗ 重要:

この時点で、古い(ソース)インスタンスに変更を加えることはできなくなります。移行開始後に加えた変更は新しいインスタンスに移行されません。

2. コンテンツおよび構成データが古いインスタンス(ソース)からエクスポートされて、新しいインスタンス(ターゲット)にインポートされます。
3. 移行が完了したら、Oracle サポートがサービス・リクエストを更新します。お客様は、新しいインスタンスを検証して、すべてが予期したとおりに機能していることを確認するよう求められます。

4. 問題が見つかった場合は、サービス・リクエストに記載します。Oracle サポートが問題の解決に当たり、インスタンスが検証可能になると、サービス・リクエストを通じてお客様に通知します。
5. すべてが予期したとおりに機能するようになったら、移行インスタンスを受け入れることをサービス・リクエストに記載します。

 **ノート:**

古いインスタンスは、なんらかの理由で参照する必要が生じたときに備えて、しばらく稼働し続けます。その期間が過ぎると、インスタンスは終了します。

移行の完了

古いインスタンスが他のサービスやアプリケーションと直接または REST API コールを通じて統合されていたか、通信していた場合、移行後のタスクを実行する必要があります。

次の項目はサービス全体に適用されます:

- 資格証明は移行されないため、ユーザー資格証明を使用するすべての統合について、ユーザー資格証明を再構成する必要があります。
- Oracle Content Management の URL のパターンが異なるため、URL を使用する統合で URL を更新する必要があります。
古い URL では次のパターンが使用されていました:

`https://<service-name>-<account-name>.<region>.oraclecloud.com/documents`

新しい URL では次のパターンが使用されます:

`https://<service-name>-<account-name>.<service-type>.ocp.oraclecloud.com/documents`

統合	移行後の作業
Oracle Integration	<ul style="list-style-type: none"> • 資格証明を再構成します。 • Oracle Integration Cloud で Oracle Content Management の URL を更新します。
Oracle Commerce Cloud	<ul style="list-style-type: none"> • 資格証明を再構成します。 • Oracle Commerce Cloud で Oracle Content Management の URL を更新します。
Oracle Process Cloud Service	<ul style="list-style-type: none"> • 資格証明を再構成します。
Oracle Eloqua Cloud Service	<ul style="list-style-type: none"> • 資格証明を再構成します。
Oracle Intelligent Advisor	<ul style="list-style-type: none"> • 資格証明を再構成します。
Oracle Cobrowse Cloud Service	<ul style="list-style-type: none"> • 資格証明を再構成します。
Responsys	<ul style="list-style-type: none"> • 資格証明を再構成します。
Visual Builder Cloud Service (VBCS)	<ul style="list-style-type: none"> • 資格証明を再構成します。 • VBCS コンポーネントで Oracle Content Management の URL を更新します。

統合	移行後の作業
CDN/Akamai	<ul style="list-style-type: none"> オラクル社提供の Akamai を使用している場合、お客様が移行を確認した後、オラクル社が Akamai 構成内の Oracle Content Management の URL を更新します。それ以外の場合は、CDN 構成内の URL をお客様自身で更新する必要があります。
REST API コール	<ul style="list-style-type: none"> REST API コール内の Oracle Content Management の URL を更新します。
クライアント SDK/CLI の使用方法	<ul style="list-style-type: none"> URL が永続化されている/クライアント側でローカルにキャッシュされている場合、構成内の Oracle Content Management の URL を更新します。
コネクタ	<ul style="list-style-type: none"> 資格証明を再構成します。

ノート:

新しいインスタンスの URL が変更されたため、古いインスタンスのコンテンツへのブックマークは機能しなくなります。

ユーザーへの変更の伝達

ユーザーに新しいサービス URL を伝達します。デスクトップ・ユーザーおよびモバイル・ユーザーは、新しいアカウントを使用してデバイスを構成し、すべてのコンテンツを再度同期化する必要があります。

レガシー・クラウド・インフラストラクチャからの Oracle Content Management インスタンスの移行

非従量制サブスクリプションを使用してレガシー・クラウド・インフラストラクチャ上で Oracle Content Management インスタンスを実行している場合、これらのインスタンスを新しいネイティブ Oracle Cloud Infrastructure (OCI) 環境(第 2 世代の OCI)に移行する(つまり、Infrastructure コンソールを使用してサービス・インスタンスを管理する)ことをお勧めします。これにより、Oracle のクラウド・プラットフォームの利点と先進機能を将来にわたって活用できるようになります。

移行を開始するには、移行の前にいくつかの手順を実行し、Oracle Support を操作して移行をスケジュールする必要があります。

1. サブスクリプションをユニバーサル・クレジット・サブスクリプションに移行します。この作業の支援を受けるには、Oracle の営業担当者にお問い合わせください。
2. Infrastructure コンソールを使用して OCI 上で Oracle Content Management の新規インスタンスを作成します。これが、データを移行するターゲット・インスタンスになります。移行が完了するまではこのインスタンスを使用しないでください。
3. ユーザーを従来のクラウド・アカウントから Oracle Identity Cloud Service (IDCS) アカウントに移行します。ロールと権限を移行プロセスの一環として適切に割り当てることができるようにユーザー名を保持するようにしてください。エクスポートした CSV ファイルでは、ユーザー名は「User Login」と呼ばれます。ユーザー・ロールは、ユーザー・マッピングに応じて割り当てられます。

4. サービス・リクエストに必要な情報を収集し、移行後に実行する必要があるステップ用に保有している統合のリストを作成して、**移行の準備**を整えます。
5. **移行サービス・リクエストを送信**し、移行の日時を確認します。
6. **移行の進行状況を監視**。サービス・リクエストは移行の進行に合わせて更新され、移行が終了すると、新しいインスタンスが予期したとおりに機能していることを確認するよう求められます。
7. インスタンスに存在する他のサービスやアプリケーションとの統合を移行するために必要なステップを完了して、**移行を完了**します。
8. **アセットが含まれるサイトを移行**し、多言語に準拠させます。
9. 移行から除外された**アセットを移行**します。
10. ユーザーに**変更を伝達**します。

ユーザー・マッピング

この表は、Oracle Content Management の権限グループから OCI アプリケーション・ロールへのマッピングを示しています。

Oracle Content Management 権限グループ	OCI アプリケーション・ロール
DocumentsServiceUser	CECStandardUser
DocumentsServiceAdmin	CECServiceAdministrator
SitesServiceVisitor	CECSitesVisitor
SitesServiceAdmin	CECSitesAdministrator
ContentAdministratorRole	CECContentAdministrator
CECStandardUser	CECStandardUser
CECEnterpriseUser	CECEnterpriseUser

ノート:

ターゲット IDCS ドメインに同じユーザー名を持つユーザーが含まれる場合、ユーザーには、ユーザーの Oracle Content Management 権限グループに対応する OCI アプリケーション・ロールが割り当てられます。

移行の準備

- 作成した新しいインスタンス(ターゲット)の URL を書き留めて、移行リクエストに含めます。
- 古いインスタンス(ソース)の URL を書き留めて、移行リクエストに含めます。
- 直接か REST API コール経由かにかかわらず、古いインスタンスに存在する他のサービスやアプリケーションとの統合をすべてリストアップします。そのような統合が存在する場合、移行後になんらかのアクションを取る必要があります。

移行サービス・リクエストの送信

移行の準備が整ったら、移行リクエストを送信してプロセスを開始する必要があります:

1. Oracle Cloud Support にサインインします。
2. 新規サービス・リクエストを作成します。
3. 「問題タイプ」については、**サービス・インスタンス移行**を選択し、**非従量制サブスクリプションから OCI-Gen2 へ**を選択します。
4. サービス・リクエストに次の情報を入力します:
 - ソース・インスタンス(移行元インスタンス)の URL
 - ターゲット・インスタンス(移行先インスタンス)の URL
 - オラクル社提供の Akamai を使用している場合、その旨を記載して、移行後にオラクル社が Akamai 構成内の URL を更新する時間を調整できるようにします
5. 移行開始の希望日を入力します。
6. サービス・リクエストを送信します。
Oracle サポートが移行サービス・リクエストを受信すると、リクエストされた日付に基づいて移行をスケジュールします。サービス・リクエストは移行の開始日時で更新されます。
7. 移行の開始日時を承認したことをサービス・リクエストで確認します。

サービス・リクエストが更新されて移行の進行状況が示されます。データの移行はバックエンドで行われます。サービス・リクエストの更新を随時確認することと、移行終了後に移行を検証することを除き、お客様側でのアクションは不要です。

移行プロセス

移行中に行われる処理を次に示します:

1. 移行が開始されると、Oracle サポートがサービス・リクエストを更新します。

❗ 重要:

この時点で、古い(ソース)インスタンスに変更を加えることはできなくなります。移行開始後に加えた変更は新しいインスタンスに移行されません。

2. コンテンツおよび構成データが古いインスタンス(ソース)からエクスポートされて、新しいインスタンス(ターゲット)にインポートされます。
3. 移行が完了したら、Oracle サポートがサービス・リクエストを更新します。お客様は、新しいインスタンスを検証して、すべてが予期したとおりに機能していることを確認するよう求められます。
4. 問題が見つかった場合は、サービス・リクエストに記載します。Oracle サポートが問題の解決に当たり、インスタンスが検証可能になると、サービス・リクエストを通じてお客様に通知します。
5. すべてが予期したとおりに機能するようになったら、移行インスタンスを受け入れることをサービス・リクエストに記載します。

 ノート:

古いインスタンスは、確認のために参照できるように、しばらく稼働し続けます。また、**新しいを使用するサイトを移行**したり、移行時に除外された**他のアセットを移行**したりするためにも必要です。

移行の完了

古いインスタンスが他のサービスやアプリケーションと直接または REST API コールを通じて統合されていたか、通信していた場合、移行後のタスクを実行する必要があります。

次の項目はサービス全体に適用されます:

- OCI アプリケーション・ロールをレビューし、ソース・インスタンスには存在していなかったロール(CECRepositoryAdministrator アプリケーション・ロールなど)を割り当てます。
- ユーザー資格証明を使用するすべての統合に対してこれらの資格証明を再構成します。資格証明は移行されません。
- Oracle Content Management の URL のパターンが異なるため、URL を使用する統合で URL を更新する必要があります。
古い URL では次のパターンが使用されていました:

```
https://<service-name>-<account-name>.<region>.oraclecloud.com/documents
```

新しい URL では次のパターンが使用されます:

```
https://<service-name>-<account-name>.<service-type>.ocp.oraclecloud.com/documents
```

- CORS および埋込みコンテンツ設定を再構成します。ターゲット・サービス設定は移行されません。
- 標準サイトは移行されますが、エンタープライズ・サイトは移行されません。各エンタープライズ・サイトのテンプレートを作成することにより、エンタープライズ・サイト、およびサイトに関連付けられたデジタル・アセットとコンテンツ・アイテムを手動で移行し、ソース・インスタンスからテンプレートをエクスポートし、ターゲット・インスタンスにインポートします。
- 移行済サイトで使用されているカスタム・コントローラを削除または更新します。

統合	移行後の作業
Oracle Integration	<ul style="list-style-type: none"> • 資格証明を再構成します。 • Oracle Integration Cloud で Oracle Content Management の URL を更新します。
Oracle Commerce Cloud	<ul style="list-style-type: none"> • 資格証明を再構成します。 • Oracle Commerce Cloud で Oracle Content Management の URL を更新します。
Oracle Process Cloud Service	<ul style="list-style-type: none"> • 資格証明を再構成します。
Oracle Eloqua Cloud Service	<ul style="list-style-type: none"> • 資格証明を再構成します。
Oracle Intelligent Advisor	<ul style="list-style-type: none"> • 資格証明を再構成します。
Oracle Cobrowse Cloud Service	<ul style="list-style-type: none"> • 資格証明を再構成します。

統合	移行後の作業
Responsys	<ul style="list-style-type: none"> 資格証明を再構成します。
Visual Builder Cloud Service (VBCS)	<ul style="list-style-type: none"> 資格証明を再構成します。 VBCS コンポーネントで Oracle Content Management の URL を更新します。
CDN/Akamai	<ul style="list-style-type: none"> オラクル社提供の Akamai を使用している場合、Oracle サポートに連絡して Akamai 構成内の Oracle Content Management の URL を更新する時間を調整してください。それ以外の場合は、CDN 構成内の URL をお客様自身で更新する必要があります。
REST API コール	<ul style="list-style-type: none"> REST API コール内の Oracle Content Management の URL を更新します。
クライアント SDK/CLI の使用方法	<ul style="list-style-type: none"> URL が永続化されている/クライアント側でローカルにキャッシュされている場合、構成内の Oracle Content Management の URL を更新します。
コネクタ	<ul style="list-style-type: none"> 資格証明を再構成します。

ノート:

新しいインスタンスの URL が変更されたため、古いインスタンスのコンテンツへのブックマークは機能しなくなります。

アセットが含まれるサイトの移行

アセットが含まれないサイトは自動的に移行されますが、アセットが含まれるサイトの場合、新しい Oracle Content Management インスタンスで機能させるには、いくつかの追加手順が必要です。

1. OCE ツールキットをインストールします。
2. ターゲット・サーバーを登録します。
3. サイトを移行します。
4. 移行後の手順を実行します。
5. 移行済サイトを多言語サイト(MLS)に準拠させます。

OCE ツールキットのインストール

「cec migrate-site」コマンドは新しいため、OCE ツールキットを以前にダウンロードしてインストールしたことがある場合でも、Web クライアントの Git リポジトリからこのツールキットをインストールする必要があります。

サイト・ツールキット・ページの指示に従って OCE ツールキットをダウンロードしてインストールします。

ターゲット・サーバーの登録

ターゲット・サーバー(サイトの移行先のサーバー)に関する接続詳細を登録します:

```
> cec register-server <target_server_name>
    -e http://<target_server>:<target_port>
    -u <target_username> -p <target_password>
    -t pod_ec
```

- <target_server_name>を使用して、ターゲット・エンドポイントを識別します。これは、任意に選択した名前にすることができます。
- <target_server>および<target_port>は、ターゲット・サーバーへのアクセスに使用する URL を構成します。
- 移行時にテンプレートがインポートされるときに権限に関する問題が発生しないように、<target_username>および<target_password>は、ソース・サーバーからサイト・テンプレートをエクスポートする人物のユーザー名とパスワードにする必要があります。
- 値"pod_ec"はターゲット・サーバー・タイプで、インスタンスが構築されているサーバーのタイプを識別するために使用されます。

サイトの移行

サイトを移行するには、次の手順を実行します:

1. ソース・サーバーで、アセットが含まれる各サイトからテンプレートを作成します。
2. ソース・サーバーで、各テンプレートをエクスポートします。この手順は、ターゲット・サーバーを登録したときに参照したユーザーとして実行するようにしてください。
3. ターゲット・サーバーに、リポジトリ管理(CECRepositoryAdministrator ロールのあるユーザー)としてサインインします。次に、テンプレートとともにインポートされるアセットのリポジトリを作成します。
4. ダウンロードしたテンプレートごとに、次のコマンドを実行します。この場合、<site_name>は、ターゲット・サーバーでサイトに使用する名前に置き換えます:

```
> cec migrate-site <site_name> --template <template_path_and_name>
--destination <registered_target_server_name> --repository
<repository_name>
```

5. ターゲット・サーバーで、移行したサイトおよびアセットを適切に共有します。

移行後の手順

サイトを移行した後、サイトはコンテンツ REST v1.1 コールを使用して動作します。これにより、サイトが適切に動作する前に解決する必要がある問題が生じる可能性があります。次の各事項を参照し、何を実行する必要があるのか確認してください:

- ContentSDK を使用している場合、v1.1 コンテンツ REST コールを使用するようにコールが自動的に更新されます。
- コンテンツ・レイアウトが v1.1 をサポートしていることを表明していない場合、ContentSDK は、単純に fields エントリ(v1.1)を指し示す data エントリ(v1.0)もレスポンスに追加し、テンプレートが変更なしで動作し続けるようにします。
- 追加問合せ文字列内で fields.type.equals= v1.0 コンテンツ REST 構文を使用している場合、オラクル社ではこれを解析および変更して v1.1 構文にしようと試みていますが、あなたがこれを確認する必要があります。
- (ContentSDK を介すのではなく)コンテンツ REST v1.0 コールを直接実行する場合、これらのコールは失敗します。カスタム・コードを修正し、これらのコールをアップグレードする必要があります。
- 同様に、fields.type.equals= v1.0 構文を q=(type eq "..")にするカスタム・コンテンツ問合せが必要です。
- updateddate と updatedDate: これはおそらく、CaaS によって修正されていますが、コンテンツ REST v1.1 API が両方の値をサポートする EC ビルドをオラクル社が取得するまでは、あなたが updateddate 値を変更して camelCase: updatedDate 値にする必要があります。

移行済サイトの多言語サイト(MLS)への準拠

サイトが適切に動作するようになったら、サイトを MLS に準拠させる必要があります。外部計算サーバーでエンタープライズ・サイトを作成する必要がある場合、デフォルトの言語とローカライゼーション・ポリシーが必要です。サイトはコピーされたものであるため、非 MLS サイトです。このため、MLS サイトにアップグレードし、将来の機能をサポートできるようにする必要があります。

次の表は、MLS サイトと非 MLS サイト間の違いを示しています。

サイト・オブジェクト	MLS サイト	非 MLS サイト
コンテンツ・アイテム	コンテンツ・アイテムの言語バリエーションが表示されますが、ページにドロップされたコンテンツ・アイテムではありません。言語は、サイトのレンダリング時にリクエストされた言語に応じて変更される場合があります。	ページにドロップされたコンテンツが常に表示されます。
コンテンツ・レイアウト	コンテンツ・レイアウトは、v1.1 API をサポートする必要があります。そうでない場合、コンテンツ・アイテムは表示されず、かわりに警告が表示されます。これは、すべての v1.1 API コールで、v1.0 API ではサポートされていない「ロケール」が追加されるからです。	コンテンツ・レイアウトは、v1.0 または v1.1 である場合があります。コンテンツ・レイアウトが v1.0 のみをサポートしている場合、ContentSDK では、fields エントリと一致するようレスポンスに data エントリが追加されます。これ以外にもまだ他の問題が存在する可能性があるため、これは「サポートされている機能」であると見なすべきではありません(コンテンツ・レイアウトをアップグレードしないことのないようにする必要があります)。

サイト・オブジェクト	MLS サイト	非 MLS サイト
コンテンツ・リスト	リクエストされた言語バリエーションで使用可能なコンテンツ・アイテムのみが表示されます。	言語とは関係なくすべてのコンテンツ・アイテムが表示されます。ユーザーには結果を特定の言語に固定するためのオプションがコンテンツ・リスト内に用意されているため、結果を別の言語で表示する 2 つのコンテンツ・リストをページ上に用意できます。言語を選択するためのこの設定パネル・オプションは、MLS サイトでは使用できません。
デフォルトのロケール	MLS サイトには、デフォルトのサイト・ロケールがあります。つまり、すべてのコンテンツ問合せにおいて、そのロケールにある(または翻訳不可能な)コンテンツ・アイテムのみが返されます。	非 MLS サイトにはデフォルト・ロケールがないため、使用されるコンテンツ問合せでは、言語とは関係なくすべてのコンテンツ・アイテムが返されます。
ローカライゼーション・ポリシー	サイトで使用可能言語をリストを定義します。ビルダーにはこれらのドロップダウンがあります。 また、管理 UI には、リクエストされた言語でのオープン/プレビューを可能にするドロップダウンがあります。	ローカライゼーション・ポリシーが存在しないため、言語を切り替えるためのドロップダウンはビルダーから削除されます。 管理 UI には、言語がリストされません(「デフォルト」の言語もありません)。これが、管理 UI で非 MLS サイトと MLS サイトを識別する方法です。
翻訳/翻訳可能	管理 UI のコンテキスト・メニューには、オプションとして「翻訳」があります。これにより、サイトを翻訳するための翻訳ジョブを作成できます。	管理 UI のコンテキスト・メニューには、「翻訳」があります。事実上、非 MLS は翻訳不可能であるため、サイトを翻訳するには、最初にサイトを翻訳可能 (MLS) サイトにする必要があります。 これもまた、サイトを非 MLS から MLS にアップグレードする方法です。 ノート: これは一方向のみの処理です。翻訳不可能にダウングレードすることはできません。

サイトを MLS サイトに変換する前に、次を実行する必要があります:

- コンテンツ REST APIs v1.1 をサポートするためにコンテンツ・レイアウト・コンポーネントをすべてアップグレードします
- コンテンツ REST API v1.1 に準拠するようにサイトのコンテンツ・リスト内の「追加問合せ文字列」をアップグレードします

次に、コンテンツ REST コールを行うカスタム・コンポーネント・コードがある場合は、v1.1 コールを行うためにこれらをアップグレードすることも必要です。ほとんどのコンテンツ・コールはコンテンツ・レイアウトから行われるため、これは一般的ではありません。

コンテンツ・レイアウトのアップグレード

サポートされるコンテンツ REST API バージョンの指定

コンテンツ・レイアウトでは、サポートするコンテンツ REST API のバージョンを指定する必要があります。これにより、想定されるレスポンス・データをレイアウトに返すために適切なコンテンツ REST コールが行われるようにします。

バージョン・サポートを指定しない場合、コンテンツ・レイアウトは v1.0 をサポートしていると見なされます。

コンソールには、まだ **v1.0** のままのコンテンツ・レイアウトがリストされます。

コンテンツ・レイアウトが他のバージョンをサポートできるようにするには、コンテンツ・レイアウト・オブジェクトに **contentVersion** プロパティを追加します。

この例では、**v1.0** から **2.0** 未満までのすべてのバージョンをサポートすることを表しています(ノート: **2.0** は存在しませんが、主要なバージョン変更によって大幅な変更が導入される可能性があります)

```
// Content Layout
definition.ContentLayout.prototype = { // Specify the versions
of
  the Content REST API that are supported by the this Content
Layout. // The value for contentVersion follows Semantic Versioning
syntax. // This allows applications that use the
content layout to pass the data through in the expected format.
contentVersion: ">=1.0.0
<2.0.0", // Main rendering function: // - Updates the data
to handle any required additional requests and
support both v1.0 and v1.1 Content REST APIs // - Expand the
Mustache template with the updated data
// - Appends the expanded template HTML to the
parentObj DOM element render: function (parentObj)
{
```

v1.1 のレスポンス変更の処理

最小限実行可能性があることは、コンテンツ REST API レスポンスの **data** から **fields** への変更を処理することです。これを行う最も簡単な方法は、**data** プロパティを追加し戻し、新しい **fields** プロパティを指し示す方法です

```
render: function (parentObj)
{
  ... if(!content.data) { content.data =
content.fields; }
}
```

より優れたオプションは、コンテンツ・レイアウト全体にわたって **v1.1** の **fields** 値を使用するように変更する方法です。これには、**JavaScript** とテンプレート・コードの両方の更新が含まれます。

v1.1 を完全にサポートするには、**v1.0** と **v1.1** の間で次のコンテンツ REST API の変更を処理する必要があります:

コンテンツ REST API の変更	v1.1	v1.0
fields と data	<pre>"items": [{ "type": "Starter-Blog- Author", "name": "Alex Read", "id": "COREB62DBAB5CEDA4915A 9C9F6050E554F63", "fields": { "starter- blog-author_bio": "Alex's bio", "starter-blog- author_name": "Alex Read" } },</pre>	<pre>"items": [{ "type": "Starter-Blog- Author", "name": "Alex Read", "id": "COREB62DBAB5CEDA4915A 9C9F6050E554F63", "data": { "starter- blog-author_bio": "Alex's bio", "starter-blog- author_name": "Alex Read" } },</pre>
camelCase プロパティ名	"updatedDate"	"updateddate"
問合せフォーマット	/items?q=(type eq "Starter-Blog-Author")	/items?fields.type.equals="Starter-Blog-Author"
API バージョン	/content/management/api/v1.1/items	/content/management/api/v1/items
言語固有の問合せ	/content/management/api/v1.1/items?q=((type eq "Promo")および(language eq "en-US"またはtranslatable eq "false"))	サポートされていません。すべてのカスタム v1 コールを移行して language オプションを含める必要があります。これにより、特定の言語で表示した際に MLS サイトに対して返されるものとの結果の整合性が保たれます。

コンテンツ問合せ文字列のアップグレード

任意のカスタム・コードでコンテンツ API コールを実行している可能性があるため、コンテンツ REST API コールを実行しているサイトによって使用されているすべてのカスタム・コードを確認する必要があります。

- **カスタム・コンポーネント:** 次のコンポーネントを確認します:
 - コンテンツ・レイアウト
 - ローカル・コンポーネント
 - セクション・レイアウト
 - リモート・コンポーネント
- **テーマ: JavaScript:** 可能性は低いですが、カスタム・コンテンツ REST API コールを実行している JavaScript がテーマ内に存在する可能性があるため、これらも確認する必要があります。
- **サイト・プロパティ: 追加問合せ文字列:** コンテンツ REST API コールを実行しているすべてのカスタム・コードをアップグレードしたことを確認したら、サイト内

の任意のページ上のコンテンツ・リスト・コンポーネント内の追加問合せ文字列もアップグレードする必要があります。Oracle ではこれらをランタイム時に解析および変換しようと試みていますが、サポートを継続するためにこれらをアップグレードして v1.1 コンテンツ REST コールとの互換性を確保する必要があります。

非 MLS サイトの MLS サイトへの変換

v1.1 コンテンツ REST API を完全にサポートするようサイトを変換したら、MLS サイトに変更することによって言語のサポートを追加できます。

サイト管理 UI でサイトを選択すると、**translatable** コンテンツ・メニュー・オプションが表示されます。このオプションを選択すると、ダイアログが表示され、ローカライゼーション・ポリシー内の必要な言語のリストからサイトのローカライゼーション・ポリシーおよびデフォルト言語を選択するよう求められます。ローカライゼーション・ポリシーが存在しない場合、この手順を完了できず、最初にコンテンツ管理画面に移動し、少なくとも 1 つの必須言語を使用してローカライゼーション・ポリシーを作成する必要があります。

この手順が完了したら、サイトはデフォルトのロケールでレンダリングされるようになります。また、ローカライゼーション・ポリシーに指定されている他のロケールに切り替えることもできます。

サイトがデフォルトのロケールで想定どおりにレンダリングされることを確認する必要があります。

アセットの移行

サイトに関連付けられたアセットはサイトの移行時に移行されますが、サイトに関連付けられていないアセットは個別に移行する必要があります。

移行を開始する前に、次の点を考慮してください：

- コレクションに関連付けられたアセットのみを移行できます。コレクションに関連付けられていないアセットを移行する場合、移行する前にコレクションに追加する必要があります。
- 非従量制インスタンスはアセットで言語をサポートしていないため、アセットを移行する場合、デフォルトの言語がリポジトリのデフォルトの言語から継承されます。アセットを移行する前に、リポジトリのデフォルトの言語が目的のデフォルトの言語に設定されていることを確認してください。
- 公開済アイテムのみ移行されます。移行後にアイテムが欠落している場合、アイテムがソース・インスタンスで公開されていることを確認してください。
- 公開済アイテムにドラフト・バージョンがある場合、ドラフト・バージョンはターゲット・インスタンスで公開済バージョンになり、ソース・インスタンスの元の公開済バージョンは失われます。
- 非従量制の Oracle Content Management バージョンでは、コンテンツ・アイテムを表示する際、「コンテンツ・レイアウト」ビューまたは「コンテンツ」ビューを選択できました。「コンテンツ」ビューは、Oracle Content Management の最新のバージョンで「**コンテンツ・フォーム・ビュー**」に置き換えられ、「コンテンツ・レイアウト」ビューは削除されました。

アセットを移行するには、次の手順を実行します：

1. まだ行っていない場合は、**OCE ツールキット**をインストールします。
2. ソース・サーバーおよびターゲット・サーバーを登録します。
3. **アセットのコレクション**を移行します。

ソース・サーバーおよびターゲット・サーバーの登録

ソース・サーバーおよびターゲット・サーバーの接続詳細を登録します。

ソース・サーバー(アセットの移行元のサーバー)を登録します:

```
> cec register-server <source_server_name>
    -e http://<source_server>:<source_port>
    -u <source_username> -p <source_password>
    -t pod_ic
```

- <source_server_name>を使用して、ソース・エンドポイントを識別します。これは、任意に選択した名前にすることができます。
- <source_server>および<source_port>は、ソース・サーバーへのアクセスに使用する URL を構成します。
- <source_username>および<source_password>は、ソース・サーバー上のアセットにアクセスできる人物のユーザー名とパスワードにする必要があります。
- 値"pod_ic"はソース・サーバー・タイプで、インスタンスが構築されているサーバーのタイプを識別するために使用されます。

ターゲット・サーバー(アセットの移行先のサーバー)を登録します:

```
> cec-install % cec register-server <target_server_name>
    -e http://<source_server>:<source_port>
    -u <target_username> -p <target_password>
    -t pod_ec
```

- <target_server_name>を使用して、ターゲット・エンドポイントを識別します。これは、任意に選択した名前にすることができます。
- <target_server>および<target_port>は、ターゲット・サーバーへのアクセスに使用する URL を構成します。
- <target_username>および<target_password>は、ターゲット・サーバー上のアセットを所有する人物のユーザー名とパスワードにする必要があります。
- 値"pod_ec"はターゲット・サーバー・タイプで、インスタンスが構築されているサーバーのタイプを識別するために使用されます。

アセットのコレクションの移行

次のコマンドを実行して、アセットのコレクションを移行します:

```
> cec migrate-content <source_collection_name> --server
<source_server_name>
    --destination <target_server_name> --repository
<target_repository_name> --collection <target_collection_name> --
channel
    <target_channel_name>
```

アセットは、指定したリポジトリ内のターゲット・サーバー上に作成され、コレクションおよびチャンネルに関連付けられます。必要に応じて、コレクションおよびチャンネルは自動的に作成されます。すべての移行済アセットのデフォルトの言語が、指定したリポジトリに設定されているデフォルトの言語になります。

ユーザーへの変更の伝達

ユーザーに新しいサービス URL を伝達します。デスクトップ・ユーザーおよびモバイル・ユーザーは、新しいアカウントを使用してデバイスを構成し、すべてのコンテンツを再度同期化する必要があります。

E

レガシー環境での Oracle Content Management の管理

Oracle Content Management の管理およびデプロイの方法は、サブスクリプションのタイプ、開始日およびステータスによって異なる可能性があります。このトピックでは、レガシー環境での異なるタスクについて説明します。

デプロイメント・シナリオ	SKU	Oracle Content Management を購入した日付	デプロイメントおよび管理タスク
Oracle Cloud Infrastructure (OCI)上に構築された Oracle Content Management(ユニバーサル・クレジット・サブスクリプション)	B89969、B89970 および B89971	2018 年 10 月から 2019 年 9 月まで	OCI Gen 1 上に構築された Oracle Content Management のレガシー・インスタンスの管理 <ul style="list-style-type: none"> Infrastructure Classic コンソールで作成されたインスタンスの管理 サービスのモニタ
OCI Classic 上の Oracle Content Management (ユニバーサル・クレジット・サブスクリプション)	B87494、B87496 および B87498	2018 年 3 月から 2018 年 9 月まで*	OCI Classic 上の Oracle Content Management のレガシー・インスタンスの管理 <ul style="list-style-type: none"> Infrastructure Classic コンソールで作成されたインスタンスの管理 サービスのモニタ
OCI Classic 上の政府向けの Oracle Content Management (ユニバーサル・クレジット・サブスクリプション)	B88834、B88835、B90265 および B90266	2019 年 11 月以前	OCI Classic 上の政府向け Oracle Content Management のレガシー・インスタンスのデプロイおよび管理 <ul style="list-style-type: none"> インスタンスの作成 インスタンスの管理 サービスのモニタ

デプロイメント・シナリオ	SKU	Oracle Content Management を購入した日付	デプロイメントおよび管理タスク
OCI Classic 上の SaaS 向けの Oracle Content Management (ユニバーサル・クレジット・サブスクリプション)	B89710 および B89711	2019 年 10 月以前	OCI Classic 上の SaaS 向け Oracle Content Management のレガシー・インスタンスのデプロイおよび管理 <ul style="list-style-type: none"> インスタンスの作成 インスタンスの管理 サービスのモニター
Oracle Content Management 権限付与 (非従量制サブスクリプション)	B87425、B87426 および B87427	2017 年 2 月から 2018 年 2 月まで	非従量制サブスクリプションを持つ Oracle Content Management のデプロイおよび管理 <ul style="list-style-type: none"> インスタンスの作成 ユーザーとグループの設定 ユーザー、グループおよびアクセスの管理 インスタンスの管理 サービスのモニター
Oracle Documents Cloud 権限付与 (非従量制サブスクリプション)	B76606	2017 年 1 月以前	Oracle Content Management への Oracle Documents Cloud の移行 <ul style="list-style-type: none"> Oracle Content Management への移行

* OCI Classic 上の Oracle Content Management を移行して、第 2 世代の OCI 上で実行できます。

OCI Gen 1 上に構築された Oracle Content Management のレガシー・インスタンスの管理

Oracle Cloud Infrastructure (OCI) Gen 1 上に構築された Oracle Content Management のレガシー・インスタンスを保有している場合、それらのインスタンスの管理方法にはいくつかの違いがあります。

第 2 世代の OCI および Oracle のクラウド・プラットフォームの利点と先進機能を将来にわたって活用するために、必ず Infrastructure コンソールで[新規インスタンスを作成](#)する必要があります。それらのインスタンスは、Infrastructure コンソールを通じて管理およびモニターします。

Infrastructure Classic コンソール(旧マイ・サービス)で作成したレガシー・インスタンスの場合、このトピックで説明する方法で管理できます。ただし、新しいネイティブ OCI 環境(第 2 世代の OCI)にそれらのインスタンスを移行(つまり、Infrastructure コンソールを使用してサービス・インスタンスを管理)し、それらのインスタンスが Oracle のクラウド・プラットフォームの将来の利点と進歩も利用できるようにすることをお勧めします。

! 重要:

- レガシー・インスタンスを作成した場合、CEC_INTERNAL_APPID_USER という名前のユーザーが自動的に作成されています。これは、サインインには使用できない内部ユーザーです。このユーザーを使用すると、Oracle Content Management コンポーネント間で通信できます。このユーザーは削除しないでください。削除すると、Oracle Content Management の一部の機能が働かなくなります。
- レガシー・ユニバーサル・クレジット・サブスクリプションを保有している場合、1 時間当たりのアクティブ・ユーザーおよびビジター・セッションに基づいて請求されます。



他のタスクはすべて、前の章で説明した方法で実行されます:

- サービス設定の構成
- ユーザー、グループおよびアクセスの管理
- サービスのモニター
- サービス使用状況の分析
- また、*Integrating and Extending Oracle Content Management* で説明されているとおり、Oracle Content Management を他のビジネス・アプリケーションと統合する必要がある場合があります。

レガシー・インスタンスを表示するには:

- クラウド・アカウント管理者として **Oracle Cloud** にサインインします。アカウント名とログイン情報は、ようこそ電子メールに記載されています。
- Infrastructure コンソールで  をクリックし、「その他の Oracle Cloud サービス」で「プラットフォーム・サービス」を展開して「Content and Experience」をクリックします。左側のスクロール・バーを使用して下にスクロールしないとメニュー・オプションが表示されないことがあります。

インスタンスのリストから、次のアクションを実行できます:

- インスタンスのリストから、いくつかの管理タスクを実行できます。管理するインスタンスの横にある  をクリックします。インスタンスの Oracle Content Management Web クライアントへのアクセス、タグの追加またはインスタンスの削除が可能です。
- インスタンスの一般情報を表示するには、インスタンスの名前をクリックします。ストレージ OCID、バージョン、アカウント名などの情報が表示されます。詳細情報を表示するには、 をクリックします。

- インスタンスを管理するには、インスタンスの名前をクリックし、をクリックします。インスタンスの Oracle Content Management Web クライアントへのアクセス、関連付けの追加、インスタンスの資格証明の更新、タグの追加またはアクティビティの表示が可能です。

1 時間当たりのアクティブ・ユーザーについて

Oracle Cloud Infrastructure (OCI)上に構築され、Infrastructure Classic コンソールで管理されている Oracle Content Management インスタンスを保有している場合、1 時間当たりのアクティブ・ユーザーに基づいて請求されます。

1 時間当たりのアクティブ・ユーザーは、1 時間のセッション中にサービスと対話する一意のユーザーとして定義されます。アクティブ・ユーザーは、cookie、ユーザー ID、トークン、デバイス ID、IP またはセッション ID を使用して追跡されます。認証済ユーザーおよびビジターは、そのサービス・インスタンス内のユーザー(標準、エンタープライズまたはビジター)に与えられたロールに基づいて追跡されます。匿名ユーザーはビジターとして追跡されます。

複数のチャネル(Web サイト、モバイル・アプリケーション、デスクトップ・クライアント、API 経由のカスタム・アプリケーション、電子メールなど)からサービスにアクセスするビジターおよび匿名ユーザーは、複数のアクティブ・ユーザー・セッションとしてカウントされます。複数のチャネルからサービスにアクセスする認証されたユーザーは、1 つのアクティブ・ユーザー・セッションとしてカウントされます。たとえば、1 人のビジターが 1 時間の期間中に Firefox デスクトップ Web ブラウザ、Chrome デスクトップ Web ブラウザおよびモバイル Web ブラウザから同じ Oracle Content Management インスタンスにアクセスする場合は、合計 3 つのアクティブ・ユーザー・セッションとしてカウントされます。一方、1 人の認証されたユーザーが同じアクションを実行した場合、それは 1 つのアクティブ・ユーザー・セッションとしてカウントされます。

ユーザーが標準ユーザー、エンタープライズ・ユーザーまたはビジターであるかに応じて、特定数の API コール、特定量のアウトバウンド・データ転送、およびエンタープライズ・ユーザーの場合は特定数の新しい公開済コンテンツ・アセットが許可されます。したがって、請求の目的で、1 時間の各アクティブ・ユーザー・セッション中に次のメトリックも追跡されます。

- カスタム・サードパーティ・アプリケーション(Oracle 以外)によりサービスに行われた API コールの数 - API コールの数が、1 時間の期間中にアクティブ・ユーザーごとに資格が付与されている API コールを超えた場合、新しいアクティブ・ユーザーが毎時件数に追加されます。
- アウトバウンド・データ転送 - これには、ユーザーが Oracle Cloud Service からダウンロードするデータ、およびクライアント・リクエストに対するレスポンスなど、インターネット経由の Oracle Cloud Service からのデータの転送が含まれます。アウトバウンド・データ転送が、1 時間の期間中にアクティブ・ユーザーごとに資格が付与されているデータ転送を超えた場合、新しいアクティブ・ユーザーが毎時件数に追加されます。
- 新しく公開されたアセットの数(エンタープライズ・ユーザーのみ) - 公開済アセットは、ファイル・ベースのアセット(たとえば、ドキュメント、イメージ、ビデオ)または公開されたコンテンツ・アイテムです。コンテンツ・アイテムは、コンテンツ・タイプを使用して作成された情報のブロックです。新しく公開されたアセットの数が、1 時間の期間中にアクティブ・ユーザーごとに資格が付与されている公開済アセットを超えた場合、新しいアクティブ・ユーザーが毎時件数に追加されま

す。この件数には、以前に公開されたアセットは含まれず、1 時間のアクティブ・ユーザー・セッション中に公開されたアセットのみが含まれます。

ノート:

ユニバーサル・クレジットの価格および使用制限(たとえば、API コールの数、アウトバウンド・データ転送の量およびユーザー当たり許可される公開済アセットの数)は、[Oracle Universal Credits の価格](#)および [Oracle Cloud サービス](#)を参照してください(リストの一番下近くにある「Oracle PaaS and IaaS ユニバーサル・クレジット・サービスの説明」を表示します)。

よくある質問

2 つ目のサイトを訪問しているユーザーは、2 つめのアクティブ・ユーザー・セッションとしてカウントされますか。

異なるリソース(異なるサイトなど)にアクセスしている *ビジター*または*匿名ユーザー*のみが、別のアクティブ・ユーザー・セッションとしてカウントされます。複数のチャネルからサービスにアクセスしている *認証されたユーザー*は、1 つのアクティブ・ユーザー・セッションとしてカウントされます。たとえば、1 時間のセッション・ウィンドウ内に 2 つの異なるサイトにアクセスしている同じ *ビジター*は、2 つのアクティブ・ユーザー・セッションとしてカウントされます。基本的に、カウントは *ビジター*または*匿名ユーザー*ごと、リソースごと、チャネルごと、特定のサービス・インスタンスの 1 時間のセッション・ウィンドウごとです。

ボットまたはクローラによるサイトへの訪問はアクティブ・ユーザー・セッションとしてカウントされますか。

ボットまたはクローラからの反復的な訪問は、アクティブ・ユーザー・セッションとしてカウントされません。

パブリック・ダウンロード・リンクにアクセスしているユーザーはアクティブ・ユーザー・セッションとしてカウントされますか。

ドキュメントをダウンロードするためにパブリック・ダウンロード・リンクにアクセスしているユーザーは、アクティブ・ユーザー・セッションとしてはカウントされません。「**ダウンロード**」ボタンが表示されている Oracle Content Management のユーザー・インタフェースからアクセスしてきたユーザーであっても、アクティブ・ユーザー・セッションとしてカウントされません。ただし、1 時間当たりのアウトバウンド・データ転送は追跡されます。

パブリック・ダウンロード・リンクが Oracle Content Management で作成されたサイトを介してアクセスされるとどうなりますか。リンクの使用はアクティブ・ユーザー・セッションとしてカウントされますか。

Oracle Content Management で作成されたサイトを訪問すると、アクティブ・ユーザー・セッションがトリガーされるため、その時間のアクティブ・ユーザーとしてカウントされますが、パブリック・ダウンロード・リンクの使用によるものではありません。再度、アウトバウンド・データ転送が追跡されます。

ブラウザ・セッションの場合、アクティブ・ユーザー・セッションはどのように追跡されますか。

ブラウザのアクティブ・ユーザー・セッションは、ブラウザ・セッションで 1 時間セッション・ウィンドウが終了した後失効する cookie を配置することで追跡されます。

ユーザーがブラウザ内の cookie をクリアする、または匿名のブラウザ・セッションを終了するとどうなりますか。

ユーザーが(ブラウザでクリアするかシークレット・ウィンドウを閉じることで) cookie をクリアした場合、次のリクエストは新規ユーザーとして扱われ、新しいアクティブ・ユーザー・セッションとしてカウントされます。

AppLink と API コールは請求目的で追跡されますか。

サードパーティ・アプリケーションおよび他の Oracle Cloud アプリケーションからの AppLink および API コールは、API 接続の確立に使用されたユーザー・アイデンティティ(標準またはエンタープライズ)に従って請求されます。特定の時間の 100 API コールごとに、その時間の追加のアクティブ・ユーザーとしてカウントされます。

AppLink コールはどのようにしてビジター・セッションとして追跡されますか。

AppLink リクエスト本文の `assignedUser` パラメータを使用して、一意のユーザーに関連付けられているクライアント側呼出しを追跡します。*Integrating and Extending Oracle Content Management* のフォルダおよびファイルの選択の統合および AppLink リソースを参照してください。

Oracle Content Management デスクトップ・クライアントのユーザーはどのようにして追跡されますか。

デスクトップからファイルまたはフォルダを作成、編集または更新する場合、デスクトップ・クライアント・ユーザーは、アクティブ・ユーザー(必要に応じて標準ユーザーまたはエンタープライズ・ユーザーのいずれか)として追跡されます。他のユーザーによるファイルまたはフォルダへの更新が原因で発生したクラウド・サーバーからの下方向の同期アクションは、アクティブ・ユーザー・セッションとしてカウントされません。ただし、アウトバウンド・データ転送メトリック方向の同期はカウントされます。たとえば、ユーザーが 1 時間あたり 1 GB を超えるデータを同期すると、同期された追加の GB は、その時間の追加のアクティブ・ユーザー・セッション(必要に応じて標準またはエンタープライズのいずれか)としてカウントされます。

ビジター・セッションについて

ビジター・セッションは、指定されたセッション・ウィンドウ(毎時ビジター・セッションの場合は 1 時間、日次ビジター・セッションの場合は 24 時間)の間の使用状況を追跡するために Oracle Content Management で使用されるメトリックです。ビジター・セッションは、サイト・ビジターロールを持つ一意の未認証ユーザーまたは認証済ユーザーが特定のチャンネルを使用して(たとえば、ブラウザ、モバイル・ブラウザまたは AppLink などを使用して)サービスにアクセスしたときにトリガーされます。複数のチャンネルからのアクセスは、複数のビジター・セッションとしてカウントされます。たとえば、1 人のユーザーが 24 時間の期間中に Firefox デスクトップ Web ブラウザ、Chrome デスクトップ Web ブラウザおよびモバイル Web ブラウザから同じ Oracle Content Management インスタンスにアクセスする場合は、合計 3 つの日次ビジター・セッションとしてカウントされます。

未認証のユーザーは、特定のサイトにアクセスし、パブリック・リンクを使用し、アプリケーションまたは Web サイトに埋め込まれた Oracle Content Management コンテンツを表示できます。[アプリケーション・ロール別のタスクと機能の比較](#)を参照してください。

よくある質問

ユーザーが同じ Oracle Content Management インスタンス内の複数のページにアクセスする場合、それは複数のビジター・セッションとしてカウントされますか。

いいえ。ビジター・セッションはインスタンス(サイト)レベルでのみカウントされます。

ビジター・セッションはいつトリガーされますか。

ビジター・セッションは、Oracle Content Management インスタンスなどの Oracle Content Management リソース、Oracle Content Management で作成されたサイトにアクセスする任意のユーザー(匿名または認証されたゲスト)によって、または API を介して(たとえば AppLink を使用して)、セッション・ウィンドウ中に少なくとも 1 回開始されます。

ビジター・セッションの長さはどれくらいですか。

毎時ビジター・セッションの期間は 1 時間で、日次ビジター・セッションは 24 時間です。ユーザーが一意的なチャンネルを介して特定の Oracle Content Management リソースに最初にアクセスしたときに開始します。1 時間後に、同じユーザーが同じリソースを訪問すると、別の毎時ビジター・セッションがトリガーされます。24 時間後に、同じユーザーが同じリソースを訪問すると、別の日次ビジター・セッションがトリガーされます。

Oracle Content Management 標準またはエンタープライズ・ユーザーは、ビジター・セッション数でカウントされますか。

いいえ。Oracle Content Management リソースを訪問する認証された(サインインしている)標準またはエンタープライズ・ユーザーは、ビジター・セッション数に含まれません。

ビジター・セッションは、Oracle Content Management リソースを訪問している認証された(サインインしている)ユーザーに適用されますか。

前述のように、Oracle Content Management リソースにアクセスする認証された Oracle Content Management 標準またはエンタープライズ・ユーザーは、ビジター・セッション数でカウントされません。ただし、[サイト・ビジター](#)ルールを持つ認証済ユーザーは、ビジター・セッション数でカウントされます。[アプリケーション・ルール](#)を参照してください。

ビジター・セッションはどのような頻度で計算されますか。

ビジターは、ビジター・セッション・ウィンドウ(毎時ビジター・セッションの場合は 1 時間、日次ビジター・セッションの場合は 24 時間)で同じリソース(サイト、API または AppLink)に複数回アクセスすることがありますが、1 回の訪問としてカウントされます。ビジター・セッション・ウィンドウの後にユーザーが同じリソースに再びアクセスする場合、それは新しい訪問としてカウントされます。

2 つ目のサイトを訪問しているユーザーは、2 つめのビジター・セッションとしてカウントされますか。

異なるリソース(異なるサイトなど)にアクセスしている同じユーザーは、別のビジター・セッションの訪問としてカウントされます。たとえば、セッション・ウィンドウ内で 2 つの異なるサイトにアクセスしている同じユーザーは、2 回の訪問としてカウントされます。基本的に、カウントはユーザーごと、リソースごと、チャンネルごと、特定のサービス・インスタンスのビジター・セッション・ウィンドウごとです。

ボットまたはクローラによるサイトへの訪問はビジター・セッションとしてカウントされますか。

ボットまたはクローラからの反復的な訪問は、ビジター・セッションとしてカウントされません。

パブリック・ダウンロード・リンクにアクセスしているユーザーはビジター・セッションとしてカウントされますか。

ドキュメントをダウンロードするためにパブリック・ダウンロード・リンクにアクセスしているユーザーは、ビジター・セッションとしてはカウントされません。「**ダウンロード**」ボタンが表示されている Oracle Content Management のユーザー・インタフェースからアクセスしてきたユーザーであっても、ビジター・セッションとしてカウントされません。

パブリック・ダウンロード・リンクが Oracle Content Management で作成されたサイトを介してアクセスされるとどうなりますか。リンクの使用はビジター・セッションとしてカウントされますか。

Oracle Content Management で作成されたサイトを訪問するとビジター・セッションがトリガーされるため、ビジター・セッションとしてカウントされますが、パブリック・ダウンロード・リンクの使用によるものではありません。

ブラウザ・セッションの場合、ビジター・セッションはどのように追跡されますか。

ブラウザのビジター・セッションは、ブラウザ・セッションでセッション・ウィンドウが終了した後に失効する cookie を配置することで追跡されます。

ユーザーがブラウザ内の cookie をクリアする、または匿名のブラウザ・セッションを終了するとどうなりますか。

ユーザーが(ブラウザでクリアするかシークレット・ウィンドウを閉じることで) cookie をクリアした場合、次のリクエストは新規ユーザーとして扱われ、新しいビジター・セッションとしてカウントされます。

管理者にはどのようなメトリックがレポートされますか。

Oracle Content Management Analytics は、次のメトリックを提供します:

- 時間単位でのビジター・セッション数の内訳
- 月単位でのビジター・セッション数の集計
- 月の各日にドリルダウンする機能(ビジター数を取得するため)

現在サポートされていない、または取得されないメトリックは何ですか。

- cookie の無効化: 一部の顧客は、エンド・ユーザー・ポリシーとしてブラウザ側で cookie の追跡を無効化できます。このような場合、ビジター・ベースの cookie は無効化されているため Oracle Content Management はこれらを追跡できないので、カウントは実際のビジター数よりも少なくなります。
- Oracle Content Management デスクトップ・アプリケーションを通じたビジターの追跡(デスクトップ・アプリケーションは現在名前付きユーザーのカウントのみをサポートしています)。
- Oracle Content Management モバイル・アプリケーションを通じた訪問の追跡(モバイル・アプリケーションは現在名前付きユーザーのカウントのみをサポートしています)。

cookie の追跡に関して、オプトアウトまたはプライバシー・サポートはどうなっていますか。

Oracle Content Management サイトは、Oracle Content Management リソース(サイト)が cookie を使用していること、およびユーザーは cookie を無効化することでオプトアウトできることをユーザーに知らせる標準オプションを提供しています。これを

サポートするために、次の 2 つのアイテムがすべての Oracle Content Management サイト・リソースで一貫して追加されます:

- オプトアウト・サマリー・メッセージ: このメッセージは、各サイトに表示され、cookie が追跡のために使用されていることを示します。プライバシー・ページへのリンクが含まれます。
- プライバシ・サイト・ページ: cookie の使用および cookie を無効化する手順の説明が含まれる標準サイト・ページ。他のサイト・ページと同様に、このページをカスタマイズできます。

AppLink と API コールはビジター・セッションとして追跡されますか。

サードパーティ・アプリケーションからの AppLink および REST API コールは、ビジター・セッション数に含まれます。

AppLink コールはどのようにしてビジター・セッションとして追跡されますか。

AppLink リクエスト本文の assignedUser パラメータを使用して、一意のユーザーに関連付けられているクライアント側呼出しを追跡します。 *Integrating and Extending Oracle Content Management* のフォルダおよびファイルの選択の統合および AppLink リソースを参照してください。

例

ここでは、ビジター・セッション数の例を示します。ACME Corporation に Oracle Content Management サービス・インスタンスがあり、SiteA、SiteB、SiteC という 3 つのサイトを作成したと想定しましょう。セッション・ウィンドウ中にビジター・セッションがカウントされる方法の例を次に示します。

ビジター	リソース(サイト)	日次ビジター・セッション数
User1	https://docs-acme.sites.us2.oraclecloud/authsite/SiteA	カウントは 1 に増加します (cookie1、ユーザーがサイト-SiteA を訪問、Firefox を使用)
User1	https://docs-acme.sites.us2.oraclecloud/authsite/SiteB	カウントは 2 に増加します (cookie2、同じユーザーが別のサイト-SiteB を訪問、Firefox を使用)
User2	https://mysite.acme.example.com (SiteC のバニティ URL)	カウントは 3 に増加します (cookie3、別のユーザー、別のサイト-SiteC、Firefox を使用)
User3	https://mysite.acme.example.com (SiteC のバニティ URL)	カウントは 4 に増加します (cookie4、別のユーザー、同じサイト-SiteC、Firefox を使用)
User2	https://mysite.acme.example.com (SiteC のバニティ URL)	カウントは 4 のままです(変更なし、cookie3、同じユーザー-User2、同じサイト-SiteC、Firefox を使用、同じセッション・ウィンドウ)
User2	https://mysite.acme.example.com (SiteC のバニティ URL)	カウントは 5 に増加します (cookie5、同じユーザー-User2、同じサイト-SiteC、Firefox を使用、Chrome を使用)

OCI Classic 上の Oracle Content Management のレガシー・インスタンスの管理

Oracle Cloud Infrastructure (OCI) Classic 上の Oracle Content Management のレガシー・インスタンスを保有している場合、それらのインスタンスの管理方法にはいくつかの違いがあります。

第 2 世代の OCI および Oracle のクラウド・プラットフォームの利点と先進機能を将来にわたって活用するために、必ず Infrastructure コンソールで[新規インスタンスを作成](#)する必要があります。それらのインスタンスは、Infrastructure コンソールを通じて管理およびモニターします。

Infrastructure Classic コンソール(旧マイ・サービス)で作成したレガシー・インスタンスの場合、このトピックで説明する方法で管理できます。ただし、新しいネイティブ OCI 環境(第 2 世代の OCI)に[それらのインスタンスを移行](#)(つまり、Infrastructure コンソールを使用してサービス・インスタンスを管理)し、それらのインスタンスが Oracle のクラウド・プラットフォームの将来の利点と進歩も利用できるようにすることをお勧めします。

! 重要:


- レガシー・インスタンスを作成した場合、CEC_INTERNAL_APPID_USER という名前のユーザーが自動的に作成されています。これは、サインインには使用できない内部ユーザーです。このユーザーを使用すると、Oracle Content Management コンポーネント間で通信できます。このユーザーは削除しないでください。削除すると、Oracle Content Management の一部の機能が動かなくなります。
- レガシー・ユニバーサル・クレジット・サブスクリプションを保有している場合、[1 時間当たりのアクティブ・ユーザー](#)および[ビジター・セッション](#)に基づいて請求されます。

他のタスクはすべて、前の章で説明した方法で実行されます:




- [サービス設定の構成](#)
- [ユーザー、グループおよびアクセスの管理](#)
- [サービスのモニター](#)
- [サービス使用状況の分析](#)
- また、*Integrating and Extending Oracle Content Management* で説明されており、Oracle Content Management を他のビジネス・アプリケーションと統合する必要がある場合があります。

レガシー・インスタンスを表示するには:

- クラウド・アカウント管理者として [Oracle Cloud](#) にサインインします。アカウント名とログイン情報は、よろこ電子メールに記載されています。

- Infrastructure コンソールで  をクリックし、「その他の Oracle Cloud サービス」で「プラットフォーム・サービス」を展開して「Content and Experience」をクリックします。左側のスクロール・バーを使用して下にスクロールしないとメニュー・オプションが表示されないことがあります。

インスタンスのリストから、次のアクションを実行できます：

- インスタンスのリストから、いくつかの管理タスクを実行できます。管理するインスタンスの横にある  をクリックします。インスタンスの Oracle Content Management Web クライアントへのアクセス、タグの追加またはインスタンスの削除が可能です。
- インスタンスの一般情報を表示するには、インスタンスの名前をクリックします。ストレージ OCID、バージョン、アカウント名などの情報が表示されます。詳細情報を表示するには、 をクリックします。
- インスタンスを管理するには、インスタンスの名前をクリックし、 をクリックします。インスタンスの Oracle Content Management Web クライアントへのアクセス、関連付けの追加、インスタンスの資格証明の更新、タグの追加またはアクティビティの表示が可能です。

1 時間当たりのアクティブ・ユーザーについて

Oracle Content Management-Classic インスタンスを保有している場合、1 時間当たりのアクティブ・ユーザーに基づいて請求されます。

1 時間当たりのアクティブ・ユーザーは、1 時間のセッション中にサービスと対話する一意のユーザーとして定義されます。アクティブ・ユーザーは、cookie、ユーザー ID、トークン、デバイス ID、IP またはセッション ID を使用して追跡されます。認証済ユーザーおよびビジターは、そのサービス・インスタンス内のユーザー(標準、エンタープライズまたはビジター)に与えられたロールに基づいて追跡されます。匿名ユーザーはビジターとして追跡されません。

複数のチャンネル(Web サイト、モバイル・アプリケーション、デスクトップ・クライアント、API 経由のカスタム・アプリケーション、電子メールなど)からサービスにアクセスするビジターおよび匿名ユーザーは、複数のアクティブ・ユーザー・セッションとしてカウントされます。複数のチャンネルからサービスにアクセスする認証されたユーザーは、1 つのアクティブ・ユーザー・セッションとしてカウントされます。たとえば、1 人のビジターが 1 時間の期間中に Firefox デスクトップ Web ブラウザ、Chrome デスクトップ Web ブラウザおよびモバイル Web ブラウザから同じ Oracle Content Management インスタンスにアクセスする場合は、合計 3 つのアクティブ・ユーザー・セッションとしてカウントされます。一方、1 人の認証されたユーザーが同じアクションを実行した場合、それは 1 つのアクティブ・ユーザー・セッションとしてカウントされます。

ユーザーが標準ユーザー、エンタープライズ・ユーザーまたはビジターであるかに応じて、特定数の API コール、特定量のアウトバウンド・データ転送、およびエンタープライズ・ユーザーの場合は特定数の新しい公開済コンテンツ・アセットが許可されます。したがって、請求の目的で、1 時間の各アクティブ・ユーザー・セッション中に次のメトリックも追跡されます。

- カスタム・サードパーティ・アプリケーション(Oracle 以外)によりサービスに行われた API コールの数 - API コールの数が、1 時間の期間中にアクティブ・ユーザーごとに資格が付与されている API コールを超えた場合、新しいアクティブ・ユーザーが毎時件数に追加されます。

- アウトバウンド・データ転送 - これには、ユーザーが **Oracle Cloud Service** からダウンロードするデータ、およびクライアント・リクエストに対するレスポンスなど、インターネット経由の **Oracle Cloud Service** からのデータの転送が含まれます。アウトバウンド・データ転送が、1 時間の期間中にアクティブ・ユーザーごとに資格が付与されているデータ転送を超えた場合、新しいアクティブ・ユーザーが毎時件数に追加されます。
- 新しく公開されたアセットの数(エンタープライズ・ユーザーのみ) - 公開済アセットは、ファイル・ベースのアセット(たとえば、ドキュメント、イメージ、ビデオ)または公開されたコンテンツ・アイテムです。コンテンツ・アイテムは、コンテンツ・タイプを使用して作成された情報のブロックです。新しく公開されたアセットの数が、1 時間の期間中にアクティブ・ユーザーごとに資格が付与されている公開済アセットを超えた場合、新しいアクティブ・ユーザーが毎時件数に追加されます。この件数には、以前に公開されたアセットは含まれず、1 時間のアクティブ・ユーザー・セッション中に公開されたアセットのみが含まれます。

ノート:

ユニバーサル・クレジットの価格および使用制限(たとえば、API コールの数、アウトバウンド・データ転送の量およびユーザー当たり許可される公開済アセットの数)は、[Oracle Universal Credits の価格](#)および [Oracle Cloud サービス](#)を参照してください(リストの一番下近くにある「Oracle PaaS and IaaS ユニバーサル・クレジット - サービスの説明」を表示します)。

よくある質問

2 つ目のサイトを訪問しているユーザーは、2 つめのアクティブ・ユーザー・セッションとしてカウントされますか。

異なるリソース(異なるサイトなど)にアクセスしている **ビジター**または**匿名ユーザー**のみが、別のアクティブ・ユーザー・セッションとしてカウントされます。複数のチャンネルからサービスにアクセスしている **認証されたユーザー**は、1 つのアクティブ・ユーザー・セッションとしてカウントされます。たとえば、1 時間のセッション・ウィンドウ内に 2 つの異なるサイトにアクセスしている同じ **ビジター**は、2 つのアクティブ・ユーザー・セッションとしてカウントされます。基本的に、カウントは **ビジター**または**匿名ユーザー**ごと、リソースごと、チャンネルごと、特定のサービス・インスタンスの 1 時間のセッション・ウィンドウごとです。

ボットまたはクローラによるサイトへの訪問はアクティブ・ユーザー・セッションとしてカウントされますか。

ボットまたはクローラからの反復的な訪問は、アクティブ・ユーザー・セッションとしてカウントされません。

パブリック・ダウンロード・リンクにアクセスしているユーザーはアクティブ・ユーザー・セッションとしてカウントされますか。

ドキュメントをダウンロードするためにパブリック・ダウンロード・リンクにアクセスしているユーザーは、アクティブ・ユーザー・セッションとしてはカウントされません。「**ダウンロード**」ボタンが表示されている **Oracle Content Management** のユーザー・インタフェースからアクセスしてきたユーザーであっても、アクティブ・ユーザー・セッションとしてカウントされません。ただし、1 時間当たりのアウトバウンド・データ転送は追跡されます。

パブリック・ダウンロード・リンクが Oracle Content Management で作成されたサイトを介してアクセスされるとどうなりますか。リンクの使用はアクティブ・ユーザー・セッションとしてカウントされますか。

Oracle Content Management で作成されたサイトを訪問すると、アクティブ・ユーザー・セッションがトリガーされるため、その時間のアクティブ・ユーザーとしてカウントされますが、パブリック・ダウンロード・リンクの使用によるものではありません。再度、アウトバウンド・データ転送が追跡されます。

ブラウザ・セッションの場合、アクティブ・ユーザー・セッションはどのように追跡されますか。

ブラウザのアクティブ・ユーザー・セッションは、ブラウザ・セッションで 1 時間セッション・ウィンドウが終了した後に失効する cookie を配置することで追跡されます。

ユーザーがブラウザ内の cookie をクリアする、または匿名のブラウザ・セッションを終了するとどうなりますか。

ユーザーが(ブラウザでクリアするかシークレット・ウィンドウを閉じることで) cookie をクリアした場合、次のリクエストは新規ユーザーとして扱われ、新しいアクティブ・ユーザー・セッションとしてカウントされます。

AppLink と API コールは請求目的で追跡されますか。

サードパーティ・アプリケーションおよび他の Oracle Cloud アプリケーションからの AppLink および API コールは、API 接続の確立に使用されたユーザー・アイデンティティ (標準またはエンタープライズ) に従って請求されます。特定の時間の 100 API コールごとに、その時間の追加のアクティブ・ユーザーとしてカウントされます。

AppLink コールはどのようにしてビジター・セッションとして追跡されますか。

AppLink リクエスト本文の `assignedUser` パラメータを使用して、一意のユーザーに関連付けられているクライアント側呼出しを追跡します。 *Integrating and Extending Oracle Content Management* のフォルダおよびファイルの選択の統合および AppLink リソースを参照してください。

Oracle Content Management デスクトップ・クライアントのユーザーはどのようにして追跡されますか。

デスクトップからファイルまたはフォルダを作成、編集または更新する場合、デスクトップ・クライアント・ユーザーは、アクティブ・ユーザー(必要に応じて標準ユーザーまたはエンタープライズ・ユーザーのいずれか)として追跡されます。他のユーザーによるファイルまたはフォルダへの更新が原因で発生したクラウド・サーバーからの下方向の同期アクションは、アクティブ・ユーザー・セッションとしてカウントされません。ただし、アウトバウンド・データ転送メトリック方向の同期はカウントされます。たとえば、ユーザーが 1 時間あたり 1 GB を超えるデータを同期すると、同期された追加の GB は、その時間の追加のアクティブ・ユーザー・セッション(必要に応じて標準またはエンタープライズのいずれか)としてカウントされます。

ビジター・セッションについて

ビジター・セッションは、指定されたセッション・ウィンドウ(毎時ビジター・セッションの場合は 1 時間、日次ビジター・セッションの場合は 24 時間)の間の使用状況を追跡するために Oracle Content Management で使用されるメトリックです。ビジター・セッションは、サイト・ビジターロールを持つ一意の未認証ユーザーまたは認証済ユーザーが特定のチャネルを使用して(たとえば、ブラウザ、モバイル・ブラウザまたは AppLink などを使用して)サービ

スにアクセスしたときにトリガーされます。複数のチャネルからのアクセスは、複数のビジター・セッションとしてカウントされます。たとえば、1人のユーザーが24時間の期間中に Firefox デスクトップ Web ブラウザ、Chrome デスクトップ Web ブラウザおよびモバイル Web ブラウザから同じ Oracle Content Management インスタンスにアクセスする場合は、合計3つの日次ビジター・セッションとしてカウントされます。

未認証のユーザーは、特定のサイトにアクセスし、パブリック・リンクを使用し、アプリケーションまたは Web サイトに埋め込まれた Oracle Content Management コンテンツを表示できます。

よくある質問

ユーザーが同じ Oracle Content Management インスタンス内の複数のページにアクセスする場合、それは複数のビジター・セッションとしてカウントされますか。

いいえ。ビジター・セッションはインスタンス(サイト)レベルでのみカウントされません。

ビジター・セッションはいつトリガーされますか。

ビジター・セッションは、Oracle Content Management インスタンスなどの Oracle Content Management リソース、Oracle Content Management で作成されたサイトにアクセスする任意のユーザー(匿名または認証されたゲスト)によって、または API を介して(たとえば AppLink を使用して)、セッション・ウィンドウ中に少なくとも1回開始されます。

ビジター・セッションの長さはどれくらいですか。

毎時ビジター・セッションの期間は1時間で、日次ビジター・セッションは24時間です。ユーザーが一意的チャネルを介して特定の Oracle Content Management リソースに最初にアクセスしたときに開始します。1時間後に、同じユーザーが同じリソースを訪問すると、別の毎時ビジター・セッションがトリガーされます。24時間後に、同じユーザーが同じリソースを訪問すると、別の日次ビジター・セッションがトリガーされます。

Oracle Content Management 標準またはエンタープライズ・ユーザーは、ビジター・セッション数でカウントされますか。

いいえ。Oracle Content Management リソースを訪問する認証された(サインインしている)標準またはエンタープライズ・ユーザーは、ビジター・セッション数に含まれません。

ビジター・セッションは、Oracle Content Management リソースを訪問している認証された(サインインしている)ユーザーに適用されますか。

前述のように、Oracle Content Management リソースにアクセスする認証された Oracle Content Management 標準またはエンタープライズ・ユーザーは、ビジター・セッション数でカウントされません。ただし、*サイト・ビジター*ロールを持つ認証済ユーザーは、ビジター・セッション数でカウントされます。

ビジター・セッションはどのような頻度で計算されますか。

ビジターは、ビジター・セッション・ウィンドウ(毎時ビジター・セッションの場合は1時間、日次ビジター・セッションの場合は24時間)で同じリソース(サイト、API または AppLink)に複数回アクセスすることがありますが、1回の訪問としてカウントされます。ビジター・セッション・ウィンドウの後にユーザーが同じリソースに再びアクセスする場合、それは新しい訪問としてカウントされます。

2 つ目のサイトを訪問しているユーザーは、2 つめのビジター・セッションとしてカウントされますか。

異なるリソース(異なるサイトなど)にアクセスしている同じユーザーは、別のビジター・セッションの訪問としてカウントされます。たとえば、セッション・ウィンドウ内で 2 つの異なるサイトにアクセスしている同じユーザーは、2 回の訪問としてカウントされます。基本的に、カウントはユーザーごと、リソースごと、チャンネルごと、特定のサービス・インスタンスのビジター・セッション・ウィンドウごとです。

ボットまたはクローラによるサイトへの訪問はビジター・セッションとしてカウントされますか。

ボットまたはクローラからの反復的な訪問は、ビジター・セッションとしてカウントされません。

パブリック・ダウンロード・リンクにアクセスしているユーザーはビジター・セッションとしてカウントされますか。

ドキュメントをダウンロードするためにパブリック・ダウンロード・リンクにアクセスしているユーザーは、ビジター・セッションとしてはカウントされません。「ダウンロード」ボタンが表示されている Oracle Content Management のユーザー・インタフェースからアクセスしてきたユーザーであっても、ビジター・セッションとしてカウントされません。

パブリック・ダウンロード・リンクが Oracle Content Management で作成されたサイトを介してアクセスされるとどうなりますか。リンクの使用はビジター・セッションとしてカウントされますか。

Oracle Content Management で作成されたサイトを訪問するとビジター・セッションがトリガーされるため、ビジター・セッションとしてカウントされますが、パブリック・ダウンロード・リンクの使用によるものではありません。

ブラウザ・セッションの場合、ビジター・セッションはどのように追跡されますか。

ブラウザのビジター・セッションは、ブラウザ・セッションでセッション・ウィンドウが終了した後に失効する cookie を配置することで追跡されます。

ユーザーがブラウザ内の cookie をクリアする、または匿名のブラウザ・セッションを終了するとどうなりますか。

ユーザーが(ブラウザでクリアするかシークレット・ウィンドウを閉じることで) cookie をクリアした場合、次のリクエストは新規ユーザーとして扱われ、新しいビジター・セッションとしてカウントされます。

管理者にはどのようなメトリックがレポートされますか。

Oracle Content Management Analytics は、次のメトリックを提供します:

- 時間単位でのビジター・セッション数の内訳
- 月単位でのビジター・セッション数の集計
- 月の各日にドリルダウンする機能(ビジター数を取得するため)

現在サポートされていない、または取得されないメトリックは何ですか。

- cookie の無効化: 一部の顧客は、エンド・ユーザー・ポリシーとしてブラウザ側で cookie の追跡を無効化できます。このような場合、ビジター・ベースの cookie は無効化されているため Oracle Content Management はこれらを追跡できないので、カウントは実際のビジター数よりも少なくなります。

- Oracle Content Management デスクトップ・アプリケーションを通じたビジターの追跡(デスクトップ・アプリケーションは現在名前付きユーザーのカウントのみをサポートしています)。
- Oracle Content Management モバイル・アプリケーションを通じた訪問の追跡(モバイル・アプリケーションは現在名前付きユーザーのカウントのみをサポートしています)。

cookie の追跡に関して、オプトアウトまたはプライバシー・サポートはどうなっていますか。

Oracle Content Management サイトは、Oracle Content Management リソース(サイト)が cookie を使用していること、およびユーザーは cookie を無効化することでオプトアウトできることをユーザーに知らせる標準オプションを提供しています。これをサポートするために、次の 2 つのアイテムがすべての Oracle Content Management サイト・リソースで一貫して追加されます:

- オプトアウト・サマリー・メッセージ: このメッセージは、各サイトに表示され、cookie が追跡のために使用されていることを示します。プライバシー・ページへのリンクが含まれます。
- プライバシ・サイト・ページ: cookie の使用および cookie を無効化する手順の説明が含まれる標準サイト・ページ。他のサイト・ページと同様に、このページをカスタマイズできます。

AppLink と API コールはビジター・セッションとして追跡されますか。

サードパーティ・アプリケーションからの AppLink および REST API コールは、ビジター・セッション数に含まれます。

AppLink コールはどのようにしてビジター・セッションとして追跡されますか。

AppLink リクエスト本文の `assignedUser` パラメータを使用して、一意のユーザーに関連付けられているクライアント側呼出しを追跡します。*Integrating and Extending Oracle Content Management* のフォルダおよびファイルの選択の統合および AppLink リソースを参照してください。

例

ここでは、ビジター・セッション数の例を示します。ACME Corporation に Oracle Content Management サービス・インスタンスがあり、SiteA、SiteB、SiteC という 3 つのサイトを作成したと想定しましょう。セッション・ウィンドウ中にビジター・セッションがカウントされる方法の例を次に示します。

ビジター	リソース(サイト)	日次ビジター・セッション数
User1	https://docs-acme.sites.us2.oraclecloud/authsite/SiteA	カウントは 1 に増加します (cookie1、ユーザーがサイト-SiteA を訪問、Firefox を使用)
User1	https://docs-acme.sites.us2.oraclecloud/authsite/SiteB	カウントは 2 に増加します (cookie2、同じユーザーが別のサイト-SiteB を訪問、Firefox を使用)
User2	https://mysite.acme.example.com (SiteC のパニティ URL)	カウントは 3 に増加します (cookie3、別のユーザー、別のサイト-SiteC、Firefox を使用)

ビジター	リソース(サイト)	日次ビジター・セッション数
User3	https:// mysite.acme.example.com (SiteC のバニティ URL)	カウントは 4 に増加します (cookie4、別のユーザー、同じ サイト-SiteC、Firefox を使用)
User2	https:// mysite.acme.example.com (SiteC のバニティ URL)	カウントは 4 のままです(変更 なし、cookie3、同じユーザー- User2、同じサイト-SiteC、 Firefox を使用、同じセッショ ン・ウィンドウ)
User2	https:// mysite.acme.example.com (SiteC のバニティ URL)	カウントは 5 に増加します (cookie5、同じユーザー- User2、同じサイト-SiteC、 Firefox を使用、Chrome を使 用)

OCI Classic 上の政府向け Oracle Content Management の レガシー・インスタンスのデプロイおよび管理

Oracle Cloud Infrastructure Classic (OCI Classic)上の政府向け Oracle Content Management を保有している場合、Oracle Content Management のデプロイおよび管理の方法にいくつかの違いがあります。

Oracle CX 向け Oracle Content Management Cloud Service を保有している場合、[新規インスタンスを作成](#)するとともに、Infrastructure コンソールでこれらのインスタンスを管理およびモニターする[必要があります](#)。次の手順には従わないでください。

Oracle Cloud Infrastructure Classic (OCI Classic)上の政府向け Oracle Content Management を保有している場合、次のタスクを異なる方法で実行します:

- [新規インスタンスの作成](#)
- [既存のインスタンスの管理](#)

他のタスクはすべて、前の章で説明した方法で実行されます:

- [サービス設定の構成](#)
- [ユーザー、グループおよびアクセスの管理](#)
- [サービスのモニター](#)
- [サービス使用状況の分析](#)
- また、*Integrating and Extending Oracle Content Management* で説明されているとおり、Oracle Content Management を他のビジネス・アプリケーションと統合する必要がある場合があります。

政府向け Oracle Content Management のインスタンスの作成

政府向け Oracle Content Management インスタンスを作成するには、次のステップを実行します。

1. [クラウド・アカウント管理者が OCI Administrators グループに含まれていることの確認](#)
2. [リージョン、ユーザーおよびテナント値を取得](#)

3. OCI オブジェクト・ストレージのコンパートメントを作成
4. 秘密キーの生成
5. 公開キーの生成と OCI への追加
6. Oracle Content Management インスタンスの作成

クラウド・アカウント管理者が OCI Administrators グループに含まれていることの確認


インスタンスを作成するには、**OCI Administrators** グループの一員である必要があります。このグループは、Oracle Cloud Infrastructure (OCI) に Oracle Cloud アカウントがあると、自動的に作成されます。プライマリ・アカウント管理者である場合、自動的にこのグループの一員になり、この手順はスキップできます。プライマリ・アカウント管理者ではない場合、次の手順に従い、グループの一員であることを確認してください。

1. クラウド・アカウント管理者として **Oracle Cloud** にサインインします。アカウント名とログイン情報は、ようこそ電子メールに記載されています。
2. Infrastructure コンソールで、左上の  をクリックしてナビゲーション・メニューを開き、「**アイデンティティとセキュリティ**」をクリックし、「**アイデンティティ**」で、「**フェデレーション**」をクリックします。
3. 「フェデレーション」ページで **OracleIdentityCloudService** をクリックしてから、「**アイデンティティ・プロバイダの詳細**」ページで **Oracle Identity Cloud Service Console** へのリンクをクリックします。IDCS コンソールが新しいウィンドウで開きます。
4. IDCS コンソールで、 をクリックし、「**グループ**」をクリックします。
5. 「**OCI Administrators**」をクリックします。
6. 「**ユーザー**」をクリックして、グループ・メンバーをリストします。
7. クラウド・アカウント管理者ユーザーがリストされていることを確認します。

OCI Administrators のメンバーではない場合、自分自身をグループに追加する必要があります。[グループへのユーザーの割当て](#)を参照してください。



リージョン、ユーザーおよびテナント値を取得

Oracle Content Management インスタンスを作成する際には、オブジェクト・ストレージを設定するために Oracle Cloud Infrastructure の値を求められます。これらの値を取得する手順は、次のとおりです。

1. Infrastructure コンソール・ウィンドウに戻ります。
2. 右上にあるデータ・センターのドロップダウン・リストで、会社が基盤としているリージョンに最も近いデータ・センターを選択します。リージョンの名前を書き留めます。これが自分のリージョンおよびストレージ・インフラストラクチャ・リージョン名になります。
3.  をクリックして「**アイデンティティ**」を展開し、「**ユーザー**」をクリックします。
4. 「ユーザー」で、クラウド・アカウント管理者ユーザーを検索し、**OCID** の値を書き留めます。ストレージ・ユーザー OCID として、この値を使用できます。複数の

ユーザーがリストされる場合があるため、管理者権限を持つユーザーの OCID を必ず使用するようしてください。


または、ストレージ・サービス用の別のユーザーを作成し、そのユーザーを「管理者」グループに割当て、作成したユーザーの OCID を使用することもできます。Infrastructure コンソールでユーザーを作成するには:

- a.  をクリックして「アイデンティティ」を展開し、「ユーザー」、「ユーザーの作成」の順にクリックします。
- b. ユーザー名を入力し、「作成」をクリックします。
- c.  をクリックして「アイデンティティ」を展開し、「グループ」をクリックします。
- d. 「管理者」リンクをクリックします。
- e. ユーザーをグループに追加をクリックして、ドロップダウン・リストで新規ユーザーを選択し、「追加」をクリックします。
- f. 「グループ・メンバー」から新規ユーザーのユーザー OCID を取得します。ストレージ・ユーザー OCID として、この値を使用できます。

Infrastructure コンソールでユーザーを作成しても、IDCS にユーザー・アカウントは追加または作成されません。クラウド・アカウント管理者が、IDCS 管理コンソールを使用してユーザーを作成し、ユーザーにアプリケーション・ロールを割り当て、Oracle Content Management サービスにサインインしアクセスできるようにする必要があります。

5.  をクリックし、「管理」、「テナント詳細」の順にクリックします。テナント情報で、OCID の値を書き留めます。テナント OCID として、この値を使用できます。

OCI オブジェクト・ストレージのコンパートメントを作成

1. Infrastructure コンソールで  をクリックし、「ガバナンスと管理」で、「アイデンティティ」を展開して「コンパートメント」をクリックします。
テナントのルート・コンパートメント(RC)と ManagedCompartmentforPaaS (C)の 2 つのコンパートメントがデフォルトで作成されます。これらのデフォルト・コンパートメントは使用しないでください。オブジェクト・ストレージの新規コンパートメントを作成する必要があります。
2. コンパートメント・ページで、**コンパートメントの作成**をクリックします。
3. コンパートメントの名前と説明を入力します。
4. 「**コンパートメントの作成**」をクリックします。
5. コンパートメントを作成したら、OCID の隣で「**表示**」をクリックします。これは、ストレージ・コンパートメント ID です。

Oracle Content Management インスタンスを最初に作成する際に新規コンパートメントを作成する必要がありますが、すべてのインスタンスに新しいコンパートメント作成する必要はありません。複数のインスタンスに対して同じコンパートメントを使用できます。

秘密キーの生成

OpenSSL コマンドを使用して、必要な PEM 形式で次の API 署名キー/キー・ペアを生成します。

 ノート:

- Windows を使用している場合は、Git for Windows でコマンドを実行する必要があります。Git for Windows がない場合は、<https://git-scm.com/download/win> からダウンロードできます。
- Linux を使用している場合は、デフォルトで OpenSSL がインストールされています。


1. まだ作成していない場合は、資格証明を格納する .oci ディレクトリを作成します。
`mkdir ~/.oci`
2. パスフレーズなしで秘密キーを生成します。
`openssl genrsa -out ~/.oci/oci_api_key.pem 2048`
3. 秘密キー・ファイルは、自分だけが読み取れるようにしてください。
`chmod go-rwx ~/.oci/oci_api_key.pem`

Oracle Content Management インスタンスを作成する際に、この秘密キー・ファイルをアップロードします。

公開キーの生成と OCI への追加

1. 公開キーの生成:
`openssl rsa -pubout -in ~/.oci/oci_api_key.pem -out ~/.oci/oci_api_key_public.pem`
2. 公開キーの表示:
`cat ~/.oci/oci_api_key_public.pem`
3. 公開キーの全文をコピーします。
4. Infrastructure コンソールに公開キーを追加します:
 - a. メニューから、「**アイデンティティ**」、「**ユーザー**」の順にクリックします。
 - b. ユーザーを選択します。
 - c. **公開キーの追加**をクリックします。
 - d. ダイアログに公開キーを貼り付け、「**追加**」をクリックします。
 - e. 公開キーを追加したら、**フィンガープリント**の値を書き留めます。複数の公開キーを追加している場合には、タイムスタンプを確認して必ず正しいフィンガープリント値を書き留めてください。これは、ストレージ公開キー・フィンガープリントです。

Oracle Content Management インスタンスの作成

1. Infrastructure コンソールに戻り、左上の  をクリックしてナビゲーション・メニューを開き、「**プラットフォーム・サービス**」を展開して「**Content and Experience**」をクリックします。
2. 「**インスタンスの作成**」をクリックします。

 **ノート:**

インスタンスの作成を成功させるには、各フィールドの「説明」列に示されている「インスタンスの作成」ページの説明に正確に従うようにしてください。情報をコミットする際には、デフォルト値をそのままにしないでください。

3. 次の情報を入力し、「次」をクリックします。

フィールド	説明
インスタンス名	サービス・インスタンスの一意的な名前を指定します。すでに存在する名前を指定した場合は、エラーが表示され、インスタンスは作成されません。
説明	オプションで、インスタンスの説明を入力します。
通知電子メール	プロビジョニング・ステータス更新を送信する電子メール・アドレスを入力します。
リージョン	リージョン、ユーザーおよびテナント値の取得時に書き留めたリージョン名を選択します。
タグ	このフィールドは空白のままにしておきます。
ストレージ・ユーザー OCID	リージョン、ユーザーおよびテナント値の取得時に書き留めたストレージ・ユーザー OCID を入力します。
ストレージ・テナント OCID	リージョン、ユーザーおよびテナント値の取得時に書き留めたテナント OCID を入力します。
ストレージ・インフラストラクチャ・リージョン名	リージョン、ユーザーおよびテナント値の取得時に書き留めたリージョン名を入力します。
ストレージ・コンパートメント ID	OCI オブジェクト・ストレージにコンパートメントを作成した後で書き留めたコンパートメント OCID を入力します。
ストレージ公開キー・フィンガープリント	Oracle Cloud Infrastructure に公開キーを追加した後で書き留めた公開キー・フィンガープリントを入力します。
ストレージ秘密キー	生成した秘密キーをアップロードします。

次の作業

サービス・インスタンスが正常に作成されると、確認メールが届きます。メールには、インスタンスへのリンクが記載されています。Oracle Content Management Web クライアント

にアクセスするには、Oracle Content Management サービス・インスタンスの横にある  をクリックし、**Content Cloud Service インスタンスへのアクセス**を選択します。

次に、[ユーザーとグループの設定](#)を行います。

! 重要:

- インスタンスを作成すると、CEC_INTERNAL_APPID_USER という名前のユーザーが自動的に作成されます。これは、サインインには使用できない内部ユーザーです。このユーザーを使用すると、Oracle Content Management コンポーネント間で通信できます。このユーザーは削除しないでください。削除すると、Oracle Content Management の一部の機能が働かなくなります。
- インスタンスが作成されると、1 時間当たりのアクティブ・ユーザーおよびビジター・セッションに基づいて請求されます。




政府向け Oracle Content Management の管理

政府向け Oracle Content Management を保有している場合、インスタンスの管理方法にいくつかの違いがあります。

インスタンスを表示するには:

1. クラウド・アカウント管理者として [Oracle Cloud](#) にサインインします。アカウント名とログイン情報は、ようこそ電子メールに記載されています。
2. Infrastructure コンソールで  をクリックし、「その他の Oracle Cloud サービス」で「プラットフォーム・サービス」を展開して「Content and Experience」をクリックします。左側のスクロール・バーを使用して下にスクロールしないとメニュー・オプションが表示されないことがあります。

インスタンスのリストから、次のアクションを実行できます:

- インスタンスのリストから、いくつかの管理タスクを実行できます。管理するインスタンスの横にある  をクリックします。インスタンスの Oracle Content Management Web クライアントへのアクセス、タグの追加またはインスタンスの削除が可能です。
- インスタンスの一般情報を表示するには、インスタンスの名前をクリックします。ストレージ OCID、バージョン、アカウント名などの情報が表示されます。詳細情報を表示するには、 をクリックします。
- インスタンスを管理するには、インスタンスの名前をクリックし、 をクリックします。インスタンスの Oracle Content Management Web クライアントへのアクセス、関連付けの追加、インスタンスの資格証明の更新、タグの追加またはアクティビティの表示が可能です。

1 時間当たりのアクティブ・ユーザーについて

Oracle Cloud Infrastructure (OCI) 上に構築され、Infrastructure Classic コンソールで管理されている Oracle Content Management インスタンスを保有している場合、1 時間当たりのアクティブ・ユーザーに基づいて請求されます。

1 時間当たりのアクティブ・ユーザーは、1 時間のセッション中にサービスと対話する一意のユーザーとして定義されます。アクティブ・ユーザーは、cookie、ユーザー ID、

トークン、デバイス ID、IP またはセッション ID を使用して追跡されます。認証済ユーザーおよびビジターは、そのサービス・インスタンス内のユーザー(標準、エンタープライズまたはビジター)に与えられたロールに基づいて追跡されます。匿名ユーザーはビジターとして追跡されます。

複数のチャンネル(Web サイト、モバイル・アプリケーション、デスクトップ・クライアント、API 経由のカスタム・アプリケーション、電子メールなど)からサービスにアクセスする **ビジターおよび匿名ユーザー**は、複数のアクティブ・ユーザー・セッションとしてカウントされます。複数のチャンネルからサービスにアクセスする **認証されたユーザー**は、**1 つのアクティブ・ユーザー・セッション**としてカウントされます。たとえば、**1 人のビジターが 1 時間の期間中に Firefox デスクトップ Web ブラウザ、Chrome デスクトップ Web ブラウザおよびモバイル Web ブラウザから同じ Oracle Content Management インスタンスにアクセスする場合は、合計 3 つのアクティブ・ユーザー・セッションとしてカウントされます。**一方、**1 人の認証されたユーザーが同じアクションを実行した場合、それは 1 つのアクティブ・ユーザー・セッションとしてカウントされます。**

ユーザーが標準ユーザー、エンタープライズ・ユーザーまたはビジターであるかに応じて、特定数の API コール、特定量のアウトバウンド・データ転送、およびエンタープライズ・ユーザーの場合は特定数の新しい公開済コンテンツ・アセットが許可されます。したがって、請求の目的で、1 時間の各アクティブ・ユーザー・セッション中に次のメトリックも追跡されます。

- カスタム・サードパーティ・アプリケーション(Oracle 以外)によりサービスに行われた API コールの数 - API コール数が、1 時間の期間中にアクティブ・ユーザーごとに資格が付与されている API コールを超えた場合、新しいアクティブ・ユーザーが毎時件数に追加されます。
- アウトバウンド・データ転送 - これには、ユーザーが Oracle Cloud Service からダウンロードするデータ、およびクライアント・リクエストに対するレスポンスなど、インターネット経由の Oracle Cloud Service からのデータの転送が含まれます。アウトバウンド・データ転送が、1 時間の期間中にアクティブ・ユーザーごとに資格が付与されているデータ転送を超えた場合、新しいアクティブ・ユーザーが毎時件数に追加されます。
- 新しく公開されたアセットの数(エンタープライズ・ユーザーのみ) - 公開済アセットは、ファイル・ベースのアセット(たとえば、ドキュメント、イメージ、ビデオ)または公開されたコンテンツ・アイテムです。コンテンツ・アイテムは、コンテンツ・タイプを使用して作成された情報のブロックです。新しく公開されたアセットの数が、1 時間の期間中にアクティブ・ユーザーごとに資格が付与されている公開済アセットを超えた場合、新しいアクティブ・ユーザーが毎時件数に追加されます。この件数には、以前に公開されたアセットは含まれず、1 時間のアクティブ・ユーザー・セッション中に公開されたアセットのみが含まれます。

ノート:

ユニバーサル・クレジットの価格および使用制限(たとえば、API コールの数、アウトバウンド・データ転送の量およびユーザー当たり許可される公開済アセットの数)は、[Oracle Universal Credits の価格](#)および [Oracle Cloud サービス](#)を参照してください(リストの一番下近くにある「Oracle PaaS and IaaS ユニバーサル・クレジット - サービスの説明」を表示します)。

よくある質問

2 つ目のサイトを訪問しているユーザーは、2 つめのアクティブ・ユーザー・セッションとしてカウントされますか。

異なるリソース(異なるサイトなど)にアクセスしている **ビジター**または**匿名ユーザー**のみが、別のアクティブ・ユーザー・セッションとしてカウントされます。複数のチャネルからサービスにアクセスしている **認証されたユーザー**は、1 つのアクティブ・ユーザー・セッションとしてカウントされます。たとえば、1 時間のセッション・ウィンドウ内に 2 つの異なるサイトにアクセスしている同じ **ビジター**は、2 つのアクティブ・ユーザー・セッションとしてカウントされます。基本的に、カウントは **ビジター**または**匿名ユーザー**ごと、リソースごと、チャネルごと、特定のサービス・インスタンスの 1 時間のセッション・ウィンドウごとです。

ボットまたはクローラによるサイトへの訪問はアクティブ・ユーザー・セッションとしてカウントされますか。

ボットまたはクローラからの反復的な訪問は、アクティブ・ユーザー・セッションとしてカウントされません。

パブリック・ダウンロード・リンクにアクセスしているユーザーはアクティブ・ユーザー・セッションとしてカウントされますか。

ドキュメントをダウンロードするためにパブリック・ダウンロード・リンクにアクセスしているユーザーは、アクティブ・ユーザー・セッションとしてはカウントされません。「**ダウンロード**」ボタンが表示されている Oracle Content Management のユーザー・インタフェースからアクセスしてきたユーザーであっても、アクティブ・ユーザー・セッションとしてカウントされません。ただし、1 時間当たりのアウトバウンド・データ転送は追跡されます。

パブリック・ダウンロード・リンクが Oracle Content Management で作成されたサイトを介してアクセスされるとどうなりますか。リンクの使用はアクティブ・ユーザー・セッションとしてカウントされますか。

Oracle Content Management で作成されたサイトを訪問すると、アクティブ・ユーザー・セッションがトリガーされるため、その時間のアクティブ・ユーザーとしてカウントされますが、パブリック・ダウンロード・リンクの使用によるものではありません。再度、アウトバウンド・データ転送が追跡されます。

ブラウザ・セッションの場合、アクティブ・ユーザー・セッションはどのように追跡されますか。

ブラウザのアクティブ・ユーザー・セッションは、ブラウザ・セッションで 1 時間セッション・ウィンドウが終了した後失効する cookie を配置することで追跡されます。

ユーザーがブラウザ内の cookie をクリアする、または匿名のブラウザ・セッションを終了するとどうなりますか。

ユーザーが(ブラウザでクリアするかシークレット・ウィンドウを閉じることで) cookie をクリアした場合、次のリクエストは新規ユーザーとして扱われ、新しいアクティブ・ユーザー・セッションとしてカウントされます。

AppLink と API コールは請求目的で追跡されますか。

サードパーティ・アプリケーションおよび他の Oracle Cloud アプリケーションからの AppLink および API コールは、API 接続の確立に使用されたユーザー・アイデンティテ

ィ(標準またはエンタープライズ)に従って請求されます。特定の時間の 100 API コールごとに、その時間の追加のアクティブ・ユーザーとしてカウントされます。

AppLink コールはどのようにしてビジター・セッションとして追跡されますか。

AppLink リクエスト本文の `assignedUser` パラメータを使用して、一意のユーザーに関連付けられているクライアント側呼出しを追跡します。*Integrating and Extending Oracle Content Management* のフォルダおよびファイルの選択の統合および AppLink リソースを参照してください。

Oracle Content Management デスクトップ・クライアントのユーザーはどのようにして追跡されますか。

デスクトップからファイルまたはフォルダを作成、編集または更新する場合、デスクトップ・クライアント・ユーザーは、アクティブ・ユーザー(必要に応じて標準ユーザーまたはエンタープライズ・ユーザーのいずれか)として追跡されます。他のユーザーによるファイルまたはフォルダへの更新が原因で発生したクラウド・サーバーからの下方向の同期アクションは、アクティブ・ユーザー・セッションとしてカウントされません。ただし、アウトバウンド・データ転送メトリック方向の同期はカウントされます。たとえば、ユーザーが 1 時間当たり 1 GB を超えるデータを同期すると、同期された追加の GB は、その時間の追加のアクティブ・ユーザー・セッション(必要に応じて標準またはエンタープライズのいずれか)としてカウントされます。

ビジター・セッションについて

ビジター・セッションは、指定されたセッション・ウィンドウ(毎時ビジター・セッションの場合は 1 時間、日次ビジター・セッションの場合は 24 時間)の間の使用状況を追跡するために Oracle Content Management で使用されるメトリックです。ビジター・セッションは、サイト・ビジターロールを持つ一意の未認証ユーザーまたは認証済ユーザーが特定のチャンネルを使用して(たとえば、ブラウザ、モバイル・ブラウザまたは AppLink などを使用して)サービスにアクセスしたときにトリガーされます。複数のチャンネルからのアクセスは、複数のビジター・セッションとしてカウントされます。たとえば、1 人のユーザーが 24 時間の期間中に Firefox デスクトップ Web ブラウザ、Chrome デスクトップ Web ブラウザおよびモバイル Web ブラウザから同じ Oracle Content Management インスタンスにアクセスする場合は、合計 3 つの日次ビジター・セッションとしてカウントされます。

未認証のユーザーは、特定のサイトにアクセスし、パブリック・リンクを使用し、アプリケーションまたは Web サイトに埋め込まれた Oracle Content Management コンテンツを表示できます。

よくある質問

ユーザーが同じ Oracle Content Management インスタンス内の複数のページにアクセスする場合、それは複数のビジター・セッションとしてカウントされますか。

いいえ。ビジター・セッションはインスタンス(サイト)レベルでのみカウントされます。

ビジター・セッションはいつトリガーされますか。

ビジター・セッションは、Oracle Content Management インスタンスなどの Oracle Content Management リソース、Oracle Content Management で作成されたサイトにアクセスする任意のユーザー(匿名または認証されたゲスト)によって、または API を介して(たとえば AppLink を使用して)、セッション・ウィンドウ中に少なくとも 1 回開始されます。

ビジター・セッションの長さはどれくらいですか。

毎時ビジター・セッションの期間は 1 時間で、日次ビジター・セッションは 24 時間です。ユーザーが一意的なチャンネルを介して特定の Oracle Content Management リソースに最初にアクセスしたときに開始します。1 時間後に、同じユーザーが同じリソースを訪問すると、別の毎時ビジター・セッションがトリガーされます。24 時間後に、同じユーザーが同じリソースを訪問すると、別の日次ビジター・セッションがトリガーされます。

Oracle Content Management 標準またはエンタープライズ・ユーザーは、ビジター・セッション数でカウントされますか。

いいえ。Oracle Content Management リソースを訪問する認証された(サインインしている)標準またはエンタープライズ・ユーザーは、ビジター・セッション数に含まれません。

ビジター・セッションは、Oracle Content Management リソースを訪問している認証された(サインインしている)ユーザーに適用されますか。

前述のように、Oracle Content Management リソースにアクセスする認証された Oracle Content Management 標準またはエンタープライズ・ユーザーは、ビジター・セッション数でカウントされません。ただし、*サイト・ビジター* ロールを持つ認証済ユーザーは、ビジター・セッション数でカウントされます。

ビジター・セッションはどのような頻度で計算されますか。

ビジターは、ビジター・セッション・ウィンドウ(毎時ビジター・セッションの場合は 1 時間、日次ビジター・セッションの場合は 24 時間)で同じリソース(サイト、API または AppLink)に複数回アクセスすることがありますが、1 回の訪問としてカウントされます。ビジター・セッション・ウィンドウの後にユーザーが同じリソースに再びアクセスする場合、それは新しい訪問としてカウントされます。

2 つ目のサイトを訪問しているユーザーは、2 つめのビジター・セッションとしてカウントされますか。

異なるリソース(異なるサイトなど)にアクセスしている同じユーザーは、別のビジター・セッションの訪問としてカウントされます。たとえば、セッション・ウィンドウ内で 2 つの異なるサイトにアクセスしている同じユーザーは、2 回の訪問としてカウントされます。基本的に、カウントはユーザーごと、リソースごと、チャンネルごと、特定のサービス・インスタンスのビジター・セッション・ウィンドウごとです。

ボットまたはクローラによるサイトへの訪問はビジター・セッションとしてカウントされますか。

ボットまたはクローラからの反復的な訪問は、ビジター・セッションとしてカウントされません。

パブリック・ダウンロード・リンクにアクセスしているユーザーはビジター・セッションとしてカウントされますか。

ドキュメントをダウンロードするためにパブリック・ダウンロード・リンクにアクセスしているユーザーは、ビジター・セッションとしてはカウントされません。「**ダウンロード**」ボタンが表示されている Oracle Content Management のユーザー・インタフェースからアクセスしてきたユーザーであっても、ビジター・セッションとしてカウントされません。

パブリック・ダウンロード・リンクが Oracle Content Management で作成されたサイトを介してアクセスされるとどうなりますか。リンクの使用はビジター・セッションとしてカウントされますか。

Oracle Content Management で作成されたサイトを訪問するとビジター・セッションがトリガーされるため、ビジター・セッションとしてカウントされますが、パブリック・ダウンロード・リンクの使用によるものではありません。

ブラウザ・セッションの場合、ビジター・セッションはどのように追跡されますか。

ブラウザのビジター・セッションは、ブラウザ・セッションでセッション・ウィンドウが終了した後に失効する cookie を配置することで追跡されます。

ユーザーがブラウザ内の cookie をクリアする、または匿名のブラウザ・セッションを終了するとどうなりますか。

ユーザーが(ブラウザでクリアするかシークレット・ウィンドウを閉じることで) cookie をクリアした場合、次のリクエストは新規ユーザーとして扱われ、新しいビジター・セッションとしてカウントされます。

管理者にはどのようなメトリックがレポートされますか。

Oracle Content Management Analytics は、次のメトリックを提供します:

- 時間単位でのビジター・セッション数の内訳
- 月単位でのビジター・セッション数の集計
- 月の各日にドリルダウンする機能(ビジター数を取得するため)

現在サポートされていない、または取得されないメトリックは何ですか。

- cookie の無効化: 一部の顧客は、エンド・ユーザー・ポリシーとしてブラウザ側で cookie の追跡を無効化できます。このような場合、ビジター・ベースの cookie は無効化されているため Oracle Content Management はこれらを追跡できないので、カウントは実際のビジター数よりも少なくなります。
- Oracle Content Management デスクトップ・アプリケーションを通じたビジターの追跡(デスクトップ・アプリケーションは現在名前付きユーザーのカウントのみをサポートしています)。
- Oracle Content Management モバイル・アプリケーションを通じた訪問の追跡(モバイル・アプリケーションは現在名前付きユーザーのカウントのみをサポートしています)。

cookie の追跡に関して、オプトアウトまたはプライバシー・サポートはどうなっていますか。

Oracle Content Management サイトは、Oracle Content Management リソース(サイト)が cookie を使用していること、およびユーザーは cookie を無効化することでオプトアウトできることをユーザーに知らせる標準オプションを提供しています。これをサポートするために、次の 2 つのアイテムがすべての Oracle Content Management サイト・リソースで一貫して追加されます:

- オプトアウト・サマリー・メッセージ: このメッセージは、各サイトに表示され、cookie が追跡のために使用されていることを示します。プライバシー・ページへのリンクが含まれます。
- プライバシ・サイト・ページ: cookie の使用および cookie を無効化する手順の説明が含まれる標準サイト・ページ。他のサイト・ページと同様に、このページをカスタマイズできます。

AppLink と API コールはビジター・セッションとして追跡されますか。

サードパーティ・アプリケーションからの AppLink および REST API コールは、ビジター・セッション数に含まれます。

AppLink コールはどのようにしてビジター・セッションとして追跡されますか。

AppLink リクエスト本文の `assignedUser` パラメータを使用して、一意のユーザーに関連付けられているクライアント側呼出しを追跡します。*Integrating and Extending Oracle Content Management* のフォルダおよびファイルの選択の統合および AppLink リソースを参照してください。

例

ここでは、ビジター・セッション数の例を示します。ACME Corporation に Oracle Content Management サービス・インスタンスがあり、SiteA、SiteB、SiteC という 3 つのサイトを作成したと想定しましょう。セッション・ウィンドウ中にビジター・セッションがカウントされる方法の例を次に示します。

ビジター	リソース(サイト)	日次ビジター・セッション数
User1	https://docs-acme.sites.us2.oraclecloud/authsite/SiteA	カウントは 1 に増加します (cookie1、ユーザーがサイト-SiteA を訪問、Firefox を使用)
User1	https://docs-acme.sites.us2.oraclecloud/authsite/SiteB	カウントは 2 に増加します (cookie2、同じユーザーが別のサイト-SiteB を訪問、Firefox を使用)
User2	https://mysite.acme.example.com (SiteC のバニティ URL)	カウントは 3 に増加します (cookie3、別のユーザー、別のサイト-SiteC、Firefox を使用)
User3	https://mysite.acme.example.com (SiteC のバニティ URL)	カウントは 4 に増加します (cookie4、別のユーザー、同じサイト-SiteC、Firefox を使用)
User2	https://mysite.acme.example.com (SiteC のバニティ URL)	カウントは 4 のままです(変更なし、cookie3、同じユーザー-User2、同じサイト-SiteC、Firefox を使用、同じセッション・ウィンドウ)
User2	https://mysite.acme.example.com (SiteC のバニティ URL)	カウントは 5 に増加します (cookie5、同じユーザー-User2、同じサイト-SiteC、Firefox を使用、Chrome を使用)

OCI Classic 上の SaaS 向け Oracle Content Management のレガシー・インスタンスのデプロイおよび管理

Oracle Cloud Infrastructure Classic (OCI Classic)上の SaaS 向け Oracle Content Management を保有している場合、Oracle Content Management のデプロイおよび管理の方法にいくつかの違いがあります。

Oracle CX 向け Oracle Content Management Cloud Service を保有している場合、[新規インスタンスを作成](#)するとともに、Infrastructure コンソールでこれらのインスタンスを管理およびモニターする**必要があります**。次の手順には従わないでください。

Oracle Cloud Infrastructure Classic (OCI Classic)上の SaaS 向け Oracle Content Management を保有している場合、次のタスクを異なる方法で実行します:

- 新規インスタンスの作成
- 管理とモニター

他のタスクはすべて、前の章で説明した方法で実行されます:

- サービス設定の構成
- ユーザー、グループおよびアクセスの管理
- サービス使用状況の分析
- また、*Integrating and Extending Oracle Content Management* で説明されているとおり、Oracle Content Management を他のビジネス・アプリケーションと統合する必要がある場合があります。


SaaS 向け Oracle Content Management のインスタンスの作成

SaaS 向け Oracle Content Management を保有している場合、ストレージ・サービスを設定してから、ストレージ・ユーザーを作成し、サービス・インスタンスを作成する必要があります。

SaaS 向け Oracle Content Management インスタンスを作成するには、次の手順を実行します:

1. ストレージ・サービスを設定します:
 - a. クラウド・アカウント管理者として [Oracle Cloud](#) にサインインします。アカウント名とログイン情報は、ようこそ電子メールに記載されています。
 - b. Infrastructure Classic コンソールで、Storage Classic の横の  をクリックし、「サービス・コンソールを開く」を選択します。



ノート:

ダッシュボードに Storage Classic が表示されない場合は、 をクリックし、Storage Classic を「表示」に設定します。

- c. Storage Classic サービスに初めてアクセスするときに、ジオレプリケーション・ポリシーの設定を求められます。サービスが主に使用される場所に近いリージョンを選択します。
ストレージ・サービスを構成した後、新しいコンテナの作成を求められ、構成が完了したことが示されます。新しいコンテナを作成せずに次の手順に進むことができます。
 - d. 「アカウント」タブをクリックし、REST エンドポイントをノートにとります。これは、SaaS 向け Oracle Content Management インスタンスの作成時に入力するストレージ URL です。
2. ストレージ・ユーザーを作成します:
パスワードのリセットなどでの競合が発生しないように、ルート・ユーザーとは異なる独立したユーザーを保有するように、ストレージ・アクセス専用のユーザーを作成します。


 **ノート:**

このユーザーは、Oracle Content Management へのアクセスには使用されません。

- a. Infrastructure Classic コンソールで  をクリックし、「アカウント管理」で「ユーザー」をクリックします。右側のスクロール・バーを使用して下にスクロールしないとメニュー・オプションが表示されないことがあります。
- b. 「ユーザー管理」ページのバナーで **アイデンティティ・コンソール** をクリックします。これにより、Oracle Identity Cloud Service の「ユーザー」ページが開きます。
- c. 「追加」をクリックします。
- d. 名として Storage、姓として Admin と入力します。
- e. ユーザー名として storageadmin と入力します。
- f. 「ユーザー名として電子メール・アドレスを使用」ボックスをクリアします。
- g. Oracle Content Management へのサインインには使用されないが、利用可能でパスワードを設定できる電子メールを入力します。
- h. storageadmin ユーザーへのようこそ電子メールを受信したら、storageadmin のパスワードを設定します。
- i. 「終了」をクリックします。
- j. ナビゲーション・ドロワーを展開してから、「アプリケーション」をクリックします。
- k. Storage Classic アプリケーションを探して開きます。
- l. 「アプリケーション・ロール」タブをクリックします。
- m. Storage_Administrator ロールの横にある  をクリックし、「ユーザーの割当て」を選択します。
- n. **ストレージ・ユーザー** を探して選択し、「割当て」をクリックします。

 **重要:**

このユーザーが削除されないようにしてください。削除されると、Oracle Content Management はストレージ・サービスと通信できなくなります。

3. SaaS 向け Oracle Content Management インスタンスを作成します:
 - a. Infrastructure Classic コンソールに戻るには、 をクリックし、「マイ・サービス」をクリックします。
 - b. 「インスタンスの作成」をクリックします。
 - c. **すべてのサービス** タブをクリックします。
 - d. 「コンテンツとエクスペリエンス」セクションまでスクロールします。

- e. 「Content Cloud」の横の「作成」をクリックします。
- f. Oracle Content Management サービス・ページの「インスタンス」タブで、「インスタンスの作成」をクリックします。
- g. 次の情報を入力し、「次」をクリックします。

フィールド	説明
インスタンス名	サービス・インスタンスの一意の名前を指定します。すでに存在する名前を指定した場合は、エラーが表示され、インスタンスは作成されません。
説明	オプションで、インスタンスの説明を入力します。
通知電子メール	プロビジョニング・ステータス更新を送信する電子メール・アドレスを入力します。
リージョン	会社が基盤としているリージョンに最も近いデータ・センターを選択します。
タグ	このフィールドは空白のままにします。
ストレージ URL	ストレージ・サービスへの URL を入力します。
ストレージ・ユーザー名	ストレージ・サービスに対して作成した専用ユーザーのユーザー名を入力します(これは storageadmin です)。
ストレージ・パスワード	ストレージ・サービス・ユーザーのパスワードを入力します。

- h. 「作成」をクリックします。

サービス・インスタンス・リクエストが承認されると、インスタンスが正常に作成されたことを示す電子メールと、Oracle Content Management へようこそという 2 番目の電子メールを受信します。最初の電子メールには、インスタンスへのリンクが含まれています (Infrastructure Classic コンソール内)。2 番目の電子メールには、Oracle Content Management Web クライアントへのリンクが含まれています。

! 重要:

- インスタンスを作成すると、CEC_INTERNAL_APPID_USER という名前のユーザーが自動的に作成されます。これは、サインインには使用できない内部ユーザーです。このユーザーを使用すると、Oracle Content Management コンポーネント間で通信できます。このユーザーは削除しないでください。削除すると、Oracle Content Management の一部の機能が働かなくなります。
- ビジター・ライセンスを購入した場合、[ビジター・セッション](#)に基づいて請求されます。

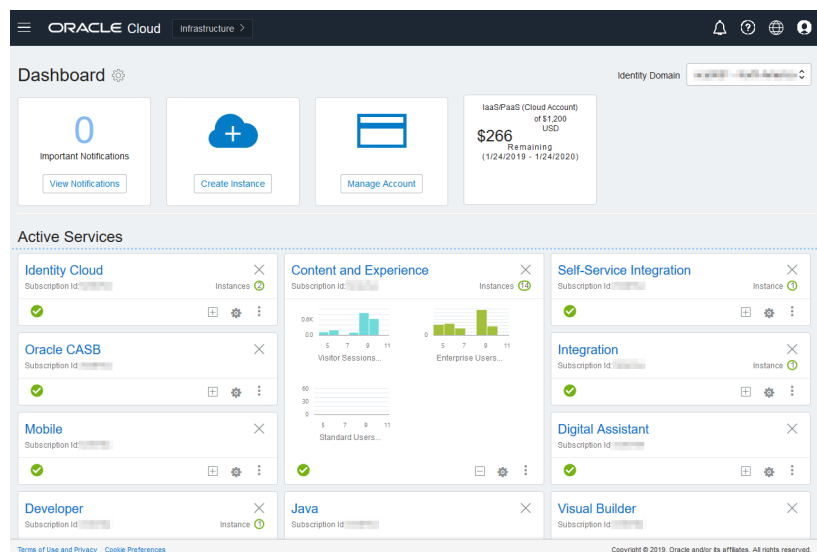
次の作業

サービス・インスタンス・リクエストが承認されると、インスタンスが正常に作成されたことを示す電子メールと、Oracle Content Management へようこそという 2 番目の電子メールを受信します。最初の電子メールには、Infrastructure Classic コンソールへのリンクが含まれています(インスタンスへのリンクをクリックします)。2 番目の電子メールには、Web クライアントへのリンクが含まれています。

次に、[ユーザーとグループの設定](#)を行います。


SaaS 向け Oracle Content Management の管理とモニター

SaaS 向け Oracle Content Management を保有している場合、Infrastructure Classic コンソールを通じてサービスを管理およびモニターします。






「Content and Experience」パネルを展開すると、次のメトリックが表示されます:

メトリック	説明
ビジター・セッション	このサービス・インスタンスに割り当てられている日次ビジター・セッション数が表示されます。このメトリックは、日次ビジター・セッションを購入した場合にのみ表示されます。追加の使用状況メトリックを表示するには、「 ビジター・セッション 」をクリックします。 ビジター・セッションについて を参照してください。
エンタープライズ・ユーザー	このサービス・インスタンスに登録されているエンタープライズ・ユーザー数が表示されます。このメトリックは、エンタープライズ・ユーザーを購入した場合にのみ表示されます。追加の使用状況メトリックを表示するには、「 エンタープライズ・ユーザー 」をクリックします。
標準ユーザー	このサービス・インスタンスに登録されている標準ユーザー数が表示されます。追加の使用状況メトリックを表示するには、「 標準ユーザー 」をクリックします。


サービスの詳細を表示するには、「Content and Experience」パネルで  をクリックし、次のいずれかのアクションを選択します:

- **詳細の表示:** 次のタブが表示されます:

- **概要:** サービスおよびサービス・インスタンスに関する情報が表示されます。このページから、新しいサービス・インスタンスを作成したり、既存のインスタンスの設定を変更できます。
- **請求メトリック:** サービスの詳細な使用状況情報が表示されます。
- **請求アラート:** 使用量を制限し、使用量が構成済の限度を超えたときに管理者に通知するためのルールを構成します。
- **ドキュメント:** サブスクリプションに関連するレポートをダウンロードします。使用可能であれば、レポートの様々なカテゴリ(使用状況メトリック、請求、インシデントなど)をダウンロードできます。必要に応じて、日次、週次、月次または年次のレポートをダウンロードできます。PDF、MS Word または Open XML 形式のレポートを使用できます。
- **サービス・コンソールを開く:** すべてのサービス・インスタンスのリストを表示します。インスタンスのリストから、次のアクションを実行できます:
 - インスタンスのリストから、いくつかの管理タスクを実行できます。管理するインスタンスの横にある  をクリックします。インスタンスの **Oracle Content Management Web** クライアントへのアクセス、タグの追加またはインスタンスの削除が可能です。
 - インスタンスの一般情報を表示するには、インスタンスの名前をクリックします。ストレージ OCID、バージョン、アカウント名などの情報が表示されます。詳細情報を表示するには、 をクリックします。
 - インスタンスを管理するには、インスタンスの名前をクリックし、 をクリックします。インスタンスの **Oracle Content Management Web** クライアントへのアクセス、関連付けの追加、インスタンスの資格証明の更新、タグの追加またはアクティビティの表示が可能です。
- **アカウント使用状況詳細の表示:** 次のタブが表示されます:
 - **使用状況:** 個々のサービスの使用料集計がリソースの使用率および超過(ある場合)とともに表示されます。
 - **アカウント管理:** サブスクリプション詳細が表示されます。
 - **アクティブ化:** 保留中のオーダーをアクティブ化し、設定を完了します。
 - **マイ管理アカウント:** すべての **Oracle Cloud** 管理アカウントについて、管理ログイン資格証明の表示、パスワードの管理、およびサービス・コンソールへのアクセスが 1 箇所で行えます。

請求メトリックの表示

Infrastructure Classic コンソールの「請求メトリック」ページには、サービスの詳細な使用状況情報が表示されます。

1. クラウド・アカウント管理者として **Oracle Cloud** にサインインします。アカウント名とログイン情報は、ようこそ電子メールに記載されています。
2. ダッシュボードで、サービスの横の  をクリックし、「**詳細の表示**」を選択します。
3. **請求メトリック** をクリックします。メトリックを使用すると、サービスがどの程度使用されているか、また、ストレージの割当てを変更する必要があるかどうかをよく理解できま

す。表示されるメトリックは、ユーザーが保有しているサービス・サブスクリプションに応じて異なります。

次のメトリックが表示されます:

メトリック	説明
ビジター・セッション	このサービス・インスタンスに割り当てられている日次ビジター・セッション数が表示されます。このメトリックは、日次ビジター・セッションを購入した場合にのみ表示されます。追加の使用状況メトリックを表示するには、「 ビジター・セッション 」をクリックします。 ビジター・セッションについて を参照してください。
エンタープライズ・ユーザー	このサービス・インスタンスに登録されているエンタープライズ・ユーザー数が表示されます。このメトリックは、エンタープライズ・ユーザーを購入した場合にのみ表示されます。追加の使用状況メトリックを表示するには、「 エンタープライズ・ユーザー 」をクリックします。
標準ユーザー	このサービス・インスタンスに登録されている標準ユーザー数が表示されます。追加の使用状況メトリックを表示するには、「 標準ユーザー 」をクリックします。

ビジター・セッションについて

ビジター・セッションは、指定されたセッション・ウィンドウ(毎時ビジター・セッションの場合は 1 時間、日次ビジター・セッションの場合は 24 時間)の間の使用状況を追跡するために Oracle Content Management で使用されるメトリックです。ビジター・セッションは、*サイト・ビジター*ロールを持つ一意の未認証ユーザーまたは認証済ユーザーが特定のチャンネルを使用して(たとえば、ブラウザ、モバイル・ブラウザまたは AppLink などを使用して)サービスにアクセスしたときにトリガーされます。複数のチャンネルからのアクセスは、複数のビジター・セッションとしてカウントされます。たとえば、1 人のユーザーが 24 時間の期間中に Firefox デスクトップ Web ブラウザ、Chrome デスクトップ Web ブラウザおよびモバイル Web ブラウザから同じ Oracle Content Management インスタンスにアクセスする場合は、合計 3 つの *日次*ビジター・セッションとしてカウントされます。

未認証のユーザーは、特定のサイトにアクセスし、パブリック・リンクを使用し、アプリケーションまたは Web サイトに埋め込まれた Oracle Content Management コンテンツを表示できます。

よくある質問

ユーザーが同じ Oracle Content Management インスタンス内の複数のページにアクセスする場合、それは複数のビジター・セッションとしてカウントされますか。

いいえ。ビジター・セッションはインスタンス(サイト)レベルでのみカウントされません。

ビジター・セッションはいつトリガーされますか。

ビジター・セッションは、Oracle Content Management インスタンスなどの Oracle Content Management リソース、Oracle Content Management で作成されたサイトにアクセスする任意のユーザー(匿名または認証されたゲスト)によって、または API を介

して(たとえば AppLink を使用して)、セッション・ウィンドウ中に少なくとも 1 回開始されます。

ビジター・セッションの長さはどれくらいですか。

毎時ビジター・セッションの期間は 1 時間で、日次ビジター・セッションは 24 時間です。ユーザーが一意的なチャンネルを介して特定の Oracle Content Management リソースに最初にアクセスしたときに開始します。1 時間後に、同じユーザーが同じリソースを訪問すると、別の毎時ビジター・セッションがトリガーされます。24 時間後に、同じユーザーが同じリソースを訪問すると、別の日次ビジター・セッションがトリガーされます。

Oracle Content Management 標準またはエンタープライズ・ユーザーは、ビジター・セッション数でカウントされますか。

いいえ。Oracle Content Management リソースを訪問する認証された(サインインしている)標準またはエンタープライズ・ユーザーは、ビジター・セッション数に含まれません。

ビジター・セッションは、Oracle Content Management リソースを訪問している認証された(サインインしている)ユーザーに適用されますか。

前述のように、Oracle Content Management リソースにアクセスする認証された Oracle Content Management 標準またはエンタープライズ・ユーザーは、ビジター・セッション数でカウントされません。ただし、サイト・ビジターロールを持つ認証済ユーザーは、ビジター・セッション数でカウントされます。

ビジター・セッションはどのような頻度で計算されますか。

ビジターは、ビジター・セッション・ウィンドウ(毎時ビジター・セッションの場合は 1 時間、日次ビジター・セッションの場合は 24 時間)で同じリソース(サイト、API または AppLink)に複数回アクセスすることがありますが、1 回の訪問としてカウントされます。ビジター・セッション・ウィンドウの後にユーザーが同じリソースに再びアクセスする場合、それは新しい訪問としてカウントされます。

2 つ目のサイトを訪問しているユーザーは、2 つめのビジター・セッションとしてカウントされますか。

異なるリソース(異なるサイトなど)にアクセスしている同じユーザーは、別のビジター・セッションの訪問としてカウントされます。たとえば、セッション・ウィンドウ内で 2 つの異なるサイトにアクセスしている同じユーザーは、2 回の訪問としてカウントされます。基本的に、カウントはユーザーごと、リソースごと、チャンネルごと、特定のサービス・インスタンスのビジター・セッション・ウィンドウごとです。

ボットまたはクローラによるサイトへの訪問はビジター・セッションとしてカウントされますか。

ボットまたはクローラからの反復的な訪問は、ビジター・セッションとしてカウントされません。

パブリック・ダウンロード・リンクにアクセスしているユーザーはビジター・セッションとしてカウントされますか。

ドキュメントをダウンロードするためにパブリック・ダウンロード・リンクにアクセスしているユーザーは、ビジター・セッションとしてはカウントされません。「ダウンロード」ボタンが表示されている Oracle Content Management のユーザー・インタフェースからアクセスしてきたユーザーであっても、ビジター・セッションとしてカウントされません。

パブリック・ダウンロード・リンクが Oracle Content Management で作成されたサイトを介してアクセスされるとどうなりますか。リンクの使用はビジター・セッションとしてカウントされますか。

Oracle Content Management で作成されたサイトを訪問するとビジター・セッションがトリガーされるため、ビジター・セッションとしてカウントされますが、パブリック・ダウンロード・リンクの使用によるものではありません。

ブラウザ・セッションの場合、ビジター・セッションはどのように追跡されますか。

ブラウザのビジター・セッションは、ブラウザ・セッションでセッション・ウィンドウが終了した後に失効する cookie を配置することで追跡されます。

ユーザーがブラウザ内の cookie をクリアする、または匿名のブラウザ・セッションを終了するとどうなりますか。

ユーザーが(ブラウザでクリアするかシークレット・ウィンドウを閉じることで) cookie をクリアした場合、次のリクエストは新規ユーザーとして扱われ、新しいビジター・セッションとしてカウントされます。

管理者にはどのようなメトリックがレポートされますか。

Oracle Content Management Analytics は、次のメトリックを提供します:

- 時間単位でのビジター・セッション数の内訳
- 月単位でのビジター・セッション数の集計
- 月の各日にドリルダウンする機能(ビジター数を取得するため)

現在サポートされていない、または取得されないメトリックは何ですか。

- cookie の無効化: 一部の顧客は、エンド・ユーザー・ポリシーとしてブラウザ側で cookie の追跡を無効化できます。このような場合、ビジター・ベースの cookie は無効化されているため Oracle Content Management はこれらを追跡できないので、カウントは実際のビジター数よりも少なくなります。
- Oracle Content Management デスクトップ・アプリケーションを通じたビジターの追跡(デスクトップ・アプリケーションは現在名前付きユーザーのカウントのみをサポートしています)。
- Oracle Content Management モバイル・アプリケーションを通じた訪問の追跡(モバイル・アプリケーションは現在名前付きユーザーのカウントのみをサポートしています)。

cookie の追跡に関して、オプトアウトまたはプライバシー・サポートはどうなっていますか。

Oracle Content Management サイトは、Oracle Content Management リソース(サイト)が cookie を使用していること、およびユーザーは cookie を無効化することでオプトアウトできることをユーザーに知らせる標準オプションを提供しています。これをサポートするために、次の 2 つのアイテムがすべての Oracle Content Management サイト・リソースで一貫して追加されます:

- オプトアウト・サマリー・メッセージ: このメッセージは、各サイトに表示され、cookie が追跡のために使用されていることを示します。プライバシー・ページへのリンクが含まれます。

- プライバシ・サイト・ページ: cookie の使用および cookie を無効化する手順の説明が含まれる標準サイト・ページ。他のサイト・ページと同様に、このページをカスタマイズできます。

AppLink と API コールはビジター・セッションとして追跡されますか。

サードパーティ・アプリケーションからの AppLink および REST API コールは、ビジター・セッション数に含まれます。

AppLink コールはどのようにしてビジター・セッションとして追跡されますか。

AppLink リクエスト本文の `assignedUser` パラメータを使用して、一意のユーザーに関連付けられているクライアント側呼出しを追跡します。*Integrating and Extending Oracle Content Management* のフォルダおよびファイルの選択の統合および AppLink リソースを参照してください。

例

ここでは、ビジター・セッション数の例を示します。ACME Corporation に Oracle Content Management サービス・インスタンスがあり、SiteA、SiteB、SiteC という 3 つのサイトを作成したと想定しましょう。セッション・ウィンドウ中にビジター・セッションがカウントされる方法の例を次に示します。

ビジター	リソース(サイト)	日次ビジター・セッション数
User1	https://docs-acme.sites.us2.oraclecloud/authsite/SiteA	カウントは 1 に増加します (cookie1、ユーザーがサイト-SiteA を訪問、Firefox を使用)
User1	https://docs-acme.sites.us2.oraclecloud/authsite/SiteB	カウントは 2 に増加します (cookie2、同じユーザーが別のサイト-SiteB を訪問、Firefox を使用)
User2	https://mysite.acme.example.com (SiteC のバニティ URL)	カウントは 3 に増加します (cookie3、別のユーザー、別のサイト-SiteC、Firefox を使用)
User3	https://mysite.acme.example.com (SiteC のバニティ URL)	カウントは 4 に増加します (cookie4、別のユーザー、同じサイト-SiteC、Firefox を使用)
User2	https://mysite.acme.example.com (SiteC のバニティ URL)	カウントは 4 のままです(変更なし、cookie3、同じユーザー-User2、同じサイト-SiteC、Firefox を使用、同じセッション・ウィンドウ)
User2	https://mysite.acme.example.com (SiteC のバニティ URL)	カウントは 5 に増加します (cookie5、同じユーザー-User2、同じサイト-SiteC、Firefox を使用、Chrome を使用)

非従量制サブスクリプションを持つ Oracle Content Management のデプロイおよび管理

Oracle Content Management 権限付与の非従量制サブスクリプションを保有している場合、Oracle Content Management のデプロイおよび管理の方法にいくつかの違いがあります。

Infrastructure Classic コンソール(旧マイ・サービス)で作成したレガシー・インスタンスの場合、このトピックで説明する方法で管理できます。ただし、ネイティブ OCI 環境にそれらのインスタンスを移行する(つまり、Infrastructure コンソールを使用してサービス・インスタンスを管理する)ことをお勧めします。これにより、Oracle のクラウド・プラットフォームの利点と先進機能を将来にわたって活用できるようになります。

レガシー・インスタンスを管理する場合、次のタスクを異なる方法で実行します:

- [新規インスタンスの作成](#)
- [ユーザーとグループの設定](#)
- [ユーザー、グループおよびアクセスの管理](#)
- [既存のインスタンスの管理とモニター](#)

他のタスクはすべて、前の章で説明した方法で実行されます:

- [サービス設定の構成](#)
- [サービス使用状況の分析](#)
- また、*Integrating and Extending Oracle Content Management* で説明されており、Oracle Content Management を他のビジネス・アプリケーションと統合する必要があります。

非従量制サブスクリプションを持つ Oracle Content Management インスタンスの作成

Oracle Content Management の非従量制サブスクリプションを保有している場合、このトピックの手順に従って、サービス・インスタンスを作成します。

非従量制サブスクリプションで Oracle Content Management インスタンスを作成するには:

1. クラウド・アカウント管理者として [Oracle Cloud](#) にサインインします。アカウント名とログイン情報は、ようこそ電子メールに記載されています。
2. 「**インスタンスの作成**」をクリックします。
3. **すべてのサービス**・タブをクリックします。
4. 「**Content Cloud**」セクションまでスクロールします。
5. 新規 Oracle Content Management インスタンスの作成ページで、次の情報を入力し、「**次**」をクリックします。

フィールド	説明
名前	サービス・インスタンスの一意的な名前を指定します。すでに存在する名前を指定した場合は、エラーが表示され、インスタンスは作成されません。
プラン	リストから「 Oracle Content Management 」を選択します。
製品	リストから Content and Experience Cloud を選択します。

フィールド	説明
標準ユーザーの数	このインスタンスを使用すると予想される標準ユーザーの数を入力します。各インスタンスには最小 10 ユーザーが含まれる必要があります。このボックスの下に、使用可能なユーザー数が表示されます。 ノート: このオプションが表示されない場合、Oracle Content Management 権限付与がありません。
エンタープライズ・ユーザーの数	このインスタンスを使用すると予想されるエンタープライズ・ユーザーの数を入力します。各インスタンスには最小 10 ユーザーが含まれる必要があります。このボックスの下に、使用可能なユーザー数が表示されます。
日次ビジター・セッション・パック	各月にこのインスタンスで使用すると予想される追加の日次ビジター・セッション・パックの数を入力します。1 つの日次ビジター・セッション・パックは、月当たり 1,000 の追加日次ビジター・セッションに相当します。このボックスの下に、使用可能な日次ビジター・セッション・パックの数が表示されます。
管理者詳細	管理者の電子メール、ユーザー名、名および姓を入力します。

次の作業

サービス・インスタンス・リクエストが承認されると、インスタンスが正常に作成されたことを示す電子メールと、Oracle Content Management へようこそという 2 番目の電子メールを受信します。最初の電子メールには、Infrastructure Classic コンソールへのリンクが含まれています(インスタンスへのリンクをクリックします)。2 番目の電子メールには、Web クライアントへのリンクが含まれています。

次に、[ユーザーとグループの設定](#)を行います。

ユーザーとグループの設定

サービス・インスタンスが正常に作成されたら、ユーザーとグループを設定します。

Oracle Content Management 権限付与の非従量制サブスクリプションを保有している場合、Oracle Content Management での[ユーザー・ロール](#)が異なります。ベスト・プラクティスとして、通常は[一般的な組織ロール](#)に分類される組織のロールに基づいてグループを作成します。次に、必要な Oracle Content Management 機能へのアクセス権を付与するために、それらのグループに適切なユーザー・ロールを割り当てます。最後に、それらのグループにユーザーを追加すると、適切なユーザー・ロールがユーザーに自動的に割り当てられます。

会社でシングル・サインオン(SSO)を使用している場合は、ユーザーを追加する前に SSO を有効にする必要があります。[Single Sign-On \(SSO\)の有効化](#)を参照してください。

主な手順は次のとおりです。

1. [組織のグループを作成します](#)
2. [グループにロールを割り当てます](#)
3. [ユーザーを追加します](#)

4. グループにユーザーを割り当てます

非従量制サブスクリプションを持つ Oracle Content Management インスタンスのユーザー・ロール

非従量制サブスクリプションを持つ Oracle Content Management インスタンスのユーザー・ロールは、ユニバーサル・クレジット・サブスクリプションを持つ Oracle Content Management インスタンスのものとは多少異なります。

ユニバーサル・クレジット・サブスクリプションのロールは、[アプリケーション・ロール](#)を参照してください。次の表は、非従量制サブスクリプションを持つ Oracle Content Management インスタンスのユーザー・ロールについて説明しています。

ユーザー・ロール(ユーザー・ロールは太字で表記)	アクセスおよびアクション	ノート
アカウント管理者	<p>アカウント管理者はマイ・アカウント・アプリケーションを使用して次のアクションを実行します。</p> <ul style="list-style-type: none"> アイデンティティ・ドメインのアクティブ化および作成。 サービスのアクティブ化。 すべてのアイデンティティ・ドメインとデータ・センターにわたるサービスのモニターおよび管理。 アイデンティティ・ドメイン管理者およびその他のアカウント管理者の作成。 <p><i>Managing and Monitoring Oracle Cloud</i> のマイ・アカウント管理を参照してください。</p>	<p>アカウント管理者は、アカウントの作成時に設定されます。これらの管理者は、Oracle Cloud にサインインし、マイ・アカウントにアクセスします。アカウント管理者アクセス権が必要であるが持っていない場合、プライマリ・アカウント管理者に連絡してください。</p> <p><i>Getting Started with Oracle Cloud</i> のクラウド・アカウント・ロールについて学習を参照してください。</p> <p>アカウント管理者が Oracle Content Management を使用し、サービス構成を変更できるようにする場合は、アカウント管理者に 標準ユーザー・ロール または エンタープライズ・ユーザー・ロール も割り当てる必要があります。</p>
アイデンティティ・ドメイン管理者(アイデンティティ・ドメイン管理者)	<p>Infrastructure Classic コンソールから:</p> <ul style="list-style-type: none"> ユーザー・アカウントの作成および管理。 ユーザー・ロールの割当ておよび管理(カスタム・ユーザー・ロールの作成を含む)。 <p><i>Getting Started with Oracle Cloud</i> のクラウド・アカウント・ロールについて学習を参照してください。</p>	<p>ドメイン・レベルで割り当てられます。複数のサービスにわたって機能します。</p> <p>アイデンティティ・ドメイン管理者は、サービス管理者が実行できる機能を実行する他に、ユーザーに関連する管理義務を処理します。</p> <p>Oracle Content Management にはアイデンティティ・ドメイン当たり 1 つのサービスのみあります。1 人の管理者がサービス管理者とアイデンティティ・ドメイン管理者の義務を実行します。</p>

ユーザー・ロール(ユーザー・ロールは太字で表記)	アクセスおよびアクション	ノート
権限付与管理者 ロール名の形式は、 <i>service-name_SE service name Based Entitlement Administrator</i> です(例: documents_SE Documents Service Based Entitlement Administrator)。	Infrastructure Classic コンソールから: <ul style="list-style-type: none"> サービス・インスタンスの詳細の作成、管理および表示。Oracle Content Management の複数のインスタンスを作成するための権限付与をサブスクライブした場合に適用されます。 サービス・インスタンスのステータスのモニター、およびインスタンス・メトリック・データのエクスポート。 Oracle Cloud アカウントの作成およびアクティブ化を参照してください。	サービス・レベルで割り当てられます。 <i>Getting Started with Oracle Cloud</i> の Oracle Cloud ユーザーのロールおよび権限を参照してください。

ユーザー・ロール(ユーザー・ロールは太字で表記)	アクセスおよびアクション	ノート
サービス管理者(Oracle Content Management 管理者)	<p>Infrastructure Classic コンソールから:</p> <ul style="list-style-type: none"> • ユーザー・ロールの割当て。 • ユーザー・パスワードおよびチャレンジ質問の変更。 • サービス・インスタンスの構成、モニターおよび管理。 <p>Oracle Content Management の「管理: システム」インタフェースから:</p> <ul style="list-style-type: none"> • 一般設定の構成(ブランディング、通知の有効化、デフォルトのタイムゾーンや言語など)。 • ユーザー設定の構成(プロファイル・データの同期、フォルダに追加された新規メンバーのデフォルト・ロールの設定、コンテンツ所有権の移動など)。 • ドキュメント設定の構成(ストレージ割当て、パブリック・リンクの有効化、アップロード可能なファイルのサイズとタイプに関する制限の設定など)。 • カスタム・プロパティの構成(Oracle Content Management エンタープライズ・ユーザー・ロールも持っている必要があります)。 • サイト設定の構成(サイトを作成できるかどうか、デフォルト・サイト・テンプレートのインストールなど)。 <p>Oracle Content Management の「管理: 統合」インタフェースから:</p> <ul style="list-style-type: none"> • 『<i>Integrating and Extending Oracle Content Management</i>』で説明されているとおり、他のビジネス・アプリケーションを統合します。 <p>Oracle Content Management の「アナリティクス」インタフェースから:</p> <ul style="list-style-type: none"> • サービス使用状況統計およびコンテンツ・メトリックを表示して、システム・ 	サービス管理者が Oracle Content Management を使用できるようにするには、 標準ユーザー・ロール または エンタープライズ・ユーザー・ロール も割り当てる必要があります。

ユーザー・ロール(ユーザー・ロールは太字で表記)	アクセスおよびアクション	ノート
サイト管理者(Oracle Content Management サイト管理者)	<p>ニーズや問題を分析できます。</p> <ul style="list-style-type: none"> レポートの表示. <p>Oracle Content Management の「サイト」ページから:</p> <ul style="list-style-type: none"> サイトを作成します。 <p>Oracle Content Management の「開発者」ページから:</p> <ul style="list-style-type: none"> テンプレート、コンポーネントおよびテーマを作成します。 <p>サイト設定の構成を参照してください。</p>	<p>このロールは、サービス管理者が、サイト管理者のみがサイト、テンプレートまたはコンポーネントを作成できるように Oracle Content Management を構成した場合に適用されません。</p> <p>サイト管理者が Oracle Content Management を使用できるようにするには、標準ユーザー・ロールまたはエンタープライズ・ユーザー・ロールも割り当てする必要があります。</p>
開発者(CECDeveloperUser)	<p>Oracle Content Management の「サイト」ページから:</p> <ul style="list-style-type: none"> サイトの作成、編集、公開を行います(これらの機能がサイト管理者に限定されていない場合)。 <p>Oracle Content Management の「開発者」ページから:</p> <ul style="list-style-type: none"> テンプレート、コンポーネントおよびテーマを作成します(これらの機能がサイト管理者に限定されていない場合)。 <p>Oracle Content Management の「管理: 統合」インタフェースから:</p> <ul style="list-style-type: none"> 『<i>Integrating and Extending Oracle Content Management</i>』で説明されているとおり、他のビジネス・アプリケーションを統合します。 	<p>開発者が Oracle Content Management を使用できるようにするには、標準ユーザー・ロールまたはエンタープライズ・ユーザー・ロールも割り当てする必要があります。標準ユーザー・ロールを持つ開発者は、コンポーネント、テーマおよび標準テンプレートを作成できます。エンタープライズ・ユーザー・ロールを持つ開発者は、レイアウトを作成でき、サイトを標準テンプレートまたはエンタープライズ・テンプレートとして保存することもできます。</p>
コンテンツ管理者(Oracle Content Management コンテンツ管理者)	<p>Oracle Content Management の「管理: アセット」ページから:</p> <ul style="list-style-type: none"> 新規コンテンツ・タイプおよびタクソノミの作成およびアイテムの公開。 	<p>コンテンツ管理者が Oracle Content Management を使用してアセットにアクセスできるようにするには、エンタープライズ・ユーザー・ロールも割り当てする必要があります。</p>

ユーザー・ロール(ユーザー・ロールは太字で表記)	アクセスおよびアクション	ノート
<p>リポジトリ管理者 (CECRepositoryAdministrator)</p>	<p>Oracle Content Management の「管理: アセット」ページから:</p> <ul style="list-style-type: none"> アセット・リポジトリの作成。 ローカリゼーション・ポリシーの作成。 公開チャンネルの作成。 <p>Oracle Content Management の「アナリティクス」インタフェースから:</p> <ul style="list-style-type: none"> アセットおよびコンテンツ・メトリックの表示して、システム・ニーズや問題を分析できます。 	<p>リポジトリ管理者が Oracle Content Management を使用してアセットにアクセスできるようにするには、エンタープライズ・ユーザー・ロールも割り当てする必要があります。リポジトリ管理者とは、少なくとも 1 つのリポジトリ内でマネージャ・ロールを持つユーザーです。</p>
<p>標準ユーザー(Oracle Content Management 標準ユーザー)</p>	<p>Oracle Content Management では、標準ユーザーは次の操作を実行できます:</p> <ul style="list-style-type: none"> コンテンツの管理(ドキュメントの表示、アップロードおよび編集)。 他のユーザーとのコンテンツおよびサイトの共有。 会話を使用したコラボレーション(トピックの議論、ユーザーへのメッセージの送信、ユーザーへのフラグの割当て、ドキュメントへの注釈の追加) グループの管理。 サイトの作成、編集、公開を行います(これらの機能がサイト管理者に限定されていない場合)。 サイト内のコンテンツの表示および操作 カスタム・プロパティの管理と表示、および値の編集 	<p>Oracle Content Management を実際に使用する必要があるユーザーには、標準ユーザー・ロールまたはエンタープライズ・ユーザー・ロールを割り当てる必要があります。これらのロールは、デフォルトではどのユーザーにも割り当てられません。アプリケーション・ロール別のタスクと機能の比較を参照してください。</p>

ユーザー・ロール(ユーザー・ロールは太字で表記)	アクセスおよびアクション	ノート
エンタープライズ・ユーザー (Oracle Content Management エンタープライズ・ユーザー)	<p>Oracle Content Management では、エンタープライズ・ユーザーは標準ユーザーがアクセスできるすべての機能にアクセスできるだけでなく、次を行うことができます:</p> <ul style="list-style-type: none"> コンテンツ・アイテム、デジタル・アセット、コレクションの作成、管理、表示、公開および操作を行います。 	<p>Oracle Content Management サブスクリプションで使用する場合、エンタープライズ・ユーザーを購入しておく必要があります。</p> <p>Oracle Content Management を実際に使用する必要があるユーザーには、標準ユーザー・ロールまたはエンタープライズ・ユーザー・ロールを割り当てる必要があります。これらのロールは、デフォルトではどのユーザーにも割り当てられません。</p> <p>アプリケーション・ロール別のタスクと機能の比較を参照してください。</p>
ビジター(Oracle Content Management ビジター)	<p>サイトへのアクセスはビジターに制限されます。</p>	<p>このロールは、ビジターのみがサイトにアクセスできるよう設定されている場合に適用されます。その制限が有効になっている場合、このロールを持つユーザーのみがサイトにアクセスできます。<i>Building Sites with Oracle Content Management</i> のサイト・セキュリティの変更を参照してください。</p> <p>各ユーザーは、サービスで許可される合計ユーザーに対してカウントされます(ライセンスを必要としないビジターを除く)。ビジター・アクティビティは、日次ビジター・セッションに反映されます。「ビジター・セッションについて」を参照してください。</p>
外部ユーザー (CECEXternalUser)	<p>将来の使用のために予約されています。</p>	<p>このロールは使用しないでください。このロールを割り当てられたユーザーは、Oracle Content Management ユーザー・インタフェースを使用できません。</p>

一般的な組織ロール

ユーザーを作成するときは、Oracle Content Management でタスクを実行するために必要なアプリケーション・ロールを付与します。通常、このようなユーザーは次の組織ロール(つまりユーザー・タイプ)のいずれかに分類され、示されているアプリケーション・ロールが必要となります。

組織ロールのグループを作成して、示されているユーザー・ロールをそのグループに割り当てることができます。次に、それらのグループにユーザーを追加すると、適切なユーザー・ロールがユーザーに自動的に割り当てられます。

組織ロール	必要なアプリケーション・ロール
<p>匿名ユーザー 匿名ユーザーは、公開 Web サイト、モバイル・サイトまたは他のデジタル・エクスペリエンスを通じて会社と関わり、会社のサービスについて情報を得る消費者です。匿名ユーザーは、公開 Web サイトの利用、ドキュメントのダウンロードまたは買い物を行うことができます。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 匿名ユーザーにはユーザー・アカウントまたはユーザー・ロールは必要ありません。
<p>ビジター ビジターも、公開 Web サイト、モバイル・サイトまたは他のデジタル・エクスペリエンスを利用して、会社のサービスについて情報を得る消費者です。ビジターは、匿名ユーザーのように、公開 Web サイトの利用、ドキュメントのダウンロード、または買い物を行うことができますが、指定されたセキュアなサイトを利用したり、会社が提供するサービスにサインインしたりすることもできます。</p>	<ul style="list-style-type: none"> サイト・ビジター
<p>従業員 従業員は、ドキュメントを同僚と共有したり、共有されたドキュメントを見たりします。会話を共有してコラボレーションします。事前定義済標準テンプレートに基づいてチーム・サイトまたはパートナ・サイトを作成できます。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 標準ユーザー
<p>コンテンツ・コントリビュータ コンテンツ・コントリビュータは、自社製品の 1 つや業務の特定分野などについて、サイトに公開する記事を作成します。このような記事 (コンテンツ・アイテムの形式) には、顧客が製品の機能や仕様を理解しやすいようにイメージ、ビデオおよび他のデジタル・アセットが含まれます。コンテンツ・コントリビュータは、従業員と同じく共有やコラボレーションを行います。コンテンツ・コントリビュータとは、少なくとも 1 つのリポジット内でコントリビュータ・ロールを持つユーザーです。</p>	<ul style="list-style-type: none"> エンタープライズ・ユーザー
<p>コンテンツ管理者/コンテンツ・トランスレータ コンテンツ管理者は、製品に関連するコンテンツの品質に責任を持ちます。提出されたコンテンツをレビューし、有効かつ正確であることを確認してから、そのコンテンツを公開します。サイトのニーズに応じて新しいコンテンツ・タイプとタクソノミを作成することもできます。 コンテンツ・トランスレータもコンテンツを管理します。コンテンツを翻訳ベンダーに送信し、返ってきたコンテンツを校正したり、場合によっては記事を手動で翻訳します。 コンテンツ管理者は、従業員と同じく共有やコラボレーションを行います。</p>	<ul style="list-style-type: none"> コンテンツ管理者 エンタープライズ・ユーザー

組織ロール	必要なアプリケーション・ロール
<p>リポジトリ管理者 リポジトリ管理者は、コンテンツのオーサリングと公開をまとめます。これには、アセット・リポジトリの設定、コンテンツ編集者のロールや権限の管理、コンテンツ・メトリックの表示、および会社がエクスペリエンスを提供するために使用するコンテンツ・ワークフロー、公開チャンネル、ローカリゼーション・ポリシーの構成が必要です。バックエンド開発者とやりとりして、データまたはコンテンツの統合要件を定義します。また、従業員と同じく共有やコラボレーションを行います。リポジトリ管理者とは、少なくとも 1 つのリポジトリ内でマネージャ・ロールを持つユーザーです。</p>	<ul style="list-style-type: none"> • リポジトリ管理者 • エンタープライズ・ユーザー
<p>サイト管理者 サイト、テンプレートおよびコンポーネントの作成を、サイト管理者のみに制限することができます。サイト管理者は標準サイトとエンタープライズ・サイトを作成して管理します。場合によっては、デフォルト・サイト・テンプレートをインストールするようにシステム管理者に依頼し、新サイトのカスタム・コンポーネント、テーマまたはテンプレートを作成するように開発者に依頼し、サイトで使用するコンテンツ・アイテムの新しいタイプを作成するようにコンテンツ設計者に依頼します。また、従業員と同じく共有やコラボレーションを行います。</p>	<ul style="list-style-type: none"> • サイト管理者 • エンタープライズ・ユーザー
<p>開発者 開発者は、同僚がチーム・サイトまたはパートナ・サイトを作成するために使用できるカスタム・コンポーネント、企業のテーマおよび標準テンプレートを開発し、構成します。Oracle Content Management とその他のサービス間の統合を構成します。また、従業員と同じく共有やコラボレーションを行います。 エンタープライズ・ユーザー・ロールを持つ開発者は、エンタープライズ・テンプレートも作成できます。</p>	<ul style="list-style-type: none"> • 開発者 • エンタープライズ・ユーザー
<p>コンテンツ・キャプチャ管理者 コンテンツ・キャプチャ管理者は、コンテンツ・キャプチャのワークフロー(プロセス)を設計およびカスタマイズします。これは、様々なビジネス・シナリオにおいて物理ドキュメントおよび電子ドキュメントを一括処理するために使用されます。 プロセス・マネージャには通常、プロセスを構成してクライアントでそれをテストできるように、マネージャ・ロールとユーザー・ロールの両方が割り当てられます。</p>	<ul style="list-style-type: none"> • キャプチャ管理者 • キャプチャ・クライアント・ユーザー • 標準ユーザー

組織ロール	必要なアプリケーション・ロール
コンテンツ・キャプチャ・クライアント・ユーザー コンテンツ・キャプチャ・クライアント・ユーザーは、ドキュメントをスキャンしたり、Oracle Content Management にインポートします。	• キャプチャ・クライアント・ユーザー
サービス管理者 サービス管理者は、Oracle Content Management サービスを構成して管理します。Oracle Content Management を他のビジネス・サービスと統合し、運用分析にアクセスして、サービスの重要な使用状況メトリックをモニターできます。	• サービス管理者 • 標準ユーザーまたはエンタープライズ・ユーザー


統合ユーザーなど、他にも Oracle Content Management の実行に関わるユーザーがいますが、内部ユーザーであり実際のユーザーではありません。クラウド・アカウント管理者も存在しますが、このユーザーは Oracle Cloud にサインアップするときに自動的に作成されます。非従量制サブスクリプションを持つ Oracle Content Management インスタンスのユーザー・ロールを参照してください。

従来のクラウド・アカウントを使用したグループの作成

ベスト・プラクティスとして、組織のロールに基づいてグループを作成し、必要な機能へのアクセス権を付与するためにそれらのグループに適切なユーザー・ロールを割り当てます。次に、それらのグループにユーザーを追加すると、適切なユーザー・ロールがユーザーに自動的に割り当てられます。

一般的な組織ロールと、必要とされるユーザー・ロールのリストは、「[一般的な組織ロール](#)」を参照してください。

グループを作成するには:


1. クラウド・アカウント管理者として [Oracle Cloud](#) にサインインします。アカウント名とログイン情報は、よろこ電子メールに記載されています。
2. Infrastructure Classic コンソールで  をクリックし、「アカウント管理」で「ユーザー」をクリックします。右側のスクロール・バーを使用して下にスクロールしないとメニュー・オプションが表示されないことがあります。
3. 「グループ」タブをクリックします。
4. 「追加」をクリックします。
5. グループの名前と説明を指定して、「追加」をクリックします。

次 [グループにロールを追加](#)

従来のクラウド・アカウントを使用したグループへのロールの割り当て

組織ロールのグループを作成したら、必要な機能へのアクセス権を付与するために、それらのグループに適切なユーザー・ロールを割り当てます。

ロールをグループに割り当てるには:

1. クラウド・アカウント管理者として [Oracle Cloud](#) にサインインします。アカウント名とログイン情報は、ようこそ電子メールに記載されています。
2. **Infrastructure Classic** コンソールで  をクリックし、「アカウント管理」で「**ユーザー**」をクリックします。右側のスクロール・バーを使用して下にスクロールしないとメニュー・オプションが表示されないことがあります。
3. 「**グループ**」タブをクリックします。
4. ロールを割り当てるグループを開きます。
5. 「**役割**」タブをクリックします。
6. ご使用のサービスを探します。
7. ロールのボックスをクリックして、グループに割り当てるロールを選択します。

一般的な組織ロールと、必要とされるユーザー・ロールのリストは、「[一般的な組織ロール](#)」を参照してください。**Oracle Content Management** での事前定義済みのロールの説明は、[非従量制サブスクリプションを持つ Oracle Content Management インスタンスのユーザー・ロール](#)を参照してください。


次 [ユーザーを追加](#)

従来のクラウド・アカウントを使用したユーザーの追加

システムを使用する前に、ユーザーをインポートするか、個別にユーザーを作成することにより、ユーザーを追加する必要があります。

会社でシングル・サインオン(SSO)を使用している場合は、ユーザーを追加する前に SSO を有効にする必要があります。[Single Sign-On \(SSO\)の有効化](#)を参照してください。

ユーザーを追加するには:


1. クラウド・アカウント管理者として [Oracle Cloud](#) にサインインします。アカウント名とログイン情報は、ようこそ電子メールに記載されています。
2. **Infrastructure Classic** コンソールで  をクリックし、「アカウント管理」で「**ユーザー**」をクリックします。右側のスクロール・バーを使用して下にスクロールしないとメニュー・オプションが表示されないことがあります。
3. ユーザーを個別にまたはバッチで作成し、ユーザー・ロールを割り当てるには、[Getting Started with Oracle Cloud](#) の「従来のクラウド・アカウントへのユーザーの追加」を参照してください。
ユーザーを追加すると、ユーザーは 2 通の電子メールを受信します。**Oracle Cloud** アカウントをアクティブ化するよう求める電子メールと、**Oracle Content Management** へようこそという電子メールです。**Oracle Cloud** ユーザー・アカウントは、リンクが失効する前にアクティブ化して、使用できるようにする必要があります。

次 [ユーザーをグループに割り当てて、適切なロールと権限を付与](#)

従来のクラウド・アカウントを使用したグループへのユーザーの割り当て

ユーザーをグループに割り当てると、自動的に適切なロールと権限が付与されます。

ユーザーをグループに割り当てるには:

1. クラウド・アカウント管理者として [Oracle Cloud](#) にサインインします。アカウント名とログイン情報は、よろこぞ電子メールに記載されています。
2. Infrastructure Classic コンソールで  をクリックし、「アカウント管理」で「**ユーザー**」をクリックします。右側のスクロール・バーを使用して下にスクロールしないとメニュー・オプションが表示されないことがあります。
3. 「**グループ**」タブをクリックします。
4. ユーザーを割り当てるグループを開きます。
5. 「**ユーザー**」タブをクリックします。
6. 「**グループに追加**」をクリックします。
7. グループに割り当てるユーザーを選択してから、「**追加**」をクリックします。

Oracle Content Management をデプロイしたら、他のタスクを実行して [サービスを開](#) する必要があります。

従来のクラウド・アカウントを使用したユーザー、グループおよびアクセスの管理

ユーザーが会社に入社または退職するため、またシステムの拡張に応じて変更が必要になるため、システムの保護は継続的なプロセスです。

- [Single Sign-On \(SSO\)の有効化](#)
- [従来のクラウド・アカウントを使用したユーザーの管理](#)
- [グループの管理](#)
- [新しいフォルダ・メンバーのデフォルト・ロールの設定](#)
- [ユーザー・プロフィール・データの同期](#)
- [ユーザーの会話のメンバーシップ・メッセージの表示](#)
- [ユーザーのストレージ割当て制限のオーバーライド](#)
- [ファイル所有権の移管](#)
- [リンクされたデバイスへのアクセスの取消し](#)

Single Sign-On (SSO)の有効化

Oracle Content Management 環境でフェデレーテッド・シングル・サインオン(SSO)を使用している場合、それを有効にしてサインイン手順をカスタマイズできます。シングル・サインオン(SSO)が有効になっている場合、ユーザーは企業のセキュリティ資格証明を使用して 1 つのインスタンスにサインインすると、再度サインインしなくても同じドメイン内の別のインスタンスにアクセスすることができます。たとえば、2 つの Oracle Cloud サービスがある企業の管理者であるとする、これらのサービスを企業の組織、ロールおよびユーザーに対してプロビジョニングする必要があります。企業には、オンプレミス・アプリケーションと他のベンダーのクラウド・サービスもある可能性があります。これらのサービスとアプリケーション間の通信が安全な方法で行われることが重要です。SSO を使用すると、ユーザーは、アイデンティティ・ドメイン・システムを使用して管理される資格証明の同じセットを使用して、これらすべてにサインインできます。

OAuth は、Oracle Cloud 内のすべてのサービスへの安全なアクセスを提供します。サービス間の通信用のアクセス・トークンを提供します。トークンは限られた時間有効であり、サインイン・セッションのセキュリティ 資格証明を含みます。これは、ユーザーとユーザーのグループを識別します。

アイデンティティ・ドメインが Oracle Cloud の多くの機能の管理に使用される方法について学習するには、*Understanding Identity Concepts* のアイデンティティ・ドメインのロールを参照してください。

SSO 構成の概要

Oracle Cloud は、SAML 2.0 標準を使用して、Oracle Cloud と、オンプレミスまたは別のクラウドにある他の SAML 対応サイトとの間の安全なドメイン間通信を可能にします。管理者は、Oracle Cloud とアイデンティティ・プロバイダ間に SAML 2.0 SSO を構成する必要があります。SSO が有効になっている場合、アイデンティティ・プロバイダは Oracle Cloud の認証を実行します。



SSO を構成するには、次のステップを実行します:

1. クラウド・アカウント管理者として **Oracle Cloud** にサインインします。アカウント名とログイン情報は、ようこそ電子メールに記載されています。
2. SSO を構成します。*Administering Oracle Cloud Identity Management* の Oracle シングル・サインオンの管理を参照してください。

従来のクラウド・アカウントを使用したユーザーの管理

システムを使用する前に、ユーザーを追加し、場合によりシングル・サインオン(SSO)を有効にする必要があります。システムの使用を継続する際に、ユーザーを追加および削除するか、設定の一部を変更する必要があります。たとえば、ユーザーの部署が変わるとロールを変更する必要がある場合があり、ユーザーが組織を離れたらシステムから削除する必要があります。

ユーザーを管理するには:

1. クラウド・アカウント管理者として **Oracle Cloud** にサインインします。アカウント名とログイン情報は、ようこそ電子メールに記載されています。
2. Infrastructure Classic コンソールで  をクリックし、「アカウント管理」で「ユーザー」をクリックします。右側のスクロール・バーを使用して下にスクロールしないとメニュー・オプションが表示されないことがあります。
3. 次のいずれかのタスクを行います。
 - ユーザーを作成するには、「追加」をクリックします。
 - ユーザーを編集するには、ユーザーを開きます。
 - ユーザーを削除するには、削除するユーザーの横にある  をクリックしてから、「削除」を選択します。

Managing and Monitoring Oracle Cloud の従来のクラウド・アカウントを使用したユーザーの管理を参照してください。

グループの管理



ベスト・プラクティスとして、組織ロールのグループを作成し、適切なユーザー・ロールをそのグループに割り当てることができます。次に、それらのグループにユーザーを追加すると、適切なユーザー・ロールがユーザーに自動的に割り当てられます。

- [従来のクラウド・アカウントを使用したグループの管理](#)
- [従来のクラウド・アカウントを使用したグループへのロールの割当て](#)
- [従来のクラウド・アカウントを使用したグループへのユーザーの割当て](#)

従来のクラウド・アカウントを使用したグループの管理

システムを使用する際に、グループを追加、編集または削除できます。

グループを管理するには:


1. クラウド・アカウント管理者として [Oracle Cloud](#) にサインインします。アカウント名とログイン情報は、ようこそ電子メールに記載されています。
2. Infrastructure Classic コンソールで  をクリックし、「アカウント管理」で「ユーザー」をクリックします。右側のスクロール・バーを使用して下にスクロールしないとメニュー・オプションが表示されないことがあります。
3. 「グループ」タブをクリックします。
4. 次のいずれかのタスクを行います。
 - グループを作成するには、「追加」をクリックします。
 - グループを編集するには、グループを開きます。
 - グループを削除するには、削除するグループの横にある  をクリックしてから、「削除」を選択します。

Managing and Monitoring Oracle Cloud のユーザー・グループの概要を参照してください。

従来のクラウド・アカウントを使用したグループへのロールの割当て

組織ロールのグループを作成したら、必要な機能へのアクセス権を付与するために、それらのグループに適切なユーザー・ロールを割り当てます。

ロールをグループに割り当てるには:


1. クラウド・アカウント管理者として [Oracle Cloud](#) にサインインします。アカウント名とログイン情報は、ようこそ電子メールに記載されています。
2. Infrastructure Classic コンソールで  をクリックし、「アカウント管理」で「ユーザー」をクリックします。右側のスクロール・バーを使用して下にスクロールしないとメニュー・オプションが表示されないことがあります。
3. 「グループ」タブをクリックします。
4. ロールを割り当てるグループを開きます。
5. 「役割」タブをクリックします。
6. ご使用のサービスを探します。

7. ロールのボックスをクリックして、グループに割り当てるロールを選択します。

従来のクラウド・アカウントを使用したグループへのユーザーの割当て

ユーザーをグループに割り当てると、自動的に適切なロールと権限が付与されます。

ユーザーをグループに割り当てるには:

1. クラウド・アカウント管理者として **Oracle Cloud** にサインインします。アカウント名とログイン情報は、ようこそ電子メールに記載されています。
2. Infrastructure Classic コンソールで  をクリックし、「アカウント管理」で「ユーザー」をクリックします。右側のスクロール・バーを使用して下にスクロールしないとメニュー・オプションが表示されないことがあります。
3. 「グループ」タブをクリックします。
4. ユーザーを割り当てるグループを開きます。
5. 「ユーザー」タブをクリックします。
6. 「グループに追加」をクリックします
7. グループに割り当てるユーザーを選択してから、「追加」をクリックします。

新しいフォルダ・メンバーのデフォルト・ロールの設定

組織内のユーザーは他のユーザーとフォルダを共有し、共有フォルダ内のリソース・ロールを自分に割り当てることができます。次のロールを使用できます。

- **参照者:** 参照者はファイルおよびフォルダを参照できますが、内容の変更はできません。
- **ダウンロード実行者:** ダウンロード実行者は、ファイルをダウンロードして自分のコンピュータに保存することもできます。
- **コントリビュータ:** コントリビュータは、ファイルの変更、ファイルの更新、新規ファイルのアップロード、およびファイルの削除を行うこともできます。
- **マネージャ:** マネージャは他のロールのすべての権限を持ち、他のユーザーをメンバーとして追加したり削除できます。

デフォルトのリソース・ロールを変更するには:

1. Oracle Content Management Web アプリケーションに管理者としてサインインしたら、ナビゲーション・メニューの「管理」領域の「システム」をクリックします。
2. 「システム」メニューで、「ユーザー」をクリックします。
3. 「メンバー」の下にある「フォルダに追加された新規メンバーのデフォルトのロール」リストで、ユーザーがフォルダに追加されたときにデフォルトで割り当てられるリソース・ロールを選択します。

ユーザー・プロファイル・データの同期

ユーザーの既存プロファイル情報を識別ストアの情報で置き換えることができます:

1. Oracle Content Management Web アプリケーションに管理者としてサインインしたら、ナビゲーション・メニューの「管理」領域の「システム」をクリックします。
2. 「システム」メニューで、「ユーザー」をクリックします。

3. プロファイル・データを同期するユーザーを検索し、ユーザー名の横にある「**編集**」をクリックして、ユーザー詳細ページの「**プロファイルをすぐに同期**」をクリックします。

ユーザーの会話のメンバーシップ・メッセージの表示

ユーザーに対する会話メンバーシップ・メッセージのデフォルト表示設定を設定できます。

1. Oracle Content Management Web アプリケーションに管理者としてサインインしたら、ナビゲーション・メニューの「管理」領域の「**システム**」をクリックします。
2. 「**システム**」メニューで、「**ユーザー**」をクリックします。
3. 「検索」タブで、デフォルトを設定するユーザーを検索します。テキスト・ボックスにユーザー名、表示名または電子メール・アドレスの一部を入力し、「**検索**」をクリックします。
4. ユーザー名の横にある「**編集**」をクリックします。
5. **デフォルトでの会話メンバーシップ・メッセージの表示**チェック・ボックスを選択して、「**保存**」をクリックします。

ユーザーのストレージ割当て制限のオーバーライド

ユーザーに割り当てるストレージ容量の**デフォルトのユーザー割り当て制限を設定**できます。特定のユーザーのデフォルトをオーバーライドする必要がある場合は、次の手順を使用して実行できます。

1. Oracle Content Management Web アプリケーションに管理者としてサインインしたら、ナビゲーション・メニューの「管理」領域の「**システム**」をクリックします。
2. 「**システム**」メニューで、「**ユーザー**」をクリックします。
3. 設定をオーバーライドするユーザーを検索し、ユーザー名の横の「**編集**」をクリックします。
4. 「**ユーザー割当て制限**」ボックスに、割当て制限容量を GB 単位で入力し、「**保存**」をクリックします。
ユーザーが使用したストレージの大きさが**消費ストレージ**の横に表示されます。

ファイル所有権の移管

あるユーザーが組織を退社した場合またはロールが変更になった場合、そのファイルおよびフォルダを別のユーザーに割り当てて、その記憶領域を割当てに使用可能な合計割当て制限に追加できます。ユーザーのコンテンツの全ライブラリを他のユーザーに割り当てることができます。コンテンツは新しいユーザーのルート・フォルダにフォルダとして表示されます。すべての共有アクション(メンバー、パブリック・リンクなど)は、そのまま残ります。

1. Oracle Content Management Web アプリケーションに管理者としてサインインしたら、ナビゲーション・メニューの「管理」領域の「**システム**」をクリックします。
2. 「**システム**」メニューで、「**ユーザー**」をクリックします。

3. 次のいずれかの方法を使用して、移管するファイルの所有者であるユーザーを検索します。
 - アクティブなユーザーを検索するには、「**検索**」タブでテキスト・ボックスにユーザー名、表示名または電子メール・アドレスの一部を入力し、「**検索**」をクリックします。ユーザー名をクリックするか、ユーザーの横にある「**編集**」をクリックして、ユーザー・プロパティを開きます。
 - プロビジョニング解除されたユーザーを検索するには、「**プロビジョニング解除されたユーザー**」タブをクリックします。組織のシステムから削除されたすべてのユーザーのリストが、名前でソートされて表示されます。このリストは定期的にリフレッシュされますが、「**プロファイル・データの同期**」をクリックして、手動で更新することもできます。

削除されたすべてのユーザーの CSV ファイルをダウンロードするには、「**プロビジョニング解除されたユーザーのエクスポート**」をクリックします。

4. 「**所有権の移管**」をクリックします。アクティブなユーザーの場合、ボタンはプロパティの下部にあります。プロビジョニング解除されたユーザーの場合、ユーザーの横にあるボタンをクリックします。
5. コンテンツを受け取るユーザーのユーザー名、表示名または電子メール・アドレスの一部を入力し、「**検索**」をクリックします。
6. コンテンツの移管先のユーザーを選択します。転送されるコンテンツの大きさだけ受信者の割当て制限が増加するというメッセージが表示されます。また、解放されて再び使用可能な合計割当て制限に追加されるストレージの大きさも表示されます。
7. 「**転送**」をクリックします。コンテンツが転送されて、プロビジョニング解除されたアカウントが失われたことがリストに示されます。

または、プロビジョニング解除されたユーザーの場合、コンテンツを削除できます。「**プロビジョニング解除されたユーザー**」タブで、削除対象のコンテンツを持つユーザーの横にある「**コンテンツの削除**」をクリックします。

ユーザーは、独自のフォルダの所有権を移管することもできます。

リンクされたデバイスへのアクセスの取消し

ユーザーはデバイスを変更するかデバイスの 1 つを紛失したときに、リンクされたデバイスの 1 つへのアクセスを取り消すことができます。ただし、管理者としてこのアクションを実行する必要がある場合があります。リンクされたデバイスへのアクセスを取り消すと、ユーザーのサインイン・セッションが終了します。自分または他のユーザーがそのデバイスから Oracle Content Management にアクセスしようとする、アカウントはサインアウトされ、そのアカウントに関してデバイスに格納されているすべてのローカル・コンテンツが削除されます。

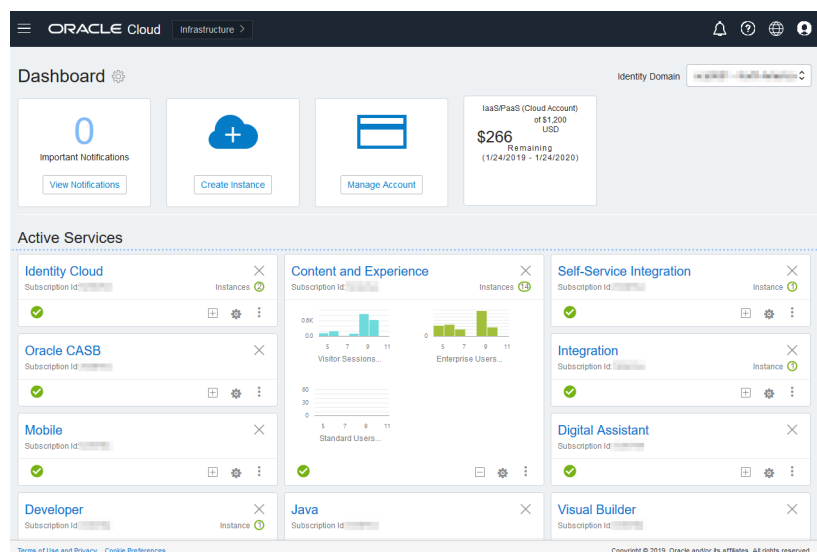
デバイスのアクセスの取消しは 1 つのアカウントにのみ影響します。そのため、複数のユーザー・アカウントを使用している場合、Oracle Content Management に対するすべてのアクセスをブロックするには、各ユーザー・アカウントで別々にアクセスを取り消し、デバイスに格納されているすべてのローカル・コンテンツを削除する必要があります。

1. Oracle Content Management Web アプリケーションに管理者としてサインインしたら、ナビゲーション・メニューの「管理」領域の「**システム**」をクリックします。
2. 「**システム**」メニューで、「**ユーザー**」をクリックします。
3. デバイスへのアクセスを取り消すユーザーを検索し、ユーザーの名前の横にある「**編集**」をクリックします。

4. 「リンクされたデバイス」の下で、適切なデバイスの横の「**取消し**」をクリックします。

非従量制サブスクリプションを持つ Oracle Content Management の管理およびモニター

Oracle Content Management 権限付与の非従量制サブスクリプションを保有している場合、Infrastructure Classic コンソールを通じてサービスを管理およびモニターします。







Infrastructure Classic コンソールを開くには、クラウド・アカウント管理者として [Oracle Cloud](#) にサインインします。アカウント名とログイン情報は、ようこそ電子メールに記載されています。

「Content and Experience」パネルを展開すると、次のメトリックが表示されます:

メトリック	説明
ビジター・セッション	このサービス・インスタンスに割り当てられている日次ビジター・セッション数が表示されます。このメトリックは、日次ビジター・セッションを購入した場合にのみ表示されます。追加の使用状況メトリックを表示するには、「 ビジター・セッション 」をクリックします。 ビジター・セッションについて を参照してください。
エンタープライズ・ユーザー	このサービス・インスタンスに登録されているエンタープライズ・ユーザー数が表示されます。このメトリックは、エンタープライズ・ユーザーを購入した場合にのみ表示されます。追加の使用状況メトリックを表示するには、「 エンタープライズ・ユーザー 」をクリックします。

メトリック	説明
標準ユーザー	このサービス・インスタンスに登録されている標準ユーザー数が表示されます。追加の使用状況メトリックを表示するには、 標準ユーザー をクリックします。


サービスの詳細を表示するには、「Content and Experience」パネルで  をクリックし、次のいずれかのアクションを選択します:

- **詳細の表示:** 次のタブが表示されます:
 - **概要:** サービスおよびサービス・インスタンスに関する情報が表示されます。このページから、新しいサービス・インスタンスを作成したり、既存のインスタンスの設定を変更できます。
 - **請求メトリック:** サービスの詳細な使用状況情報が表示されます。
 - **請求アラート:** 使用量を制限し、使用量が構成済の限度を超えたときに管理者に通知するためのルールを構成します。
 - **ビジネス・メトリック:** 各サービス・インスタンスで収集された使用状況データが表示されます。個々のメトリックを表示するには、グラフの下のリストからインスタンスを選択する必要があります。このページから、リソース使用状況をモニターするためのアラート・ルールを作成することもできます。
 - **ドキュメント:** サブスクリプションに関連するレポートをダウンロードします。使用可能であれば、レポートの様々なカテゴリ(使用状況メトリック、請求、インシデントなど)をダウンロードできます。必要に応じて、日次、週次、月次または年次のレポートをダウンロードできます。PDF、MS Word または Open XML 形式のレポートを使用できます。
- **サービス・コンソールを開く:** すべてのサービス・インスタンスのリストを表示します。インスタンスのリストから、次のアクションを実行できます:
 - インスタンスのリストから、いくつかの管理タスクを実行できます。管理するインスタンスの横にある  をクリックします。インスタンスの **Oracle Content Management Web** クライアントへのアクセス、タグの追加またはインスタンスの削除が可能です。
 - インスタンスの一般情報を表示するには、インスタンスの名前をクリックします。ストレージ OCID、バージョン、アカウント名などの情報が表示されます。詳細情報を表示するには、 をクリックします。
 - インスタンスを管理するには、インスタンスの名前をクリックし、 をクリックします。インスタンスの **Oracle Content Management Web** クライアントへのアクセス、関連付けの追加、インスタンスの資格証明の更新、タグの追加またはアクティビティの表示が可能です。
- **アカウント使用状況詳細の表示:** 次のタブが表示されます:
 - **使用状況:** 個々のサービスの使用料集計がリソースの使用率および超過(ある場合)とともに表示されます。
 - **アカウント管理:** サブスクリプション詳細が表示されます。
 - **アクティブ化:** 保留中のオーダーをアクティブ化し、設定を完了します。

- **マイ管理アカウント:** すべての Oracle Cloud 管理アカウントについて、管理ロギン資格証明の表示、パスワードの管理、およびサービス・コンソールへのアクセスが 1 箇所で行えます。

請求メトリックの表示

Infrastructure Classic コンソールの「請求メトリック」ページには、サービスの詳細な使用状況情報が表示されます。

1. クラウド・アカウント管理者として **Oracle Cloud** にサインインします。アカウント名とログイン情報は、ようこそ電子メールに記載されています。
2. ダッシュボードで、サービスの横の , をクリックし、「**詳細の表示**」を選択します。
3. **請求メトリック** をクリックします。メトリックを使用すると、サービスがどの程度使用されているか、また、ストレージの割当てを変更する必要があるかどうかをよく理解できます。表示されるメトリックは、ユーザーが保有しているサービス・サブスクリプションに応じて異なります。

「Content and Experience」パネルを展開すると、次のメトリックが表示されます:

メトリック	説明
ビジター・セッション	このサービス・インスタンスに割り当てられている日次ビジター・セッション数が表示されます。このメトリックは、日次ビジター・セッションを購入した場合にのみ表示されます。追加の使用状況メトリックを表示するには、「 ビジター・セッション 」をクリックします。 ビジター・セッションについて を参照してください。
エンタープライズ・ユーザー	このサービス・インスタンスに登録されているエンタープライズ・ユーザー数が表示されます。このメトリックは、エンタープライズ・ユーザーを購入した場合にのみ表示されます。追加の使用状況メトリックを表示するには、「 エンタープライズ・ユーザー 」をクリックします。
標準ユーザー	このサービス・インスタンスに登録されている標準ユーザー数が表示されます。追加の使用状況メトリックを表示するには、「 標準ユーザー 」をクリックします。

ビジネス・メトリックの表示

ノート:

このページは現在、ユニバーサル・クレジット・サブスクリプションを保有している場合は使用できません。

Infrastructure Classic コンソールの「**ビジネス・メトリック**」ページには、サービスの詳細情報が表示されます。メトリックを使用すると、サービスがどの程度使用されているか、また、ストレージの割当てを変更する必要があるかどうかをよく理解できます。

1. クラウド・アカウント管理者として **Oracle Cloud** にサインインします。アカウント名とログイン情報は、ようこそ電子メールに記載されています。
2. ダッシュボードで、サービスの横の  をクリックし、「**詳細の表示**」を選択します。
3. **ビジネス・メトリック** をクリックします。**ビジネス・メトリック** ページには、**ビジネス・メトリック** と **最新ビジネス・メトリック** の 2 つのセクションがあります。

ビジネス・メトリック

ビジネス・メトリック で、表示するメトリックのインスタンスを選択し、次に表示するメトリックを選択します。

メトリック	説明
アップロードされたドキュメントの合計(過去 1 日)	過去 24 時間にアップロードされたドキュメント数が表示されます。
ダウンロードされたドキュメントの合計(過去 1 日)	過去 24 時間にダウンロードされたドキュメント数が表示されます。
ドキュメントの合計(すべてのリビジョン)	インスタンスに格納されているすべてのリビジョンを含むドキュメントの合計数が表示されます。たとえば、100 のドキュメントとそれぞれに 3 つのリビジョンがある場合、ドキュメントの合計(すべてのリビジョン)の値は 300 になります。
ドキュメントの合計(最新リビジョン)	インスタンスに格納されているドキュメント(リビジョンに関係なく)の合計数が表示されます。前述と同じ例を使用し、100 のドキュメントとそれぞれに 3 つのリビジョンがある場合、ドキュメントの合計(最新リビジョン)の値は 100 になります。
ユーザー・リクエスト(過去 1 日)	過去 24 時間に、通常 Web クライアントを通じて Oracle Content Management で実行されたユーザー・リクエスト数が表示されます。 Oracle Content Management のブラウズは、ユーザーが何もダウンロードしていなくてもユーザー・リクエストとしてカウントされます。

さらに次のアクションを実行できます。

- 別のメトリックを表に追加するには、**メトリックの追加** をクリックして、追加するインスタンスおよびメトリックを選択します。
- 日付を特定の期間に限定するには、**開始** および **終了** ボックスに日付を入力します。
- 表形式でデータを表示するには、**表の表示** をクリックします。
- データのコピーを .csv ファイルで保存するには、「**エクスポート**」をクリックします。

最新ビジネス・メトリック

最新ビジネス・メトリック で、表示するメトリックのインスタンスを選択します。

メトリック	説明
使用済サイト・インタラクション	このインスタンスでユーザーが行ったインタラクション数が表示されます。インタラクションは、一意の方法(Firefox Web ブラウザ、Chrome Web ブラウザ、モバイル Web ブラウザなど)で 24 時間中にインスタンスを訪問した一意のユーザーとして定義されます。このメトリックは、Oracle Documents Cloud サブスクリプションを保有している場合のみ適用されます。
割り当てられている Content and Experience の日次ビジター・セッション	このインスタンスに割り当てられている日次ビジター・セッション数が表示されます。 ビジター・セッションについて を参照してください。このメトリックは、Oracle Content Management サブスクリプションを保有している場合のみ適用されます。
使用済 Content and Experience 日次ビジター・セッション	このインスタンスで使用されている日次ビジター・セッション数が表示されます。 ビジター・セッションについて を参照してください。このメトリックは、Oracle Content Management サブスクリプションを保有している場合のみ適用されます。
作成されたサイト	このインスタンスで作成されたサイトの数が表示されます。
アクティブなサイト	オンラインで、かつこのインスタンスによって処理されているサイトの数が表示されます。
消費済帯域幅(MB)	サイト・ページの処理に使用されるネットワーク帯域幅(MB)が表示されます。
割当てストレージ(GB)	このインスタンスに割り当てられているストレージの量(GB)が表示されます。
使用ストレージ(GB)	このインスタンスで使用されているストレージの量(GB)が表示されます。
プロビジョニングされた Documents ユーザー	このインスタンスにプロビジョニングされているユーザー数が表示されます。このメトリックは、Oracle Documents Cloud サブスクリプションを保有している場合のみ適用されます。
プロビジョニングされた Content and Experience 標準ユーザー	このインスタンスにプロビジョニングされている標準ユーザー数が表示されます。このメトリックは、Oracle Content Management サブスクリプションを保有している場合のみ適用されます。
プロビジョニングされた Content and Experience エンタープライズ・ユーザー	このインスタンスにプロビジョニングされているエンタープライズ・ユーザー数が表示されます。このメトリックは、Oracle Content Management サブスクリプションを保有している場合のみ適用されます。

メトリック	説明
使用中の Documents ユーザー	すべてのユーザーがこのインスタンスにサインインした合計日数が表示されます。たとえば、各日、2 時間サインインしたユーザーが 110 人いた場合、購入された Documents ユーザーの値は、1 日の場合 9.166、1 か月の場合 275 となります。 このメトリックは、Oracle Documents Cloud サブスクリプションを保有している場合のみ適用されます。
使用中の Content and Experience 標準ユーザー	すべての標準ユーザーがこのインスタンスにサインインした合計日数が表示されます。たとえば、各日、5 時間サインインした標準ユーザーが 75 人いた場合、購入された Content and Experience 標準ユーザーの値は、1 日の場合 15.625、1 か月の場合 468.75 となります。 このメトリックは、Oracle Content Management サブスクリプションを保有している場合のみ適用されます。
使用中の Content and Experience エンタープライズ・ユーザー	すべてのエンタープライズ・ユーザーがこのインスタンスにサインインした合計日数が表示されます。たとえば、各日、3 時間サインインしたエンタープライズ・ユーザーが 25 人いた場合、購入された Content and Experience エンタープライズ・ユーザーの値は、1 日の場合 3.125、1 か月の場合 93.75 となります。 このメトリックは、Oracle Content Management サブスクリプションを保有している場合のみ適用されます。

ビジター・セッションについて

ビジター・セッションは、指定されたセッション・ウィンドウ(毎時ビジター・セッションの場合は 1 時間、日次ビジター・セッションの場合は 24 時間)の間の使用状況を追跡するために Oracle Content Management で使用されるメトリックです。ビジター・セッションは、サイト・ビジターロールを持つ一意の未認証ユーザーまたは認証済ユーザーが特定のチャネルを使用して(たとえば、ブラウザ、モバイル・ブラウザまたは AppLink などを使用して)サービスにアクセスしたときにトリガーされます。複数のチャネルからのアクセスは、複数のビジター・セッションとしてカウントされます。たとえば、1 人のユーザーが 24 時間の期間中に Firefox デスクトップ Web ブラウザ、Chrome デスクトップ Web ブラウザおよびモバイル Web ブラウザから同じ Oracle Content Management インスタンスにアクセスする場合は、合計 3 つの日次ビジター・セッションとしてカウントされます。

未認証のユーザーは、特定のサイトにアクセスし、パブリック・リンクを使用し、アプリケーションまたは Web サイトに埋め込まれた Oracle Content Management コンテンツを表示できます。

よくある質問

ユーザーが同じ Oracle Content Management インスタンス内の複数のページにアクセスする場合、それは複数のビジター・セッションとしてカウントされますか。

いいえ。ビジター・セッションはインスタンス(サイト)レベルでのみカウントされます。

ビジター・セッションはいつトリガーされますか。

ビジター・セッションは、Oracle Content Management インスタンスなどの Oracle Content Management リソース、Oracle Content Management で作成されたサイトにアクセスする任意のユーザー(匿名または認証されたゲスト)によって、または API を介して(たとえば AppLink を使用して)、セッション・ウィンドウ中に少なくとも 1 回開始されます。

ビジター・セッションの長さはどれくらいですか。

毎時ビジター・セッションの期間は 1 時間で、日次ビジター・セッションは 24 時間です。ユーザーが一意的なチャンネルを介して特定の Oracle Content Management リソースに最初にアクセスしたときに開始します。1 時間後に、同じユーザーが同じリソースを訪問すると、別の毎時ビジター・セッションがトリガーされます。24 時間後に、同じユーザーが同じリソースを訪問すると、別の日次ビジター・セッションがトリガーされます。

Oracle Content Management 標準またはエンタープライズ・ユーザーは、ビジター・セッション数でカウントされますか。

いいえ。Oracle Content Management リソースを訪問する認証された(サインインしている)標準またはエンタープライズ・ユーザーは、ビジター・セッション数に含まれません。

ビジター・セッションは、Oracle Content Management リソースを訪問している認証された(サインインしている)ユーザーに適用されますか。

前述のように、Oracle Content Management リソースにアクセスする認証された Oracle Content Management 標準またはエンタープライズ・ユーザーは、ビジター・セッション数でカウントされません。ただし、サイト・ビジターロールを持つ認証済ユーザーは、ビジター・セッション数でカウントされます。

ビジター・セッションはどのような頻度で計算されますか。

ビジターは、ビジター・セッション・ウィンドウ(毎時ビジター・セッションの場合は 1 時間、日次ビジター・セッションの場合は 24 時間)で同じリソース(サイト、API または AppLink)に複数回アクセスすることがありますが、1 回の訪問としてカウントされます。ビジター・セッション・ウィンドウの後にユーザーが同じリソースに再びアクセスする場合、それは新しい訪問としてカウントされます。

2 つ目のサイトを訪問しているユーザーは、2 つめのビジター・セッションとしてカウントされますか。

異なるリソース(異なるサイトなど)にアクセスしている同じユーザーは、別のビジター・セッションの訪問としてカウントされます。たとえば、セッション・ウィンドウ内で 2 つの異なるサイトにアクセスしている同じユーザーは、2 回の訪問としてカウントされます。基本的に、カウントはユーザーごと、リソースごと、チャンネルごと、特定のサービス・インスタンスのビジター・セッション・ウィンドウごとです。

ボットまたはクローラによるサイトへの訪問はビジター・セッションとしてカウントされますか。

ボットまたはクローラからの反復的な訪問は、ビジター・セッションとしてカウントされません。

パブリック・ダウンロード・リンクにアクセスしているユーザーはビジター・セッションとしてカウントされますか。

ドキュメントをダウンロードするためにパブリック・ダウンロード・リンクにアクセスしているユーザーは、ビジター・セッションとしてはカウントされません。「**ダウン**

ロード」 ボタンが表示されている Oracle Content Management のユーザー・インターフェースからアクセスしてきたユーザーであっても、ビジター・セッションとしてカウントされません。

パブリック・ダウンロード・リンクが Oracle Content Management で作成されたサイトを介してアクセスされるとどうなりますか。リンクの使用はビジター・セッションとしてカウントされますか。

Oracle Content Management で作成されたサイトを訪問するとビジター・セッションがトリガーされるため、ビジター・セッションとしてカウントされますが、パブリック・ダウンロード・リンクの使用によるものではありません。

ブラウザ・セッションの場合、ビジター・セッションはどのように追跡されますか。

ブラウザのビジター・セッションは、ブラウザ・セッションでセッション・ウィンドウが終了した後に失効する cookie を配置することで追跡されます。

ユーザーがブラウザ内の cookie をクリアする、または匿名のブラウザ・セッションを終了するとどうなりますか。

ユーザーが(ブラウザでクリアするかシークレット・ウィンドウを閉じることで) cookie をクリアした場合、次のリクエストは新規ユーザーとして扱われ、新しいビジター・セッションとしてカウントされます。

管理者にはどのようなメトリックがレポートされますか。

Oracle Content Management Analytics は、次のメトリックを提供します:

- 時間単位でのビジター・セッション数の内訳
- 月単位でのビジター・セッション数の集計
- 月の各日にドリルダウンする機能(ビジター数を取得するため)

現在サポートされていない、または取得されないメトリックは何ですか。

- cookie の無効化: 一部の顧客は、エンド・ユーザー・ポリシーとしてブラウザ側で cookie の追跡を無効化できます。このような場合、ビジター・ベースの cookie は無効化されているため Oracle Content Management はこれらを追跡できないので、カウントは実際のビジター数よりも少なくなります。
- Oracle Content Management デスクトップ・アプリケーションを通じたビジターの追跡(デスクトップ・アプリケーションは現在名前付きユーザーのカウントのみをサポートしています)。
- Oracle Content Management モバイル・アプリケーションを通じた訪問の追跡(モバイル・アプリケーションは現在名前付きユーザーのカウントのみをサポートしています)。

cookie の追跡に関して、オプトアウトまたはプライバシー・サポートはどうなっていますか。

Oracle Content Management サイトは、Oracle Content Management リソース(サイト)が cookie を使用していること、およびユーザーは cookie を無効化することでオプトアウトできることをユーザーに知らせる標準オプションを提供しています。これをサポートするために、次の 2 つのアイテムがすべての Oracle Content Management サイト・リソースで一貫して追加されます:

- オプトアウト・サマリー・メッセージ: このメッセージは、各サイトに表示され、cookie が追跡のために使用されていることを示します。プライバシー・ページへのリンクが含まれます。

- プライバシ・サイト・ページ: cookie の使用および cookie を無効化する手順の説明が含まれる標準サイト・ページ。他のサイト・ページと同様に、このページをカスタマイズできます。

AppLink と API コールはビジター・セッションとして追跡されますか。

サードパーティ・アプリケーションからの AppLink および REST API コールは、ビジター・セッション数に含まれます。

AppLink コールはどのようにしてビジター・セッションとして追跡されますか。

AppLink リクエスト本文の `assignedUser` パラメータを使用して、一意のユーザーに関連付けられているクライアント側呼出しを追跡します。*Integrating and Extending Oracle Content Management* のフォルダおよびファイルの選択の統合および AppLink リソースを参照してください。

例

ここでは、ビジター・セッション数の例を示します。ACME Corporation に Oracle Content Management サービス・インスタンスがあり、SiteA、SiteB、SiteC という 3 つのサイトを作成したと想定しましょう。セッション・ウィンドウ中にビジター・セッションがカウントされる方法の例を次に示します。

ビジター	リソース(サイト)	日次ビジター・セッション数
User1	https://docs-acme.sites.us2.oraclecloud/authsite/SiteA	カウントは 1 に増加します (cookie1、ユーザーがサイト-SiteA を訪問、Firefox を使用)
User1	https://docs-acme.sites.us2.oraclecloud/authsite/SiteB	カウントは 2 に増加します (cookie2、同じユーザーが別のサイト-SiteB を訪問、Firefox を使用)
User2	https://mysite.acme.example.com (SiteC のバニティ URL)	カウントは 3 に増加します (cookie3、別のユーザー、別のサイト-SiteC、Firefox を使用)
User3	https://mysite.acme.example.com (SiteC のバニティ URL)	カウントは 4 に増加します (cookie4、別のユーザー、同じサイト-SiteC、Firefox を使用)
User2	https://mysite.acme.example.com (SiteC のバニティ URL)	カウントは 4 のままです(変更なし、cookie3、同じユーザー-User2、同じサイト-SiteC、Firefox を使用、同じセッション・ウィンドウ)
User2	https://mysite.acme.example.com (SiteC のバニティ URL)	カウントは 5 に増加します (cookie5、同じユーザー-User2、同じサイト-SiteC、Firefox を使用、Chrome を使用)

Oracle Content Management への Oracle Documents Cloud の移行

以前に Oracle Documents Cloud Service を使用していた場合は、サブスクリプションを更新した後に Oracle Content Management に移行する必要があります。

サブスクリプションを更新し、Oracle Content Management に移行する前に知っておく必要のあることは次のとおりです:

- 各ユーザーは **100 GB** のストレージを取得します。ストレージを追加するには、追加のユーザーを購入します。十分なストレージを確保するには、Oracle Documents Cloud Service で取得した **500 GB** のストレージと追加で購入したストレージ・パックに対応できる十分な数のユーザーを購入する必要があります。たとえば、Oracle Documents Cloud Service で **5 つ** のストレージ・パックがある場合、合計のストレージは **1,000GB** なので、Oracle Content Management で標準ユーザーまたはエンタープライズ・ユーザー(あるいはその両方)を **10 個** 購入します。
- 移行中にユーザーがアクセス権を失うことはありませんが、問題の発生を避けるため、移行は時間外に実行してください。
- 更新オーダーの送信後に、サブスクリプションが一時停止状態にあるという電子メールを受け取る場合があります。ユーザーは、一時停止中もインスタンスを使用できます。一時停止状態は、移行手順を完了するまで続きます。

Oracle Services で更新オーダーを送信した後、サブスクリプションが処理されたことを示す電子メールを受信します。その電子メールを受信したら、次の手順に進みます。

1. クラウド・アカウント管理者として **Oracle Cloud** にサインインします。アカウント名とログイン情報は、よろこ電子メールに記載されています。
2. 移行するドキュメント・サービス・インスタンスをクリックします。各インスタンスは個別に移行する必要があります。
3. メニュー・アイコンをクリックして:
 - 「**変更**」オプションが表示されない場合は、移行が自動的に実行されているので、残りの手順をスキップできます。
 - 「**変更**」オプションが表示される場合は、移行手順を続けます。
4. 「**変更**」をクリックします。
Oracle Content Management の変更ページに、Oracle Content Management のオプション(追加の標準ユーザー数、追加のエンタープライズ・ユーザー数など)が表示されます。これらのオプションが表示されていない場合は、更新オーダーが完了していません。オラクル社カスタマ・サポート
5. サブスクリプションが一時停止状態の場合は、システムをフラッシュして、一時停止の状態をクリアする必要があります。すべての権限付与を **0** に設定します。**追加の標準ユーザー数、追加のエンタープライズ・ユーザー数**および**日次ビジター・セッション・パックの追加数**に **0** を入力します。

 **ノート:**

サブスクリプションが一時停止状態になっていない場合、この手順を実行する必要はありません。

サブスクリプションが一時停止でなくなったという電子メールを受信するのを待ってから、次の手順に進みます。

6. メニュー・アイコンをクリックし、「**変更**」を選択します。
7. このインスタンスを使用する標準ユーザー、エンタープライズ・ユーザーおよびビジターの数を入力します。 [アプリケーション・ロール別のタスクと機能の比較](#)を参照してください。
すべての [Oracle Documents Cloud Service ユーザー](#)は、自動的に標準ユーザーに変更されます。移行前にアクセスできていたすべてのコンテンツおよび機能にアクセスできるようになります。
8. エンタープライズ・ユーザー機能にアクセスできるようにするユーザーには、エンタープライズ・ユーザー・ロールを割り当てます。 [従来のクラウド・アカウントを使用したグループへのロールの割当て](#)および [従来のクラウド・アカウントを使用したグループへのユーザーの割当て](#)を参照してください。

トラブルシューティングについては、[移行後にユーザーがサインインできません\(ストレージの失効\)](#)を参照してください。

移行後は、他の非従量制 [Oracle Content Management](#) インスタンスと同様に、[ユーザー、グループおよびアクセスの管理](#)と [サービスのモニター](#)を行います。

Oracle Documents Cloud のユーザー・ロール

Oracle Documents Cloud には、ユーザーが実行できる操作を定義するいくつかの事前定義済ユーザー・ロールがあります。特定のユーザー・ロールを持つユーザーのみが使用できる機能もあります。ユーザーは必要な数のユーザー・ロールを保持できます。たとえば、ある 1 人のユーザーを [アカウント管理者](#)と [サービス管理者](#)の両方として指定できます。これらのユーザー・ロールは、[アイデンティティ・ドメイン管理者](#)によって割り当てられます。ユーザー・ロールの割当ての詳細は、[従来のクラウド・アカウントを使用したグループへのロールの割当て](#)および [従来のクラウド・アカウントを使用したグループへのユーザーの割当て](#)を参照してください。

ビジターは、特定のサイトを表示し、パブリック・リンクを使用し、アプリケーションまたは Web サイトに埋め込まれた [Oracle Content Management](#) コンテンツを表示できます。匿名ユーザー(サインインしていないユーザー)はビジターとしてカウントされます。 [Building Sites with Oracle Content Management](#) の [サイト・セキュリティ](#)の変更を参照してください。

[Oracle Content Management](#) を実際に使用する必要があるユーザーには、割り当てられたロールに加えて [サービス・ユーザー・ロール](#)を割り当てる必要があります。

Oracle Documents Cloud の [サービス・ユーザー](#)は、[Oracle Content Management](#) の [標準ユーザー](#)と同じです。 [エンタープライズ・ユーザー](#)に関連してドキュメントで説明されているすべての機能は [Oracle Documents Cloud](#) では使用できません。

ユーザー・ロールを割り当てられた各ユーザーは、管理者であるかエンド・ユーザーであるかに関係なく、1 ユーザーとしてカウントされます。各ユーザーは、サービスで許可される合計ユーザーに対してカウントされます(ビジターを除く)。ビジター使用

状況は、1日当たりのビジター・セッションの一部としてカウントされます。[ビジター・セッションについて](#)を参照してください。

各ユーザーは、割り当てられたユーザー・ロールの数にかかわらず、1人のみのユーザーとしてカウントされます。

表にリストされているインタフェースに移動する方法は、[管理インタフェース](#)を参照してください。

ユーザー・ロール(ユーザー・ロールは太字で表記)	アクセスおよびアクション	ノート
アカウント管理者	<p>アカウント管理者はマイ・アカウント・アプリケーションを使用して次のアクションを実行します。</p> <ul style="list-style-type: none"> アイデンティティ・ドメインのアクティブ化および作成。 サービスのアクティブ化。 すべてのアイデンティティ・ドメインとデータ・センターにわたるサービスのモニターおよび管理。 アイデンティティ・ドメイン管理者およびその他のアカウント管理者の作成。 <p>Managing and Monitoring Oracle Cloud のマイ・アカウント管理を参照してください。</p>	<p>アカウント管理者は、アカウントの作成時に設定されます。これらの管理者は、Oracle アカウントを使用して Oracle Cloud にサインインします。アカウント管理者アクセス権が必要であるが持っていない場合、プライマリ・アカウント管理者に連絡してください。</p> <p>アカウント管理者が Oracle Content Management を使用してサービス構成を変更できるようにする場合、サービス・ユーザー・ロールも割り当てる必要があります。</p>
アイデンティティ・ドメイン管理者(アイデンティティ・ドメイン管理者)	<p>Infrastructure Classic コンソールから:</p> <ul style="list-style-type: none"> ユーザー・アカウントの作成および管理。 ユーザー・ロールの割り当ておよび管理(カスタム・ユーザー・ロールの作成を含む)。 	<p>ドメイン・レベルで割り当てられます。複数のサービスにわたって機能します。</p> <p>アイデンティティ・ドメイン管理者は、サービス管理者が実行できる機能を実行する他に、ユーザーに関連する管理義務を処理します。</p> <p>Oracle Content Management にはアイデンティティ・ドメイン当たり 1 つのサービスのみあります。1 人の管理者がサービス管理者とアイデンティティ・ドメイン管理者の義務を実行します。</p>
権限付与管理者 ロール名の形式は、 <i>service-name_SE service name Based Entitlement Administrator</i> です(例: documents_SE Documents Service Based Entitlement Administrator)。	<p>Infrastructure Classic コンソールから:</p> <ul style="list-style-type: none"> サービス・インスタンスの詳細の作成、管理および表示。Oracle Content Management の複数のインスタンスを作成するための権限付与をサブスクライブした場合に適用されます。 サービス・インスタンスのステータスのモニター、およびインスタンス・メトリック・データのエクスポート。 <p>Oracle Cloud アカウントの作成およびアクティブ化を参照してください。</p>	<p>サービス・レベルで割り当てられます。</p>

ユーザー・ロール(ユーザー・ロールは太字で表記)	アクセスおよびアクション	ノート
サービス管理者(Oracle Documents Cloud 管理者)	<p>Infrastructure Classic コンソールから:</p> <ul style="list-style-type: none"> ユーザー・ロールの割当て。 ユーザー・パスワードおよびチャレンジ質問の変更。 サービス・インスタンスの構成、モニターおよび管理。 <p>Oracle Content Management の「管理: システム」インタフェースから:</p> <ul style="list-style-type: none"> 一般設定の構成(ブランディング、通知の有効化、デフォルトのタイムゾーンや言語など)。 ユーザー設定の構成(プロフィール・データの同期、フォルダに追加された新規メンバーのデフォルト・ロールの設定、コンテンツ所有権の移動など)。 ドキュメント設定の構成(ストレージ割当て、パブリック・リンクの有効化、アップロード可能なファイルのサイズとタイプに関する制限の設定など)。 カスタム・プロパティの構成 (エンタープライズ・ユーザー・ロールも持っている必要があります)。 サイト設定の構成(サイトを作成できるかどうか、デフォルト・サイト・テンプレートのインストールなど)。 <p>Oracle Content Management の「管理: 統合」インタフェースから:</p> <ul style="list-style-type: none"> 『<i>Integrating and Extending Oracle Content Management</i>』で説明されているとおり、他のビジネス・アプリケーションを統合します。 <p>Oracle Content Management の「アナリティクス」インタフェースから:</p> <ul style="list-style-type: none"> サービス使用状況統計およびコンテンツ・メトリックを表示して、システム・ニーズや問題を分析できます。 レポートの表示。 	サービス管理者が Oracle Content Management を使用できるようにするには、サービス・ユーザー・ロールも割り当てる必要があります。

ユーザー・ロール(ユーザー・ロールは太字で表記)	アクセスおよびアクション	ノート
サイト管理者(Oracle Content and Experience サイト管理者)	<p>Oracle Content Management の「サイト」ページから:</p> <ul style="list-style-type: none"> • サイトを作成します。 <p>Oracle Content Management の「開発者」ページから:</p> <ul style="list-style-type: none"> • テンプレート、コンポーネントおよびテーマを作成します。 <p>サイト設定の構成を参照してください</p>	<p>このロールは、サービス管理者が、サイト管理者のみがサイト、テンプレートまたはコンポーネントを作成できるように Oracle Content Management を構成した場合に適用されます。サイト管理者が Oracle Content Management を使用できるようにするには、サービス・ユーザー・ロールも割り当てる必要があります。</p>
開発者(CECDeveloperUser)	<p>Oracle Content Management の「サイト」ページから:</p> <ul style="list-style-type: none"> • サイトの作成、編集、公開を行います(これらの機能がサイト管理者に限定されていない場合)。 <p>Oracle Content Management の「開発者」ページから:</p> <ul style="list-style-type: none"> • テンプレート、コンポーネントおよびテーマを作成します(これらの機能がサイト管理者に限定されていない場合)。 	<p>開発者が Oracle Content Management を使用できるようにするには、サービス・ユーザー・ロールも割り当てる必要があります。</p>
サービス・ユーザー(Oracle Documents Cloud Service ユーザー)	<p>Oracle Content Management では、サービス・ユーザーは次の操作を実行できます:</p> <ul style="list-style-type: none"> • コンテンツの管理(ドキュメントの表示、アップロードおよび編集)。 • 他のユーザーとのコンテンツおよびサイトの共有。 • 会話を使用したコラボレーション(トピックの議論、ユーザーへのメッセージの送信、ユーザーへのフラグの割当て、ドキュメントへの注釈の追加) • ユーザーのフォロー。 • サイトの作成、編集、公開を行います(これらの機能がサイト管理者に限定されていない場合)。 • テンプレート、コンポーネントおよびテーマを作成します(これらの機能がサイト管理者に限定されていない場合)。 • カスタム・プロパティの管理と表示、および値の編集 	<p>Oracle Documents Cloud Service サブスクリプションで使用する場合。 Oracle Content Management を実際に使用する必要があるユーザーには、サービス・ユーザー・ロールを割り当てる必要があります。このロールは、デフォルトではどのユーザーにも割り当てられません。</p>

ユーザー・ロール(ユーザー・ロールは太字で表記)	アクセスおよびアクション	ノート
ビジター(Oracle Content and Experience ビジター)	サイトへのアクセスはビジターに制限されます。	このロールは、ビジターのみがサイトにアクセスできるよう設定されている場合に適用されます。その制限が有効になっている場合、このロールを持つユーザーのみがサイトにアクセスできます。 Building Sites with Oracle Content Management のサイト・セキュリティの変更を参照してください。 ビジターにライセンスは必要ありません。ビジター使用状況は、1日当たりのビジター・セッションの一部としてカウントされます。 ビジター・セッションについて を参照してください。
外部ユーザー (CECExternalUser)	将来の使用のために予約されています。	このロールは使用しないでください。このロールを割り当てられたユーザーは、 Oracle Content Management ユーザー・インタフェースを使用できません。

Oracle Documents Cloud Service のトラブルシューティング

この項では、Oracle Documents Cloud Service のトラブルシューティングについて説明します。

- [インスタンスのサイズを縮小する必要があります](#)
- [移行後にユーザーがサインインできません\(ストレージの失効\)](#)

インスタンスのサイズを縮小する必要があります

ノート:

サイズを縮小できるのは、Oracle Documents Cloud Service の顧客のみです。Oracle Content Management を購入した場合、またはこれに移行した場合は、この手順を使用できません。Oracle サポートに連絡してください。

インスタンス内で使用するユーザーまたはストレージが予想よりも少なかった場合は、インスタンスのサイズを縮小できます。

1. ユーザーの数を減らすために既存のユーザーを削除する必要がある場合は、ユーザーのコンテンツの割当てを変更し、ユーザーを削除します。「[従来のクラウド・アカウントを使用したユーザーの管理](#)」および「[ファイル所有権の移管](#)」を参照してください。
2. サービスを変更します。
 - a. クラウド・アカウント管理者として [Oracle Cloud](#) にサインインします。アカウント名とログイン情報は、よろこ電子メールに記載されています。

- b. サイズを縮小するサービス・インスタンスをクリックします。複数のインスタンスのサイズを縮小する場合、各インスタンスを個別に縮小する必要があります。
- c. メニュー・アイコンをクリックし、「**変更**」を選択します。
- d. 負の数字を入力することにより、ユーザーまたはストレージ・パックの数を縮小します。たとえば、ユーザーの数を 10 減らす場合は、-10 と入力します。

移行後にユーザーがサインインできません(ストレージの失効)

Oracle Documents Cloud Service から Oracle Content Management に移行した後にサインインできないユーザーがいる場合、またはストレージ違反があるという電子メールを受信した場合、その原因は、インスタンスのストレージのニーズに対応できるだけのユーザーがプロビジョニングされていないことです。データが失われることはありません。ユーザーをさらにプロビジョニングしてください。

1. クラウド・アカウント管理者として **Oracle Cloud** にサインインします。アカウント名とログイン情報は、ようこそ電子メールに記載されています。
2. ストレージを追加するサービス・インスタンスをクリックします。
3. メニュー・アイコンをクリックし、「**変更**」を選択します。
Oracle Content Management の変更ページに、Oracle Content Management のオプション(追加の標準ユーザー数、追加のエンタープライズ・ユーザー数など)が表示されます。これらのオプションが表示されていない場合は、更新オーダーが完了していません。オラクル社カスタマ・サポート
4. Oracle Content Management の変更ページで、インスタンスのストレージ・ニーズに対応できるようにユーザー数を更新します。各ユーザーは **100 GB** のストレージを取得します。したがって、ストレージを **500 GB** を超えていると電子メールに記載されている場合は、**5 人のユーザー**を追加する必要があります。